

加古川市

神野大林窯跡群

県立新加古川病院整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成22(2010)年3月

兵庫県教育委員会

加古川市

神野大林窯跡群

県立新加古川病院整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成22(2010)年3月

兵庫県教育委員会

例 言

1. 本書は兵庫県加古川市神野町に所在する、神野大林窟跡群と神野北山遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は県立新加古川病院整備事業に伴うもので、兵庫県病院局の依頼を受けて、兵庫県教育委員会が平成17年度と平成20年度に本発掘調査を実施した。
3. 出土品整理は兵庫県病院局長の依頼を受けて、兵庫県立考古博物館が平成20年度と平成21年度に実施した。
4. 本書に使用した方位は国土座標（第V系）の座標北を示す。また、標高値は東京湾平均海水面（T. P.）を基準とした。
5. 出土品の分析は、炭化材の年代を㈱加速器分析研究所、須恵器の胎土分析を大阪大谷大学三辻利一氏、土器の胎土分析をバリノ・サーヴェイ株式会社および炭化材の樹種同定を㈱古環境研究所、巻き貝の同定を奈良県立橿原考古学研究所丸山真史氏に依頼した。
6. 地図は、図版1-3：国土地理院「笠原」「社」「加古川」「三木」「高砂」「東二見」1/50,000を縮小
図版3：国土地理院「加古川」「三木」「高砂」「東二見」1/25,000を縮小
図版4・5：加古川市「山手」「大野」1/25,000を縮小
を使用した。
7. 執筆は、第6章 第1節を㈱加速器分析研究所
第2節を大阪大谷大学 三辻利一氏、
第3節をバリノ・サーヴェイ株式会社、
第4節を㈱古環境研究所、
第5節を奈良県立橿原考古学研究所 丸山真史氏
が行い、
第1章は菱田淳子、第2章は岡田章一、第3章は西口圭介、第4章は篠宮 正、
第5章は深江英憲、第7章第1節は篠宮、第2節は森内秀造が行った。
8. 編集は岡田編集長のもと、篠宮がおこなった。
9. 本書にかかる写真・図面などの記録や出土した遺物などは、兵庫県立考古博物館に保管している。
10. 発掘調査および報告書作成にあたり、
加古川市教育委員会・岡本一士・西川英樹・浜中有紀・菱田哲郎・藤原 学・望月精司
の機関および各氏にご援助・ご指導・ご教示頂いた。記して深く感謝の意を表する。

神野大林窯跡群・神野北山遺跡

県立新加古川病院整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

例言 目次

第1章 遺跡をとりまく環境	1
第1節 遺跡の位置	1
第2節 歴史的環境	1
第2章 調査の契機と経過	4
第1節 調査の契機	4
第2節 確認調査の経過と成果	4
第3節 本発掘調査の経過	5
第4節 神野北山遺跡の調査経過	5
第5節 発掘調査の体制	6
第6節 出土品整理の経過と体制	7
第3章 神野大林窯跡群の遺構	8
第1節 調査の概要	8
第2節 B区(1号窯)の遺構	8
第3節 A区(2・3号窯)の遺構	10
第4章 神野大林窯跡群の遺物	15
第1節 遺物の概要	15
第2節 1号窯	15
第3節 流路1	21
第4節 2号窯	23
第5節 3号窯	29
第6節 流路2	34
第7節 灰溜り	37
第5章 神野北山遺跡の調査	39
第1節 調査の概要	39
第2節 遺構	39
第3節 遺物	40
第6章 自然科学的調査の成果	43
第1節 神野大林窯跡群における放射性炭素年代(AMS測定)	43
第2節 神野大林窯跡群出土須恵器の化学特性	47
第3節 神野大林窯跡群出土須恵器の胎土分析	56
第4節 神野大林窯跡群における炭化樹種	62
第5節 神野大林1号窯出土した巻き貝	65
第7章 総括	66
第1節 神野大林窯跡群の須恵器の特徴	66
第2節 神野大林窯跡群の須恵器坏類内面の痕跡について	82
第3節 神野大林窯跡の窯体構造の特徴について	85
別表 遺物一覧	87~102
図版	1~98
写真図版	1~155
報告書抄録	

挿図目次

第1図	神野大林窯跡群の放射性炭素年代測定暦年較正年代グラフ	46
第2図	神野大林1号窯出土須恵器の両分布図	50
第3図	神野大林2号窯出土須恵器の両分布図	50
第4図	神野大林3号窯出土須恵器の両分布図	50
第5図	神野大林1号、2号窯出土須恵器の相互識別 (K, Ca, Rb, Sr)	52
第6図	神野大林2号、3号窯出土須恵器の相互識別 (K, Ca, Rb, Sr)	52
第7図	神野大林1号、3号窯出土須恵器の相互識別 (K, Ca, Rb, Sr)	52
第8図	神野大林群と金ヶ崎群の相互識別 (K, Ca, Rb, Sr)	53
第9図	神野大林群と丸山群の相互識別 (K, Ca, Rb, Sr)	53
第10図	神野大林群と札馬群の相互識別 (K, Ca, Rb, Sr)	53
第11図	神野大林群と投松群の相互識別 (K, Ca, Rb, Sr)	54
第12図	神野大林群と吹田群の相互識別 (K, Ca, Rb, Sr)	54
第13図	神野大林群と陶尾群の相互識別 (K, Ca, Rb, Sr)	54
第14図	神野大林窯跡群出土須恵器の胎土分析各粒度階における鉱物・岩石出現頻度	59
第15図	神野大林窯跡群出土須恵器胎土中の砂の粒徑組成	59
第16図	神野大林窯跡群出土須恵器の碎屑物・基質・孔隙の割合	60
第17図	神野大林窯跡群の炭化材	63
第18図	神野大林1号窯出土のサザエ	65
第19図	神野大林窯跡群 坯蓋・坯身	66
第20図	神野大林窯跡群 無蓋高坯	68
第21図	神野大林窯跡群 有蓋高坯	69
第22図	神野大林窯跡群 鉢・甌・横瓶	71
第23図	神野大林窯跡群 提籠・平瓶・壺類	72
第24図	神野大林窯跡群 直口壺・有蓋短頸壺・広口長頸壺・器台	73
第25図	神野大林窯跡群 長頸壺	74
第26図	神野大林窯跡群 短頸壺	75
第27図	神野大林窯跡群 短頸壺・その他	76
第28図	神野大林窯跡群 流路1 主要須恵器	77
第29図	神野大林窯跡群 流路2 主要須恵器	78
第30図	神野大林窯跡群 須恵器蓋坯口径比	80

表目次

第1表	神野大林窯跡群の放射性炭素年代測定試料と測定結果	44
第2表	神野大林窯跡群の放射性炭素年代測定暦年較正値	45
第3表	神野大林窯跡群出土須恵器の分析データ (1)	48
第4表	神野大林窯跡群出土須恵器の分析データ (2)	49
第5表	神野大林窯跡群出土須恵器の胎土分析試料一覧および胎土分類	56
第6表	神野大林窯跡群出土須恵器の薄片観察結果	58
第7表	神野大林窯跡群における樹種同定結果	62

別表目次

別表1	神野大林窯跡群遺物一覧 (1) ~ (14)	87~101
別表2	神野北山道跡遺物一覧	101

図版目次

図版1	遺跡	1 兵庫県の位置 2 加古川市の位置 3 神野大林窯跡群・神野北山道跡の位置
図版2	遺跡	神野大林窯跡群・神野北山道跡周辺の遺跡一覧
図版3	遺跡	神野大林窯跡群・神野北山道跡周辺の主要遺跡
図版4	遺跡	神野大林窯跡群・神野北山道跡位置図
図版5	遺跡	確認調査と本発掘調査の位置図
図版6	遺跡	調査区位置図
図版7	遺跡	地形測量図
図版8	遺跡	窯体比較図
図版9	遺構	地形測量図
図版10	遺構	縦断土層図
図版11	遺構	横断土層図
図版12	遺構	窯体図 (最終操業面)
図版13	遺構	窯体図 (操業当初面)・窯体内ピット検出状況
図版14	遺構	地形測量図
図版15	遺構	縦断土層図
図版16	遺構	横断土層図
図版17	遺構	第2次窯体図
図版18	遺構	第1次窯体図
図版19	遺構	第1次窯体図・ピット検出状況
図版20	遺構	地形測量図
図版21	遺構	縦断土層図
図版22	遺構	横断土層図
図版23	遺構	窯体図 (最終操業面)
図版24	遺構	窯体図 (操業当初面)

図版25	遺構	神野大林3号窟	拵棟部・焚口詳細図
図版26	遺構	神野大林A地区	地形測量図
図版27	遺構	神野大林窯跡	土層図
図版28	遺物	神野大林1号窟	竈体
図版29	遺物	神野大林1号窟	竈体・焚口
図版30	遺物	神野大林1号窟	灰原第I層
図版31	遺物	神野大林1号窟	灰原第I層
図版32	遺物	神野大林1号窟	灰原第I層
図版33	遺物	神野大林1号窟	灰原第I層
図版34	遺物	神野大林1号窟	灰原第I層
図版35	遺物	神野大林1号窟	灰原第I層・灰原第I・II層
図版36	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版37	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版38	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版39	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版40	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版41	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版42	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版43	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版44	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版45	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版46	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版47	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版48	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版49	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版50	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版51	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版52	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版53	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版54	遺物	神野大林1号窟	灰原第II層
図版55	遺物	神野大林1号窟	灰原他
図版56	遺物	神野大林窯跡	第I層
図版57	遺物	神野大林窯跡	第I層
図版58	遺物	神野大林窯跡	第I層・第II層
図版59	遺物	神野大林窯跡	第III層・第IV層・流路1
図版60	遺物	神野大林2号窟	竈体
図版61	遺物	神野大林2号窟	竈体埋土上層
図版62	遺物	神野大林2号窟	竈体・灰原
図版63	遺物	神野大林2号窟	灰原第I層
図版64	遺物	神野大林2号窟	灰原第I・II層
図版65	遺物	神野大林2号窟	灰原第II層
図版66	遺物	神野大林2号窟	灰原第II層
図版67	遺物	神野大林2号窟	灰原第II層
図版68	遺物	神野大林2号窟	灰原第II層
図版69	遺物	神野大林2号窟	灰原第II層
図版70	遺物	神野大林2号窟	灰原第II層
図版71	遺物	神野大林3号窟	竈体
図版72	遺物	神野大林3号窟	竈体・焚口
図版73	遺物	神野大林3号窟	竈体・灰原
図版74	遺物	神野大林3号窟	灰原第I層・第II層
図版75	遺物	神野大林3号窟	灰原第II層
図版76	遺物	神野大林3号窟	灰原第III層
図版77	遺物	神野大林窯跡	2号窟下 2・3号窟下・3号窟下第I層
図版78	遺物	神野大林窯跡	3号窟下第II層
図版79	遺物	神野大林窯跡	3号窟下第II層
図版80	遺物	神野大林窯跡	3号窟下第II層
図版81	遺物	神野大林窯跡	3号窟下第III層
図版82	遺物	神野大林窯跡	3号窟下・流路2 西端・その他
図版83	遺物	神野大林1号窟	坯蓋へら記号等拓影
図版84	遺物	神野大林1号窟	坯蓋内面痕跡(1) 拓影
図版85	遺物	神野大林1号窟・流路1	坯蓋内面痕跡(2) 拓影 (1219~1243)
			坯身内面痕跡(1) 拓影 (1322~1644)
			坯身へら記号・内面痕跡(2) 拓影
			堯タキ痕跡・当て具痕跡(1) 拓影
			堯・横瓶 タタキ痕跡・当て具痕跡(2) 拓影
図版86	遺物	神野大林1号窟	拓影
図版87	遺物	神野大林1号窟	拓影
図版88	遺物	神野大林1号窟・流路1	拓影
図版89	遺物	神野大林2号窟	拓影
図版90	遺物	神野大林3号窟	拓影
図版91	遺物	神野大林窯跡	拓影
図版92	遺構	神野北山遺跡	全体図
図版93	遺構	神野北山遺跡	調査区断面図
図版94	遺構	神野北山遺跡	SH01平面図および柱穴断面図
図版95	遺構	神野北山遺跡	SH02平面図・柱穴断面図・SK01平面図・断面図
図版96	遺構	神野北山遺跡	SX01・03・04・10平面図・断面図
図版97	遺物	神野北山遺跡	確認調査・SX01・SK01・包含層
図版98	遺物	神野北山遺跡	機械掘削

写真図版目次

写真図版1	遺跡	神野大林窯跡群	1 空中写真(上が北)(国土地理院、昭和50年撮影)
写真図版2	遺跡	神野大林窯跡群	2 遠景(南から)
写真図版3	遺跡	神野大林窯跡群	3 遠景(南西から)
写真図版4	遺跡	神野大林窯跡群	4 遠景(北から)
写真図版5	遺跡	神野大林窯跡群	5 遠景(西から)
写真図版6	遺跡	神野大林窯跡群	6 遠景(南東から)
写真図版7	遺構	神野大林1号窯	7 遠景(南から)
写真図版8	遺構	神野大林1号窯	8 全景(上が北)
写真図版9	遺構	神野大林1号窯	9 調査前全景(A区)(東から)
写真図版10	遺構	神野大林1号窯	10 調査前全景(手前B区)(南東から)
写真図版11	遺構	神野大林1号窯	11 調査前全景(B区)(南から)
写真図版12	遺構	神野大林1号窯	12 遠景(南から)
写真図版13	遺構	神野大林1号窯	13 中景(南から)
写真図版14	遺構	神野大林2号窯	14 近景(南から)
写真図版15	遺構	神野大林2号窯	15 窯体全景(南から)
写真図版16	遺構	神野大林2号窯	16 窯体全景(北から)
写真図版17	遺構	神野大林2号窯	17 窯体全景(南から)
写真図版18	遺構	神野大林2号窯	18 笑口断面(南から)
写真図版19	遺構	神野大林2号窯	19 笑口付近 堆積状況(西から)
写真図版20	遺構	神野大林2号窯	20 前庭部 堆積状況(西から)
写真図版21	遺構	神野大林2号窯	21 東壁の状況(西から)
写真図版22	遺構	神野大林2号窯	22 東壁の状況(西から)
写真図版23	遺構	神野大林2号窯	23 東壁の状況(南東から)
写真図版24	遺構	神野大林2号窯	24 窯体断割り(北西から)
写真図版25	遺構	神野大林2号窯	25 窯体断割り(南から)
写真図版26	遺構	神野大林2号窯	26 窯体断割り(南から)
写真図版27	遺構	神野大林2号窯	27 笑口断割り(南から)
写真図版28	遺構	神野大林2号窯	28 笑口右側断割り(南から)
写真図版29	遺構	神野大林2号窯	29 笑口左側断割り(南から)
写真図版30	遺構	神野大林2号窯	30 断割り(南から)
写真図版31	遺構	神野大林2号窯	31 床面断割り(南から)
写真図版32	遺構	神野大林2号窯	32 窯体内ピット
写真図版33	遺構	神野大林2号窯	33 舟底状土坑
写真図版34	遺構	神野大林2号窯	34 窯体内ピット(北から)
写真図版35	遺構	神野大林2号窯	35 全景(南東から)
写真図版36	遺構	神野大林2号窯	36 近景(南東から)
写真図版37	遺構	神野大林2号窯	37 窯体・灰原全景(南東から)
写真図版38	遺構	神野大林2号窯	38 笑口断面(南東から)
写真図版39	遺構	神野大林2号窯	39 窯体(南東から)
写真図版40	遺構	神野大林2号窯	40 排煙部断面(南東から)
写真図版41	遺構	神野大林2号窯	41 笑口断面(南東から)
写真図版42	遺構	神野大林2号窯	42 笑口断面(南東から)
写真図版43	遺構	神野大林2号窯	43 笑口断面(東から)
写真図版44	遺構	神野大林2号窯	44 窯体(南東から)
写真図版45	遺構	神野大林2号窯	45 窯体(笑口側から)
写真図版46	遺構	神野大林2号窯	46 窯体(笑口側から)
写真図版47	遺構	神野大林2号窯	47 窯体(北西から)
写真図版48	遺構	神野大林2号窯	48 全景(南東から)
写真図版49	遺構	神野大林2号窯	49 全景(南東から)
写真図版50	遺構	神野大林2号窯	50 舟底状土坑(南東から)
写真図版51	遺構	神野大林2号窯	51 舟底状土坑 完掘状況(笑口側から)
写真図版52	遺構	神野大林2号窯	52 床面ピット 検出状況
写真図版53	遺構	神野大林2号窯	53 盛土部分断面(南から)
写真図版54	遺構	神野大林2号窯	54 床面断割り(南東から)
写真図版55	遺構	神野大林2号窯	55 完掘状況(南東から)
写真図版56	遺構	神野大林2号窯	56 窯体床面断割り(南東から)
写真図版57	遺構	神野大林2号窯	57 断割り横断面 笑淵風景
写真図版58	遺構	神野大林2号窯	58 窯体(最終面) 遠景(北西から)
写真図版59	遺構	神野大林2号窯	59 窯体(最終面) 中景(北西から)
写真図版60	遺構	神野大林2号窯	60 窯体(最終面) 近景(北西から)
写真図版61	遺構	神野大林2号窯	61 窯体(最終面)(笑口側から)
写真図版62	遺構	神野大林2号窯	62 窯体(最終面)(排煙部側から)
写真図版63	遺構	神野大林2号窯	63 窯体(最終面)(北西から)
写真図版64	遺構	神野大林2号窯	64 全景(北西から)
写真図版65	遺構	神野大林2号窯	65 前庭部堆積状況(西から)
写真図版66	遺構	神野大林2号窯	66 窯体内須恵器検出状況(笑口側から)
写真図版67	遺構	神野大林2号窯	67 窯体内須恵器検出状況(北東から)
写真図版68	遺構	神野大林2号窯	68 窯体内須恵器検出状況(北東から)
写真図版69	遺構	神野大林2号窯	69 窯体内須恵器検出状況(北東から)
写真図版70	遺構	神野大林2号窯	70 窯体内須恵器検出状況(北東から)
写真図版71	遺構	神野大林2号窯	71 窯体内須恵器検出状況(北東から)
写真図版72	遺構	神野大林2号窯	72 窯体内須恵器検出状況(北西から)
写真図版73	遺構	神野大林2号窯	73 窯体(北西から)
写真図版74	遺構	神野大林2号窯	74 舟底状土坑(南西から)
写真図版75	遺構	神野大林2号窯	75 笑口(西から)
写真図版76	遺構	神野大林2号窯	76 笑口(北西から)
写真図版77	遺構	神野大林2号窯	77 笑口横断面

写真図版29	遺構	神野大林3号窟	78 遠景(第1次)(北西から)
写真図版30	遺構	神野大林3号窟	79 近景(第1次)(北西から)
写真図版31	遺構	神野大林3号窟	80 焚口横断面(北西から)
写真図版32	遺構	神野大林3号窟	81 完掘状況(焚口側から)
写真図版33	遺構	神野大林3号窟	82 完掘状況(排煙部側から)
写真図版34	遺構	神野大林3号窟	83 焚口断割り(北西から)
写真図版35	遺構	神野大林3号窟	84 窟体断割り(北東から)
写真図版36	遺構	神野大林3号窟	85 窟体断割り(北西から)
写真図版37	遺構	神野大林窟跡 流路2他	86 完掘状況(北西から)
写真図版38	遺構	神野大林窟跡 流路2	87 完掘後須恵器出土状況(北西から)
写真図版39	遺構	神野大林窟跡 流路2	88 断割り後全景(完掘)(北西から)
写真図版40	遺構	神野大林窟跡 流路2	89 SDO1断面(南から)
写真図版41	遺構	神野大林窟跡 流路2	90 埋没状況(南西から)
写真図版42	遺構	神野大林窟跡 流路2	91 断割り(南西から)
写真図版43	遺構	神野大林窟跡 流路1他	92 西半(東から)
写真図版44	遺物	神野大林1号窟・流路1	93 精査 西半(東から)
写真図版45	遺物	神野大林1号窟・流路1	94 完掘状況(南西から)
写真図版46	遺物	神野大林1号窟・流路1	95 完掘状況(南西から)
写真図版47	遺物	神野大林1号窟・流路1	96 完掘状況(南西から)
写真図版48	遺物	神野大林1号窟・流路1	97 断面(南西から)
写真図版49	遺物	神野大林1号窟・流路1	98 断面(西から)
写真図版50	遺物	神野大林1号窟・流路1	99 西壁の状況
写真図版51	遺物	神野大林1号窟・流路1	100 1号窟灰原東西断面中央(南東から)
写真図版52	遺物	神野大林1号窟・流路1	101 流路1土層堆積(確認トレンチ)(南東から)
写真図版53	遺物	神野大林1号窟・流路1	102 西壁の状況(東から)
写真図版54	遺物	神野大林1号窟・流路1	須恵器・巻き貝
写真図版55	遺物	神野大林1号窟・流路1	上 須恵器残片
写真図版56	遺物	神野大林1号窟・流路1	下 須恵器残片
写真図版57	遺物	神野大林1号窟・流路1	須野大林1号窟・流路1 須恵器環・高坏
写真図版58	遺物	神野大林1号窟・流路1	下 神野大林2号窟 須恵器
写真図版59	遺物	神野大林1号窟・流路1	上 須恵器
写真図版60	遺物	神野大林1号窟・流路1	下 須恵器環・高坏
写真図版61	遺物	神野大林1号窟・流路1	上 神野大林窟跡 流路2 須恵器
写真図版62	遺物	神野大林1号窟・流路1	下 神野大林窟跡群・神野北山遺跡 須恵器・巻き貝
写真図版63	分析	神野大林窟跡群	胎土薄片(1)
写真図版64	分析	神野大林窟跡群	胎土薄片(2)
写真図版65	遺物	神野大林1号窟	窟体床面
写真図版66	遺物	神野大林1号窟	窟体壁面・窟体埋土
写真図版67	遺物	神野大林1号窟	窟体
写真図版68	遺物	神野大林1号窟	窟体・焚口・灰原第1層
写真図版69	遺物	神野大林1号窟	灰原第1層
写真図版70	遺物	神野大林1号窟	灰原第1層
写真図版71	遺物	神野大林1号窟	灰原第1層
写真図版72	遺物	神野大林1号窟	灰原第1層
写真図版73	遺物	神野大林1号窟	灰原第1層
写真図版74	遺物	神野大林1号窟	灰原第1層
写真図版75	遺物	神野大林1号窟	灰原第1層
写真図版76	遺物	神野大林1号窟	灰原第1層
写真図版77	遺物	神野大林1号窟	灰原第1層
写真図版78	遺物	神野大林1号窟	灰原第1層
写真図版79	遺物	神野大林1号窟	灰原第1層
写真図版80	遺物	神野大林1号窟	灰原第1層
写真図版81	遺物	神野大林窟跡	灰原他
写真図版82	遺物	神野大林窟跡	流路1 第1層
写真図版83	遺物	神野大林窟跡	流路1 第1層
写真図版84	遺物	神野大林窟跡	流路1 第2層
写真図版85	遺物	神野大林窟跡	流路1 第3層・第4層
写真図版86	遺物	神野大林窟跡	流路1 第4層他
写真図版87	遺物	神野大林1号窟	灰原第2層
写真図版88	遺物	神野大林1号窟	窟体・灰原第2層

写真図版89	遺物	神野大林1号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版90	遺物	神野大林1号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版91	遺物	神野大林1号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版92	遺物	神野大林1号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版93	遺物	神野大林1号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版94	遺物	神野大林1号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版95	遺物	神野大林1号窟	灰原第Ⅰ層・灰原第Ⅱ層
写真図版96	遺物	神野大林1号窟	灰原第Ⅱ層・流路1第Ⅰ層
写真図版97	遺物	神野大林1号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版98	遺物	神野大林1号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版99	遺物	神野大林1号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版100	遺物	神野大林1号窟	1号窟 竪体・灰原 流路1
写真図版101	遺物	神野大林1号窟	灰原第Ⅰ層・灰原第Ⅱ層
写真図版102	遺物	神野大林2号窟	第1次竪体床面・第1次・第2次竪体床面間
写真図版103	遺物	神野大林2号窟	第2次竪体床面・第1次竪体焚口・竪体
写真図版104	遺物	神野大林2号窟	竪体埋土上層
写真図版105	遺物	神野大林2号窟	竪体埋土上層
写真図版106	遺物	神野大林2号窟	竪体埋土下層・灰原他
写真図版107	遺物	神野大林2号窟	灰原第Ⅰ層
写真図版108	遺物	神野大林2号窟	灰原第Ⅰ・Ⅱ層
写真図版109	遺物	神野大林2号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版110	遺物	神野大林2号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版111	遺物	神野大林2号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版112	遺物	神野大林2号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版113	遺物	神野大林2号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版114	遺物	神野大林2号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版115	遺物	神野大林2号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版116	遺物	神野大林2号窟	第1次・第2次竪体床面間・第2次竪体床面
写真図版117	遺物	神野大林2号窟	第2次竪体床面・第1次竪体焚口
写真図版118	遺物	神野大林2号窟	第2次竪体床面・竪体埋土上層・灰原第Ⅱ層
写真図版119	遺物	神野大林2号窟	第1次竪体床面・第2次竪体床面
写真図版120	遺物	神野大林2号窟	竪体埋土上層・竪体埋土下層・灰原第Ⅰ・Ⅱ層
写真図版121	遺物	神野大林2号窟	第1次竪体床面・竪体埋土上層・灰原第Ⅱ層
写真図版122	遺物	神野大林3号窟	竪体第1次床面・竪体第1次・第2次床面間
写真図版123	遺物	神野大林3号窟	竪体第1次床面・竪体第1次・第2次床面間
写真図版124	遺物	神野大林3号窟	竪体第1次床面・竪体第1次・第2次床面間
写真図版125	遺物	神野大林3号窟	竪体最終床面・竪体
写真図版126	遺物	神野大林3号窟	竪体埋土上層・竪体埋土下層・灰原
写真図版127	遺物	神野大林3号窟	灰原第Ⅰ層・灰原第Ⅱ層
写真図版128	遺物	神野大林3号窟	灰原第Ⅰ層・灰原第Ⅱ層
写真図版129	遺物	神野大林3号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版130	遺物	神野大林3号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版131	遺物	神野大林3号窟	灰原第Ⅱ層
写真図版132	遺物	神野大林3号窟	灰原第Ⅲ層
写真図版133	遺物	神野大林3号窟	灰原第Ⅲ層
写真図版134	遺物	神野大林3号窟	竪体最終床面・灰原第Ⅱ層・灰原第Ⅲ層
写真図版135	遺物	神野大林3号窟	竪体第1次・第2次床面間・灰原第Ⅱ層
写真図版136	遺物	神野大林3号窟	竪体第1次・第2次床面間・竪体・灰原第Ⅱ層
写真図版137	遺物	神野大林3号窟	竪体・竪体上層・竪体埋土下層・灰原・灰原第Ⅲ層
写真図版138	遺物	神野大林窯跡	2号窟下・2・3号窟下・3号窟下
写真図版139	遺物	神野大林窯跡	3号窟下第Ⅰ層・3号窟下第Ⅱ層
写真図版140	遺物	神野大林窯跡	3号窟下第Ⅱ層
写真図版141	遺物	神野大林窯跡	3号窟下第Ⅱ層
写真図版142	遺物	神野大林窯跡	3号窟下第Ⅱ層
写真図版143	遺物	神野大林窯跡	3号窟下第Ⅱ層
写真図版144	遺物	神野大林窯跡	3号窟下第Ⅲ層
写真図版145	遺物	神野大林窯跡	3号窟下第Ⅲ層
写真図版146	遺物	神野大林窯跡	3号窟下第Ⅳ層・流路2西端第Ⅰ層・流路2西端第Ⅲ層西端
写真図版147	遺物	神野大林窯跡	3号窟下・流路2西端他
写真図版148	遺構	神野北山遺跡	103 全景(北西から) 104 全景(南東から) 105 SX01(北東から) 106 SH01(北東から) 107 SK01(北から) 確認調査 SX01・機械掘削土 確認調査・機械掘削土 SX01・SK01・包含層 確認調査・機械掘削土 確認調査・SX01・その他
写真図版149	遺構	神野北山遺跡	
写真図版150	遺物	神野北山遺跡	
写真図版151	遺物	神野北山遺跡	
写真図版152	遺物	神野北山遺跡	
写真図版153	遺物	神野北山遺跡	
写真図版154	遺物	神野北山遺跡	
写真図版155	遺物	神野北山遺跡	

第1章 遺跡をとりまく環境

第1節 遺跡の位置 (図版1～4)

遺跡の所在する加古川市神野町は、加古川市域の北東部、三木市との境に近く、加古川が大きく蛇行するあたりに位置している。加古川の市街地との間は日岡段丘によって隔てられている。日岡段丘と加古段丘の間の開析谷を流れる曇川は、稲美町北山の満溜池を源として北西方向に緩やかに蛇行して流れ、神野町西之山付近で加古川と合流する。同じく加古川の支流である草谷川流域の八幡町とともに「播磨国風土記」記載の「加古郡望理里」に比定される地域である。

神野大林窟跡群は、加古川に向かって北西に張り出した標高35m前後の丘陵の西斜面裾、小さな2本の谷に位置している。また、神野北山遺跡は窟跡群の東方、同じ丘陵に入り組んだ谷に作られた溜池である中ノ池に面した北向きの斜面に位置している。

第2節 歴史的環境 (図版2・3)

ここでは、神野大林窟跡群の周辺の遺跡について、時代を追って概略を述べておく。

現在の加古川市域の旧石器・縄文時代の遺跡は、台地や段丘上に点々と分布することが遺物採集によって知られているが、発掘調査で詳細な内容が明らかになった遺跡はまだない。加古川町日岡山遺跡ではナイフ形石器や細石刃核、剥片が採集されている。神野町城山遺跡でも旧石器が採集されている。縄文時代早期の土器は確認されていないが、志方町や西神吉町で有舌尖頭器が出土している。八幡町宮山遺跡ではかつて縄文時代後期の住居跡や敷石遺構が検出されたと報告されているが、後の市教委の調査では確認できなかった。東神吉町東神吉・砂部遺跡や西神吉町岸遺跡では、縄文時代晩期の土器が弥生時代前期の土器を伴って出土しているが、野口町坂元遺跡では縄文晩期の土器が単独で出土している。

弥生時代の遺跡には加古川町溝之口遺跡、東神吉遺跡・砂部遺跡がある。いずれも弥生時代前期から始まり、断続的ながら弥生時代を通じて存続している拠点的な集落遺跡である。野口町坂元遺跡、加古川町大野遺跡・美乃利遺跡でも弥生時代前期の土器が見つかったが、遺構や居住域が確認されるのは弥生時代中期からである。

弥生時代中期後半から出現する遺跡として、西神吉町中西台地遺跡、平荘町平山遺跡、八幡町野村遺跡、神野町西条廃寺下層遺跡がある。これらの遺跡は、台地や丘陵上の眺望の良い場所に立地しており、高地性集落の範疇に入れる意見もあるが、典型的な高地性集落は確認されていない。

弥生時代後期になると、加古川左岸では尾上町今福、野口町長砂、加古川町栗津・北在家、加古郡播磨町大中遺跡、加古川右岸では西神吉町岸、東神吉町升田・天下原、高砂市米田町神爪遺跡B地点などの遺跡が加わり、一気に遺跡数が増大する。また、弥生時代終末期には加古川市山手に所在する西条52号墳、東神吉町神吉山5号墳のように列石を持つ墳丘墓が築かれる。

古墳時代の集落としては、先述のとおり弥生時代から継続する溝之口・砂部・北在家・坂元・大野・美乃利遺跡、神野町西条に所在する神野遺跡などがある。中でも砂部遺跡では、伽耶地方との関わりが深い渡来系の陶質土器の他、石製模造品、ガラス小玉、銅鏡など祭祀に関わる遺物や5世紀代の掘立柱

建物が注目される。また溝之口遺跡では玉作り工房の可能性のある住居跡も見つかっている。

古い時期の古墳としては、加古川左岸の神野町・加古川町境に位置する日岡山古墳群がある。日岡山1号墳・南大塚・勅使塚・西大塚・北大塚の5基の前方後円墳を含む8基の古墳からなり、日岡山1号墳が一番古く4世紀代の築造と考えられている。次に前方後円墳が築かれるのが日岡山古墳群の東北東にあたる加古川市山手に所在する西条古墳群の行者塚古墳で、5世紀前半の築造と考えられる。同じ西条古墳群の人塚と厄塚は帆立貝式の前方後円墳である。行者塚古墳の築造以降、古墳築造はもっぱら加古川右岸に移行する。西条古墳群の対岸にある上荘町長慶寺山1号墳は、4世紀代の築造と考えられる前方後円墳である。平荘湖に水没した平荘町カンス塚古墳は堅穴式石槨を主体とする帆立貝式古墳で、鉄製武器類・農具・短甲、変形四獣鏡、玉類とともに初期須恵器と金製垂飾付耳飾が副葬されている。被葬者は渡来系の人物とも推測されており、砂部遺跡の渡来系土器との関連も興味深い。また、同じく堅穴式石槨が主体であったと考えられる野口町聖陵山古墳は、出土遺物から4～5世紀の築造と推定され、その当時は海岸線の間近であったため、被葬者は海に関わりが深かった一族であると考えられている。

坂元遺跡では、古墳時代の埴輪窯跡が累下で初めて発掘調査された。窯は段丘斜面を利用して築かれ、1基は人物・家・盾などの形象埴輪を焼いており、もう1基は小規模で主に円筒埴輪を焼いていた。坂元遺跡の白ヶ池川縁辺の段丘上では、弥生時代の方形周溝墓と類似した立地に古墳が築かれており、墳丘や主体部は削平され残っていないが、周溝内から武人・家・盾・鳥などの形象埴輪と円筒埴輪がまとめて出土している。大阪市長原遺跡、神戸市住吉宮町遺跡でも、こうした埋没古墳に埴輪が伴う例がある。なお、西神吉町宮前大池に水没している埴輪窯跡では、円筒埴輪と灰原の一部らしい黒色土が見つかっているという。

6世紀以降になると、いわゆる群集墳の時代となる。代表的なものとしては、日岡山古墳群、西条古墳群、平荘湖古墳群があるが、消滅した古墳も多い。なお、加古川市城北部及び西部の山塊に露頭する「竜山石」と通称される流紋岩質凝灰岩製の石槨、特に家型石槨は、加古川中・下流域に多数分布している。

群集墳築造の時期、各地域で須恵器生産が拡大することが知られているが、加古川市域で一番古い時期の窯跡は、群集墳築造の最盛期にあたる6世紀後半の八幡町野村窯跡群である。この窯跡群は池に面した丘陵裾部に位置しているため池の満水時には水面下に没しているが、4基以上の窯跡の存在が推定されており、7世紀初頭までの遺物が採集されている。野村窯跡群の南東約1.4kmの位置に、八幡町野新村窯跡群がある。3基の窯跡からなり、7世紀中頃から8世紀初頭と考えられる細片の遺物が採集されている。野村窯跡群・野新村窯跡群はいずれも草谷川水系に属している。草谷川よりさらに加古川下流の支流である曇川水系に属する神野大林窯跡群は、これらの窯跡群よりも古い群集墳成立期に操業が始まっており、加古川中・下流域の窯業生産を考える上で非常に重要な遺跡である。

7世紀には上荘町白沢窯跡群で須恵器生産が盛んとなる。この地は加古川に面し、旧の印南郡に属するが、賀茂郡・美養郡・加古郡の三郡境に接する。白沢窯跡群では硯など官衛の色合いの濃い遺物を数多く生産し、8世紀初頭まで生産が続く。平荘町奥新田窯跡は、詳細は不明であるが7世紀後半に単発的に築かれた小規模な窯跡である。

奈良時代には、西条古墳群の広がる段丘上に神野町西条庵寺が建立される。日岡山古墳群の東の低い

段丘面には神野町石守庵寺、他に加古川左岸では野口町野口庵寺、右岸では西神吉町中西庵寺と平荘町山角庵寺があり、古代寺院が多い地域である。これらの寺院は中西庵寺を除き、9世紀ぐらいで断絶したと考えられている。

野口町古大内遺跡は、古代山陽道の賀古駅家推定地である。賀古駅家は馬40疋が配されたという古代最大規模の駅家である。この遺跡で多数出土し「古大内式」と命名された型式の軒瓦は、播磨国内の国府や駅家などで用いられるばかりでなく、遠く平城京や高麗寺まで運ばれたことが知られている。

播磨国は「延喜式」に須恵器の調納国と記載されており、奈良時代になると、白沢窯跡群に替わって、志方町から加西市にかけての旧印南郡と旧加古郡の郡域に広がる志方町志方窯跡群を中心に須恵器生産が行われた。志方窯跡群は、中谷・札馬・投松・蕪谷・中津倉等の15の支群からなり、窯の総数は150基以上に及ぶ。製品は平城京や平安京に運ばれたほか、周辺地域でも消費されていた。また、器面にヘラ磨きや細かなクワケズリを施したりわけ精良なつくりの坏・皿等の一群が存在することも注目される。志方窯跡群は8世紀後半から9世紀後半に全盛期を迎え、10世紀には廃れてしまう。その後11世紀になると加古川市域を離れ、三木・神出・魚住の窯跡群でいわゆる東播系須恵器の生産が行われるようになる。これらの窯跡群は控鉢・碗・皿・甕の「日常雑器」の小器種の大量生産を特色とする一方で瓦も焼いている。その瓦は京都の法勝寺などに運ばれたほか、小野の浄土寺でも使用されている。また控鉢や甕は、かなりの広域に流通した。しかし、14世紀になると品質や運搬の便に勝る備前の製品に取って替われ、東播系の窯は廃れてゆく。八幡町上西条の天王山1号窯跡は、瓦や須恵器碗・控鉢を焼いた12世紀代の窯跡であるが、灰原等の状況から短い時期の操業であったと考えられる。

参考文献

- 兵庫県加古川市「加古川市史」第4巻 史料編Ⅰ 1996年
 兵庫県加古川市「加古川市史」第7巻 別巻Ⅰ（民俗・文化財編）1985年
 兵庫県教育委員会「美乃利遺跡」 1997年
 兵庫県教育委員会「白沢3・5号窯」 1999年
 兵庫県教育委員会「志方窯跡群Ⅰ－中谷支群－」 2000年
 兵庫県教育委員会「志方窯跡群Ⅱ－投松支群－」 2001年
 兵庫県教育委員会「天神前遺跡・山中遺跡」 2003年
 兵庫県教育委員会「北谷・中西台地遺跡」 2003年
 兵庫県教育委員会「美乃利遺跡Ⅱ」 2003年
 兵庫県教育委員会「坂元遺跡Ⅰ」 2006年
 兵庫県教育委員会「溝之口遺跡」 2006年
 兵庫県教育委員会「石守庵寺」 2008年
 兵庫県教育委員会「坂元遺跡Ⅱ」 2009年
 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所「平成17年度年報」2006年
 加古川市教育委員会「奥新田西古墳発掘調査報告書」2000年（加古川市文化財調査報告13）

第2章 調査の契機と経過

第1節 調査の契機

平成17年度に兵庫県住宅供給公社は加古川市神野町神野において、県立新加古川病院敷地造成事業を計画した。当事業の隣接地において、平成13年度に加古川神野団地開発事業に伴い確認調査を実施し、一部で埋蔵文化財の包蔵が明らかになっていた。また当事業地と重複する地域については、一部第2次確認調査の必要性を認めた。

このため、兵庫県住宅供給公社から兵庫県教育委員会に対して、平成17年3月2日付 兵住公第832号により確認調査の依頼がなされ、兵庫県教育委員会では、この依頼を受け、平成17年6月から8月にかけて、2次の確認調査を実施した。

第2節 確認調査の経過と結果 (図版5)

確認調査は、調査面積が広大にわたるため、6月(第1次確認調査)と7月～8月(第2次確認調査)の2次に分けて実施した。

1. 第1次確認調査

調査の方法

調査地は台地部分とその周辺斜面(雑木林部分)からなる。台地部分には2m×5mのトレンチを41箇所(No1～No41)設定して調査を行った。また、周辺斜面では、2m×10mのトレンチを10箇所(No42～44・46～52)、2m×14mのトレンチを1箇所(No45)、2m×5mのトレンチを1箇所(No53)、2m×8mのトレンチを1箇所(No54)設定して調査を実施した。

調査の結果

第1次調査では、台地部分において、遺構・遺物は確認されず、埋蔵文化財の包蔵はないものと判断した。一方、周辺斜面ではNo54トレンチで須恵器片の包蔵を確認し、第1次調査の範囲外に埋蔵文化財の包蔵される可能性を指摘した。

2. 第2次確認調査

調査の方法

第1次調査の結果を受け、幅2mのトレンチを77箇所設定して調査を実施した。

調査の結果

調査の結果No57～59トレンチ周辺(A区)、No65トレンチ周辺(B区)の2箇所で竃跡と灰原を検出した。

A区ではNo56～59で灰原を検出した。さらにこれを追認するために設定したNo118トレンチで、2基の竃体を検出した。

B区ではNo65トレンチで竃体1基と灰原を検出した。これらの結果、この確認調査では計3基の竃体を発見した。B区のを1号竃、A区のを2・3号竃と命名した。時期は古墳時代後期(6世紀

代)と考えられる。

第3節 本発掘調査の経過

前節で述べた確認調査の結果、当該地に古墳時代後期の須恵器窯が2～3基存在することが判明した。これらの結果に基づいて、兵庫県教育委員会では、当該地を本発掘調査する必要性を認め、兵庫県住宅供給公社の依頼（平成17年9月30日付 兵住公第338号）に基づき本発掘調査を実施した。

1. 調査の方法

調査は地表及び造成に伴う盛土を機械力によって掘削・除去し、以下を人力による掘削で精査を行い、図面及び写真により記録を行った。さらに、空中写真測量を行った。

2. 調査の結果

調査は確認調査の結果に基づき、A・Bの2区に分けて実施した。調査の結果、A区で2基（2・3号窯）、B区で1基（1号窯）の計3基の窯を検出した。

1号窯は南側斜面に築かれ、最も南に位置する。最大幅2.2m、長さ10.7mの規模をもち、3基の中で最も大きい。製品には坏身・坏蓋・高坏・甕・壺などがある。

2号窯は西側斜面に築かれ、最も北側に位置する。3基の中では最も規模が小さく、最大幅1.8m、長さ約7mの規模をもつ。

3号窯は2号窯の南で検出し、2号窯とは逆に東側斜面に築いている。最大幅2.2m、長さ約8mを測る。窯の形態は焼成部の中央が外側にやや張り出す胴張り形を呈し、形態的にはやや古相を示している。

第4節 神野北山遺跡の調査の経過

1. 調査に至る経過

神野北山遺跡の調査は前節に述べた県立新加古川病院整備事業の一環として、兵庫県住宅供給公社が計画した加古川市道西之山加古線拡張事業に伴って実施した。

当該事業地である市道沿線部分については既に平成10年度に確認調査を実施し、須恵器生産に関わる工房跡と想定できる遺構を確認していた。

その後、事業の進展に伴い平成19年度に確認調査が実施され、平成10年度の確認調査の結果も踏まえて、事業地の一部に埋蔵文化財が存在することを改めて確認した。

それらの結果を受けて、兵庫県教育委員会では、兵庫県住宅供給公社からの依頼（平成20年4月7日付 兵住公第33号）に基づき、当該事業地について、平成20年度に本発掘調査を実施した。

2. 調査の方法

調査は表土層以下、包含層までを機械力により、包含層以下は人力により掘削し、遺構面精査により検出した遺構を掘削後、図面実測及び写真撮影を行い、記録した。

3. 調査の結果

調査の結果、6世紀後半の堅穴住居2棟、土坑1基、不定形遺構11基、ピット10数基を検出した。

これらの遺構は前節で述べた、須恵器窯との関連から、須恵器生産に関わる工房跡あるいは、工人の住居跡と考えられる。

第5節 発掘調査の体制

各年度の調査体制は以下の通りである。

1. 神野大林窯跡群

平成17年度

遺跡調査番号 2005127
調査の種類 確認調査
調査期間 平成17年6月8・14～17・20～24日
調査担当者 山田清朝・鐵 英記
調査面積 664㎡

遺跡調査番号 2005139
調査の種類 確認調査
調査期間 平成17年7月12～15・19～20・22・25～29日・8月1～5・10日
調査担当者 山田清朝・鐵 英記
調査面積 1,628㎡

遺跡調査番号 2005181
調査の種類 本発掘調査
調査期間 平成17年11月2日～平成18年1月27日
調査担当者 調査第1班 岡田章一・西口圭介
調査面積 1,809㎡

2. 神野北山遺跡

平成19年度

遺跡調査番号 2007123
調査の種類 確認調査
調査期間 平成19年11月27日・平成20年2月1日
調査担当者 企画調整班 深江英憲
調査面積 96㎡

平成20年度

遺跡調査番号	2008076
調査の種類	本発掘調査
調査期間	平成20年6月11日～7月11日
調査担当者	調査第1班 別府洋二・深江英憲
調査面積	400㎡

第6節 出土品整理作業の経過と体制

神野大林窟跡群・神野北山遺跡からは、須恵器杯・高坏・甕・壺などの遺物が多量に出土した。これらの遺物整理は2箇年計画で平成20・21年度に実施した。

1. 平成20年度

平成20年度は整理事業の初年度として、水洗い、ネーミング、実測・拓本の各作業を、兵庫県立考古博物館で行った。

整理担当職員

整理保存班	岡田章一・篠宮 正
調査第1班	別府洋二・山田清朝・深江英憲
調査第2班	西口圭介

2. 平成21年度

平成21年度は整理事業の最終年度として、復原、写真撮影、写真整理、図面補正、トレース、レイアウト、分析鑑定各作業を実施し、編集を行い報告書を刊行した。

整理担当職員

整理保存班	岡田章一・篠宮 正
調査第1班	西口圭介
調査第2班	別府洋二・山田清朝・深江英憲

また、平成20・21年度の非常勤嘱託員は以下の通りである。

整理担当嘱託員

柏原美音・眞子ふさ恵・吉田優子・杉本淳子・増田麻子・前山三枝子・西口由紀・島村順子・佐伯純子・岡田美穂・前川悦子・高瀬歌子・黒岩紀子・三好綾子・又江立子・柏木明子・西村美緒・伊藤ミネ子・宮野正子・奥野政子・萩野麻衣・齋藤由紀・荒木由美子・藤池かづさ・嶺岡美見・高橋朋子・小谷桂加・谷脇里奈・有田遥香

日々雇用職員

小川真理子・本庄瑛美・佐々木愛・山田美穂・井上知花・藤原砂織

第3章 神野大林窯跡群の遺構

第1節 調査の概要 (図版4～7 写真図版1～6)

神野大林窯跡群は加古川市街の北東、三木市との境に近く、加古川が大きく蛇行をみせる部分にある。加古川に向かって北西に張り出した標高35m前後の丘陵の西斜面、さらに微細に見ると丘陵裾に入り込んだ幅20mから30m前後、奥行き100mに満たない小さな2本の谷の中から古墳時代後期を中心(6世紀前半から7世紀初頭)とした窯跡3基及び灰原、各谷を流れる2本の流路・1箇所(1)の灰溜りを検出した。

調査地は丘陵の西南斜面にあたり、現生活道から開口部を同じくした北と東に枝別れた谷が入り込んでいる。北へ延びる谷に設定した調査区をA区、東へ延びる谷に設定した調査区をB区とした。今回の調査は3本の尾根と2本の谷部に跨っており、A区は南西へ延びる尾根(尾根Aとする)の南東斜面(2号窯)及び谷(流路2)を挟んで位置する東西方向の尾根(同尾根B)の北西斜面(3号窯)の一部を範囲としている。B区は3号窯が存在する尾根Bの南向き斜面(1号窯)及び南側の谷部(流路1)、更に谷の南側の尾根(同尾根C)の北斜面の一部を範囲としている。

1号窯・2号窯・3号窯、何れの窯も標高約25m前後(焚口部分)の位置にある。

第2節 B区(1号窯)の遺構

B区は、主に尾根Bの南向き斜面に設定した南北32.5m・東西26mの五角形の調査区である。標高約29mから21mの範囲が対象である。窯体は調査区中央よりやや西よりの傾斜面上にあり、排煙部は尾根上近くに至る。灰原の大半は、南半を占める谷部にある。谷部がほぼ埋没したあとの窪みに灰原が形成されており、灰原形成後、更に流路が流れている。

1. 1号窯 (図版9～13 写真図版7～13)

(1) 検出状況と概要

尾根Bの南斜面に構築している。窯体は、尾根上直下より始まり、灰原は谷部をまたぎ対岸の尾根Cの裾付近まで及ぶ。斜面は緩やかに西方向へも傾斜しており、ごく緩やかに窪みをもつ。斜面に対して直交する窯体に対して、灰原は東側に膨らんでいる。このため、灰原は半月形となって南西側へと流れ出している。

1号窯は、今回見つかった窯の中では最も大きい。南側斜面に築かれ、最大幅約2.7m、長さ約11mの規模をもち、残存する深さは約0.9mを測る。床面の傾斜角度は、焚口付近では10°以下、先端部近くでは約20°である。窯体の平面形状は後述する3号窯に比べ、胴張りが乏しい。また、窯体の床面を大きく1回改修したことが確認されている。焚口前庭部には山土を盛り出し、作業スペースを確保しており、更に馬蹄形の通路もしくは排水溝を仕づらえている。窯本体の状況では、床面の補修などはあまり明確ではないが、焚口周辺を中心に補修が確認できる。また、焚口前面の作業スペースについても盛土を行っており、その上下で操業が確認されている。また床面からは主軸にそって6個のビットを検出した。窯構築時に天井部を支えるために柱を立てたと考えられる。

出土遺物には灰蓋・坏身・高坏・壺・甕など多量に出土しており、操業時期は須恵器からみると、2

型式前後にわたることが確認できる。これらの遺物から6世紀前半から6世後半の長期間にわたって操業した窯であることが判明した。

(2) 第1次床面 (図版13)

形状・規模 前庭部の端から検出した焼成部の端までは、10.7m、焚口から9.7m、焼成部の最大幅は底部付近の内法で約2.0mを測る。

前庭部 焚口から南端まで南北約1m・東西幅約1.8mの楕円形の平坦面が存在する。この部分は盛土により造り出す。

燃焼部 焚口幅約1.5m、奥行き2.0mを測り、傾斜は焚口のほうが極わずかに高く、奥に向かってわずかに下がる。焼成部との境よりも少し奥を一端として焚口側に向けて長軸1.2m・短軸0.8m・深さ約0.15mの長楕円形の舟底状土坑が掘り込まれており、灰層が堆積している。床の還元層・酸化層は焚口まで認められる。

焼成部 残存延長7.6m、床面幅は2.0mを測る。床面は舟底状土坑の先端から弓形に立ち上がる。舟底状土坑付近の傾斜は緩く約8°、中央部から奥へかけては約20°の角度で立ち上がって行く。焼成部は地山を箱形に掘削して壁には粘土を貼り付けているが、床面には粘土を貼り付けた形跡はない。壁の粘土は、地山部分において貼り付けた部分と、盛土によって側壁を盛り上げた部分とでは断面で違いが認識できる。

排煙部 焼成部端から約2.2mの間隔をおいて上部に長さ0.8m・幅1.2mの長方形の酸化部分が認められる。

その他の施設 前庭部の前面にはU字形の溝があり、更に窯体の左(東)側には幅1.5mの溝状の遺構がある。これらは窯業に伴う通路であった可能性が高い。U字形の溝の規模は、全長5.8m・幅1.8m・深さ0.3mを測る。

(3) 第2次床面 (図版12 写真図版7・8)

形状・規模 前庭部の端から検出した焼成部の端まで、約11.2m (内法で10.9m)、焚口から10.2m (内法で9.6m)、焼成部の最大幅は底部付近の内法で約2.0m程度である。

前庭部 焚口から南端までは南北約0.8m・東西幅約1.8mの楕円形の平坦面が存在する。この部分は盛土により造り出す。

燃焼部 焚口幅約1.5m、奥行き1.5mを測り、傾斜は焚口付近では水平に近く、第1面の舟底状土坑はなくなっている。床の還元層・酸化層は焚口手前まで認められる。

焼成部 残存延長8.0m、床面幅は2.0mを測る。床面は燃焼部前半部において弓形に立ち上がり、傾斜は約6°、中央部から奥へかけては約22°の角度で斜め上方へ立ち上がってゆく。焼成部は地山を箱形に掘削して壁には粘土を貼り付けており、床面についても粘土を貼り付け、舟底状土坑を埋めている。壁の粘土は、地山部分において貼り付けた部分と、盛土によって側壁を盛り上げた部分とでは断面において違いが認識できる。第2次床面の焼成部端から1.8m上部より4.5m分については、更に床面補修した形跡が見られる。

排煙部 焼成部端から約2.2mの間隔をおいて上部に長さ0.8m・幅1.2mの長方形の酸化部分が認められる。排煙口がこの部分まで延びていたと考えられるが、第1次床面に伴う可能性もある。

(4) 構築時の様相 (図版13 写真図版13)

地山をU字形に掘り込み、長軸線上に天井部を支える柱穴を掘り込んでいる。焼成部は幅約2.2m、深

さ0.5m前後に掘削、燃焼部は幅約1.6m・深さ0.4m前後に掘削している。焚口より南側には、1段下った部分に全長約5.1m・幅約1.3mの三日月形の平坦部を削り出し、更に盛土を行い幅0.5m・全長5.5mのU字形の溝を造り出した。

柱穴は6個検出された。柱穴は直径0.35m、直径0.2m、直径0.1mのものがあるが、1.2m前後の間隔で掘られた直径0.35m、直径0.2mの柱穴が主に天井部を支えていたものであろう。

(5) 灰原（図版9）

窯体の半ばあたりから斜面下方へ続き、谷を埋めて広がっている。下端は谷部をまたぎ、対岸の尾根Cの裾付近まで及ぶ。窯体に対して灰原は東側に膨らんでいる。このため、灰原は半月形となって南西側へと流れ出している。半月形の灰原は、全長約22m・幅約14m・厚さ0.2mを測る。焚口から谷底までの比高差は約5mである。

灰原の堆積土は、上から第Ⅰ層、第Ⅱ層であり、第Ⅰ層は赤黒土・赤褐色土系の堆積である。第Ⅱ層は炭灰を多量に含んだ黒褐色層である。

遺物は坏蓋・坏身・高坏・甕などが出土している。

2. 流路1（図版9 写真図版5・37）

谷部に1号窯の灰層を切って形成された小規模な流路である。東から西側へ向って流れている。東西検出全長約16m・南北最大幅5.5m・深さ1.2mを測り、断面U字形である。流路の遺物は3層に分けて取り上げている。

遺物は1号窯で焼成されたと考えられる須恵器が出土しているが、1号窯廃絶以降の新しい須恵器も出土している。

この流路を形成する要因となったもとの谷地形は、1号窯形成以前に開いており、1号窯直下より傾斜の変換は始まっている。谷は調査区内では東西長約25m・南北幅11m前後の規模である。深さは3m前後である。

第3節 A区（2・3号窯）の調査

A区は、主に尾根Aの南向き斜面、尾根Bの北向き斜面に設定した南北58m・東西最大30mのY字形の調査区である。標高約29mから22mの範囲が対象である。

1. 2号窯跡（図版14～19 写真図版14～21）

(1) 検出状況と概要

2号窯は調査区の最も北側で検出した。尾根Aの南斜面に構築している。窯体は、尾根上直下より始まり、傾斜に合わせて、南東方向に延びる。灰原は谷底に及び、谷部を埋めている。

窯を構築した斜面はごく緩やかに窪みをもっており、北から南へ弧を描いている。このため灰原は南西側に膨らみ、更に南西側へと流れ出している。2号窯は最大幅1.8m、長さ約7m、残存する深さは約0.6mを測る。床面の傾斜角度は、焚口付近では17°、先端部近くでは約25°である。今回検出された窯の中では最も小さく地山への掘り込みも浅い。窯体の平面形状は後述する3号窯に比べ、胴張りがない。

1号窯と同じく、焚口前底部には山土を盛り出し、作業スペースを確保しており、更に馬蹄形の通路もしくは排水溝をしつらえている。この窯は、窯体の床面が大きく1回、焚口付近は少なくとも3回にわ

たって補修されたことが確認されている。また、焚口前面の作業スペースについても盛土を行っており、その上下で操業が確認されている。床面からは主軸及び壁際に沿って3列16個のピットを検出した。竈構築時に天井部を支えるために柱を立てたと考えられる。

出土遺物は坏が中心で高坏・壺・甕などがある。2号窯は6世紀後半から7世紀初頭の窯と考えられる。

(2) 第1次窯体1次床面 (図版19 写真図版18・19・20)

形状・規模 前庭部の端から検出した焼成部の端まで、6.9m、焚口から6.6m、焼成部の最大幅は底部付近の内法で約1.8mを測る。

前庭部 焚口から0.2m南側に半月形の落ち込みがある。前庭部に伴う遺構であったと考えられる。U字形の溝の規模は、全長4.9m・幅2.2m・深さ0.25mを測る。

燃焼部 焚口幅約1.5m、奥行き1.1mを測り、傾斜は焚口のほうが極わずかに高く、奥に向ってわずかに下がる。焼成部との境を中心として焚口側に向って長軸1.6m・短軸0.8m・深さ約0.15mの長楕円形の舟底状土坑が掘り込まれており、灰層が堆積している。床の酸化層は前庭部まで認められる。

焼成部 残存延長5.3m、床面幅は1.8mを測る。床面は舟底状土坑の先端から約23°の角度で立ち上がってゆく。焼成部は地山を箱形に掘削して壁には粘土を貼り付けているが、床面には粘土を貼り付けた形跡はない。壁の粘土は、地山部分において貼り付けた部分と、盛土によって側壁を盛り上げた部分とでは断面で違いが認識できる。

排煙部 確認できない。

(3) 第1次窯体2次床面 (図版18 写真図版17)

形状・規模 第1次床面との違いは詳らかではない。前庭部の端から検出した焼成部の端まで、6.9m、焚口から6.6m、焼成部の最大幅は底部付近の内法で約1.8mを測る。

前庭部 第1次床面との違いは詳らかではない。

燃焼部 第1次床面との違いは詳らかではない。焼成部との境を中心として焚口側に向って長軸1.6m・短軸0.8m・深さ約0.2mの長楕円形の舟底状土坑が掘り込まれており、灰層が堆積している。床の酸化層は前庭部まで認められる。

焼成部 第1次床面との違いは詳らかではない。残存延長5.3m、床面幅は1.4mを測る。床面は舟底状土坑の先端から約23°の角度で立ち上がってゆく。焼成部は地山を箱形に掘削して壁には粘土を貼り付けているが、床面には粘土を貼り付けた形跡はない。壁の粘土は、地山部分において貼り付けた部分と、盛土によって側壁を盛り上げた部分とでは断面において違いが認識できる。

排煙部 確認できない。

(4) 第2次窯体床面 (図版17)

形状・規模 前庭部の端から検出した焼成部の端まで、6.8m、焚口から6.5m、焼成部の最大幅は底部付近の内法で約1.5mを測る。

前庭部 焚口から南端まで0.3m、平坦面はほとんど残存していない。この部分は盛土によって造り出されていたが、流失している。

燃焼部 焚口幅約1.5m、奥行き約2.0mを測り、傾斜は焚口のほうが極わずかに高く、奥に向ってわずかに下がる。焼成部との境よりも少し焚口側を一端として奥に向って長軸1.6m・短軸0.7mの長楕円形の焼土面が存在する。

焼成部 残存延長3.9m、床面幅は1.5mを測る。床面は焚口から2m奥まではほぼ平坦であり、中央部

から奥へかけては約23°の角度で立ち上がってゆく。焼成部は地山を箱形に掘削して壁には粘土を貼り付けている。床面には焚口側を中心に盛土を行い高上げしているが、奥については貼り付けた状況が明らかでない。

排煙部 確認できない。

(5) 構築時の様相 (図版19 写真図版21)

地山をU字形に掘り込み、焼成部に天井部を支える柱穴を掘り込んでいる。焼成部は幅約2.1m、深さ0.3m前後に掘削、燃焼部は幅約1.7m・深さ0.4m前後に掘削している。

柱穴は15個検出された。柱穴は軸線上及び床面際の左右各1列に掘られている。径0.3～0.1mのものが、0.6m前後の間隔で掘られ、天井部を支えていたものであろう。

(6) その他の施設 (図版14 写真図版15・21)

溝SDO1 2号窯の構築より前のもので、南北方向に形成されている。検出全長約12m・幅0.4m・深さ0.2mを測る。性格は不明である。

(7) 灰原 (図版14 写真図版14)

窯体の半ばあたりから斜面下方へ続いている。窯体の下方にある谷を埋めて幅15m、谷底までの約14mの範囲に広がっており、谷底を流れる幅4mの小川に流れ込んでいる。灰原の下端は谷底まで及ぶ。焚口から谷底までの比高差は約5mである。窯体に対して、灰原は西側に膨らんでいる。このため、灰原は卵形となって南西側へと流れ出している。灰原の厚みは、0.15m前後である。堆積土は第Ⅰ層が黄褐色・明褐色系、第Ⅱ層が黒褐色系の灰炭が混じった堆積層である。

2. 3号窯跡 (図版20～25 写真図版22～32)

(1) 検出状況と概要

3号窯は、2号窯とは谷を挟んで反対側(東側斜面)に位置している。幅は焚口周辺及び先端では約1.5m、中央付近では最大幅2.2mを測る。長さは約8m、残存する深さ1.1mの規模を測る。床面の傾斜角度は、焚き口付近では15°以下、中央部では25°、先端部近くでは約15°である。窯体の平面形状は中央部が大きく張り出す胴張り形をしている。また、1号窯・2号窯に比べ地山を極めて深く掘り込んでいる。床面は3枚確認しており、焚口と側壁は部分的に3回以上補修されている。その際、壁に須恵器の坏身を塗り込めていることが判明している。

出土遺物及び窯の形態から、1号窯に連れて出現し、やや新しい時期まで操業していた6世紀中頃の窯と考えられる。

(2) 第1次床面 (図版24 写真図版28～30)

形状・規模 前庭部の端から検出した焼成部の端まで、7.8m以上、焚口から7.0m以上、焼成部の最大幅は底部付近の内法で約1.8mを測る。更に、最終面において検出されている排煙部を計算にいれると、前面の掘り込みを含む全長は11.5m程度であったと考えられる。

前庭部 焚口から端まで南北約0.6m・幅約3.3mの箱形の平坦面が存在する。この部分は地山を掘り込んで造り出している。

燃焼部 焚口幅約1.0m、奥行き1.7mを測り、傾斜は焚口のほうが極わずかに高く、奥に向かってわずかに下がる。焼成部との境の中心部に、長軸約1m・短軸0.55m・深さ約0.1mの長楕円形の舟底状土坑が掘り込まれており、灰層が堆積している。床の還元層は土坑付近まで認められる。

焼成部 残存延長5.3m、床面幅は1.8mを測る。床面は舟底状土坑の半ばから約20°の角度で立ち上がってゆき、中央部から奥へかけては緩やかに約15°の角度で立ち上がってゆく。焼成部は地山を箱形に掘削して壁には粘土を貼り付けているが、床面には粘土を貼り付けた形跡はない。壁の粘土は、地山部分において貼り付けた部分と、盛土によって側壁を盛り上げた部分とでは断面において違いが認識できる。

排煙部 確認できないが、先端部分では還元層が幅0.4m程度の丸みを帯びた形状となっており、排煙部にあたっている可能性は高い。

(3) 第2次床面 (図版23 写真図版27)

形状・規模 第1次床面・側壁に部分的に貼り床・壁土を貼り付けているが、全体には残存しておらず、規模・形状は詳らかではない。ほぼ第1次床面と同規模であろう。床面はやや丸みを帯びており、底面の幅は、約1.5mと、第1次床面に比べて狭くなっている。

前庭部 第1次床面と同様である。

燃焼部 第1次床面と同様であるが、傾斜は焚口のほうが極わずかに低く、奥に向ってわずかに上がる。舟底状土坑の規模は長軸1.6m・短軸0.8m・深さ約0.15mの長楕円形であり、第1次の土坑と殆んど変化はないが、前庭部に向けて、幅0.14mの溝が延びている。土坑内には灰層が堆積している。床の還元層・酸化層は焚口まで認められる。

焼成部 規模は第1次床面と同様である。床面は舟底状土坑の先端から斜めに立ち上がる。舟底状土坑付近の傾斜は緩く約18°、中央部から奥へかけては更に緩やかとなり、約13°の角度で立ち上ってゆく。

排煙部 確認できないが、先端部分では還元層が幅0.4m程度の丸みを帯びた形状となっており、排煙部にあたっている可能性は高い。

(4) 最終床面 (図版23 写真図版22・23)

形状・規模 前庭部の端から検出した焼成部の端まで、8.5m、焚口から8.1m、焼成部の最大幅は内法で約1.85mを測る。全面の掘り方をいれると全長は11.5m程度であったと考えられる。

前庭部 焚口から北西端まで約0.7m・南北方向の幅約2.7mの矩形の平坦面が存在する。この部分は地山を削り出して造っており、第2次床面から継続して使用されている空間である。南側が開いており、こちらが焚口に至る入口である。

燃焼部 焚口幅約0.8m、奥行2.45mを測り、傾斜はほぼ水平である。焚口は、第2次面よりも更に0.25mほど掘形に拡張している。また、舟底状土坑は貼り床によって無くなっている。床面の還元層・酸化層は焚口まで認められる。

焼成部 全長は、5.65m。幅は底部付近の内法で約1.4mを測る。燃焼部近くの床面の傾斜は約8°、中央部から奥へかけては緩く、約18°の角度で立ち上がってゆく。壁・床面に粘土を貼り付けているが、部分的に残存しているため状況は詳らかではない。

排煙部 排煙口は明瞭ではないが、先端付近に径0.4mほどの丸い窪みがあり、排煙部の一部であった可能性がある。

(5) 構築時の様相 (図版24 写真図版31・32)

地山を箱形に掘り込む。1号窯・2号窯とは違い、天井部を支える柱穴は検出していない。また、前庭部周辺での大きな盛土作業はない。

(6) その他の施設

焚口前面の掘り込み (図版20 写真図版22・29)

前底部の前面を箱形に掘り下げている。平面形は、不整な六角形を呈し、北東・南西方向幅約3.8m、北西・南東長約4.0m、深さ約0.5mを測る。掘り込み内には段を掘り、焚口までの通路としての機能を伴っていたと考えられる。

壁面の須恵器坏群 (図版25 写真図版25・26)

右側壁の第1次床面・第2次床面間の中に、8個の須恵器坏身を塗りこめている。いずれも壁面に内面を向けている。坏身は一列に並んでおり、一部は地山面に接する状態で貼り付けられている。

(7) 灰原 (図版20 写真図版22・29)

窯体の半ばあたりから斜面下方へ続いている。放射状に開き、窯体の下方にある谷を埋めて谷底までの範囲に広がっており、更に谷底を流れる幅2mの小川に流れ込み、下流へと流れ出している。焚口から谷底までの比高差は約7mである。主要な部分の範囲は、長軸18m・底辺の幅約20mを測り、更に下流へと幅5m・長さ20mの規模で流れ出している。

堆積土は第Ⅰ層が黄褐色系、第Ⅱ層が黒褐色に灰が混じった堆積層で、第Ⅲ層が暗褐色・黒褐色系の灰炭が混じった堆積層である。

3. 流路2 (図版26・27 写真図版33~36)

A地区の最奥より南西方向へ流れ出す。谷の底を蛇行しながら流れており、幅・深さともに地点によってばらつきがある。谷が埋没してゆく中で形成された、東西検出全長約51m・南北最大幅約4m・深さ0.7mを測る断面U字形の自然流路である。流路の上半には2号窯・3号窯の灰原が堆積しており、3号窯からの灰層は流路を埋没させて下流へと流れ出している。

堆積土は場所によって異なるが、第Ⅰ層が褐色・黄褐色系の堆積土で、第Ⅱ層が褐色に灰が混じった堆積土で、第Ⅲ層が暗褐色・黒褐色系の灰炭が混じった堆積層で、第Ⅳ層が流路最下層で粗砂である。

埋土内からは2号窯・3号窯で焼かれた須恵器が出土している。

4. 灰溜り (図版26 写真図版5)

流路2の流末近く、蛇行部分に堆積した灰層である。東西検出全長約3.6m・南北最大幅2.7m・厚さ0.15m前後を測る。

埋土内から須恵器片が出土している。特に密に堆積があることから、斜面上方に未知の窯跡が存在した可能性があるため、幾つか調査区外に確認トレンチを設定したが、存在しなかった。若干の須恵器片が出土しており、削平・亡失した可能性が残る。

第4章 神野大林窯跡群の遺物

第1節 概要 (別表1~16)

神野大林窯跡群の発掘調査で出土した遺物は、560箱に及ぶ。内訳は1号窯386箱、2号窯70箱、3号窯34箱、流路70箱、そのほか28箱である。

この多量の遺物の中から、報告書に掲載するものを抽出して、実測・復原を行った。基準は窯体内から出土した遺物は実測可能なものはできる限り抽出した。灰原から出土したものは、特に出土量が多いため、同一器種で多量に出土するものは代表的な物を抽出し、特殊な器種で少数しか出土していないものは小片でも抽出する。このため、報告書に掲載したものがすべてではなく、また器種の出土比率も異なる。

遺物の記述は紙面の都合上、詳細には触れられないので、別表に口径・器高・底径・重量などの法量と特に坯の轆轤の回転方向、外面の最終調整、内面の痕跡、坯蓋の口縁部と天井部の境の形態、口縁部形態を一覧として掲載した。なお、内面痕跡とヘラ記号などの拓影は第7章に掲載した。

第2節 1号窯 (図版28~55 写真図版38~40・45~80・87~101 別表1~8) (1001~1595)

1. 窯体床面 (図版28 写真図版45・100) (1001~1017)

1号窯の窯体床面からは坯蓋・坯身・高坏・把手付碗が出土した。

坯蓋 (1001~1010) は天井部がやや丸く、口縁部には内傾する段を持つ。1001~1009は沈線で天井部と口縁部の境を作る。1001~1004は口縁部が外傾し、1005は直立する。1006~1009は口縁部が外反する。1010は天井部と口縁部の境が丸い。

坯身 (1011~1015) は底部が丸く、受け部は外上方に短く伸び、立ち上がりは内傾する。

高坏 (1016) は脚部の一部で、大きく開く。

把手付碗 (1017) は把手部分である。本体から剥離した痕跡を残し、上方に弯曲する。断面は円形である。

2. 窯体壁面 (図版28 写真図版46・100) (1018~1029)

1号窯の窯体壁面からは坯蓋・坯身・高坏・甕・陶片が出土した。

坯蓋 (1018~1021) は天井部がやや丸く、口縁部には内傾する段を持つ。1018・1019は沈線で天井部と口縁部の境を作り、1020・1021は天井部と口縁部の境には微かな稜が残る。

坯身 (1022~1024) は底部が丸く、受け部は外上方に短く伸び、立ち上がりは内傾する。

高坏 (1025~1027) は脚部である。1025は長脚2段で長方形の三方透かしをあげ、透かし部分は面取りを行う。1026・1027は脚裾部で、端部が拡張して内面に段を作る。

甕 (1028) は口縁部の破片で、口縁部内面には段を作る。口縁部外面に櫛描列点文を施文する。

陶片 (1029) は板状の粘土塊で、幅7.5cm以上、厚さ1.7cm以上である。軟質の焼成である。

3. 窯体埋土 (図版28 写真図版46) (1030~1034)

1号窯の窯体埋土からは坏蓋・坏身・広口壺が出土した。

坏蓋 (1030) は天井部がやや平たく、天井部と口縁部の境には微かな稜が残る。口縁端部には内傾する段を持つ。

坏身 (1031~1033) は底部が丸く、立ち上がりは内傾する。1031・1033は受け部が外上方に短く伸び、1032は外水平に伸びる。

広口壺 (1034) は肩が張ったカキ目仕上げの体部を持ち、外傾する頸部が付く。口縁部と底部を欠く。

4. 窯体 (図版29 写真図版47・48・88) (1035~1053)

1号窯の窯体からは坏蓋・坏身・短頸壺が出土した。

坏蓋 (1035~1046) はいずれも口縁端部に内傾する段を持つ。1035~1038・1042~1045は天井部がやや丸く、沈線で天井部と口縁部の境を作る。1035~1038は口縁部が外傾する。1042~1045は口縁部が短く直立する。1039~1041は天井部が平たく、沈線で天井部と口縁部の境を作る。口縁部は短く外傾する。1046は天井部が平たく、天井部と口縁部の境には微かな稜が残る。口縁部は外傾する。

坏身 (1047~1052) は底部が丸く、受け部は外上方に短く伸び、立ち上がりは内傾する。

短頸壺 (1053) は口縁部の破片で、端部に沈線を巡らす。

5. 焚口 (図版29 写真図版48) (1054~1060)

1号窯の焚口からは坏蓋・坏身・高坏蓋が出土した。

坏蓋 (1054~1056) は天井部がやや丸く、沈線で天井部と口縁部の境を作る。口縁部は外傾し、口縁端部には内傾する段を持つ。

坏身 (1057~1059) は底部が丸く、受け部は外上方に短く伸び、立ち上がりは内傾する。

高坏蓋 (1060) は天井部をやや丸く作り、天井部と口縁部の境に沈線を巡らす。口縁端部内面には微かな段を作り、天井部にはつまみの剥がれた痕跡が残る。

6. 灰原第I層 (図版30~35 写真図版48~54・95・101) (1061~1128)

1号窯の灰原第I層からは坏蓋・坏身・無蓋高坏・高坏・高坏蓋・直口甕・把手付甕・外反口縁鉢・甕・横瓶・提瓶・有蓋短頸壺・長頸壺・広口長頸壺・器台・長頸甕・短頸甕が出土した。

坏蓋 (1061~1075) は天井部がやや丸く、口縁端部には内傾する段を持つ。天井部と口縁部の境は1068が段を作る他は沈線で区切る。1071~1075は天井部外面に回転ケズリの後、「-」のヘラ記号を刻む。

坏身 (1076~1091) は底部が丸く、立ち上がりは内傾する。1076~1083は受け部が外上方に短く伸びる。1084・1085は受け部が外水平に極短く伸びる。1086は受け部が外水平に短く伸びる。1087~1089は底部が浅い。1090・1091は底部外面に回転ケズリの後、「×」のヘラ記号を刻む。

無蓋高坏 (1092) は坏部の口縁部と底部との境に稜を作り、口縁部は外反する。脚部は外れているが、三方透かしの痕跡を残す。

高坏 (1093) は脚部のみで、端部には沈線を巡らす。透かしは四方向にあける。

高坏蓋 (1094・1095) は天井部をやや丸く作り、天井部と口縁部の境に沈線を巡らす。天井部には中央部が窪んだつまみを貼り付ける。1094の口縁端部内面には段を作る。1095は倒立して焼成した自然軸の

痕跡が残る。

直口椀 (1096・1097) は外傾する体部から屈曲して立ち上がる口縁部が付く。

把手付椀 (1099～1102) はカキ目調整を行い、底部は回転ケズリを行う体部1099・1100と把手1101・1102とがある。1099は脚部が剥離するが、透かしの痕跡が残る。1100は体部が外傾し、底部は欠損する。1101・1102は彎曲した把手で、断面は扁平である。1101は体部から外れた痕跡が残る。

外反口縁鉢 (1098) は底部を欠く。体部は内湾し、口縁部は外傾する。成形は回転仕上げである。

甕 (1103) は頸部が外反し、口縁部は屈曲して段を作り直線的に外傾する。口縁部は内傾する面を持つ。頸部はカキ目調整後、上半部に櫛描列点文を施す。口縁部は櫛描波状文を施す。

横瓶 (1104～1108) は口頸部だけの1104～1106と全容がわかる1107と体部だけの1108とがある。

1104は口頸部が短く直立し、口縁部は拡張し沈線を巡らす。1105・1106は口頸部が短く外反し、口縁部は丸い。1107は短く外反する口頸部で、口縁部は拡張し、沈線を巡らす。体部はタタキ仕上げで、閉塞の円板も叩いており、内面には同心円当て具の痕跡が残る。全体をカキ目調整する。1108は体部がタタキ仕上げで、閉塞の円板も叩いており、内面には同心円当て具の痕跡が残る。全体をカキ目調整する。

提瓶 (1109・1110) は肩に環状把手の剥離痕跡がある。1109は小型で閉塞側は手持ちケズリを行う。1110は体部成形時の底部が平坦であり、上方は丸く作りカキ目調整する。体部の扁平率は68%である。

有蓋短頸壺 (1111) は肩の張った体部に短く内傾する口頸部が付く。口縁部内面に段を持つ。肩部には自然軸による蓋の痕跡が残る。

長頸壺 (1112) は脚台部分で、脚端部には内傾する面を作る。円形の透かしを穿つ。

広口長頸壺 (1113・1114) は頸部が外傾して開く。1113は口縁部が肥厚して端部に沈線を巡らす。頸部は櫛描波状文を施文する。1114は沈線で区画し、それぞれ櫛描波状文を施文する。

器台 (1115) は脚中央部の破片で六方向に長方形の透かしが存在する。外面はヘラによる条線を施文する。

長頸甕 (1116～1123) は底部の1120を除き、口頸部から体部にかけてである。口頸部はいずれも外反し、体部はいずれもタタキ成形を行う。頸部は不明なものも存在するが、沈線で3段に区画し、3段目はいずれも体部との接合ナデを行う。1116～1119は1・2段目を櫛描波状文で施文する。1121～1123は1段目を櫛描波状文、2段目を櫛描列点文で施文する。1116の頸部はタタキ成形の痕跡が残る。1120は丸底で、1119の底部の可能性が高い。体部の容量は1121が128ℓ、1123が83ℓである。

短頸甕 (1124～1128) は外反する口頸部で、体部はタタキ成形を行う。1124～1126は口縁部が上下に拡張し、内面には段を作る。1127は口縁部を拡張して方形に仕上げ、内面は段を作る。1128は口縁部を拡張し、沈線を巡らす。体部の容量は1127が推定26ℓである。

7. 灰原第Ⅰ・Ⅱ層 (図版35 写真図版55) (1129～1134)

1号窯の灰原第Ⅰ・Ⅱ層からは坏身・把手付椀・有蓋高坏・提瓶・横瓶・無蓋高坏が出土した。

坏身 (1129) は底部が丸く、受け部は外上方に短く伸び、立ち上がりは内傾する。

把手付椀 (1130) は回転ケズリで丸く作る体部に脚台部を貼り付ける。透かしは三方向で、脚端部は沈線を巡らす。倒立させて焼成した自然軸の痕跡が残る。

有蓋高坏 (1131) は太い長脚の脚部で、脚裾に向って大きく開き、端部は丸く作る。透かしは四方向で

面取りを行う。上段は櫛描列点文を、下段は櫛描波状文を施文する。

提瓶 (1132) は体部成形時の底部が平坦であり、上方は丸く作りカキ目調整する。口頸部および把手は成形時の底部側に付けているため、傾いている。口縁部は沈線を巡らす。体部の扁平率は64%である。

横瓶 (1133) は短く外反する頸部を持ち、口縁部は拡張し内面に段を作る。

無蓋高坏 (1134) は無文の坏部で内湾しながら立ち上がり、口縁部は外反し、端部は拡張する。

8. 灰原第Ⅱ層 (図版36~54 写真図版56~79・87~101) (1135~1576)

1号窯の灰原第Ⅱ層からは坏蓋・坏身・無蓋高坏・高坏蓋・大型蓋・有蓋高坏・小型碗・把手付碗・鉢・甌・横瓶・提瓶・平底瓶・壺蓋・大型蓋・有蓋短頸壺・短頸壺・大型直口壺・直口壺・広口壺・広口長頸壺・器台・紡錘車・長頸甕・短頸甕・陶片が出土した。

坏蓋 (1135~1275) は天井部を回転ケズリで仕上げ、口縁部は内傾する段を持つ。1135~1243は天井部がやや丸く、口縁部と天井部の境には1135~1239が沈線を巡らし、1240~1243の境は丸い。1244~1245は天井部が平たく、口縁部と天井部の境は1244が成形時の大きな段があり、1245は明瞭な境がない。1246~1272にはヘラ記号がある。1246~1258は「×」、1259~1268は「-」、1270~1272は複数の線を天井部外面に、1269は「-」を内面に記す。1273・1274は坏身の受け部に融着する。

坏身 (1276~1388) は底部が回転ケズリである。1276は坏蓋に融着する。1277~1308・1311~1357・1376・1377・1382・1388は底部が丸く、受け部は外上方に短く伸び、立ち上がりは内傾する。1309・1310・1378は底部が丸く、受け部は水平に短く伸び、立ち上がりは直立する。1376~1388にはヘラ記号ある。1376~1381は「×」、1382~1387は「-」を底部外面に、1388は矢印様の記号を体部に記す。

1310の内面には同心円押圧の痕跡があるが、本体と同心円押圧の間に粘土滓の貼り付けがある。

無蓋高坏 (1389~1409) は長脚1段透かしの1389~1393と長脚2段の1394~1405と坏部のみ1406~1409がある。1389・1390は長脚1段で三角形の三方透かしを設ける。1389は坏部内面に同心円置台の痕跡が残る。1391~1393は長脚1段の三方透かしを設け、1393は面取りを行う。1394・1395は体部に櫛描波状文を施文する。脚部は長脚の2段で、長方形の三方透かしをあげる。1394は透かしを千鳥に配置し、1395は透かしの面取りをする。1396~1402は脚部が長脚の2段で、長方形の三方透かしをあげ、1398~1402は面取りを行う。1396・1397は脚部中央の透かし間にシャープな突帯を巡らす。1400の脚部はカキ目調整を行う。1403~1405は脚部が長脚の2段で、長方形の四方透かしをあげる。1406・1407は体部が無文で、1408は体部に櫛描波状文を、1409は櫛描列点文を施文する。

高坏蓋 (1410~1416) は天井部をやや丸く作り、天井部と口縁部の境には沈線を巡らす。口縁部内面には段を作り、天井部には中央部が窪んだつまみを貼り付ける。1410~1414は自然軸の状況から倒立して焼成したことがわかる。特に1410~1412は高坏脚裾部の融着痕跡が残る。

大型蓋 (1417) は天井部に中央部が窪んだ大型のつまみを貼り付ける。

有蓋高坏 (1418~1446) は短脚の1418~1433と長脚の1434~1446がある。坏部の底部はやや丸く作り、受け部は外上方に伸び、立ち上がりは内傾する。短脚のすべてが、自然軸の状況から倒立して焼成したことがわかる。1418~1431は脚部が短脚で、1418~1420は長方形の四方透かしをあげる。1421~1431は長方形の三方透かしをあげる。1432は脚部が短脚で端部は屈曲して、外下方に伸びる。長方形の三方透かしをあげる。1433は脚部が短脚で、四方向に円孔を穿つ。1434~1436は脚部が長脚の2段で、長方形の四方透かしをあげる。1436は透かしが脚の中心を向いていない。1437は坏部のみで底部は丸く深手に

作る。脚部は剥離するが、脚基部に四方透かし痕跡が残る。焼成不良である。1438は脚部が長脚の2段で、長方形の四方透かしをあける。脚部中央の透かし間はシャープな突帯を巡らす。1439は脚部が長脚の2段で、長方形の三方透かしをあげ、面取りを行う。1440は脚部が太い長脚の2段で、上段を高く、下段を低く作る。1441・1442は脚部が長脚の2段で、長方形の三方透かしをあける。1441は脚部にも沈線を巡らす。1443～1446は脚部が長脚の2段で、上段を高く、下段を低く作る。脚部に向って大きく開く。透かしは四方向で上段は長方形、下段は三角形である。1445は面取りを行う。1443は上下段ともに櫛描波状文を施文する。1446は上段に櫛描列点文を、下段に櫛描波状文を施文する。

小型椀 (1447～1449) は脚台が付かない1447と脚台が付く1448・1449とがある。1447は底部がへら切りのままである。1448・1449は短く外傾する体部で、底部は脚台の剥離痕跡がある。

把手付椀 (1450～1469・1577) は、全容がわかる1453と口縁部の1454・1455・1457・1458と体部下半の1450・1456・1459と脚部の1451・1452と把手の1462～1469・1577とがある。1454を除いて体部はカキ目調整で仕上げる。1451・1452は短く開く脚台部分で、円孔の透かしを三方向に穿つ。1453の脚部の透かしは無い。1457～1459は体部に把手の剥離痕跡が残る。1460・1461は小型品の脚台部である。1460は三角形の透かしを三方向に、1461は長方形の透かしを二方向か三方向に設ける。1462～1469・1577は把手部分で上方に弯曲する。1464・1468・1469は本体から剥離した痕跡を残す。

鉢 (1470～1472) は扁球形の体部に外反する口頸部を持つ。1470・1471の体部はカキ目調整を行う。

甌 (1473～1480) は無文の1473～1475と有文の1476～1480とがある。無文の甌は球形の体部の上部に注口をあける。頸部は外反し、口縁部は屈曲して段を作り直線的に外傾する。有文の甌は扁球形の体部上半を沈線で区画し、注口を穿つ。区画内には櫛描列点文を施文する。頸部は外反し、口縁部は屈曲して段を作り直線的に外傾する。口縁端部は内傾する面を持つ。頸部はカキ目調整後、上半部に櫛描列点文を施す。口縁部は櫛描波状文を施す。

横瓶 (1481～1487) は全容がわかる1481・1483・1484と口縁部のみの1485～1487と体部のみの1482とがある。体部はいずれもタキ成形をする。1481は頸部が短く外傾し、口縁端部は拡張して面を作る。1482は大型品の体部のみで、カキ目調整を行う。1483は頸部が外反気味に立ち上がり、口縁部を欠く。体部はカキ目調整を行う。1484は閉塞側に沈線を巡らせ、櫛描波状文と櫛描列点文を施文する。口頸部は短く外反し、口縁端部は上方に拡張する。1485～1487は頸部が短く外反し、口縁端部は拡張して丸く仕上げる。

提瓶 (1488～1492) は口頸部のみの1488・1489と体部成形時の底部は平坦であり、上方を丸く作る1490～1492とがある。1488・1489は口頸部で頸部は外反し、口縁端部は拡張して外方に向く面を作る。1490は口縁端部を欠く。把手は環状である。体部はカキ目調整をし、1491は口頸部を欠く。把手は環状であり、剥離する。1492は口頸部と把手は成形時の底部側に付けているため、傾いている。口頸部は直立し、口縁下に突帯を巡らす。体部の扁平率は1490が62%、1491が77%、1492が58%である。

平底瓶 (1517) は肩部が丸く平底を呈する体部に、外反する口頸部が付く。

壺蓋 (1493～1500・1503) は1493～1497は小型でつまみは付かない。1498・1499は小型でつまみが付く。1500は中型でつまみが付く。1493～1495は天井部がやや丸く、天井部と口縁部の境は微かに沈線を巡らす。1496・1497は天井部がやや丸く、天井部と口縁部の境を丸く作る。1503は有蓋短頸壺1506の肩部に付着した口縁部である。

大型蓋 (1501・1502) は口縁部と天井部の境に稜を作り、口縁端部は内傾する段を作る。頂部を欠くが、

1417のようなつまみが付くと考えられる。

有蓋短頸壺 (1504～1507) は肩の張った体部に短く内弯しながら立ち上がる口頸部が付く。1505は体部をカキ目調整する。1506・1507の肩部には自然釉による蓋の痕跡が残る。

短頸壺 (1508) は扁球形の体部で、外傾する短い頸部を持つ。体部下半は手持ちケズリである。

大型直口壺 (1509～1513) は体部下半を欠くが球形の体部に短く直立する口頸部を持つ。体部はタタキ仕上げで、1513は肩部に環状の把手を三方向に貼り付ける。

直口壺 (1514) は丸底気味の平底の壺で、体部は肩に稜を作り、直立する口縁部を持つ。体部は回転ナデ成形で、底部は手持ちケズリを施す。

広口壺 (1515・1516・1518・1519) は1515・1516が球形の体部に外反する口縁部が付く。体部は回転ナデ成形で外面はカキ目調整で仕上げる。1518・1519は大きく開く口頸部に楊柳波状文を施文する。

広口長頸壺 (1520～1526) は体部の一部が残る1520・1521と口縁部の1522～1425と頸部のみの1526とがある。1520・1521の体部は球形である。口頸部は外傾し、沈線で3帯に区画する。上帯に楊柳列点文を、中・下帯に楊柳列点文を施文する。1522～1426の口頸部は沈線で区画し、楊柳波状文を施文する。

器台 (1527～1529) は坏部の一部で、口縁部が外方に直線的に開く1527と口縁部が外反する1528・1529とがある。1527は下方の内面に同心円当て具の痕跡、外面に平行タタキの痕跡が残り、全体をカキ目で調整する。蓋の可能性もある。1529の体部の突帯下には波状文を施文する。

紡錘車 (1530) は円錐台形を呈し、中央に直径0.9cmの孔を開ける。

長頸壺 (1531～1536) はいずれも外傾もしくは外反する頸部を持ち、小型の1531・1532と大型の1533～1536がある。1531・1532は口頸部が外反し、1531は口縁端部の外面を肥厚して丸く作り、1532は口縁端部の外面は肥厚する。頸部は沈線で、3帯に区画するが、1531は1・2帯に楊柳波状文を施文する。1532は2帯のみ幅が広く、楊柳波状文を施文する。1533・1534は口縁端部直下に突帯を巡らし、内面に段を作る。頸部は沈線で、4帯に区画し、1帯は狭く、4帯は幅が広い。1533は中帯の2・3帯は楊柳波状文を施文する。1534は1・2帯に楊柳波状文を施文し、3帯は楊柳列点文を施文する。1534は口縁端部直下に突帯を巡らし、内面に段を作る。頸部は沈線で、4帯に区画し、1帯は狭い。中帯の2・3帯は楊柳波状文を施文する。1535は口縁部を欠き、頸部はカキ目調整の後、沈線で3帯に区画する。1・2帯は楊柳波状文を施文する。1536は口縁端部の外面が突出する。頸部は沈線で、3帯に区画し、1・2帯は楊柳列点文を施文する。いずれも最下帯は体部との接合ナデを行い、1533・1535・1536は体部との接合痕跡は明瞭である。

短頸壺 (1537～1576) はやや頸の長い1537～1539と小型の1540～1542・1576と中型の1543～1552・1562～1567・1574・1575と大型の1553～1561・1568～1573とがある。1537は口縁端部が上下に拡張し、内面に段を、外面に突帯と面を作る。1538・1539は口縁端部が下方に拡張し、外面に面を作る。1540～1542は小型の球形の体部に外反する口頸部が付く。口縁端部は上下に拡張し、外面に突帯と面を作る。1543～1549は口縁端部が拡張し、外面に突帯と面を作る。1548・1549は形態とタタキ方法、工具が同じであるため、同一工人の製品であると考えられる。特に特徴的なのは内面の当て具の中心文様が前方後円墳形を呈することである。1550～1561は口縁端部が上下に拡張し、内面に段を、外面に突帯と面を作る。1560は体部に間隔のあいた沈線が巡る。1562～1569は口縁端部が拡張し、端面に沈線を巡らす。体部はタタキ仕上げである。1562・1567は体部に、1564は頸部にカキ目調整を施す。1570は縦長の体部に、外傾する頸部を持つ。口縁端部は上下に拡張する。1571～1573は口縁端部が拡張し、端面には沈線を巡ら

す。1574・1575は口縁端部が肥厚し、1574は面を作り、1575は丸く仕上げる。1576は小型の甕である。体部は球形で下半をタキ成形、上半を回転成形する。体部の容量は1548が6.4ℓ、1549が8.5ℓ、1570が20ℓである。

陶片 (1577) は甕体部と頸部の接合後、ケズリ落したケズリ滓である。

9. 灰原 (図版55 写真図版80) (1578~1592)

1号窯の灰原の内、出土層位が特定できない物をここで纏めた。坏蓋・坏身・高坏蓋・有蓋高坏・把手付碗・広口長頸壺・陶片がある。

坏蓋 (1578~1583) は天井部がやや丸く、口縁端部には内傾する段を持つ。1578・1579は口縁部が直立し、口縁部と天井部の境を沈線で作る。1580の天井部と口縁部の境には微かな稜が残る。1581・1582にはヘラ記号「×」が天井部外面にある。1583は坏身の受け部に融着する。

坏身 (1584・1585) は受け部が外上方に短く伸び、立ち上がりは内傾する。1585は蓋1583が受け部に融着する。

高坏蓋 (1586) は天井部をやや丸く作り、天井部と口縁部の境に沈線を巡らす。口縁端部内面には微かな段を作り、天井部には中央部が窪んだつまみを貼り付ける。

有蓋高坏 (1587・1588) は短脚1段で長方形の透かしを三方にあける。脚部から坏部底面にかけて濃緑色の釉が掛かる。

把手付碗 (1589) は把手のみで、断面は扁平で、体部から剥離した痕跡が残る。

広口長頸壺 (1590) は大きく外反する口頸部を沈線で4帯以上に区切る。最上帯は櫛描波状文を、以下を櫛描列点文で施文する。

陶片 (1591・1592) は1591が粘土紐で、幅約2cm、厚さ約0.5cmで指押さえの痕跡が残る。接合痕跡がないため、何らかの理由で、製作途中のまま焼成されたものと考えられる。1592は板状の粘土塊の側面に焼成前の3.3cm×0.8cmの切り取りが存在する。焼成は甘く軟質である。

10. 1号窯 (図版55 写真図版80) (1593~1595)

1号窯から出土した遺物の内、遺構や層位が特定できない物をここで纏めた。無蓋高坏・提瓶・土師器高坏がある。

無蓋高坏 (1593) は底部と体部の間に沈線を、口縁部と体部の間に稜を作り、体部に櫛描波状文を施す。

提瓶 (1594) は短く外反する口頸部に、口縁直下に突帯を巡らす。

土師器高坏 (1595) は口縁部のみである。

第3節 流路1 (図版56~59 写真図版38~40・81~86・96・100 別表8・9) (1596~1655)

1. 第1層 (図版56~58 写真図版81~83・96) (1596~1623)

流路1の第1層からは坏蓋・坏身・無蓋高坏・横瓶・壺・器台・陶片・長頸甕・短頸甕が出土した。

坏蓋 (1596・1597) は天井部外面に回転ケズリを行う。1596は天井部がやや丸く、天井部と口縁部の境は丸い。口縁端部には内傾する段を作る。1597は外面に「×」のヘラ記号を刻む。

坏身 (1598・1599) は立ち上がりがか内傾する。1598は受け部が外上方に短く伸び、底部は深く丸い。1599

は底部が平たく、体部から受け部まで直線的に開く。

無蓋高坏 (1600~1602) は坏部のみ1600と脚部から坏部にかけての1601・1602とがある。1600は坏部の体部には櫛描波状文を施す。底部に四方透かしの剥離痕跡が残る。1601は脚部にカキ目調整を施し、長脚2段で長方形の三方透かしをあげ、部分的にはみ出た粘土をナデ消す。坏部の体部に櫛描波状文を施す。1602は口縁部を欠く。脚部は短脚で裾が大きく開く。長方形の二方透かしを雑にあげる。

横瓶 (1603・1604) は口縁部のみ残る。1603は口縁部が外反し、口縁端部は拡張し、外方に沈線を、内面には段を作る。1604は口頭部が大きく外反し、口縁端部は外方に幅広の面を作り、内面には段を作る。

広口長頸壺 (1605) は体部上半から頭部下半にかけての破片である。体部は球形で、タタキ成形で仕上げ、外面はカキ目調整を行う。頭部は口縁部に向って外方に開く。沈線を巡らし、櫛描列点文を施文する。

器台 (1606・1607) は1606が坏部の一部で、口縁部は外反し、体部の突帯間に波状文を施文する。部分的に、内面に同心円当て具、外面に平行タタキの痕跡が残り、突帯下をカキ目で調整する。1607は脚部で、沈線の区画の間に波状文と透かしを施す。最上段には波状文は施文していない。透かしは六方向で、長方形と三角形を交互に配置する。

陶片 (1608・1609) は板状の粘土塊で、1608は幅7.6cm、1609は厚さ2.4cmである。いずれも軟質の焼成で欠損している。

長頸壺 (1610・1611) は頭部が外反し、口縁端部は外方に拡張して幅広の面を作る。頭部は2条沈線で不均等な4帯に区画する。1610の頭部最上帯は幅が狭く櫛描波状文を1条施文し、上帯と中帯は櫛描列点文を施文する。下帯は体部との接合ナデを行う。1611は最上段の沈線上に勾玉状の浮文を9単位貼り付ける。頭部最上帯は幅が狭く、無文で、上帯と中帯は櫛描波状文を施文する。下帯は体部との接合ナデを行う。

短頸壺 (1612~1623) は体部をタタキ成形し、1616~1618・1621は外面にカキ目調整を施す。頭部は外反する。1612・1622は口縁端部を丸く仕上げる。1613は口縁端部を拡張して方形に仕上げ、内面は段を作る。1614・1615は口縁端部の外方に幅広の面を作り、1615は内面に段を作る。1616~1618は頭部にカキ目調整を施し、口縁端部の外方に幅広の面を作り、内面は段を作る。1619は口縁端部を拡張し、沈線を巡らす。1620は口縁端部を拡張して方形に仕上げ、内面は段を作る。1621は口縁端部を拡張して丸く仕上げ、内面は段を作る。1623は口縁端部を外方に大きく拡張する。外面は頭部と共にカキ目調整を施す。

2. 第2層 (図版58 写真図版84) (1624~1635)

流路1の第2層からは坏蓋・坏身・有蓋高坏・高坏・瓶類・短頸壺・土鍾が出土した。

坏蓋 (1624~1626) は天井部が平たく、天井部と口縁部の境は屈曲し、口縁端部は丸く作る。

坏身 (1627~1629) は浅く、受け部は外上方に内弯しながら短く伸び、立ち上がりは短く内傾する。

有蓋高坏 (1630) は体部が直線的に開き、受け部は外上方に伸び、立ち上がりは内傾する。坏部外面には脚部の貼り付け痕跡が残る。

高坏 (1631・1632) は脚部の一部で、長脚2段で長方形の二方透かしがある。

瓶類 (1633) は肩部に尖形の浮文を貼り付ける。

短頸壺 (1634) は頭部が外反し、口縁端部は拡張して丸く収める。

土鍾 (1635) は棒状土鍾で、片側の一部を欠き、剥離する。

3. 第3層 (図版59 写真図版85) (1636~1640)

流路1の第3層からは甕・直口壺・短頸甕・土師器甕が出土した。

甕 (1636) は扁球形の体部上半を沈線で区画し、注口を穿つ。区画内には櫛描列点文を施文する。

大型直口壺 (1637) は肩が張った体部に直立する口頸部が付く。口縁端部は拡張して内傾する面を作る。体部はタタキ仕上げである。

短頸甕 (1638・1639) は肩が張った体部にタタキ成形を行い、体部から外反する頸部を持つ。1638は口縁端部が拡張し端面に沈線を巡らす。1639は口縁端部を拡張し丸く仕上げる。

土師器甕 (1640) は球形の体部に外傾する口頸部を持つ。内面の一部にハケ調整が残るが、摩滅が著しい。

4. 第4層 (図版59 写真図版85・86・100) (1641~1649)

流路1の第4層からは坏蓋・坏身・高坏・横瓶・短頸甕が出土した。

坏蓋 (1641・1642) は1641が沈線で天井部と口縁部の境を作る。口縁部は外傾し、口縁端部には内傾する段を持つ。1642は天井部外面にヘラ記号「-」を刻む。

坏身 (1643・1644) は底部が丸く、立ち上がりは内傾する。受け部は外上方に短く伸びる。

高坏 (1645・1646) は短脚の脚台で、三方向に1645は方形、1646は円孔の透かしを設ける。

横瓶 (1647) は短く外反する頸部を持ち、口縁端部は拡張して丸く仕上げる。

短頸甕 (1648・1649) は肩が張った体部から外反する頸部を持ち、体部はタタキ成形を行う。1648は口縁端部が拡張し内面に段を作る。1649は口縁端部が拡張し丸く仕上げる。

5. 流路1 (図版59 写真図版86) (1650~1655)

流路1から出土した遺物の内、層位が特定できない物である。坏蓋・有蓋長頸甕・短頸甕がある。

坏蓋 (1650~1653) は口縁部を欠損するが、天井部外面に1650~1652はヘラ記号「-」を、1653はヘラ記号「二」を刻む。

有蓋長頸甕 (1654) は細い頸部に櫛描波状文を施文し、口縁部には蓋受けを作る。内傾する立ち上がりの端部を欠く。

短頸甕 (1655) は口縁端部の一部に焼成前の細かい工具による、切り取りが存在する。

第4節 2号窯 (図版60~70 写真図版40・42・102~121 別表9~12) (2001~2234)

1. 第1次窯体床面 (図版60 写真図版102・119・121) (2001~2004)

2号窯の第1次窯体床面からは坏身・無蓋高坏が出土した。

坏身 (2001~2003) は浅く、受け部は外上方に内湾しながら短く伸び、立ち上がりは短く内傾する。

無蓋高坏 (2004) は口縁部と体部の間に段を作る。

2. 第1次・第2次窯体床面間 (図版60 写真図版102・116) (2005~2015)

2号窯の第1次・第2次窯体床面間からは坏蓋・坏身・有蓋高坏・大型直口壺・長頸甕・鈴が出土した。

坏蓋 (2005・2006) は天井部が平たく、天井部と口縁部の境は不明瞭で、口縁端部は丸く作る。

坏身 (2007～2009) は浅く、受け部は外上方に内弯しながら短く伸び、立ち上がりは短く内傾する。

有蓋高坏 (2010・2011) は坏部のみで、脚部を欠く。体部が直線的に開き、受け部は外上方に伸び、立ち上がりは内傾する。坏部の底部には脚部の貼り付け時のナデの痕跡が残るが、透かしの痕跡はない。

大型直口壺 (2012・2013) は口頸部2012と体部2013とがある。2012は頸部中央部に沈線を巡らし、口縁端部は内傾する面を持つ。2013は扁球形の体部で、肩部に沈線を巡らす。体部下半はカキ目調整で仕上げる。

長頸壺 (2014) は口縁部の破片で、面を持つ外面に櫛状工具による列点文を施文する。

鈴 (2015) は一部しか残っていないが、細かいケズリで算盤形に成形して後を作る。後の上部に直径約1 cmの孔をあける。

3. 第2次窯体床面 (図版60 写真図版103・116～119) (2016～2020)

2号窯の第2次窯体床面からは坏蓋・坏身・広口長頸壺が出土した。

坏蓋 (2016～2018) は天井部が平たく、天井部と口縁部の境は不明瞭で、口縁端部は丸く作る。

坏身 (2019) は浅く、受け部は外上方に短く伸び、立ち上がりは短く内傾する。

広口長頸壺 (2020) は頸部が外反して開き、口縁部は外面が肥厚して段を作り、端部は丸い。頸部は列点文を施文する。

4. 第1次窯体焚口 (図版60 写真図版103・117) (2021)

2号窯の第1次窯体焚口からは坏蓋が出土した。

坏蓋 (2021) は天井部が平たく、天井部と口縁部の境は不明瞭で、口縁端部は丸く作る。

5. 窯体 (図版60 写真図版103) (2022～2027)

2号窯の窯体からは坏蓋・高坏蓋・高坏・短頸壺が出土した。

坏蓋 (2022) は天井部が平たく、天井部と口縁部の境は不明瞭で、口縁端部は内面に沈線が巡る。

高坏蓋 (2023) は天井部の一部のみが残り、中央部の窪んだ扁平なつまみを貼り付ける。

高坏 (2024) の脚部は長脚2段で三方向の未貫通の線状透かしがある。

短頸壺 (2025～2027) は口頸部が短く外反する口頸部である。2025・2026は口縁部が上下に拡張して丸く仕上げ、下端に突帯を巡らす。2027は口縁部に肥厚して丸く仕上げる。

6. 窯体埋土上層 (図版61 写真図版104・105・118・120・121) (2028～2067)

2号窯の窯体埋土上層からは坏蓋・坏身・高坏蓋・有蓋高坏・厚底鉢・提瓶・長頸壺・長頸壺・短頸壺が出土した。

坏蓋 (2028～2036) は天井部がへら切りそのままである。2028は天井部がやや丸く、天井部と口縁部の境は明瞭ではない。2029～2036は天井部が平たく、天井部と口縁部の境は屈曲し、口縁端部は丸く作る。2033～2035は焼成が甘く軟質である。

坏身 (2037～2051) は浅く、受け部は外上方に短く伸び、立ち上がりは短く内傾する。2037～2045は焼成が軟質である。

高坏蓋 (2052・2053) はいずれも頂部のつまみを欠く。天井部はやや丸く、天井部と口縁部の境には沈線を巡らし、段を作る。口縁部は大きく開き、2052は口縁端部が直立気味である。天井部外面は回転ケズリを行い、つまみ接合時のナデ痕跡が残る。

有蓋高坏 (2054~2059) は2054以外、脚部を欠く。2054~2056は口径が小さく、2057~2059は口径が大きい。2054~2058は体部が直線的に開き、受け部は外上方に伸び、立ち上がりは内傾する。2059は扁平である。2054~2056・2058は二方向の細い長方形透かしを持つ。おそらく長脚2段であろう。2054~2056・2058底部内面には仕上げナデを行う。

厚底鉢 (2060) は円盤状の台部の底は剥離する。底部には3mm前後の貫通する小孔を4孔穿つ。

提瓶 (2061~2063) は口頸部 (2061・2062) と体部 (2063) とがある。2061の口頸部は内湾しながら立ち上がる。2062は頸部が外傾しながら立ち上がり、カキ目調整を施す。口縁部は内湾する。2063は体部と把手の一部で、扁環状の把手の一部が残る。

長頸壺 (2064・2065) は有文 (2064) と無文 (2065) とがある。2064は体部のみで、扁平な体部上半部に沈線同列点文を施文する。2065は扁球形の体部で、体部下半は手持ちケズリである。内面は突き押し痕跡が残る。外面は焼成時の坏類を焼台とした痕跡が残る。

長頸甕 (2066) は頸部に3条以上の列点文を施文し、沈線で文様帯を作る。体部はタタキの後カキ目調整を施す。頸部下端は接合によるナデを行う。

短頸甕 (2067) は頸部が外反し、口縁端部を上方に拡張し内面には段を作る。体部外面はタタキの後カキ目調整を施す。

7. 窯体埋土下層 (図版62 写真図版106・120) (2068~2074)

2号窯の窯体埋土下層からは坏蓋・坏身・無蓋高坏・短頸壺・長頸甕が出土した。

坏蓋 (2068~2070) は天井部がやや丸く、天井部と口縁部の境は明瞭ではない。

坏身 (2071) は浅く、受け部は水平に短く伸び、立ち上がりは短く内傾する。

無蓋高坏 (2072) は僅かに外反する口縁部を持つ。底部は回転ケズリを行い、脚部を欠くが、脚部を貼り付けた時のナデ痕跡が残る。

短頸壺 (2073) は扁球形の体部に内湾する短い頸部を持つ。底部は回転ケズリを行う。焼成は軟質である。

長頸甕 (2074) は口頸部の上部である。頸部は直線的に外傾し、口縁部は屈曲して上方に立ち上がる。口縁端部は内傾する。頸部は縦方向のヘラ描で施文する。

8. 2号窯 (図版62 写真図版106) (2075・2076)

2号窯から出土したものの内、出土位置や出土層位が不明なものを一括した。高坏・厚底鉢がある。

高坏 (2075) は脚裾に向って大きく開く。外面はカキ目調整で仕上げる。

厚底鉢 (2076) は円板状の底に、直線的に外傾する体部が付く。体部外面はカキ目調整で仕上げる。内面は剥離する。

9. 灰原 (図版62 写真図版106) (2077~2088)

2号窯の灰原から出土したものの内、出土位置や出土層位が不明なものを一括した。坏蓋・坏身・高

坏・長頸壺・提瓶・壺蓋・有蓋短頸壺・短頸甕・土鍾がある。

坏蓋 (2077) は天井部がやや丸く、天井部と口縁部の境は明瞭ではない。口縁端部は内面に段を作る。

坏身 (2078) は浅く、受け部は水平に短く伸び、立ち上がりは短く内傾する。

高坏 (2079・2080) は脚部のみである。2079は脚部下半のみで、長脚2段で長方形の二方透かしである。脚端部は僅かに拡張し、丸く作る。2080は短脚で、数は不明で有るが、円孔透かしを穿つ。

長頸壺 (2081) は外傾する口頭部で、中央部に2条の沈線を巡らす。沈線の上はカキ目調整で仕上げられる。

提瓶 (2082) は一部のため不明の点が多いが、調整などから体部と考えた。ヘラ記号「×」が記される。

壺蓋 (2083) は口縁部が直立し、口縁端部は僅かに外反し内傾する面を作る。天井部は回転ケズリを行う。

有蓋短頸壺 (2084～2086) は肩部には蓋の痕跡が残る、無文の2084・2085と有文の2087とがある。2084は肩の張った体部に短く直立する口頭部が付く。口縁端部は丸く仕上げる。2085は大型で扁球形の体部に短く直立する口頭部が付く。口縁端部は平たく仕上げる。2086は肩の張った体部に短く内湾しながら立ち上がる口頭部が付く。口縁部は肥厚し、櫛描波状文を巡らす。端部は丸く仕上げる。肩部には2条の沈線が走り、櫛状工具による斜格子文、最大径部には櫛描列点文を施文する。

短頸甕 (2087) は短く外反する頸部に肥厚して段を作る口縁部を持つ。

土鍾 (2088) は棒状土鍾で、片側の一部を欠く。穿孔部分は面取りを行う。

10. 灰原第I層 (図版63 写真図版107) (2089～2106)

2号窯の灰原第I層からは、坏蓋・坏身・無蓋高坏・壺蓋・有蓋短頸壺・長頸壺・横瓶・長頸甕・短頸甕が出土した。

坏蓋 (2089・2090) は天井部が平たく、天井部と口縁部の境は屈曲し、口縁端部は丸く作る。

坏身 (2091・2092) は浅く、立ち上がりは短く内傾する。受け部は2091が水平に短く伸び、2092が上方に内湾しながら短く伸びる。

無蓋高坏 (2093～2095) は坏部 (2093) と脚部 (2094・2095) とがある。2093坏部の口縁で、体部との境に段を作り、口縁部は外傾し、端部は丸く仕上げる。2094は短脚で脚裾に向かって大きく開き、端部は丸く作る。透かしは不明である。2095は長脚2段で細い長方形の三方透かしをあげる。透かし部分は粘土のはみ出しをナデ消す。

壺蓋 (2096～2098) は口縁部の形状がさまざまである。2096は口縁部が大きく外反し、口縁端部は内傾する面を作る。2097は口縁部が直立し、天井部との間に鋭い稜を作る。天井部は回転ケズリを行う。2098は口縁部が内湾し、天井部との間には微かな稜が残る。口縁端部は内傾する面を作る。

有蓋短頸壺 (2099) は短く立ち上がる口縁部を持ち、口縁端部は丸く作る。体部は肩が張り、最大径部分に沈線を巡らす。

長頸壺 (2100) は脚台部分で、脚端部には内傾する面を作る。中央部分に突帯を巡らす。長方形の透かしが上部に入る。

横瓶 (2104) は短く外反する頸部を持ち、口縁端部は拡張して丸く仕上げる。体部はタキ成形成する。

長頸甕 (2101～2103) は頸部に櫛描波状文を施文する2101と櫛描条線で施文する2102と口縁部だけの2103とがある。2101は口縁部が内湾気味に拡張し内面に段を作る。頸部は2条沈線で2帯に区画する。

頭部上帯は櫛波状文を2条施文し、下帯は櫛波状文を上部に1条施文し、下部は接合ナデを行う。2102は口縁部が屈曲して上方に立ち上がり、口縁端部は内傾し段を作る。2103は口縁部が頭部から屈曲して上方に立ち上がる。口縁端部は外傾し、面を作る。

短頸壺 (2105・2106) は2105が短く外反する頸部で、口頸境に突帯を巡らし、口縁端部は丸く仕上げる。焼成が悪く軟質で摩耗する。2106は外反する頸部に肥厚して段を作る口縁部を持ち、口縁端部は上方に摘み上げる。

11. 灰原第Ⅰ・Ⅱ層 (図版64 写真図版108・120) (2107~2122)

2号窯の灰原第Ⅰ・Ⅱ層からは、坏蓋・坏身・提瓶・平瓶・壺蓋・壺類・広口壺・広口直口壺・長頸壺・短頸壺が出土した。

坏蓋 (2107~2109) は天井部が平たく、天井部と口縁部の境は明瞭ではない。口縁端部は内面に微かな段を作る。

坏身 (2110~2113) は浅く、受け部は水平に短く伸び、立ち上がりは短く内傾する。

提瓶 (2114) は口頸部で頸部は外反し、口縁端部は拡張して外方に向く面を作る。

平瓶 (2115) は体部から頸部にかけての破片で、体部の端に頸部を斜めに付ける。

壺蓋 (2116) は直立気味の口縁部を持ち、口縁端部内面は段の名残りが残る。天井部は平らで回転ケズリで仕上げる。

壺類 (2117・2118) は脚部分で、脚裾に向かって大きく開き、稜を作って端部を作る。脚上部には長方形の二方透かしを開ける。2117は脚中央部をカキ目調整で仕上げる。

広口壺 (2119) は口頸部が大きく外反し、口縁端部は上方に拡張し、面を作る。頸部は3条の沈線で2分割し、上段に縦方向の櫛波条線を施文する。

大型直口壺 (2120) はやや外傾する口頸部で、口縁端部は内傾して面を作る。頸部には2条の沈線が巡る。

長頸壺 (2121) は頸部が外反し、口縁部は斜め上方に立ち上がり、口縁端部は内湾気味に拡張し丸く作る。口頸境は突帯で区画しており、頸部は2条沈線で3帯に区画する。頸部1帯は幅広で櫛波状文を2条・2帯は櫛波状文を1条施文する。下帯は体部との接合ナデを行う。

短頸壺 (2122) はやや肩の張った体部で外面はタタキ整形後、カキ目調整で仕上げる。内面は同心円当て具の痕跡が残り、一部を下から上に向けてナデ上げている。体部の容量は2122が推定36ℓである。

12. 灰原第Ⅱ層 (図版65~70 写真図版109~115・118・121) (2123~2234)

2号窯の灰原第Ⅱ層からは、坏蓋・坏身・無蓋高坏・有蓋高坏・高坏・高坏蓋・碗・厚底鉢・壺・提瓶・横瓶・壺類・土鉢・壺蓋・短頸壺・有蓋短頸壺・大型壺蓋・大型直口壺・直口壺・広口長頸壺・器台・長頸壺・短頸壺が出土した。

坏蓋 (2123~2136) は天井部がやや平たく2126が回転ケズリを行う以外はヘラ切り痕跡が残る。2123~2125は微かな段で天井部と口縁部の境を作る。2123~2134は口縁端部に微かな段を持つ。2126~2134は天井部と口縁部の境は不明瞭である。2135・2136は天井部と口縁部の境は屈曲し、口縁端部は丸く作る。

坏身 (2137~2145・2147・2148) は浅く、立ち上がりは短く内傾する。底部はヘラ切りである。受け部は2137~2139が内湾しながら短く伸び、2140・2141は外上方に短く伸び、2142~2145は受け部が短く水

平に延びる。2147・2148は底部に「×」のヘラ記号を記す。

無蓋高坏 (2149～2151・2154) は坏部 (2149・2150・2154) と坏部から脚部 (2151) とがある。2149・2150は坏部に稜を作り、直立気味の口縁部である。2150は脚基部に三方透かしの痕跡が残る。2151は長脚2段で細い長方形の三方透かしがある。坏部は稜を作り底部に櫛揃列点文を施文する。2154は口縁部が大きく外反して口縁端部内面に段を作る。

有蓋高坏 (2158) は底体部が浅く、立ち上がりは短く直立し、受け部は短く水平に延びる。脚部に貼り付け時のナデ痕跡が残る。

高坏 (2152・2153・2159～2166) は脚部のみ、あるいは坏部から脚部の一部である。2152は三方透かしで、脚端部は反り上がっている。2153は脚端部を折り返して面を作る。脚部には数は不明であるが、円孔を穿つ。2159・2160は長脚2段で細い長方形の透かしがある。2159は二方向、2160は三方向である。2161は坏部の脚基部で、不均等な三方透かしの痕跡が残る。2162は長脚2段四方透かしで、カキ目調整を施す。2163は長脚2段三方透かしがある。端部は肥厚する。2164・2166は長脚2段三方透かしがある。脚端部は折り返して面を作る。2166はカキ目調整を施し、内面は絞り痕跡が残る。2165は脚部の一部で、長脚2段で線状の三方透かしを施し、一部未貫通である。

高坏蓋 (2146・2155～2157) はいずれも天井部の一部である。2146はつまみが外れた痕跡が残る、ヘラ記号の一部が残る。2155は縁を摘み上げた扁平なつまみを貼り付ける。2156は中央部が窪んだつまみを貼り付ける。内面は同心円置台の痕跡が残る。2157は扁平な宝珠形つまみを貼り付ける。

椀 (2167～2170) は体部が短く立ち上がる2167と体部が高く沈線を巡らす2168と口縁部が大きく外反する2169・2170とがある。

厚底鉢 (2171～2174) は円板状の底に、直線的に外傾する体部が付く。2171は底部中央に小孔を穿つ。

甌 (2175・2176) は頸部が大きく外反し、沈線と稜を作り口縁部は直線的に外傾する。無文である。

提瓶 (2177～2183) は口頸部を大きく外反させる2177・2178と口頸部が直立気味に立ち上がる2179～2183とがある。2177は口縁端部を丸く作り、2178は口縁端部が肥厚する。2179・2180は口頸部のみで、2180は中央部に2条の沈線を巡らす。2181は環状の把手、2182・2183は鈎状の把手を付ける。

横瓶 (2184～2187) は口頸部である。2184は外反し、口縁端部を丸く作る。2185・2186は短く外傾し、口縁端部を丸く作る。2187は外反し、口縁端部は上方に拡張して面を作る。

壺類 (2188～2192) は脚台部分である。2188～2190脚端部は内傾する面を作り、長方形の透かしが上部に入る。2189・2190は三方向、2188は不明である。2192は透かしが無く、カキ目調整で仕上げる。2191は脚台のみで低く、脚端部は内傾する面を作る。

土鍾 (2193) は棒状土鍾で、片側の一部を欠く。推定長7.5cmである。

壺蓋 (2194・2195) は内弯気味の口縁部を持ち、口縁端部内面は平らである。

短頸壺 (2196) は全体的に厚く作り、口縁端部は丸く仕上げる。

有蓋短頸壺 (2197) は口縁部を欠き、肩部に自然釉による蓋の痕跡がある。

大型壺蓋 (2198・2199) は内弯気味の口縁部を持ち、口縁端部内面は内傾する面を作る。天井部はカキ目調整で仕上げる。2198の口縁部外面には8本のヘラ描き線を刻み、サイズと8本のヘラ描きから流路出土の4047とセットになる可能性が高い。2199の天井部内面にはヘラ描きがある。

大型直口壺 (2200～2207) は大型の口縁部分の2200～2204と大型の体部2205・2206と中型の2207がある。2200～2202は肩の張った体部に、2200は短く内傾する口頸部が、2201は内弯する口頸部が、2202は外傾

する口頸部が付く。2200は肩部に自然軸による蓋の痕跡が残る。2203は細身の体部に内弯気味に立ち上がる口頸部が付く。2204は口頸部が内弯気味に立ち上がる。沈線で区画し、口縁部には櫛状工具による綾杉文を、頸部には列点文を施文する。2205・2206は大きく張った肩部で、2205は単位が不明であるが環状の把手を、2206は円形浮文を貼り付ける。2207は回転成形する球形の体部に、内弯気味に外傾する口頸部を持ち、口縁端部は内傾する面を作る。

直口壺 (2208) は直立する口頸部で、頸部に単位の短い櫛描波状文を施文する。

広口長頸壺 (2209・2210) は2209が口頸部で2210は体部から頸部にかけての破片である。2209は外傾する口頸部を沈線で3帯に区画し、中帯に櫛描列点文を施文する。2210は球形の体部で、カキ目調整で仕上げている。肩部に沈線で2帯の区画を作り、櫛描列点文を施文する。

器台 (2211～2215) は2211が坏部から脚上部で坏部は内弯しながら立ち上がり、突帯を境に口縁部は外反する。体部上半部に沈線で区画して列点文を施文する。脚基部に突帯を貼り付け、列点文を施文する。脚部は沈線で区画し、列点文を施文し、方形の透かしを交互にあける。2212は脚部で、鼓形に開く、脚裾部は突帯を境に内弯し端部は面を作る。脚部は沈線で5帯に区画し、最上帯に円形透かしを、4帯目を除く3帯に長方形の透かしを四方向に一列あける。最下帯と脚裾部には櫛描列点文を施文する。2213・2214は坏部で内弯しながら立ち上がり、口縁部は外反する。体部上半部に沈線で区画して列点文を施文する。2215は坏部が大きく開き、口縁部は肥厚する。外面はカキ目調整で仕上げる。

長頸壺 (2216～2226) は櫛描波状文で施文する2216～2220とヘラ描波状文で施文する2221と櫛描条線もしくは櫛描列点文で施文する2222～2226とがある。いずれも頸部は外傾もしくは外反する。2216は口縁端部が肥厚し、上方に摘み上げる。沈線で2帯に区画し1帯に波状文を施文する。2217・2218・2219・2220は口縁端部が肥厚し、上方に摘み上げる。沈線で3帯に区画し1帯と2帯に波状文を施文する。2221は口縁部が肥厚する。口頸部は後で区画しており、頸部はヘラ描波状文を施文した後、沈線で3帯に区画する。口縁部もヘラ描波状文を施文する。頸部内面はカキ目調整で仕上げる。2222は口縁部が肥厚する。頸部は縦方向の櫛描条線で施文した後、沈線で3帯に区画する。口縁部は櫛描列点文を施文する。2223は頸部が直線的に外傾し、突帯を境となし、口縁部は内弯し櫛描列点文を施文する。沈線で3帯に区画し1帯と2帯に櫛描列点文を施文する。2224～2226は頸部が縦方向の櫛描条線で施文した後、沈線で区画する。2224は口縁部が内弯気味に立ち上がり、櫛描列点文を施文する。2225・2226は口縁部が肥厚し、櫛描列点文を施文する。下帯が残るものは無文で体部との接合ナアを行い、2216・2218は体部との接合痕跡が明瞭に残る。

短頸壺 (2227～2234) はいずれも頸部が短く外反する。2227・2228は口縁部が肥厚する。2229は上方に拡張する口縁端部を持つ。2230・2231は肥厚して丸く仕上げる口縁部を持つ。2231の体部は球形である。2232・2233は肥厚して段を作る口縁部を持つ。2234は肩の張った体部でタキ成形を行う。体部の容量は2233・2234が推定20ℓである。

第5節 3号窯 (図版71～76 写真図版41・42・122～137 別表12～14) (3001～3158)

1. 窯体第1次床面 (図版71 写真図版122～124) (3001～3019)

3号窯の窯体第1次床面からは坏蓋・坏身・大型鉢・把手付碗・提瓶・横瓶・有蓋短頸壺・短頸壺が出土した。

坏蓋 (3001~3006) は天井部がやや丸く、沈線で天井部と口縁部の境を作る。口縁部は短く直立し、口縁端部には内傾する段を持つ。

坏身 (3007~3013) は底部が丸く、立ち上がりは内傾する。受け部は外上方に短く伸びる。

大型鉢 (3014) は底部を欠く。体部は外方に直線的に開き、口縁部は外反する。体部内面下方には同心円当て具の痕跡が残る。外面はカキ目調整する。

把手付碗 (3015) は把手部分のみである。本体から剝離した痕跡を残し、上方に弯曲する。

提瓶 (3016) は体部成形時の底部は平坦であり、上方は丸く作りカキ目調整する。口頸部は体部成型時の側面を穿孔し接合する。口縁端部を欠く。把手は環状である。

横瓶 (3017) は外反する口頸部で、口縁端部は拡張し内面に段を、外面に沈線を巡らす。

有蓋短頸壺 (3018) は肩の張った体部に短く内傾する口頸部が付く。口縁端部は丸く仕上げる。肩部には蓋の口縁付着痕跡が残る。

短頸壺 (3019) は球形の体部上半に外反する短い口頸部を持つ。口縁端部は上下に拡張し中央が突出する。体部はタタキ仕上げである。焼成は甘く軟質である。

2. 窯体第1次・第2次床面間 (図版71 写真図版122~124・135・136) (3020~3034)

3号窯の窯体第1次・第2次床面からは坏蓋・坏身が出土した。

坏蓋 (3020~3023) は天井部がやや丸く、沈線で天井部と口縁部の境を作る。口縁部は短く直立し、口縁端部は内傾する段を持つ。

坏身 (3024~3034) は底部が丸く、立ち上がりは内傾する。受け部は外上方に短く伸びる。

3. 窯体最終床面 (図版72 写真図版125・134) (3035~3038)

3号窯の窯体最終床面からは坏蓋・坏身が出土した。

坏蓋 (3035~3037) は天井部がやや丸く、沈線で天井部と口縁部の境を作る。口縁部は短く直立し、口縁端部は内傾する段を持つ。

坏身 (3038) は底部が丸く、受け部は外上方に短く伸び、立ち上がりは内傾する。

4. 窯体 (図版72 写真図版125・136・137) (3039~3050)

3号窯の窯体からは坏蓋・坏身・無蓋高坏・把手付碗・長頸壺・短頸壺が出土した。

坏蓋 (3039~3043) は天井部がやや丸く、沈線で天井部と口縁部の境を作る。3039~3042は口縁部が短く直立し、3043は外傾し、口縁端部は内傾する段を持つ。

坏身 (3044・3045) は底部が丸く、受け部は短く水平に伸び、立ち上がりは内傾する。

無蓋高坏 (3046) は口縁部が大きく外反する坏部を持つ。口縁端部は拡張し内側には段を、外方には面を作る。坏底部は回転ケズリを行う。脚部は存在しないが、底部に脚部接合時のナゲ痕跡がある。

把手付碗 (3047・3048) は3047が体部で、直線的に開く。3048は把手で弯曲しており、断面形は円形である。

長頸壺 (3049) は口頸部で、頸部は2条の工具で縦位の条線を施文し、後に沈線で区画する。口縁は突帯を境に平坦な面を作る。頸部内面には同心円当て具の痕跡が残る。

短頸壺 (3050) は肩部以下で、底部は球形である。焼成時の置き台の坏が付着しており窪んでいる。体

部の容量は推定で9.3ℓである。

5. 焚口 (図版72) (3051)

3号窯の焚口からは坏蓋が出土した。

坏蓋 (3051) は天井部がやや丸く、天井部と口縁部の境に沈線を巡らす。口縁部は僅かに外反し、口縁端部に内傾する段を作る。

6. 窯体埋土上層 (図版73 写真図版126・137) (3052～3058)

3号窯の埋土上層からは坏蓋・坏身・短頸甕・甕が出土した。

坏蓋 (3052～3054) は天井部がやや丸く、天井部と口縁部の境に沈線を巡らす。口縁部は僅かに外反し、口縁端部に内傾する段を作る。

坏身 (3055・3056) は底部が丸く、受け部は外上方に短く伸び、立ち上がりは内傾する。

短頸甕 (3057) は口頸部の破片で、口縁端部は拡張し、沈線が巡る。

甕 (3058) は体部上半の破片で、大きく肩が張っており、タタキ仕上げで、薄く作る。

7. 窯体埋土下層 (図版73 写真図版126・137) (3059～3065)

3号窯の埋土下層からは坏蓋・坏身・把手付碗・甕が出土した。

坏蓋 (3059・3060) は天井部がやや丸く、天井部と口縁部の境に沈線を巡らす。口縁部は僅かに外反し、口縁端部に内傾する段を作る。

坏身 (3061・3062) は底部が丸く、立ち上がりは内傾する。受け部は3061が外上方に短く伸び、3062が短く水平に伸びる。

把手付碗 (3063) は外傾する体部で、体上部に把手が剥離した痕跡が残る。

甕 (3064・3065) は内面の同心円当て具の一致から、同一個体の可能性が高い。外面は縦方向の平行タタキの後、幅の広い沈線を巡らす。

8. 灰原 (図版73 写真図版126・137) (3066～3069)

3号窯の灰原からは坏身・壺類・大型直口壺・器台が出土した。

坏身 (3066) は底部が丸く、受け部は外上方に短く伸び、立ち上がりは内傾する。

壺類 (3067) は脚部で直線的に開き裾部が外反する。端部は拡張して面を作る。

大型直口壺 (3068) は肩の張った体部に内弯気味に立ち上がる口頸部が付く。口縁端部は拡張して内傾する面を作る。体部はタタキ仕上げである。

器台 (3069) は脚中央部の破片で四方向に長方形の透かしが2段以上存在する。外面はヘラによる条線を施し、内面は粘土紐接合の痕跡が残る。

9. 灰原第Ⅰ層 (図版74 写真図版127・128) (3070～3075)

3号窯の灰原第Ⅰ層からは坏蓋・無蓋高坏・厚底鉢・横瓶・短頸甕が出土した。

坏蓋 (3070) は天井部がやや丸く、天井部と口縁部の境に沈線を巡らす。口縁部は内弯し、口縁端部に内傾する段を作る。

無蓋高坏 (3071) は坏部の破片で口縁部と体部の間には段を、体部と底部の間には沈線を巡らし、体部に波状文を施文する。

厚底鉢 (3072) は円盤状の台部で、底部は手持ちケズリで仕上げる。底部中央には3mm前後の貫通する小孔を穿つ。

横瓶 (3073・3074) は短く外反する頸部を持ち、口縁端部は拡張して丸く仕上げる。

短頸壺 (3075) は肩の張った体部に屈曲して外傾する口縁部が付く。口縁端部は上下に拡張し、面を作る。

10. 灰原第Ⅱ層 (図版74・75 写真図版127～131・134～136) (3076～3129)

3号窯の灰原第Ⅱ層からは坏蓋・坏身・高坏蓋・有蓋高坏・高坏・把手付碗・横瓶・提瓶・壺蓋・有蓋短頸壺・壺類・大型直口壺・広口長頸壺・短頸壺が出土した。

坏蓋 (3076～3082・3095～3097) は天井部がやや丸く、口縁端部には内傾する段を持つ。天井部と口縁部の境は3076～3079が沈線、3080～3082・3095は段を作る。3095～3097は天井部に「-」のヘラ記号を記す。

坏身 (3083～3094・3098・3099) は底部を回転ケズリする。3084は受け部が外上方に短く伸び、立ち上がりは内傾し、端部内面に段を作る。3083・3085～3094は受け部が外上方に短く伸び、立ち上がりは内傾する。3098は厚く、受け部が水平に短く伸び、立ち上がりは短く内傾する。3099は受け部が水平に短く伸び、立ち上がりは内傾する。3098は底部に「-」のヘラ記号を記す。3099は底部に「×」のヘラ記号を記す。

高坏蓋 (3100) は天井部の一部が残りに、中央部の窪んだ扁平なつまみを貼り付ける。

有蓋高坏 (3101・3102) は3101が脚部、3102が坏部から脚基部にかけての破片である。3101は短脚で幅広い長方形透かしを二方向にあげる。脚端部は内湾して拡張し、端面に沈線を巡らす。3102は内傾する口縁部を持つ深い坏部に脚台が付く。おそらく、3103のような脚台であろう。

高坏 (3103～3105) は脚部で、3103は短脚、3104・3105は長脚である。3103は四方向に円孔を穿つ。3104は長脚1段で長方形の四方透かしをあげ、面取りを行う。坏部内面は仕上げナデを行う。3105は長脚で、脚裾部の四方向に円孔を穿つ。脚基部は坏部の剥離の痕跡がある。

把手付碗 (3106～3110) は定形の3106と体部から脚部の3107と脚部3108と把手3109・3110とがある。3106は外傾し、カキ目調整で仕上げる体部に、底部は回転ケズリを行い丸く仕上げる。体部の把手は外れている可能性が高い。底部には直線的に開く短い脚台が付く。円孔の透かしを三方向に穿つ。3107は底部内面に脚台を貼り付けた時の傷をナデ消す。3108は短く外反し、端部は面を作る。透かしは存在しない。3109・3110は上方に弯曲する把手部分で、断面形は扁平である。3109は体部が付着して欠けており、3110は本体から剥離した痕跡が残る。

横瓶 (3111・3112) の体部はタタキ仕上げである。3111の口頸部は短く外傾し、口縁端部は拡張して面を作る。3112の口頸部は大きく外反し、口縁端部内側に折り返し段を作る。

提瓶 (3113・3114) は3113が体部の一部で、手持ちケズリの後、ヘラ描きで斜格子を施文する。3114は肩部の一部で、環状把手である。

壺蓋 (3115～3117) は天井部が平らな3115と天井部が丸い3116・3117とがある。いずれも天井部外面は回転ケズリを行う。3115は口縁部との間に稜を作り、口縁部は内湾気味である。3116は口縁部の境に微

かな後が残り、口縁部は外方に開く。内面は席状の置き台痕跡がある。3117は背が高く、口縁端部は内側に段を作る。内面は同心円状の置き台痕跡がある。

有蓋短頸壺 (3118) は扁球形の体部に内傾する口頸部が付く。口縁端部は丸く仕上げる。底部は回転ケズリを行う。

壺類 (3119～3121) は口頸部3119と脚部3120・3121とがある。3119は外傾する口頸部で、口縁部との境は沈線を巡らし、口縁部はやや内湾する。頸部に「レ」のヘラ記号を記す。3120は脚端部が内傾する面を作る。長方形の三方透かしが上部に入る。3121は脚端部で端部を拡張し、大きな面を作る。

大型直口壺 (3122) は肩の張った体部に直立する口縁部が付く。体部はタタキ成形し、カキ目調整で仕上げる。

広口長頸壺 (3123) は口頸部が大きく開き、頸部上部に2本の沈線で2段に区切り、それぞれ波状文を2段施文する。口縁端部は上下に拡張し、丸く作る。

短頸壺 (3124～3129) は球形の体部に外反する口縁部が付く。3124は体部が回転ナデ成形で外面はカキ目調整で仕上げる。口縁端部は上下に拡張し、丸く仕上げる。3125は口縁端部が拡張し、内面に段を作り、外面に深い沈線を巡らす。3126は口縁端部が拡張し、内面は強くナデで段を作り、外面は下方に突帯を巡らす。3127は口縁端部が上下に拡張し、内面に段を作り、外面には突帯と面を作る。3128は口縁端部が拡張し、内面に段を作り、外面には面を作る。3129は口縁端部が拡張し、端面に沈線を巡らす。

11. 灰原第Ⅲ層 (図版76 写真図版132～134・137) (3130～3158)

3号窯の灰原第Ⅲ層からは坏蓋・坏身・高坏蓋・無蓋高坏・高坏・提瓶・直口壺・有蓋直口壺・長頸壺・横瓶・短頸壺・イイダコ壺が出土した。

坏蓋 (3130～3137) は天井部がやや丸く、回転ケズリをする。口縁端部内面には段を作る。天井部と口縁部の境は3133・3134が沈線を巡らす以外は、段を作る。3137は天井部にヘラ記号「-」が記される。

坏身 (3138～3143) は底部が丸く、回転ケズリをする。受け部は3138～3140が水平に短く伸び、3141～3143は外上方に短く伸びる。立ち上がりは内傾する。

高坏蓋 (3144・3145) は天井部には中央部につまみを貼り付ける。3144は天井部をやや丸く作り、天井部と口縁部の境に沈線を巡らす。つまみは中央部が窪んでいる。口縁端部内面には段を作り、天井部内面は同心円置台の痕跡が残る。3145のつまみは中央部が窪んで背が高い。天井部内面は仕上げナデを行う。

無蓋高坏 (3148・3150) は3148が坏部から脚部の一部で、3150は基部周辺が残る小型の高坏である。3148は大きく外反する坏部を持ち、口縁端部は外方に面を作る。脚は長方形の三方透かしをあける。

高坏 (3146・3147・3149) はいずれも脚部のみで、3146は短脚で長方形の三方透かしをあける。3147は長脚で円形の三方透かしをあける。3149は長脚2段で長方形の二方透かしをあける。

提瓶 (3151・3159・3160) は全容がわかる3151と肩部のみの3159・3160とがある。3151は体部がやや扁平で、肩部に環状把手の剥れた痕跡が残る。口頸部は外反し、口縁端部は下方に拡張する。3159・3160は体部の肩の可能性が高い。尖った円形浮文の貼り付けである。

直口壺 (3152) は口頸部で、頸部は外傾し、口縁端部は内傾する面を作る。頸部下に沈線を巡らす。

有蓋直口壺 (3153) は肩が張りタタキ成形した球形の体部に口頸部が付く。口頸部は受け部を作り、内傾する立ち上がりを持つ。

長頸甕 (3154・3155) は口頸部で、頸部は直線的に外傾し、沈線で3帯に区画する。1帯と2帯に波状文を施文し、3帯は無文で体部との接合ナデの痕跡が残る。頸部下端は体部との接合痕跡が明瞭に残る。3154は口縁端部が外方に肥厚し、端面に沈線を巡らす。3155は口縁部が外反し口縁端部は肥厚して、上方に揃み上げる。

横瓶 (3156) は体部側面に外反する口頸部を付ける。口縁端部は外方に拡張し、側面と上面に面を作る。

短頸甕 (3157) は縦長の体部を持ち、外反する頸部に口縁端部は上下に拡張して内面に段を作り、外面下端に突帯を巡らす。体部外面はタタキ後、カキ目調整を部分的に施す。内面は同心円当て具の痕跡を残す。

イダコ壺 (3158) は釣鐘形のイダコ壺で、回転成形した後、吊り手を潰して穿孔する。

第6節 流路2 (図版77～82 写真図版42・138～147 別表14・15) (4001～4082)

1. 2号窯下第Ⅱ層 (図版77 写真図版138) (4001)

流路2の2号窯下第Ⅱ層からは平安時代の椀が出土した。

椀 (4001) は平高台で、底部内面は平坦である。底部は糸切りの痕跡が残る。

2. 2号窯下第Ⅳ層 (図版77 写真図版138) (4002・4003)

流路2の2号窯下第Ⅳ層からは短頸甕・壺が出土した。

短頸甕 (4002) は小型で、大きく外傾する口頸部である。口縁端部は上下に拡張する。

壺 (4003) は脚台部で、中央に稜を作って大きく開く。稜の上には四方向の三角形透かしを穿つ。

3. 2・3号窯下第Ⅰ層 (図版77 写真図版138) (4004)

流路2の2・3号窯下第Ⅰ層からは大型直口壺が出土した。

大型直口壺 (4004) は直立した口頸部で口縁端部は内傾する面を作る。頸部は沈線を巡らし、区画する。区画内はヘラで斜格子文を描く。

4. 2・3号窯下第Ⅲ層 (図版77 写真図版138) (4005)

流路2の2・3号窯下第Ⅲ層からは坏蓋が出土した。

坏蓋 (4005) は扁平な天井部で、口縁部は短く外反する。

5. 2・3号窯下第Ⅳ層 (図版77 写真図版138) (4006)

流路2の2・3号窯下第Ⅳ層からは長頸甕が出土した。

長頸甕 (4006) は口頸部が直線的に外傾し、口縁端部は外傾する面を作る。口頸境は突帯で区画しており、頸部は2条沈線で3帯に区画する。口縁部と頸部1・2帯は柳描波状文を施文する。3帯は体部との接合ナデを行い、厚く作る。体部は肩が大きく張り、外面は平行タタキ、内面は同心円当て具の痕跡が残る。頸体部の接合はずれの痕跡が明瞭である。

6. 3号窯下第I層 (図版77 写真図版138・139) (4007~4014)

流路2の3号窯下の第I層からは坏身・高坏・無蓋高坏・有蓋短頸壺・長頸壺・器台・短頸甕・長頸甕が出土した。

坏身 (4007) は上向きの短い受け部に内傾する立ち上がりが付く。外面に濃緑の自然釉が掛かる。

高坏 (4008) は脚部のみで、長脚で透かしは二段1段で上部に偏っている。脚端部は反り上がっている。内面には絞りの痕跡が残る。

無蓋高坏 (4009) は坏部の口縁部が外傾し、口縁端部は丸く作る。脚部は長脚で透かしは二段2段で上段の透かしが高く、下段の透かしは短い。内外ともに降灰が著しい。

有蓋短頸壺 (4010) は短く内傾する口縁部を持ち、口縁端部は内面に段を作る。体部は肩が張り、カキ目調整で仕上げている。肩部に焼成時の蓋の痕跡が残る。

長頸壺 (4011) は肩の張った体部に、直立する細い頸部が付く。体部・頸部ともにカキ目調整で仕上げている。頸部内面には絞りの痕跡が残る。

器台 (4012) は坏部の最下端部分で、脚基部に突帯を貼り付け、刻みを加える。

短頸甕 (4013) は体部から口頸部にかけてで、口頸部は大きく外反し、口縁端部は拡張し、稜を作る。肩の張った体部はタタキ成形し、外面はカキ目調整で仕上げる。頸部外面にはヘラ記号が存在する。

長頸甕 (4014) は体部上半から口頸部である。頸部は直線的に外傾し、口縁部は屈曲して上方に立ち上がる。口縁端部は外傾し、面を持つ。口頸部は3条の沈線で区画しており、頸部は縦方向の櫛描条線で施文した後、沈線で3帯に区画する。下帯は無文で体部との接合ナデの痕跡が残る。口縁部も縦方向の櫛描条線で施文する。体部は肩が大きく張り、外面は平行タタキ、内面は同心円当てで具の痕跡が残る。

7. 3号窯下第II層 (図版78~80 写真図版139~143) (4015~4054)

流路2の3号窯下第II層からは坏蓋・坏身・高坏蓋・高坏・無蓋高坏・外反碗・鉢・甕・提瓶・壺蓋・有蓋短頸壺・壺蓋・長頸壺・大型直口壺・器台・長頸壺・短頸甕・土錘が出土した。

坏蓋 (4015~4017) は扁平で天井部はヘラ切りである。天井部と口縁部との境は4015・4016が屈曲により表現するくらいで、明瞭ではない。

坏身 (4018~4022) はヘラ切りの4018~4020・4022と回転ケズリの4021とがある。4018・4019は受け部が外上方に短く伸び、立ち上がりは短く内傾する。4020は受け部が水平に短く伸び、立ち上がりは三角形で、上方に伸びる。4021は受け部が外上方に短く伸び、立ち上がりは内傾する。4020と4022は底部外面に「×」のヘラ記号を記す。

高坏蓋 (4023) は天井部の一部が残る。縁を摘み上げた扁平なつまみを貼り付ける。内面は回転ナデの後、仕上げナデを行う。

高坏 (4024) は脚部の一部で、直線的に開く。外面に「×」のヘラ記号を記す。

無蓋高坏 (4025) は坏部の口縁を欠く。脚部は沈線で上下に区画する。透かしは二方向に円孔を穿つ。

外反碗 (4026) は口縁部が大きく外反する。

鉢 (4027) は大型で上半をナデで仕上げ、部分的にカキ目調整を施す。中位に沈線が巡るため把手が付く可能性が高い。下半は縦方向にケズリを行う。

甕 (4028・4029) は口頸部4028と頸部4029とがある。4028は口縁部と頸部ともに波状文を施文する。4029は体部上半に沈線で区画し、注口を穿つ。区画内および頸部は無文である。

提瓶 (4030~4032・4043) は口頸部4030・4031と口頸部から体部4032と頸部から体部4043とがある。口縁部はいずれも丸く取める。4030・4031の口頸部は中央部に沈線を巡らし、4032の頸部はカキ目調整を施す。4032・4043の把手は環状で剥離した痕跡が残る。4043の体部の扁平率は75%である。

壺蓋 (4033・4034) は浅い4033と深い4034とがある。4033は口縁端部に内傾する面を作る。天井部は手持ちケズリでヘラ記号「×」がある。4034は直立する口縁部と天井部の境に沈線を巡らす。

有蓋短頸壺 (4035) は扁球形の体部に短く直立する口頸部が付く。口縁端部は丸く仕上げられる。肩部には沈線が走り、直径12.5cm程度の自然軸による蓋の痕跡が残る。

壺蓋 (4036) はかえりを持つ蓋で、頂部を欠く。

長頸壺 (4037~4042) は口頸部のみ4037と、体部のみ4038・4039と、頸部から体部の4040と、脚台部のみ4041・4042とがある。4037はカキ目調整する頸部の中央に沈線を巡らす。4038は扁球形の体部で肩部に沈線間列点文を、頸部境に隆帯列点文を施文する。4039は扁平な体部上半部に沈線間列点文を施文し、体部下半は手持ちケズリである。4040は肩部に2帯の沈線間列点文を施文する。頸部中央部に沈線を巡らす。4041は脚裾部が屈曲して面を作り、三方向の長方形透かしをあける。4042は脚中央部に突帯を巡らし、上部に三方向の円孔を穿つ。

土鍾 (4044) は完形で、全長9.2cm、直径1.7cm、重さ36.5gを測る。

大型直口壺 (4045~4049) は肩の張った球形の体部に直立もしくはやや外傾する口頸部を持ち、口縁端部は内傾する面を持つ。体部を回転ナデ仕上げする4045・4048と、タキ成形する4046・4047・4049とがある。4047は口頸部にヘラ描きで縦位の条線を8本引いている。形態と施文から2号楽原流土Ⅱから出土した蓋2198とセットになる可能性が想定できる。4049は肩部に円形浮文を貼り付けている。

長頸壺 (4050~4053) は口縁端部の内面に段を付け丸く作る4050と、口縁部外面に幅広い面を作る4051~4053とがある。前者は球形の体部に頸部は沈線で2帯に区画して波状文を施文する。4053は体部上半から口頸部の破片である。頸部は直線的に外傾し、口縁部は屈曲して上方に立ち上がる。口縁端部は丸く作る。口頸部は突帯で区画しており、頸部は縦方向の脚描条線で施文した後、2条の沈線で3帯に区画する。下帯は無文で体部との接合ナデを行う。後者は頸部を2条の沈線帯によって区画した上2段に波状文を施文する4051と、列点文を施文する4052と、沈線施文の前に縦位の条線を施文する4053とがある。4051は口縁部にも波状文を施文する。頸部と体部の接合はずれの痕跡が明瞭に残る。接合の方法は体部に載せ内外から粘土帯で補強し、横方向にナデ仕上げする。

短頸壺 (4054) はタキ仕上げの球形の体部に短く外反する頸部と内湾しながら立ち上がる口縁部が付く。

8. 3号窯下第Ⅲ層 (図版81 写真図版144・145) (4055~4073)

流路2の3号窯下第Ⅲ層からは坏蓋・坏身・有蓋高坏・高坏・甕・有蓋短頸壺・長頸壺・提瓶・長頸甕・斧形が出土した。

坏蓋 (4055~4059) はやや深く、回転ケズリの4055~4057とヘラ切りの4058・4059とがある。4055・4056は天井部がやや丸く、天井部と口縁部の境に沈線を巡らす。口縁部内面に内傾する段を作る。4057は天井部と口縁部の境が不明瞭で、口縁部内面に内傾する段が微かに残る。4058・4059は平たく、天井部と口縁部の境は不明瞭である。

坏身 (4060~4062) は回転ケズリの4060とヘラ切りの4061・4062とがある。4060はやや深く、受け部が

水平に短く伸び、立ち上がりは内傾する。4061・4062は浅く、受け部が外上方に短く伸び、立ち上がりは短く内傾する。

有蓋高坏 (4063) はやや丸い底部に受け部は外上方に延び、立ち上がりは内傾し、外反する。坏部内面には同心円置台の痕跡が残る。脚部は欠くが、脚基部に三方向の透かしの痕跡が残る。

高坏 (4064・4065) はいずれも脚部である。長脚で透かし孔は細い長方形で二方2段である。4064は上段が短く、下段は長い。4065は脚端部が反り上がっており、内面には絞りの痕跡が残る。

甗 (4066) は球形の体部上半に沈線で区画し、注口を穿つ。区画内には櫛描列点文を施文する。

有蓋短頸壺 (4067) は肩の張った扁球形の体部に短く内傾する口頸部が付く。口縁端部は丸く仕上げる。肩部には沈線が走り、自然軸による蓋の痕跡が残る。

長頸壺 (4068・4069) は口頸部を欠く4068と脚部のみ4069とがある。4068は球形でカキ目調整の体部に脚台を付ける。底部内面は脚台との接合のため、突き押しする。脚台は中央部の三方向に方形透かしを穿つ。4069は大きく裾が広がる脚部で、脚中央部の四方向に円孔透かしを穿つ。体部底面との剥離痕跡がきれいに残る。

提瓶 (4070・4071) は環状の釣手を持つ4070と円形浮文を貼り付ける4071とがある。4070は体部をタタキ成形しており、内面に同心円当ての痕跡が残る、厚い作りである。外面の底部側は平坦で粗い回転ケズリを行い、上部は丸く作る。把手は剥離する。口頸部は中央に沈線を巡らす。4071は扁平の体部で、閉塞部はカキ目調整を施す。肩部に円形浮文を貼り付ける。口頸部は僅かに外傾し端部は内弯し丸く作る。

長頸甗 (4072) は口頸部の部分である。口頸部は直線的に外傾し、口頸部は突帯と沈線で区画する。口縁部は無文で、口縁端部は丸く仕上げる。頸部は縦方向の櫛描条線で施文した後、沈線で区画する。

斧形 (4073) は有袋鉄斧を模しており、全体をケズりで仕上げる。有袋部は上部から棒を挿入し形作る。

9. 3号窯下第IV層 (図版82 写真図版146・147) (4074~4081)

流路2の3号窯下第IV層からは坏蓋・坏身・甗・厚底鉢・土鍾が出土した。

坏蓋 (4074) は天井部の一部に2本のヘラ記号を刻む。無蓋高坏の透かし切り込みの痕跡の可能性もある。

坏身 (4075~4078) は浅く、受け部は外上方に短く伸び、立ち上がりは短く内傾する。

甗 (4079) はやや外傾する口縁部を持ち、底部との境は稜を作る。底部は回転ケズリを行う。

厚底鉢 (4080) は円盤状の台部に、外傾する体部を持つ。底部は僅かに丸く仕上げる。

土鍾 (4081) は棒状土鍾で片方の先端を欠く。焼成は甘く軟質である。

10. 3号窯下 (図版82 写真図版147) (4082)

流路2の3号窯下で層位不明のものは把手がある。

把手 (4082) はタタキ成形の体部に鉤状の把手を貼り付ける。把手先端にもタタキの痕跡が残る。

第7節 流路2西端 (図版82 写真図版42・146・147 別表15) (4083~4089)

1. 第I層 (図版82 写真図版146・147) (4083・4084)

第I層からは坏身・蓋が出土した。

坏身 (4083) は浅く、受け部は外上方に短く伸び、立ち上がりは短く内傾する。

蓋 (4084) は天井部で、中央が扁平に盛り上り水平に突出するつまみを貼り付ける。

2. 第III層 (図版82 写真図版147) (4085~4087)

第III層からは坏蓋・高坏蓋・壺蓋が出土した。

坏蓋 (4085) は天井部がやや丸く、天井部と口縁部の境に沈線を巡らす。口縁部は短く直立し、口縁端部に内傾する段を作る。天井部外面は回転ケズリを行う。

高坏蓋 (4086) は天井部の一部で、中央部が窪んだ大きめのつまみを貼り付ける。

壺蓋 (4087) は天井部がやや丸く、天井部と口縁部の境に微かな沈線を巡らす。口縁部は内湾し、口縁端部は外反する。天井部外面は回転ケズリを行う。

3. 第III層西端 (図版82 写真図版146) (4088・4089)

第III層西端からは坏蓋・坏身が出土した。

坏蓋 (4088) は天井部がやや丸く、天井部と口縁部の境に沈線を巡らす。口縁部は短く内湾し、口縁端部は外傾し、内傾する段を作る。天井部外面は回転ケズリを行い、内面には無文置き台の痕跡が残る。

坏身 (4089) は浅く、受け部は外上方に短く伸び、立ち上がりは短く内傾する。

4. その他 (図版82 写真図版147) (4090~4092)

壺 (4090) は平底の壺で、体部は僅かに膨らむ。底部内面に自然軸が認められる。

壺 (4091・4092) は脚台のみ残る。4091は右に傾く平行四辺形気味の透かしを三方向に作る。4092は正方形の小孔を三方向に穿つ。

第5章 神野北山遺跡の調査

第1節 調査の概要

神野北山遺跡の発掘調査は、県立新加古川病院整備事業の一環として計画された加古川市道西之山加古線拡幅事業に伴うものである。

当該調査地である市道沿線部分については、県営住宅開発予定地として、兵庫県住宅供給公社保有地を対象とする事前の試掘調査を平成10年度に実施し、その結果須恵器生産に係る工房跡と想定される遺構を確認したものである。当該地周辺においては、それ以降土地利用計画がなかったが、公社保有地の一部において計画された県立新加古川病院建設に伴う周辺整備として、病院北側を東西に走る加古川市道西之山加古線を拡幅し、病院東側に建設される主要地方道加古川小野線（東播磨南北道路）へのアクセスの充実を図る事業が計画され、平成19年度に再度確認調査を実施した結果、平成10年度の試掘調査とも合わせて、遺跡の広がりや判明したものである。遺跡の範囲は、当該調査地北側の中ノ池に向かう斜面地上に複数基の須恵器窯跡の存在が知られており、後世の開墾等での削平も考えられるが、窯跡本体に近接するより限定された部分に存在したものと考えられる。

調査の結果、竪穴住居跡2棟、土坑1基、不定形土坑11基、ピット10数基の遺構を検出した。以下、次節で遺構について述べる。

第2節 遺構（図版83～87 写真図版148～149）

検出した遺構の総数については、前節に述べた通りである。本節では、調査概要を踏まえ、主な遺構について述べる。

1. 竪穴住居

SH01

調査区のほぼ中央で検出した。主柱穴となる4基のピットと、埋土中に炭粒が混入し、住居に付随すると考えられるピット1基、主柱穴の南側にコの字状に残存する周壁溝の一部からなり、周壁溝の北側は、削平及び流出等により失われている。住居の形態及び規模は、周壁溝の形状と主柱穴の位置関係から一辺約4.5mの方形を呈すると考えられる。

SH02

調査区の北西端で検出した。主柱穴となる4基のピットと、埋土中に焼土及び炭粒が混入し、住居に付随すると考えられるピット1基からなり、周壁溝等は削平等により検出できなかったものの、主柱穴等の位置関係から竪穴住居跡と判断した。住居の形態及び規模は、柱間からSH01とほぼ同一と考えられるが、不明である。

2. 土坑

SK01

調査区の中央やや南西側、不定形遺構SX01西側で検出した。直径約60cmの円形を呈し、深度約15cm

の浅い土坑である。遺構内には甕の体部や坏蓋等の須恵器片が集積しているが、用途は不明である。

3. 不定形土坑

検出した遺構の形態は、円形や楕円形に近いものを含めて多様であるが、比較的深度の浅い遺構(SX01、02、04～08)と、比較的深度の深い遺構(SX03、09～11)に分類される。以下、遺物出土等代表的なものを挙げる。

SX01

調査区のはほぼ中央で検出した。遺構の形態は不定形で5区画程にわかれており、最大深度約15cmの浅い土坑である。遺物は遺構上面で多量に出土しており、須恵器片では甕、甕、坏類の他に器台もあり、少量ながら土師器も出土している。遺物の出土は、主に遺構東よりに南北方向の帯状に集積している。

SX03

調査区のはほぼ中央、SX01の西側で検出した。長軸約140cm、短軸約90cmの楕円形を呈し、深度約50cmの比較的深い土坑で、遺構内から遺物は出土しなかった。遺構は、土層の堆積状況から風倒木跡の可能性が高く、SX09・SX11にも同様の状況が窺える。

SX04

調査区のはほぼ中央、SX03の西側で検出した。一辺約120～140cmの不定な隅丸方形を呈し、深度約10cmの浅い土坑である。遺構内からは須恵器片等が出土したが、図化可能なものは認められなかった。

SX10

調査区のはほぼ中央、SX01の東側で検出した。長軸約100cm、短軸約70cmのやや不定な楕円形を呈し、深度約30cmの比較的深い土坑で、SH01の周壁溝南西隅部分を切る。遺構内から遺物は出土しなかった。

4. 小結

以上、本調査で検出した主な遺構について述べた。遺構等から出土した遺物は、概ね6世紀後半の須恵器を主体とするものであり、遺構も当該時期に相当するものと考えられる。遺構の性格は、その内容から、近接する須恵器窯に伴う、生産に係る工房跡、あるいは須恵器工人の住居跡と考えられる。ただし、本調査区における遺構の検出状況はやや希薄であり、集落の末端部分の様相として看取される。従って、集落の中心は現市道部分から南側の台地上に広がっているものと考えられる。

また、当該調査地南西方向の南向き斜面には、6世紀前半から7世紀初頭の長期に渡って操業された神野大林窯跡が存在し、本調査区北側の窯についても6世紀後半には操業を開始しており、一定時期に神野大林窯と共に操業されたことが窺える。このことは、両窯跡が当該時期の須恵器生産の拠点を担当したものと想定され、本調査で検出した遺構は、中ノ池の窯、あるいは神野大林窯跡を含めた窯の操業に携わった須恵器工人集団の工房跡及び集落の一部と考えられる。

第3節 遺物

1. 平成10年度確認調査(図版88 写真図版150・152)(5001～5009)

確認調査のトレンチの内、本調査区内に設定されていた44トレンチで出土した遺物である。

5001・5002は、須恵器坏蓋である。5001の天井部はやや平坦で、体部に明確な稜を持つ。口縁部は

内面に段を持つ。また、天井部外面に須恵器片が溶着する。5002の天井部はやや丸味を帯び、全体的に丸味を持つ形態を呈する。口縁部は僅かに内面に段を持つ。

5003は、須恵器壺である。口縁部が一部残るのみである。形態は端部にかけてやや外反する。肥厚する端部は面を持ち、僅かに沈線が認められる。

5004・5006・5008は、須恵器高坏である。5004は口縁部が一部残るのみの無蓋のものである。形態は、稜の緩い体部から極僅かに外反する口縁部を持ち、端部は薄く丸味を帯びる。外面にはカキ目が残る。5006は口縁部が僅かに残るのみの無蓋のもので、全体に焼け歪んでいる。形態は、稜の緩い体部から極僅かに外反する口縁部を持ち、端部は丸味を帯びる。外面にはカキ目が残る。5008は脚部の一部である。3箇所の貫通しない透かしがあり、残存する部分から2段透かしと分かる。

5005は、須恵器短頸甕である。口縁部が一部残るのみである。屈曲部分から端部にかけて外反し、端部は肥厚する。

5007は、須恵器把手付碗である。口縁部の一部が残るのみで、全体に楕円形状に歪んでいる。直立気味に立ち上がり、回転ナデで仕上げる。

5009は、須恵質の紡錘車である。上下面に極僅かな稜を持つやや拉げた球形を呈し、中央に孔が貫通する。外面には竹管文をややランダムに施す。

2. 平成19年度確認調査（図版88 写真図版152）（5010）

確認調査のトレンチの内、本調査区内に設定されていた6トレンチで出土した遺物である。

5010は、須恵器短頸甕である。口縁部の一部が残る。くの字の屈曲部から端部にかけて外反し、端部は丸味を持って肥厚する。

SX01（図版88 写真図版151・153）（5011～5016）

5011～5013は、坏身である。5011～5013は体部と口縁部の一部が残るのみで、口縁部は受け部から僅かに外反しながら立ち上がるものである。

5014は、須恵器短頸甕である。口縁部の一部が残るのみである。稜の緩い屈曲部から端部にかけて僅かに外反し、端部は帯状に肥厚する。焼成不良の生焼けである。

5015は、須恵器高坏である。脚部の一部残るのみである。端部付近で外反し、端部はやや肥厚する。

5016は、須恵器器台である。台部の一部が残るのみである。上下に3箇所の方形透かしがあり、残存部分から三方～四方に配されると考えられる。外面には列点文を施す。

SK01（図版88 写真図版153）（5017・5018）

5017・5018は、須恵器坏蓋である。5017は体部と口縁部の一部が残るのみである。天井部が僅かに丸味を持つ体部で、口縁部はやや外反する。5018は体部と口縁部の一部が残るのみである。天井部が平坦な体部で、口縁部は微妙に内弯する。

包含層（図版88 写真図版153）（5019～5021）

5019・5020は、須恵器短頸甕である。5019は口縁部が残るのみである。端部にかけて外反し、端部は帯状に肥厚する。5020は口縁部が残るのみである。稜の緩い屈曲部から端部にかけて大きく外反し、端部は極僅かに垂下する。

5021は、須恵器把手付碗である。碗の底部から大きく外反する脚部に、やや球形を呈する体部が付くものである。

機械掘削土 (図版 89 写真図版 151・152・154) (5022～5034)

5022～5026は、須恵器坏身である。5022～5025は受け部からやや外反しながら立ち上がる口縁部を持つものである。5022はほぼ完形である。底部内面には同心円押圧痕が残る。5023は口縁部が一部欠損し、焼け歪みで全体に変形している。底部内面には同心円押圧痕が残る。5024は口縁部が一部欠損する。底部内面には同心円押圧痕が残る。5025は体部と口縁部の一部が残るのみである。5026は体部と口縁部の一部が残るのみである。他のものと比較し小型のものである。

5027は須恵器高坏蓋である。口縁部の一部が欠損するものの、完形に近いものである。やや丸味を帯びた天井部に中央部が窪んだつまみが付く。口縁端部は内面に段を持つ。天井部内面には同心円押圧痕が残る。5028～5030は、須恵器坏蓋である。5028は体部から口縁部にかけてほぼ半分残る。天井部はやや平坦である。口縁端部は内面に段を持つ。天井部内面には同心円押圧痕が残る。5029は体部と底部の一部が残るのみである。天井部は平坦で、稜の緩い丸味を帯びた体部である。口縁端部は内面に段を持つ。天井部内面には同心円押圧痕が残る。5030は体部と口縁部の一部が欠損する。丸味を帯びた体部だが、焼け歪みにより大きく変形している。天井部内面には同心円押圧痕が残る。

5031～5034は、須恵器短頸甕である。5031は比較的小型のもので、口縁部の一部が残るのみである。稜の緩いくの字を呈し、僅かに外反する短い口縁部である。端部はやや肥厚する。残存する体部の外内面にはタタキ痕が残る。5032は口縁部の一部が残るのみである。稜の緩いくの字を呈し、僅かに外反する。5033は口縁部の一部が残るのみである。稜の緩いくの字を呈し、僅かに外反する。端部付近は若干の屈曲を持って内弯し、やや肥厚する。残存する体部の外内面にはタタキ痕が残る。5034は口縁部のみ半分残る。くの字の屈曲から僅かに外反し、端部外面には帯状粘土が付される。口縁部外面には2～3条の波状文を施し、残存する体部の外内面にはタタキ痕が残る。

その他 (写真図版 154・155) (5035～5041)

上記の図化可能な遺物の他、状況写真のみ記録したものを纏めた。

5035～5037は、須恵器焼成時に溶着したものである。

5038～5040は、焼土塊である。焼土内には、ササ様の繊維質が混入しており、甕本体の甕壁の一部や工房跡に係る施設の壁の一部等、種々の可能性が考えられるが不明である。

5041は、器種及び用途不明の土製品である。須恵器生産に係る何らかの過程で生じたものとも考えられる。

第6章 自然科学的調査の成果

第1節 神野大林窯跡群における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1. 測定対象試料

神野大林窯跡群は、兵庫県加古川市神野町神野（北緯34°46'30"、東経134°52'50"）に所在する。測定対象試料は、須恵器窯1号窯出土木炭（No.7：IAAA-90861、No.2：IAAA-90862）、2号窯出土木炭（No.3：IAAA-90863）、3号窯出土木炭（No.4：IAAA-90864～No.6：IAAA-90866）、合計6点である。

2. 測定の意義

須恵器窯の年代を明らかにする。

3. 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理（AAA：Acid Alkali Acid）により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では1Nの水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。なお、AAA処理において、アルカリ濃度が1N未満の場合、表中にAaAと記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で2時間加熱する。
- (4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO₂）を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

4. 測定方法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOX II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5. 算出方法

- (1) 年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polash 1977）。
- (2) ¹⁴C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。¹⁴C年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、

試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 濃度を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰) で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ を測定した場合には表中に (AMS) と注記する。
- (4) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。
- (5) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04データベース (Reimer et al 2004) を使い、OxCalv4.1較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

6. 測定結果

^{14}C 年代は、No.7が $1570 \pm 30\text{yrBP}$ 、No.2が $1600 \pm 30\text{yrBP}$ 、No.3が $1610 \pm 30\text{yrBP}$ 、No.4が $1580 \pm 30\text{yrBP}$ 、No.5が $1590 \pm 30\text{yrBP}$ 、No.6が $1610 \pm 30\text{yrBP}$ である。誤差 (1σ) の範囲でほとんど重なり合う。

暦年較正年代 (1σ) は、6点ともおよそ5世紀前半から6世紀前半となっている。これは、 ^{14}C 年代がいずれも近似した値をとることに加え、較正曲線がほぼ平坦に推移している部分に当たることによる。

なお、木炭試料で年輪最外部が確認できない場合、測定結果は樹木の伐採年よりも古くなる可能性を考慮する必要がある。

試料の炭素含有率は70%前後の十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

第1表 神野大黒窯跡群の放射性炭素年代測定試料と測定結果

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-90861	No.7	須恵器窯 1号窯	木炭	AAA	-26.76 \pm 0.43	1570 \pm 30	82.29 \pm 0.30
IAAA-90862	No.2	須恵器窯 1号窯	木炭	AAA	-28.56 \pm 0.68	1600 \pm 30	81.93 \pm 0.33
IAAA-90863	No.3	須恵器窯 2号窯	木炭	AAA	-27.24 \pm 0.61	1610 \pm 30	81.88 \pm 0.34
IAAA-90864	No.4	須恵器窯 3号窯	木炭	AAA	-26.84 \pm 0.69	1580 \pm 30	82.18 \pm 0.33
IAAA-90865	No.5	須恵器窯 3号窯	木炭	AAA	-25.31 \pm 0.66	1590 \pm 30	82.01 \pm 0.33
IAAA-90866	No.6	須恵器窯 3号窯	木炭	AAA	-24.58 \pm 0.54	1610 \pm 30	81.88 \pm 0.32

[#3058]

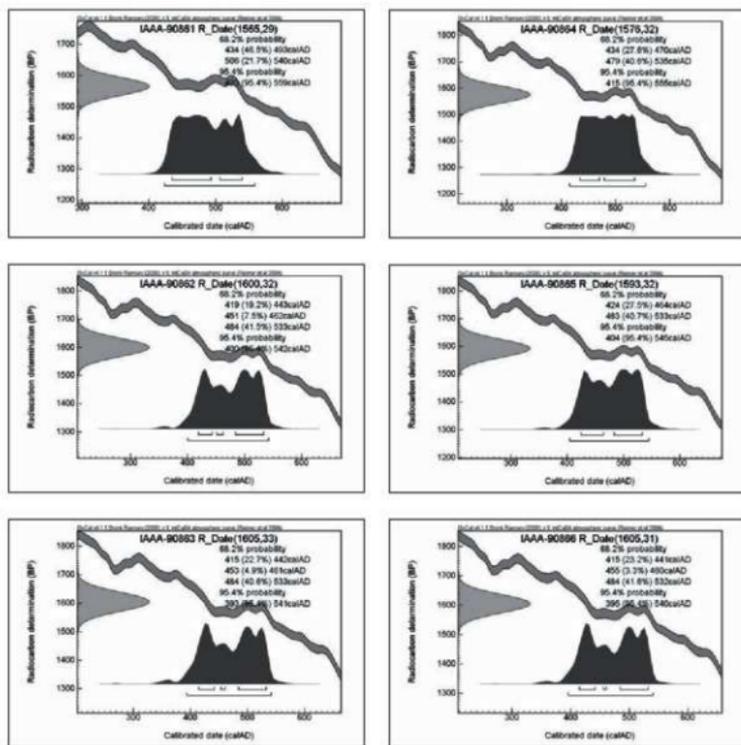
第2表 神野大林窯跡群の放射性炭素年代測定暦年較正值

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-90861	1,590 ± 30	81.99 ± 0.29	1,565 ± 29	434AD - 493AD (46.5%)	423AD - 559AD (95.4%)
				506AD - 540AD (21.7%)	
IAAA-90862	1,660 ± 30	81.34 ± 0.30	1,600 ± 32	419AD - 443AD (19.2%)	400AD - 542AD (95.4%)
				451AD - 462AD (7.5%)	
				484AD - 533AD (41.5%)	
IAAA-90863	1,640 ± 30	81.51 ± 0.32	1,605 ± 33	415AD - 442AD (22.7%)	393AD - 541AD (95.4%)
				453AD - 461AD (4.9%)	
				484AD - 533AD (40.6%)	
IAAA-90864	1,610 ± 30	81.87 ± 0.31	1,576 ± 32	434AD - 470AD (27.6%)	415AD - 555AD (95.4%)
				479AD - 535AD (40.6%)	
IAAA-90865	1,600 ± 30	81.95 ± 0.31	1,593 ± 32	424AD - 464AD (27.5%)	404AD - 545AD (95.4%)
				483AD - 533AD (40.7%)	
				415AD - 441AD (23.2%)	
IAAA-90866	1,600 ± 30	81.95 ± 0.30	1,605 ± 31	455AD - 460AD (3.3%)	395AD - 540AD (95.4%)
				484AD - 532AD (41.6%)	

[参考値]

参考文献

- Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37 (2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43 (2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J, and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43 (2A), 381-389
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029-1058



[参考] 暦年較正年代グラフ

第1図 神野大林窟跡群の放射性炭素年代測定暦年較正年代グラフ

第2節 神野大林窯跡群出土須恵器の化学特性

大阪大谷大学 三辻利一

1. はじめに

古代エジプト文明やメソポタミア文明にはヒエログリフや楔形文字のような古代文字があった。これらの失われていた古代文字の解説は19世紀代に天才的な古代言語学者たちの努力によって成功した。その結果、これらの地域では過去が豊かに再現されている（エジプト学、アッシリア学）。これに対して、日本の縄文時代、弥生時代、古墳時代には古代文字はない。したがって、地下から出土する考古遺物を通してしか過去を再現することはできない。この現実が日本考古学の発展の方向を決定した。日本考古学は型式学を主体として発展することになった。日本では行政発掘によって、大量の土器を発掘した。恐らく、世界でも、その型式学が最も詳細を極めるのは日本であろう。この事実から、日本では土器を通して過去を再現することが重要な研究課題となった。土器型式と土器の出土地層の対応から各地の土器の編年表がまとめられている。これまでの研究では土器の型式学は土器の年代観を得る上に重要な役割を果たしてきた。しかし、土器型式学で土器そのものの、伝播を追跡することは困難である。各地の土器を識別する共通のメジャーが出来上がっていないからである。当然、工人が移動すると、類似した形をもつ土器があちこちで作られることになる。土器型式が類似していても、胎土は異なる場合もあることも予想される。この点を補う方法として、土器の胎土分析がある。当初は胎土中に含まれる鉱物の観察から胎土分析は始まった。しかし、須恵器のように、1000℃を越える高温で焼成する土器の胎土中には鉱物形は破壊されており、胎土研究の方法は元素分析に限定されることになる。

1970年代に入ると、優れた機能をもつ分光結晶や検出器が開発され、コンピュータ制御による完全自動式の蛍光X線分析装置が市販されるようになった。この装置を使うと、大量の土器破片の元素分析が可能となり、土器の考古学研究の一環として、元素分析が活用できる道が開けてきた。元素分析によって土器の生産と供給の過去を再現する研究への入口が見つかった訳である。

この装置を使って、全国各地の窯跡出土須恵器片が大量に分析され、その地域差はK-Ca、Rb-Srの両分布図上で表示できることが実証された。これら4元素は粘土の母岩中の最も重要な造岩鉱物である長石類中に含まれていることも分かった。長石類が岩石や、岩石が風化して生成した粘土の地域差を支配していることが分かった。土器を高温で焼成しても、化学組成には影響がないことも実験データで示されている。そうすると、土器類の地域差もK-Ca、Rb-Srの両分布図上で表示できるはずである。実際に、土器がどのような地域差をもっているかを知るためには、生産地である窯跡から出土した大量の土器片の分析が必要であった。

兵庫県は平安時代、全国屈指の須恵器の生産地域であった。平安時代の須恵器の生産と供給の再現には、兵庫県内の窯跡出土須恵器の化学特性を整理しておくことは重要である。本報告では加古川下流左岸に在る神野大林窯跡群出土須恵器の蛍光X線分析の結果を報告する。神野大林窯跡群は3基の窯からなり、6世紀中頃から7世紀初頭にかけて操業した須恵器窯と考えられている。3基の窯間で相互識別の可能性を検討するとともに、周辺地域の窯群出土須恵器の化学特性とも比較した。

2. 分析法

須恵器小破片は一旦、タンダステンカーバイド製乳鉢の中で100メッシュ以下に粉砕し、粉末試料を塩化ビニル製リングを枠にして高圧をかけてプレスし、錠剤試料を作成して、蛍光X線分析用試料とした。蛍光X線分析には理学電機製RIX2100（波長分散型）を使用した。この装置にはTAP、Ge、LiFの3枚の分光結晶が装填されており、また、軽元素の蛍光X線の検出にはガスフロー比例計数管を、また、中重元素の蛍光X線の検出にはシンチレーションカウンターを使用した。分光結晶、検出器の交換はコンピュータの制御によって自動化されており、分析試料の交換、データの打ち出しも含めて自動化されている完全自動式の分析装置である。なお、使用X線管球はRh管球（出力3.0kW）である。使用条件は50kV、50mAである。この条件で土器胎土中の微量元素Rb、Srは十分計測できることが実証されている。定量分析の考え方は検量線法と同じであるが、毎日検量線を作り直すわけにはいかないので、分析値は同じ日に測定された岩石標準試料JG-1による標準化値で表示した。JG-1による標準化値は両分布図を作成したり、統計計算をする上にも便利である。

3. 分析結果

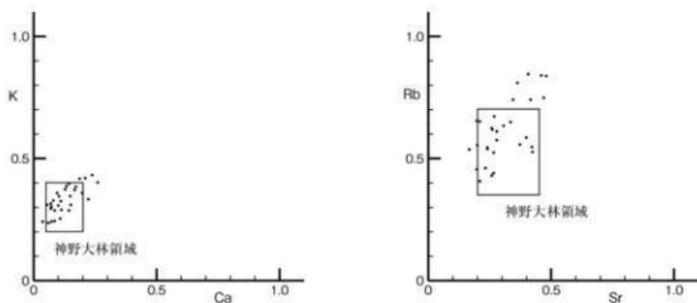
分析結果は第3表にまとめている。この結果に基づいて、まず、両分布図を作成した。第2～4図には神野大林1号、2号、3号窯出土須恵器の両分布図を示してある。大部分の試料を包含するようにして神野大林領域を描いた。この領域は定性的な領域を示すに過ぎないが、地域差を比較する上には大変便利である。とくに、土器類（粘土）の地域差は岩石の地域差に比べて小さいので、まず、図の上で目に見える形で地域差を表示し、それぞれの窯の化学特性を把握することはこの研究を推進する上には不可欠である。

第3表 神野大林窯跡群出土須恵器の分析データ (1)

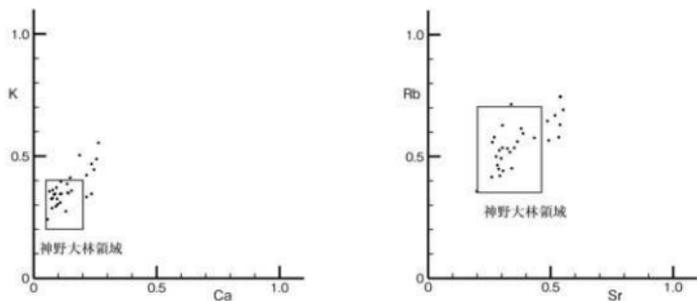
No	三辻研No	ネーミングNo	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	場所	層位
1号-01	21-841	96	0.420	0.210	2.17	0.836	0.479	0.156	灰原	第1層
1号-02	842	96	0.432	0.238	2.42	0.839	0.459	0.210	灰原	第1層
1号-03	843	126	0.302	0.072	2.20	0.539	0.241	0.076	灰原	第1層
1号-04	844	126	0.326	0.111	2.37	0.575	0.279	0.128	灰原	第1層
1号-05	845	96	0.311	0.151	2.61	0.650	0.336	0.114	灰原	第1層
1号-06	846	96	0.316	0.069	2.05	0.652	0.210	0.074	灰原	第1層
1号-07	847	167	0.358	0.197	1.82	0.749	0.471	0.127	灰原	第1層
1号-08	848	167	0.417	0.187	2.16	0.846	0.406	0.138	灰原	第1層
1号-09	849	170	0.375	0.128	2.73	0.610	0.279	0.093	灰原	第2層
1号-10	850	170	0.403	0.261	2.31	0.741	0.415	0.103	灰原	第2層
1号-11	851	118	0.254	0.107	2.36	0.441	0.265	0.101	灰原	第2層
1号-12	852	118	0.286	0.143	1.79	0.527	0.423	0.102	灰原	第2層
1号-13	853	114	0.327	0.080	2.05	0.624	0.258	0.089	灰原	第2層
1号-14	854	114	0.345	0.104	2.51	0.619	0.262	0.091	灰原	第2層
1号-15	855	114	0.308	0.100	2.83	0.545	0.239	0.085	灰原	第2層
1号-16	856	114	0.357	0.095	1.97	0.672	0.268	0.104	灰原	第2層
1号-17	857	118	0.242	0.036	1.68	0.536	0.167	0.048	灰原	第2層
1号-18	858	150	0.295	0.069	1.91	0.429	0.257	0.105	灰原	第2層
1号-19	859	150	0.235	0.059	2.34	0.406	0.211	0.058	灰原	第2層
1号-20	860	112	0.385	0.172	2.16	0.740	0.344	0.132	灰原	第2層
1号-21	861	112	0.286	0.084	2.81	0.555	0.200	0.091	灰原	第2層
1号-22	862	112	0.333	0.223	2.49	0.546	0.421	0.094	灰原	第2層
1号-23	863	112	0.346	0.149	1.96	0.633	0.308	0.099	灰原	第2層
1号-24	864	219	0.385	0.134	1.94	0.557	0.374	0.211	灰原	第2層
1号-25	865	219	0.290	0.114	2.22	0.525	0.265	0.094	灰原	第2層
1号-26	866	219	0.241	0.072	2.80	0.456	0.198	0.081	灰原	第2層
1号-27	867	219	0.397	0.144	1.98	0.586	0.399	0.212	灰原	第2層
1号-28	868	219	0.243	0.086	2.16	0.461	0.232	0.082	灰原	第2層
1号-29	869	219	0.310	0.053	1.87	0.655	0.198	0.064	灰原	第2層
1号-30	870	240	0.371	0.167	2.39	0.809	0.363	0.118	流路1	第4層

第4表 神野大木窟跡群出土須恵器の分析データ (2)

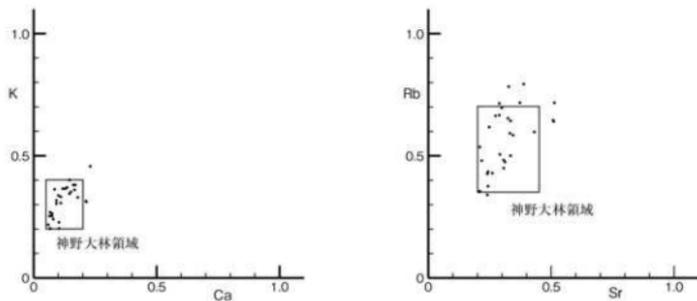
No	三辻研No	ネーミングNo	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	場所	層位
2号-01	21-871	342	0.387	0.137	2.00	0.614	0.380	0.181	灰原	第1・II層
2号-02	872	342	0.351	0.139	1.99	0.560	0.365	0.135	灰原	第1・II層
2号-03	873	342	0.355	0.065	1.97	0.578	0.271	0.131	灰原	第1・II層
2号-04	874	342	0.346	0.088	1.85	0.535	0.302	0.116	灰原	第1・II層
2号-05	875	342	0.287	0.074	2.03	0.416	0.260	0.102	灰原	第1・II層
2号-06	876	342	0.420	0.215	2.03	0.579	0.534	0.214	灰原	第1・II層
2号-07	877	342	0.328	0.078	2.08	0.493	0.298	0.138	灰原	第1・II層
2号-08	878	342	0.344	0.113	1.83	0.533	0.323	0.111	灰原	第1・II層
2号-09	879	342	0.325	0.071	1.89	0.559	0.262	0.105	灰原	第1・II層
2号-10	880	342	0.302	0.098	2.24	0.421	0.293	0.105	灰原	第1・II層
2号-11	881	342	0.333	0.216	1.90	0.668	0.518	0.133	灰原	第1・II層
2号-12	882	342	0.357	0.154	2.14	0.714	0.338	0.120	灰原	第1・II層
2号-13	883	342	0.343	0.083	2.07	0.499	0.277	0.148	灰原	第1・II層
2号-14	884	342	0.445	0.245	2.04	0.745	0.541	0.242	灰原	第1・II層
2号-15	885	365	0.555	0.263	2.04	0.690	0.550	0.334	灰原	第1・II層
2号-16	886	365	0.344	0.107	1.72	0.517	0.334	0.110	灰原	第1・II層
2号-17	887	365	0.360	0.077	2.08	0.526	0.291	0.137	灰原	第1・II層
2号-18	888	365	0.412	0.148	1.62	0.575	0.433	0.216	灰原	第1・II層
2号-19	889	241	0.348	0.142	1.88	0.595	0.388	0.129	灰原	第II層
2号-20	890	241	0.309	0.108	2.02	0.441	0.306	0.104	灰原	第II層
2号-21	891	241	0.275	0.132	2.54	0.451	0.340	0.100	灰原	第II層
2号-22	892	241	0.395	0.111	1.70	0.535	0.352	0.171	灰原	第II層
2号-23	893	325	0.503	0.186	1.73	0.566	0.493	0.288	灰原	
2号-24	894	325	0.325	0.096	1.88	0.464	0.284	0.117	灰原	
2号-25	895	325	0.488	0.256	2.13	0.745	0.538	0.270	灰原	
2号-26	896	325	0.466	0.235	2.49	0.645	0.488	0.242	灰原	
2号-27	897	325	0.293	0.090	2.04	0.448	0.287	0.095	灰原	
2号-28	898	325	0.345	0.236	1.89	0.631	0.537	0.141	灰原	
2号-29	899	325	0.240	0.058	2.62	0.357	0.199	0.085	灰原	
2号-30	900	325	0.370	0.092	1.76	0.627	0.303	0.113	灰原	
3号-01	21-901	451	0.253	0.065	2.62	0.537	0.209	0.056	灰原	第III層
3号-02	902	451	0.360	0.165	1.68	0.792	0.389	0.143	灰原	第III層
3号-03	903	451	0.201	0.066	2.34	0.356	0.209	0.043	灰原	第III層
3号-04	904	451	0.218	0.058	2.60	0.433	0.243	0.038	灰原	第III層
3号-05	905	451	0.329	0.179	2.06	0.598	0.431	0.149	灰原	第III層
3号-06	906	451	0.401	0.145	2.16	0.652	0.325	0.097	灰原	第III層
3号-07	907	452	0.262	0.076	2.19	0.429	0.260	0.083	灰原	第III層
3号-08	908	452	0.303	0.092	2.20	0.482	0.307	0.112	灰原	第III層
3号-09	909	452	0.228	0.102	2.62	0.449	0.308	0.084	灰原	第III層
3号-10	910	452	0.337	0.100	1.75	0.499	0.335	0.146	灰原	第III層
3号-11	911	452	0.316	0.093	1.79	0.475	0.311	0.137	灰原	第III層
3号-12	912	441	0.315	0.093	1.96	0.505	0.291	0.102	灰原	第II層
3号-13	913	441	0.380	0.161	2.49	0.584	0.346	0.095	灰原	第II層
3号-14	914	441	0.252	0.074	2.76	0.376	0.244	0.071	灰原	第II層
3号-15	915	441	0.268	0.067	2.12	0.425	0.240	0.065	灰原	第II層
3号-16	916	445	0.364	0.119	2.28	0.715	0.290	0.094	灰原	第I層
3号-17	917	445	0.332	0.110	2.60	0.682	0.274	0.088	灰原	第I層
3号-18	918	445	0.380	0.168	1.88	0.717	0.373	0.119	灰原	第I層
3号-19	919	445	0.365	0.127	2.48	0.697	0.299	0.094	灰原	第I層
3号-20	920	445	0.315	0.211	1.72	0.646	0.507	0.122	灰原	第I層
3号-21	921	445	0.202	0.103	2.27	0.340	0.241	0.073	灰原	第I層
3号-22	922	445	0.239	0.081	2.40	0.480	0.218	0.069	灰原	第I層
3号-23	923	445	0.363	0.086	2.52	0.616	0.249	0.070	灰原	第I層
3号-24	924	445	0.351	0.150	2.54	0.643	0.334	0.117	灰原	第I層
3号-25	925	445	0.345	0.147	2.43	0.591	0.332	0.098	灰原	第I層
3号-26	926	445	0.311	0.214	1.80	0.639	0.510	0.126	灰原	第I層
3号-27	927	445	0.457	0.231	2.21	0.717	0.512	0.236	灰原	第I層
3号-28	928	445	0.307	0.109	2.61	0.667	0.289	0.079	灰原	第I層
3号-29	929	445	0.370	0.135	2.05	0.783	0.328	0.097	灰原	第I層
3号-30	930	445	0.203	0.066	2.18	0.352	0.207	0.081	灰原	第I層



第2図 神野大林1号窯出土須恵器の両分布図



第3図 神野大林2号窯出土須恵器の両分布図



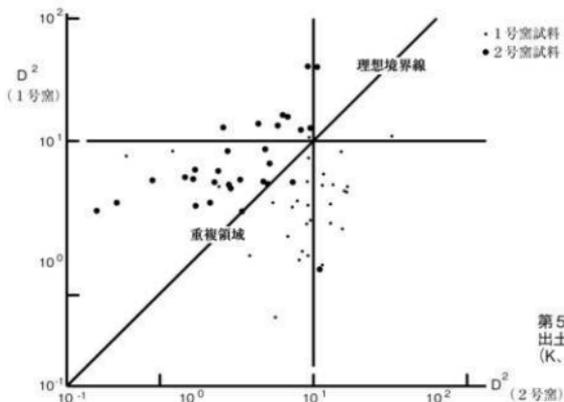
第4図 神野大林3号窯出土須恵器の両分布図

第2～4図を比較すると、殆どの試料は神野大林領域内に分布するものの、試料集団の分布位置は窯間で微妙に異なることがわかる。このことは各窯の須恵器の化学特性はびたりと一致する訳ではなく、微妙にずれていることを、したがって、同じ場所で採取した粘土を素材とした訳ではないことを示している。窯の操業時期にずれがあることから当然のことと考えられる。また、同じ窯の操業期間中にも素材粘土の採取場所は必ずしも同じ場所ではないため、1基の窯跡出土須恵器でも自然界に分布する粘土の不均質性に起因するとみられるばらつきもある。したがって、窯跡出土須恵器の化学特性は各窯ごとに単なる平均値で表示できるものではなく、必ず、標準偏差も考慮に入れなくてはならなくなる。このことは窯跡出土須恵器試料の集団は点ではなく、星雲状に広がった存在であることを意味する。このような広がりのある母集団間の定量的な相互識別には統計学的手法の導入が必要である。筆者は通常、2群間判別分析法を適用している。

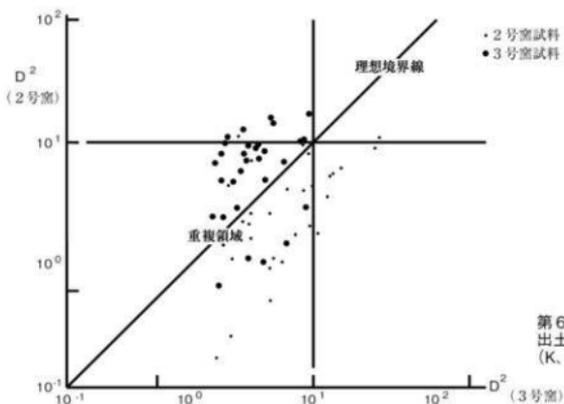
第5図には1号窯と2号窯の判別図を示してある。両軸にとった D^2 (1号窯)、 D^2 (2号窯)はそれぞれ、1号窯、2号窯の試料集団の重心からのマハラノビスの汎距離の二乗値を示している。 D^2 値はK、Ca、Rb、Srの分析値を使って計算した。両窯の全試料について、両群の重心からの D^2 値を計算した。その結果をプロットしたのが第5図である。中央に引かれた斜線は理想境界線であり、両群の重心から等距離にある点の軌跡と定義される。したがって、全く同じ化学的特性をもつ両母集団の試料群は理想境界線に沿って、混在して分布することになる。通常は両群の化学特性が異なるので、両群の試料集団は理想境界線から離れて別々に分布することになる。第5図をみると、1号窯の試料集団の大部分の試料は理想境界線の下側(1号窯の試料集団の重心に近いほう)に、また、2号窯の試料集団の大部分の試料は上側(2号窯の試料集団の重心に近いほう)に分布していることが分かる。このことは1号窯と2号窯の化学特性が全く同じではないことを意味している。しかし、両者の大部分の試料は重複領域 [D^2 (1号窯) < 10、 D^2 (2号窯) < 10] に分布しており、両者の相互識別は困難であることを示している。

第6図には2号窯と3号窯の判別図を示してある。第5図と同様、理想境界線を挟んで、両群の試料集団は上側と下側に分かれて分布するが、大部分の試料は重複領域に分布しており、両者の相互識別は困難であることを示している。さらに、第7図には1号窯と3号窯の判別図を示してある。この場合には両者の大部分の試料は理想境界線に沿って分布しており、その化学特性は非常によく似ていることを示している。1号窯と3号窯の素材粘土の採取場所はすぐ近くであった可能性がある。これに対して、2号窯の素材粘土の採取場所は少し離れている可能性がある。考古学的な推察から、1号窯 < 3号窯 < 2号窯の順に操業年代が新しくなっているという判断と対応するのかもしれない。

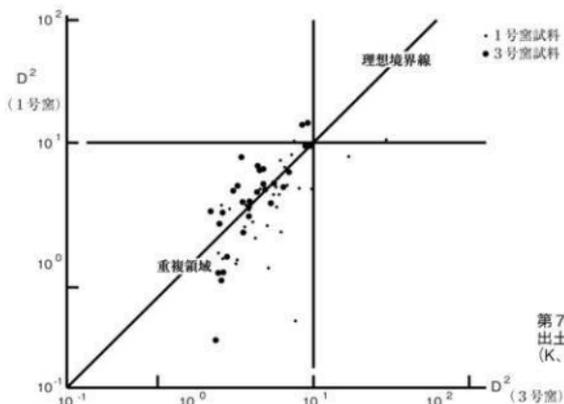
つぎに、兵庫県内の他の窯群の試料集団との判別分析の結果を示す。第8図には、神野大林窯跡群と明石市の金ヶ崎窯の判別図を示す。5%危険率をかけたホテリングの T^2 検定に合格する条件を入れると、各母集団に帰属する必要条件は通常、 $D^2(X) < 10$ となる。Xは母集団名である。これが母集団へ帰属するための必要条件である。第8図をみると、神野大林群の試料の殆どは D^2 (神野大林) < 10の領域に、また、金ヶ崎群の試料の殆ども D^2 (金ヶ崎) < 10の領域に分布しており、各母集団への帰属条件を満足していることが分かる。また、両分布図から、二つの母集団の試料集団は互いに、相手群の距離範囲内に分布することも分かる。このことは2群間判別図でも互いに、相手群の重心から一定の距離の範囲内に試料集団は分布することを意味する。実際に第8図をみてもそのことが分かる。この範囲は実際に判別図を描いてから経験的に求められるものであり、各母集団に帰属するための十分条件となる。



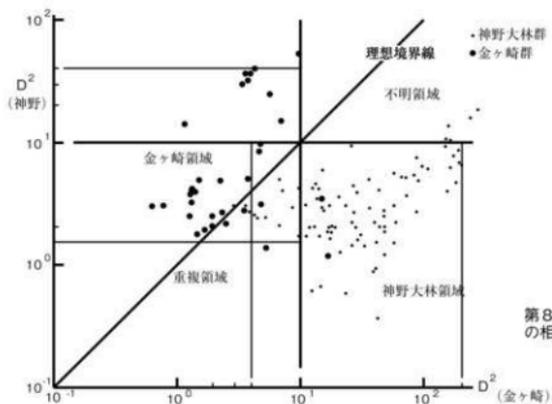
第5図 神野大林1号、2号室
出土須恵器の相互識別
(K、Ca、Rb、Sr)



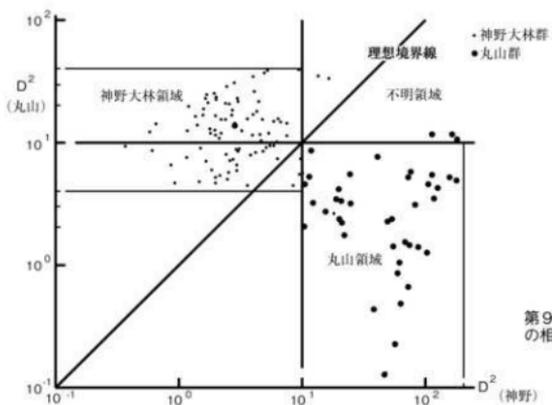
第6図 神野大林2号、3号室
出土須恵器の相互識別
(K、Ca、Rb、Sr)



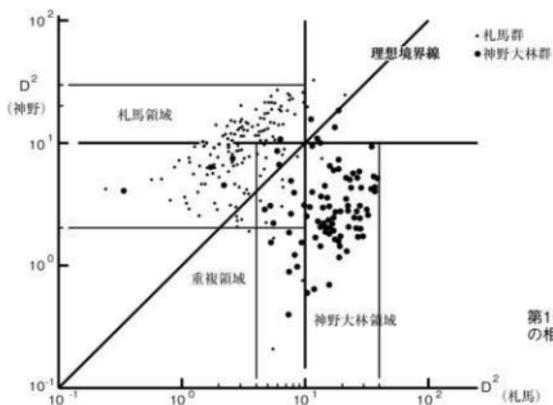
第7図 神野大林1号、3号室
出土須恵器の相互識別
(K、Ca、Rb、Sr)



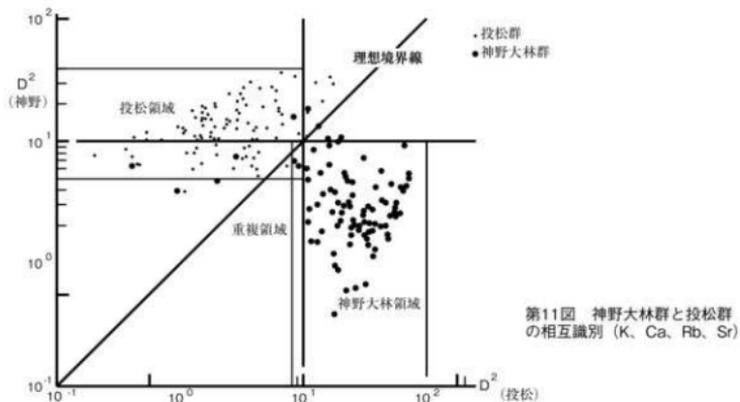
第8図 神野大林群と金ヶ崎群の相互識別 (K、Ca、Fb、Sr)



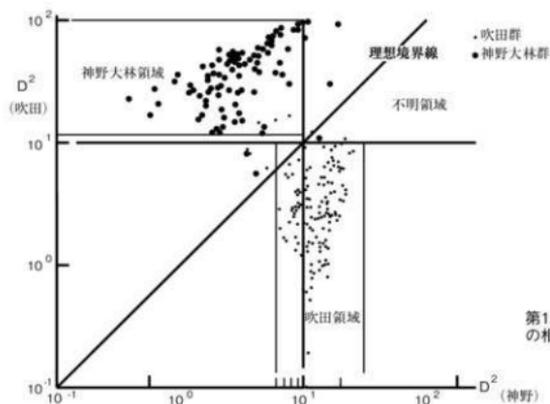
第9図 神野大林群と丸山群の相互識別 (K、Ca、Fb、Sr)



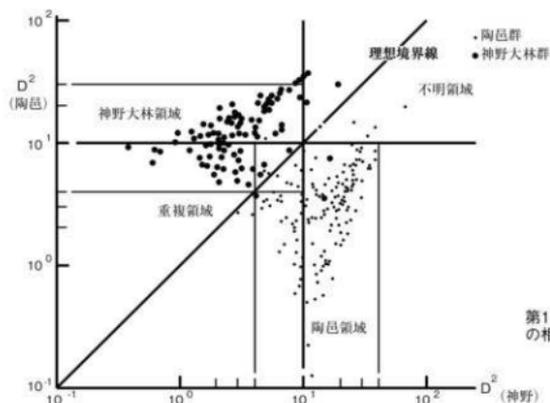
第10図 神野大林群と札馬群の相互識別 (K、Ca、Fb、Sr)



第11図 神野大林群と投松群の相互識別 (K、Ca、Rb、Sr)



第12図 神野大林群と吹田群の相互識別 (K、Ca、Rb、Sr)



第13図 神野大林群と陶邑群の相互識別 (K、Ca、Rb、Sr)

第8図より、神野大林群の試料集団についてはこの条件は D^2 （金ヶ崎）=4~200であり、金ヶ崎群重心から一定の試料集団については D^2 （神野大林）=1.5~40であることがわかる。これが各母集団に対する相手群から排除されるための条件、すなわち、十分条件となる。この結果、必要条件と十分条件を併せて各母集団の領域が決定する。神野大林領域は D^2 （神野大林）<10、 D^2 （金ヶ崎）=4~200であり、金ヶ崎領域は D^2 （金ヶ崎）<10、 D^2 （神野大林）=1.5~40であることが分かる。しかし、両者の化学特性は類似しているため、重複領域「 $1.5 < D^2$ （神野大林）<10、 $4 < D^2$ （金ヶ崎）<10」には少数ではあるが両者の試料が重なって分布することになる。両者は完全には分離していない訳である。しかし、大部分の試料群は分かれて分布しており、両者の相互識別の可能性は十分あることを示している。

同様に、第9図には神野大林群と相生市の丸山群間の判別図を示してある。重複領域はなく、両者はほぼ完全に分離しており、その相互識別は容易であること示している。しかし、神野大林群の試料の1点は丸山領域にまた、丸山群の試料の1点も神野大林領域に分布しており、確率が低いものの、互いに、相手群の試料と誤判別する可能性があることを示している。第10図には、神野大林群と札幌群間の判別図を示す。この場合も重複領域があり、両母集団は不完全にしか分離しない。そして、確率は低いものの、互いに相手群の試料と誤判別の可能性もあることを示しているが、大部分の試料は神野領域と札幌領域に分かれて分布しており、相互識別の可能性は十分あることを示している。第11図には神野大林群と投松群間の判別図を示す。やはり、重複領域があるが、両者の相互識別は十分可能であることを示している。

つぎに、他県の窯群との相互識別の結果を示す。第12図には大阪府吹田市に在る吹田窯群と神野大林窯群との判別図を示す。両者はほぼ完全に分離しており、その相互識別は十分可能であることを示している。また、大阪府堺市に在る古墳時代最大の須恵器生産地である陶邑窯群と神野大林窯群との判別図を第13図に示す。重複領域があるものの、両群の試料集団は十分分離しており、その相互識別も十分可能である。

以上の結果は次のようにまとめられる。

1) 3基ある神野大林窯跡群の各窯間での相互識別は困難であることがわかった。このことは神野大林窯跡群内では同じ母岩に由来する地元産の粘土が素材として使用されたことを物語る。ただ、自然界の不均質性のため、同じ地域内でも粘土の採取場所が異なると、その化学特性にも微妙な差違があり、その結果、窯間でも微妙な差違があることも分かった。

2) これに対して、地質が異なる他地域の窯群との相互識別では、重複領域があるものの、神野大林窯跡群の試料集団とは十分相互識別が可能であることが分かった。

第3節 神野大林窯跡群出土須恵器の胎土分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

加古川市神野町に所在する神野大林窯跡群は、播磨平野東部、加古川下流域左岸に分布するいなみの台地北部に位置する。遺跡は古墳時代の須恵器窯跡とされ、加古川支流の曇川によって開析された台地の南西向き斜面上に3基の窯が構築されている状況が明らかにされた。それぞれ出土した土器の発掘調査所見から、各窯跡はそれぞれ、6世紀中葉～6世紀後半、6世紀中葉～6世紀後半、6世紀末～7世紀初頭という時期に操業していたと考えられている。

本報告では、各窯跡から出土した須恵器について、その材質（胎土）の特性を明らかにすることにより、各窯跡間での胎土の類似性あるいは異質性を見出し、神野大林窯跡各時期における土器の製作事情に関わる資料を作成する。

1. 試料

試料は、神野大林窯跡群から出土した須恵器片6点である。窯跡は、台地斜面を北へ伸びる谷(A区)に2基、東へ伸びる谷(B区)に1基が検出され、B区の窯跡は1号窯、A区の窯跡は2号窯および3号窯とされている。これらの窯跡のうち、出土した須恵器の時期が最も古い窯跡は1号窯であり、5世紀末から6世紀前半とされ、それに遅れて3号窯が出現し、6世紀前半から中頃に操業していたと考えられ、その後2号窯が、6世紀後半から7世紀初頭まで操業したと考えられている。

各試料には資料No.01～06が付されており、No.01、02が1号窯出土、No.03、04が2号窯出土、No.05、06が3号窯出土とされている。No.03のみ埴瓶とされ、他の5点はいずれも甕である。各試料の報告No.、器種、出土地区、遺構、場所などは一覧表にして第5表に示す。

第5表 神野大林窯跡群出土須恵器の胎土分析試料一覧および胎土分類

資料 No.	報告 No.	器種	出土 地区	出土年月日	調査番号	遺構	場所	層	胎土分類									
									鉱・岩			粒径			碎屑			
									J1	J2	J3	1	2	3	I	II		
01	1127	甕	B	2005.11.25	2005181	1号窯	灰原	第1層	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
02	1620	甕	B	2005.12.01	2005181	流路1		第1層	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
03	2181	埴瓶	A	2005.11.29	2005181	2号窯	灰原	第II層	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
04	2221	甕	A	2005.11.28	2005181	2号窯	灰原	第II層	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
05	3065	甕	A	2005.12.12	2005181	3号窯	窯体	最終面埋土下	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
06	3154	甕	A	2005.12.07	2005181	3号窯	灰原	第III層	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

J1: カリ長石の溶融、斜長石表面のムライト晶出、石英の高温クラックなどが認められ、1200℃前後の高温焼成が推定される。鉱物片では石英が多く、少量の斜長石を伴い、岩石片は少量～微量のチャート、凝灰岩、多結晶石英などを含む。

J2: J1と同様に1200℃前後の高温焼成を示し、鉱物片・岩石片の種類構成は、J1類のそれにさらに少量の珪化岩と火山ガラスが加わる。

J3: カリ長石の溶融は微弱であり、斜長石にはムライト化が認められないことから1150℃程度の焼成温度が推定される。鉱物片・岩石片の種類構成は、J1類のそれにさらに少量の火山ガラスが加わる。

1: 中粒砂をモードとする。

2: 細粒砂をモードとする。

3: 細粒砂をモードとするが、粗粒シルトに第2のピークがある。

I: 碎屑物の割合が20%未満

II: 碎屑物の割合が20～25%

2. 分析方法

当社では、これまでに兵庫県内各地の遺跡より出土した土器の胎土分析には、松田ほか(1999)の方法を用いてきた。これは、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、各粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いも見出すことができるために、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。したがって、単に岩片や鉱物片の種類のみを捉えただけでは試料間の胎土の区別ができないことが予想される。同一の地質分布範囲内で作られた土器の胎土分析には、松田ほか(1999)の方法は適当である。以下に試料の処理過程を述べる。

薄片は、試料の一部をダイヤモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5mm間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレパラート全面で行った。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

3. 結果

観察結果を第6表、第14～16図に示す。これまでに兵庫県下各地における縄文土器、弥生土器、土器などの胎土分析で認められている鉱物・岩石組成分類と比較すると、今回の6点の試料には、これまでの分析例には認められなかった特徴がある。それは、高温焼成による鉱物の変化(五十嵐2007)が認められることである。6点の試料のうち、資料No.02を除く5点には、カリ長石の溶解、斜長石の結晶の表面部の非晶質化とその一部におけるムライトの晶出および石英の高温クラックといった、いずれも1200℃前後の高温を受けると生ずる現象が認められた。したがって、これらの試料は、1200℃前後で焼成されたことが推定される。資料No.02には、斜長石の非晶質化とムライトの晶出および石英の高温クラックは認められないが、カリ長石の微弱的な溶解が認められた。この現象は、1150℃前後の高温を示しており、資料No.02は、他の試料よりも若干低い1150℃前後の焼成温度が推定される。このように、1150～1200℃という高温焼成を受けた胎土は、鉱物や岩石片などが溶融しているため、本来の鉱物・岩石組成を示していないことから、これまでに分類したA～H類までの胎土とは区別してJ類とする。なお、H類も姫路市に所在する丁・柳ヶ瀬遺跡から出土した平安時代の須恵器に認められた胎土であるが、胎土中の長石類に高温焼成の影響が認められなかった(矢作・石岡, 2009)ため、今回の試料はJ類として区別した。

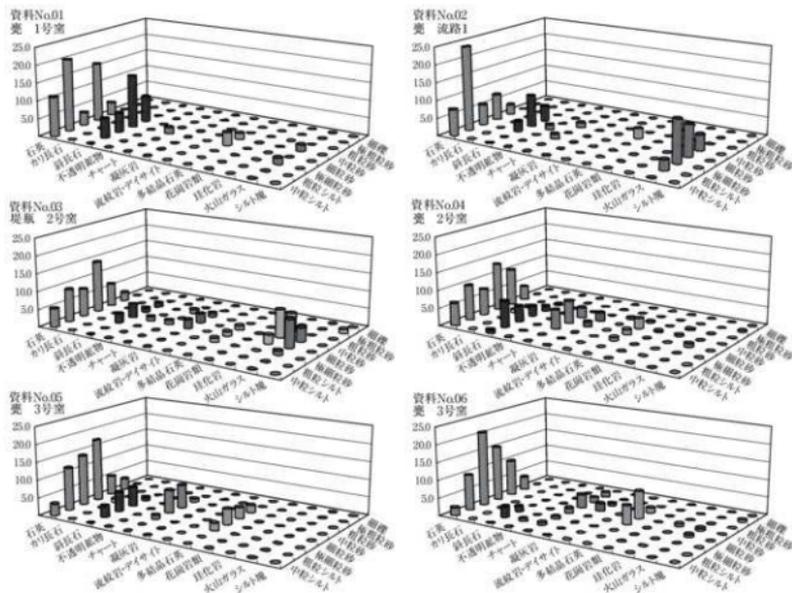
J類とした今回の試料のうち、資料No.01、04、05、06の4点は、ほぼ同様の鉱物・岩石組成を示す。すなわち、鉱物片では石英が多く、少量の斜長石を伴い、岩石片は少量～微量のチャート、凝灰岩、多結晶石英などを含む。ここでは、これらをJ1類とする。資料No.03は、J1類と同様の焼成温度であるが、鉱物・岩石組成では、J1類の組成に加えて、少量の珪化岩と火山ガラスを含むことから、J2類とする。資料No.02は、上述したように他の試料とは焼成温度が若干異なり、さらに鉱物・岩石組成でも、J1類の組成に加えて少量の火山ガラスも含むことから、J3類とする。

各試料の粒径組成は、中粒砂をモードとする試料と細粒砂をモードとする試料が認められるが、細粒

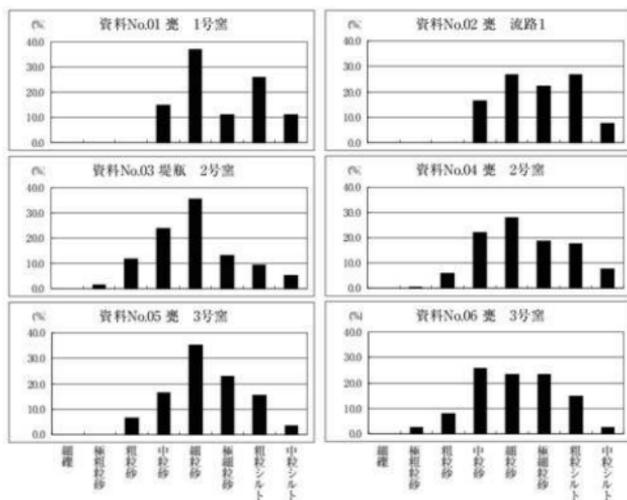
砂をモードとする試料には粗粒シルトに第2のピークのある組成も認められることから、以下のような分類をおこなった。

第6表 神野大林窯跡出土須恵器の薄片観察結果

資料No	砂粒区分	砂粒の種類構成										合計			
		鉱物片				岩石片				その他					
		石英	カリ長石	斜長石	不透明鉱物	チャート	凝灰岩	凝灰岩・ ダイサイト	流紋岩・ 多結晶石英	花崗岩類	珪化岩		火山ガラス	シルト塊	
01	砂	細礫													0
		極粗粒砂													0
		粗粒砂													0
		中粒砂	2		4				1			1			8
		細粒砂	9		8		1		2						20
		極細粒砂	2		3							1			6
		粗粒シルト	11		3										14
		中粒シルト	6												6
	基質														707
	孔隙														41
02	砂	細礫													0
		極粗粒砂													0
		粗粒砂													0
		中粒砂	2		3		1		2			3			11
		細粒砂	5		6	1						6			18
		極細粒砂	4		2		1					8			15
		粗粒シルト	16									2			18
		中粒シルト	5												5
	基質														743
	孔隙														43
03	砂	細礫													0
		極粗粒砂											1		1
		粗粒砂	2		1		1	2			4				9
		中粒砂	5		1		6	5	1	1	6	3			18
		細粒砂	11		3	1	1	2		1	2	6			27
		極細粒砂	6		2					1		1			10
		粗粒シルト	7												7
		中粒シルト	4												4
	基質														962
	孔隙														35
04	砂	細礫													0
		極粗粒砂											1		1
		粗粒砂	8		1				1	1	1				12
		中粒砂	21	1	3		6	5	6	1	1				44
		細粒砂	27	2	6		13	3	3			2			56
		極細粒砂	15		9		11		2						37
		粗粒シルト	20		15										35
		中粒シルト	13		2										15
	基質														1015
	孔隙														30
05	砂	細礫													0
		極粗粒砂													0
		粗粒砂	3				1		2						6
		中粒砂	5		1		6		3						15
		細粒砂	16	1	5		6		4						32
		極細粒砂	13		5		1		2						21
		粗粒シルト	11		3										14
		中粒シルト	3												3
	基質														514
	孔隙														26
06	砂	細礫													0
		極粗粒砂					2						1		3
		粗粒砂	5				2	1	2						10
		中粒砂	13				5	3	10		1	1			33
		細粒砂	20				2		7			1			30
		極細粒砂	27		2		1								30
		粗粒シルト	13		4	1	1								19
		中粒シルト	3												3
	基質														825
	孔隙														27



第14図 神野大林窯跡群出土須恵器の胎土分析各粒度階における鉱物・岩石出現頻度



第15図 神野大林窯跡群出土須恵器胎土中の砂の粒径組成

1類：中粒砂をモードとする。資料No.06がこれに相当する。

2類：細粒砂をモードとする。資料No.03～05の3点がこれに相当する。

3類：細粒砂をモードとするが、粗粒シルトに第2のピークがある。資料No.01、02がこれに相当する。

各試料の砕屑物・基質・孔隙の割合では、砕屑物の割合が20%未満の資料No.01～03と20～25%の資料No.04～06とに分かれる。前者をI類とし、後者をII類とする。

以上述べた試料の胎土分類をまとめて第5表に併記する。胎土分類結果を窯跡ごとにみると以下の状況が示される。

1号窯：鉱物・岩石組成はJ1類を、粒径組成では3類を示し、砕屑物の割合はI類である。

流路1：鉱物・岩石組成はJ3類を、粒径組成では3類を示し、砕屑物の割合はI類である。

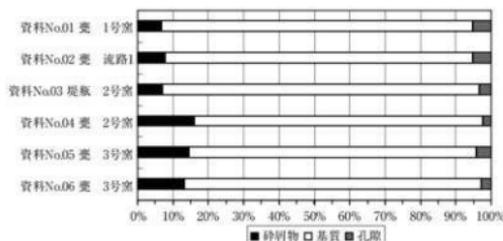
2号窯：鉱物・岩石組成はJ1類とJ2類にわかれ、砕屑物の割合もI類とII類にわかれるが、粒径組成ではともに2類を示す。

3号窯：鉱物・岩石組成はともにJ1類を示し、砕屑物の割合もともにII類を示すが、粒径組成ではI類と2類に分かれる。

4. 考察

一般的には、須恵器窯の立地条件の一つとして、須恵器の材料となる粘土の採取地に近いということがあげられるから、今回のように窯跡出土の土器胎土には、窯跡周辺の地質学的背景が反映されていると考えられる。前述したように、今回の試料である須恵器は、その高温焼成のために胎土本来の鉱物・岩石組成を示していないが、胎土から検出された岩石片の中には、神野大林窯跡群周辺すなわち加古川下流域に分布するいなみの台地の地質学的背景と特に異質なものは認められない。いなみの台地は第四紀更新世の海成段丘である（太田ほか編,2004）から、それを構成する砕屑物は背後の大飯層群からなる丘陵から供給され、その大飯層群を構成する砕屑物は、さらに背後の丹波高地に分布する地質から供給されたものである。丹波高地には、中生代白亜紀の流紋岩やデイサイト質の溶岩および火砕岩（凝灰岩）からなる相生層群や有馬層群が分布し、相生層群に貫入する白亜紀の磨崖花崗岩類も分布、さらにはチャート・砂岩・頁岩からなる中生代ジュラ紀の丹波帯といった地質も分布する（猪木,1981;日本の地質「近畿地方」編集委員会編,1987;尾崎ほか,1995など）。いずれも、今回の試料の胎土中に認められている岩石を含む地質である。また、珪化岩は、相生層群や有馬層群中の変質岩として分布する岩石である。火山ガラスについては、その形態が平板状のバブル型であったことから、おそらく大飯層群中に狭在するテフラ層に由来する可能性が高い。

J1類からJ3類までの違いは、焼成温度の違いもあるが、材料として利用した粘土の採取層位の違いを



第16図 神野大林窯跡群出土須恵器の砕屑物・基質・孔隙の割合

示唆している可能性もあると考えられる。特に火山ガラスについては、上述したようにテフラ層に由来する可能性があるから、テフラ層の堆積する層位に近い層位の粘土とそうでない粘土というような違いがあったかも知れない。

今回の分析では、操業時期が異なるとされる3基の窯から出土した土器に、窯ごとに異なる胎土分類が認められた。胎土分類の違いの中には、焼成温度の違いも含まれている。これらの結果からは、各窯につき2点という試料数ではあるが、時期の違いによって、材料の質が変化する傾向のあることが示唆される。一方で、資料No.03の他の試料との違いは、埴瓶と甕という器種の違いに由来する可能性もあると考えることができる。いずれにしても、試料数の追加による検証が必要であろう。

今後、加古川流域の須恵器窯跡試料や周辺域の遺跡出土須恵器などの胎土分析事例を蓄積することができれば、時代・時期による須恵器の製作事情の違いや移動範囲などが見出されることが期待され、播磨地域の須恵器に関する有意な資料の作成が可能であると考えられる。

(矢作健二・石岡智武)

引用文献

- 五十嵐俊雄,2007,土師器・須恵器等に関する焼成温度推定手法の開発,徳永重元博士献呈論集,パリオ・サーヴェイ株式会社,281-297.
- 猪木幸男,1981,20万分の1地質図幅「姫路」,地質調査所.
- 松田順一郎・三輪若業・別所秀高,1999,瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察－岩石学的・堆積学的による－,日本文化財科学会第16回大会発表要旨集,120-121.
- 日本の地質「近畿地方」編集委員会,1987,日本の地質6 近畿地方,共立出版,297p.
- 太田陽子・成瀬敏郎・田中真吾・岡田篤正編,2004,日本の地形6 近畿・中国・四国,東京大学出版会,383p.
- 尾崎正紀・栗本史雄・原山 智,1995,北条地域の地質,地域地質研究報告(5万分の1図幅),地質調査所,100p.
- 矢作健二・石岡智武,2009,丁・柳ヶ瀬遺跡出土土器の胎土分析,兵庫県文化財調査報告第350冊 姫路市 丁・柳ヶ瀬遺跡Ⅱ 都市計画街路網干線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書,16-29.

第4節 神野大林窯跡群における炭化樹種

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては、木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2. 試料

試料は、神野大林窯跡群の1号窯と3号窯より出土した炭化材6点である。時期は6世紀中頃と考えられている。

3. 方法

試料を割折して新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柀目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって50～1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4. 結果

第7表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を図版に示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

第7表 神野大林窯跡群における樹種同定結果

No.	種類	遺構	場所	層	結果（学名/和名）	
1	炭	1号窯	灰原	第Ⅱ層	<i>Quercus sect. Aegilops</i>	コナラ属クスギ節
2	炭	1号窯	灰原	第Ⅱ層	<i>Quercus sect. Aegilops</i>	コナラ属クスギ節
3	炭	3号窯	焚口	最終面埋土下	<i>Quercus sect. Aegilops</i>	コナラ属クスギ節
4	炭	3号窯	灰原	第Ⅱ層	<i>Quercus sect. Aegilops</i>	コナラ属クスギ節
5	炭	3号窯	灰原	第Ⅲ層	<i>Quercus sect. Aegilops</i>	コナラ属クスギ節
6	炭	3号窯	灰原	第Ⅲ層	<i>Quercus sect. Aegilops</i>	コナラ属クスギ節

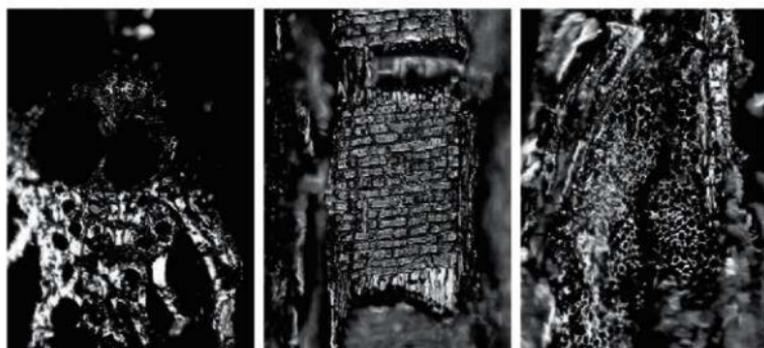
コナラ属クスギ節 *Quercus sect. Aegilops* ブナ科（第17図1・2・3）

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、1～数列配列する環孔材である。晩材部では厚壁で丸い小道管が、単独でおおよそ放射方向に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属クスギ節に同定される。コナラ属クスギ節にはクスギ、アベマキなどがあり、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ15m、径60cmに達する。材は強靱で弾力に富み、器具、農具、薪炭などに用いられる。



横断面 ————— : 0.4mm
1.No.3 コナラ属クスギ節

放射断面 ————— : 0.2mm

接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.4mm
2.No.5 コナラ属クスギ節

放射断面 ————— : 0.2mm

接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.4mm
3.No.6 コナラ属クスギ節

放射断面 ————— : 0.2mm

接線断面 ————— : 0.2mm

第17図 神野大林塚跡群の炭化材

5. 所見

同定の結果、神野大林窟跡群出土の炭化材は、コナラ属クスギ節であった。コナラ属クスギ節にはクスギとアベマキがあり、温帯に広く分布する落葉広葉樹で、山林や乾燥した台地、丘陵地に生育し二次林要素でもある。遺跡周辺に生育していたか、地域的な流通の範囲で得られる樹種である。

参考文献

- 佐伯浩・原田浩 (1985) 広葉樹材の細胞。木材の構造, 文永堂出版, p.49-100.
島地謙・伊東隆夫 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧, 雄山閣, p.296
山田昌久 (1993) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成, 植生史研究特別第1号, 植生史研究会,
p.242

第5節 神野大林1号窯出土巻き貝

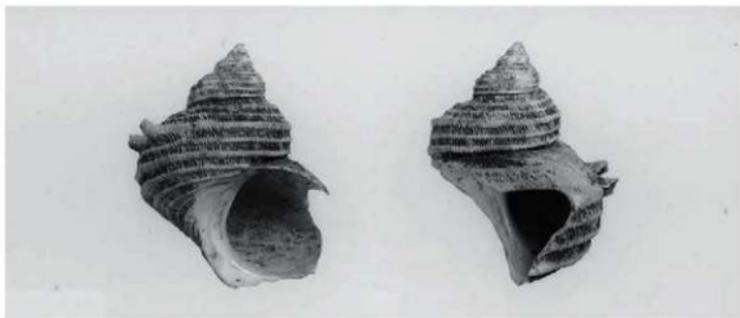
丸山 真史 (奈良県立橿原考古学研究所)

神野大林1号窯の灰原(第Ⅱ層)から、貝類が1点のみ出土した。出土した貝類はサザエ(*Turbo cornutus*)の殻体で、殻長65.1mm、殻幅50.4mmを測る。殻体の肩には棘が発達し、殻口中央部は破損している。また、殻体の上部が青灰色を呈する。

サザエの殻には棘が発達したものや、棘がなく表面が滑らかなものなど変異が大きい。これらの棘の変異は、環境要因に支配された非遺伝的なものとされる(奥谷編2000)。棘が発達したものは外海などの波の荒い環境、棘のないものは内海の波の穏やかな環境が想定される。当遺跡南方の瀬戸内海は、波が穏やかであり、棘の発達したサザエは少ないように思われ、波の荒い太平洋岸や日本海岸から持ち込まれた可能性が考えられる。しかし、上述のようにサザエの棘の発達は環境要因によるため、瀬戸内海でも潮流の早い明石海峡などでは、棘が発達するものがあるかもしれない。したがって、本資料を太平洋岸あるいは日本海岸といった遠隔地から持ち込まれたものと即断することは困難である。

殻口部の破損の形状は、上部が滑らかな曲線であるのに対して、下部は不規則な凹凸を呈する。破損面の上部には土壌が入り込んでおらず、この部分は採集後に破損した可能性がある。しかし、破損面の下部には土壌が入り込んでいることから、埋没以前に破損していたと考えられる。このような殻口付近の破損は、中・近世遺跡から出土するアカニシに、しばしば見ることができる。大坂城跡から出土したアカニシは、蓋を除去する際に打ち割った殻口付近の破損と、肉をとる際に打ち割った殻体の破損の二つがある(池田2006)。サザエは、巻き貝というだけでなく、分厚く頑丈な蓋をもっており、前述のアカニシと同じように蓋を除去する際に打ち割った可能性が考えられる。

変色した部分は縦縞状に広がり、強く被熱した可能性がある。ただ、被熱したものとしても、加熱前に蓋を除去したと考えられ、肉を取り去った後のことと思われる。



第18図 神野大林1号窯出土のサザエ

参考文献

池田研2006「大坂城跡(03-1・0KS99)出土の貝類」『大坂城跡Ⅲ』(財)大阪府文化財センター pp.543-552
奥谷喬司編2000『日本近海産貝類図鑑』東海大学出版会

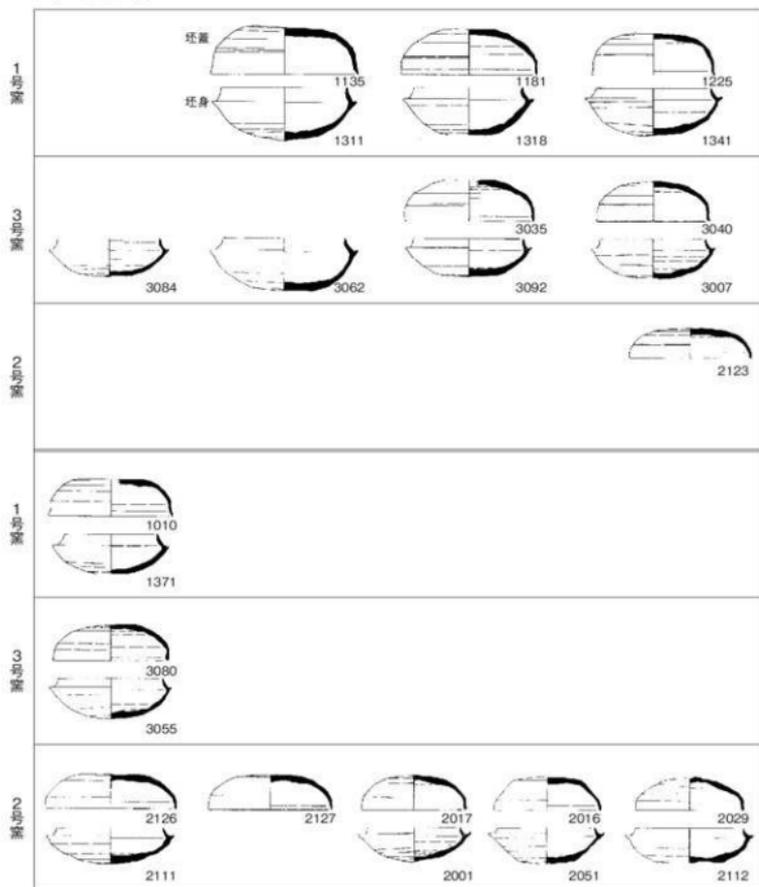
第7章 総括

第1節 神野大林窯跡群の須恵器の特徴

神野大林窯跡群の3基の窯から出土した須恵器を検討し、神野大林窯跡群の須恵器の特徴を抽出するとともに、神野大林窯跡群内での操業時期の変遷を考えてみる。また、時期的位置付けを行う。

1. 各窯の出土遺物

いずれの窯も窯体内の遺物の出土量は少なく、器種は限られているため、窯に伴う灰原も含めて検討することとする。



第19図 神野大林窯跡群 坏蓋・坏身

1号窯は遺物の出土量が非常に多く、坏蓋・坏身・無蓋高坏・高坏蓋・大型蓋・有蓋高坏・小型碗・直口碗・把手付碗・外反口縁鉢・鉢・甌・横瓶・提瓶・平底瓶・壺蓋・有蓋短頸壺・短頸壺・大型直口壺・広口壺・長頸壺・広口長頸壺・器台・長頸甕・短頸甕・陶片・紡錘車が出土している。

3号窯からは坏蓋・坏身・無蓋高坏・高坏蓋・有蓋高坏・把手付碗・大型鉢・厚底鉢・横瓶・提瓶・壺蓋・有蓋短頸壺・壺類・直口壺・有蓋直口壺・大型直口壺・広口長頸壺・器台・長頸甕・短頸甕・甕・イダコ壺が出土している。

2号窯からは坏蓋・坏身・無蓋高坏・高坏蓋・有蓋高坏・碗・厚底鉢・甌・提瓶・横瓶・平瓶・長頸壺・壺類・壺蓋・短頸壺・有蓋短頸壺・大形壺蓋・大型直口壺・直口壺・広口壺・広口長頸壺・器台・長頸甕・短頸甕・土錘・鈴が出土している。

2. 器種の特徴

これまで各窯の遺物の特徴を述べてきたが、ここでは主要な器種についてそれぞれの窯の特徴を纏めてみる。

坏蓋は各窯で出土している。天井部の仕上げと天井部と口縁部の境と口縁端部の形態に違いがある。天井部の仕上げは後で詳述するが1号窯・3号窯はすべて回転ケズリで、2号窯はすべてヘラ切りである。天井部と口縁部の境は1号窯と3号窯は段および沈線でごく区切っているものが殆どであるが、明瞭な境を残さないものもある。2号窯は微かに段のものが存在するが、殆どが明瞭な境を作らない。口縁端部の形態は1号窯と3号窯は内面に段を作るが、2号窯は丸く収めている。

坏身は各窯で出土している。底部の仕上げは後で詳述するが1号窯・3号窯はすべて回転ケズリで、2号窯はすべてヘラ切りである。口縁端部の形態は3号窯から内面に段を作るものが1点あるほかは、すべて丸く収めている。

無蓋高坏は各窯で出土している。無蓋高坏には長脚1段と長脚2段と短脚と外反の4種類がある。

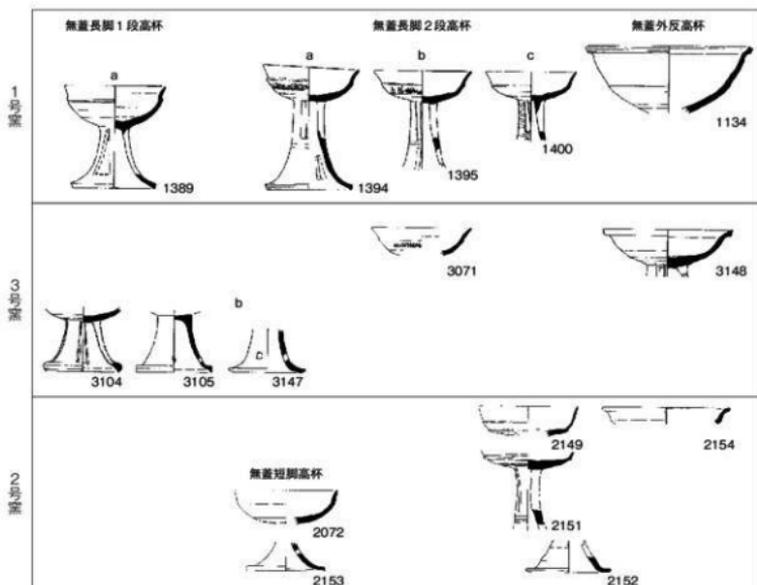
無蓋長脚1段高坏は脚部の透かし孔の形態で $a \cdot b$ の2種類に分類できる。長脚1段高坏 a は方形の透かしで、透かし孔の数で $a4 \cdot a3$ に分類する。四方透かしの $a4$ は3号窯のみ、三方透かしの $a3$ は1号窯のみにある。長脚1段高坏 b は円孔透かしで、透かし孔の数で $b4 \cdot b3$ に分類する。四方透かしの $b4$ 、三方透かしの $b3$ ともに3号窯のみにある。

無蓋長脚2段高坏は坏部の文様の有無と透かし孔の形態で $a \cdot b \cdot c$ の3種類に分類できる。無蓋長脚2段高坏 a は三方の2段の透かしが千鳥になるもので、1号窯のみにある。無蓋長脚2段高坏 b は坏部に柳描の文様があり、脚の透かし孔が一行に並ぶもので、透かし孔の数は三方のみである。1号窯と2号窯にある。無蓋長脚2段高坏 c は坏部が無文で、脚の透かし孔が一行に並ぶもので、透かし孔の数で $c3 \cdot c2$ に分類する。透かし孔の数が三方の $c3$ は、1号窯と2号窯にある。透かし孔の数が二方の $c2$ は、2号窯にある。

無蓋短脚高坏は1種類のみである。坏蓋を逆転させたものを坏部として、短い脚部を持つものである。脚の透かし孔は円形で二方である。2号窯のみで出土している。

無蓋外反高坏は1種類のみである。やや大型で、坏部の口縁部が外反する。各窯で出土しているが全容がわかるものはない。3号窯出土のものは三方透かしである。

無蓋、有蓋にかかわらず、1号窯と3号窯の高杯の透かし孔は面取りを行うものが存在し、丁寧に作っている。

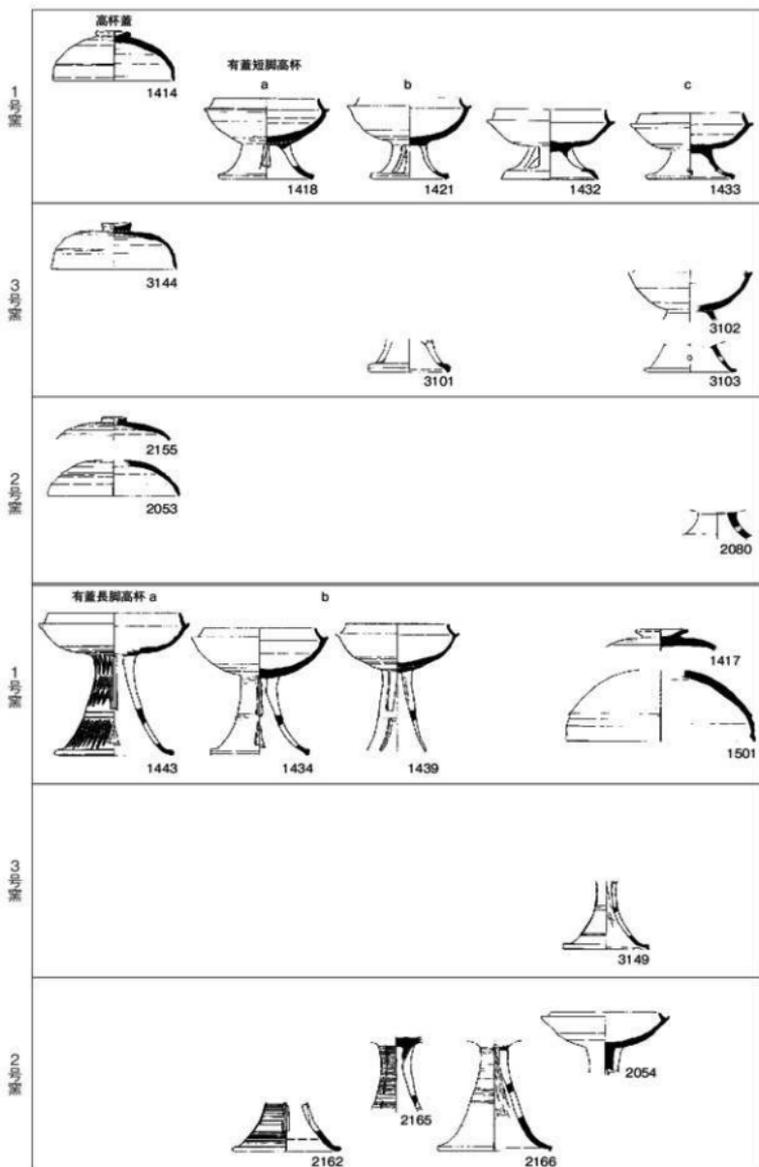


第20図 神野大林窯跡群 無蓋高杯

高杯蓋は各窯で出土している。杯蓋の天井部につまみを貼り付けた形態である。したがって各窯の形態変化は杯蓋と同じである。天井部と口縁部の境は1号窯・3号窯では沈線もしくは段で作り、2号窯では段を作るが天井部側に上がっている。口縁部は1号窯・3号窯が直立気味かやや外傾し、2号窯は大きく開く。口縁端部は1号窯・3号窯では内傾する段を持ち、2号窯は丸く作る。つまみは1号窯・3号窯がやや高いのに対して、2号窯は扁平である。

有蓋高杯は各窯で出土している。有蓋高杯には短脚と長脚の2種類がある。有蓋短脚高杯は脚部の形態と透かし孔の形態でa・b・cの3種類に分類できる。有蓋短脚高杯aは脚端部を丸く作るもので、透かし孔の数でa4・a3・a2に分類する。四方透かしのa4と三方透かしのa3は1号窯のみにある。有蓋短脚高杯bは脚端部に段を作るもので、三方透かしのb3が1号窯にある。有蓋短脚高杯cは円孔透かしをあげるもので、透かし孔の数でc4・c2に分類する。四方透かしのc4は1号窯と3号窯にある。三方透かしのc3は2号窯のみにある。

有蓋長脚高杯は1号窯と2号窯で出土している。脚部の文様の有無によりa・bの2種類に分類できる。有蓋長脚高杯aは脚部に柳播状文を施文するもので、透かし孔の数は四方向のみである。上段が長方形、下段が三角形である。1号窯のみ出土している。有蓋長脚高杯bは脚部が無文であり、透かし孔の数でb4・b3・b2に分類する。四方透かしのb4は1号窯のみ出土している。三方透かしのb3は1号窯と2号窯で出土しているが、2号窯のものは透かし孔がへら状工具での線状の切り込みに退化している。二方透かしのb2は2号窯のみ出土している。2号窯の脚部はカキ目を多用している。杯部の形態は杯身と同様の变化をしており、杯部の立ち上がりが短くなり、内傾度が著しくなる。



第21回 神野大林窯跡群 有蓋高杯

把手付碗は1号窯と3号窯から出土している。深い口体部に脚台と把手が付く。1号窯は口体部の外反度が強く、3号窯は直線的である。体部はカキ目調整するものが多い。底部は回転ケズリ後、低い脚台を貼り付けており、三方向の円孔透かしをあげるものと、透かしが無いものがある。上方に弯曲した把手を1箇所貼り付ける。

碗は1号窯と2号窯から出土している。浅い口体部に脚部が付くものと付かないものがある。脚部は長方形もしくは細い三角形の透かしを設けている。脚部の付かないものは切り離しのままである。

鉢は1号窯と3号窯から出土している。体部は外方に直線的に開き、口縁部は外反する。体部内面下方には同心円当て具の痕跡が残る。外面はカキ目調整する。

厚底鉢は3号窯と2号窯から出土している。円盤状の底部に直線的に外傾する体部が付く。3号窯と2号窯には底部中央に1個の小孔をあげるものがあり、2号窯には4個の小孔をあげるものがある。

甌は1号窯と2号窯から出土している。文様の有無によりa・bの2種類に分類できる。甌aは口縁部・頸部・体部に櫛播波状文を施文するもので、1号窯のみで出土している。甌bは無文で1号窯はほぼ全容がわかるが、2号窯は口縁部のみである。甌a・甌bともに長く太い頸部である。口縁端部内面に明瞭な段を有している。2号窯の口縁端部には段がない。

横瓶は各窯から出土しているが、全容がわかるものは1号窯のみで出土している。3号窯と2号窯からは口頸部のみ出土している。体部の文様の有無によりa・bの2種類に分類できる。横瓶aは体部の閉塞部分に櫛播波状文を施文するもので、1号窯のみで出土している。横瓶bは無文のものである。体部はタタキ成形、カキ目調整を行う。

提瓶は各窯から出土している。体部形態および口縁部形態によりa・bの2種類に分類できる。提瓶aの体部成形時の底部は平坦であり、上方は丸く作りカキ目調整する。1号窯と3号窯から出土している。口頸部は1号窯が外反して口縁部を拡張し、突帯を付けたり、沈線を巡らす。3号窯は外反して口縁部を拡張している。提瓶bの体部成形時の底部は丸みを持っており、全体に扁平である。2号窯のみから出土している。口頸部は直立から内弯気味に立ち上がり、口縁端部は丸く収める。口頸部中央部に沈線を巡らすものもある。

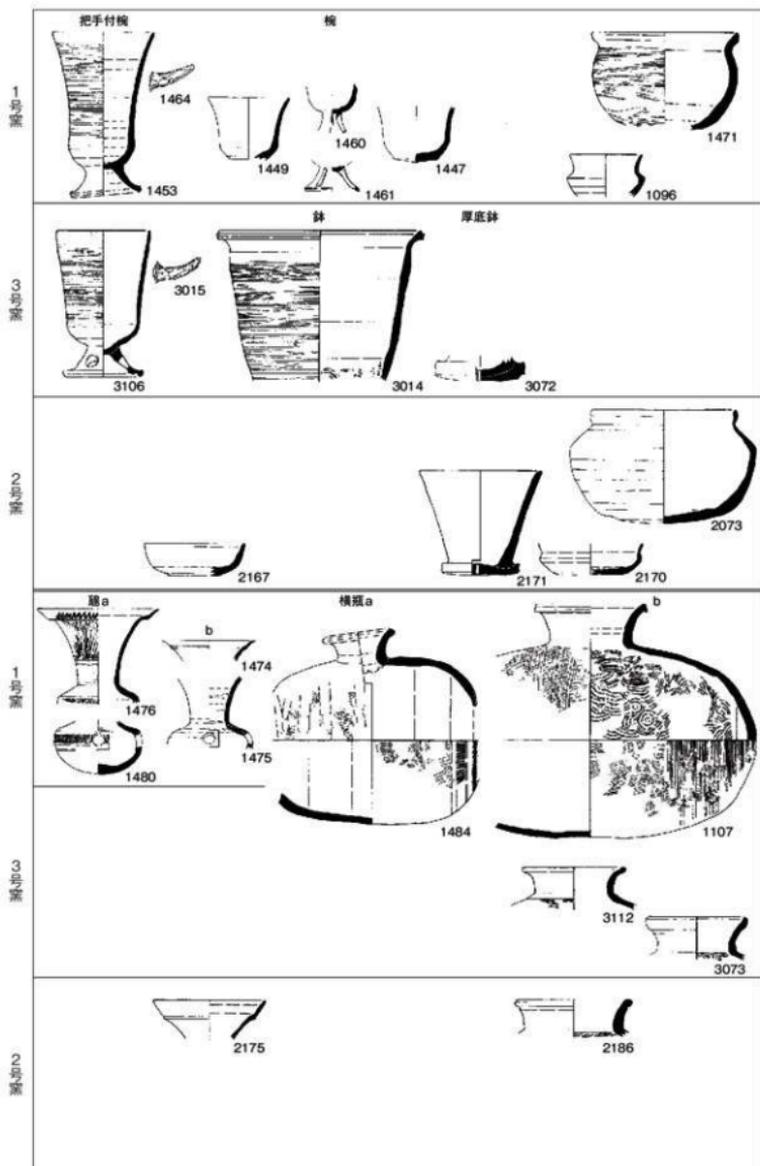
把手は提瓶aの1号窯と3号窯が環状で、提瓶bの2号窯は扁環状あるいは鈎状を呈している。体部の扁平率は1号窯が58%~77%で平均65%で、3号窯が65%である。2号窯が53%であり、扁平率は1号窯・3号窯から2号窯と小さくなっている。

平底瓶は1号窯から1点だけ出土している。体部は提瓶と同じ形態、作り方をしており、口頸部は正位置に付ける。

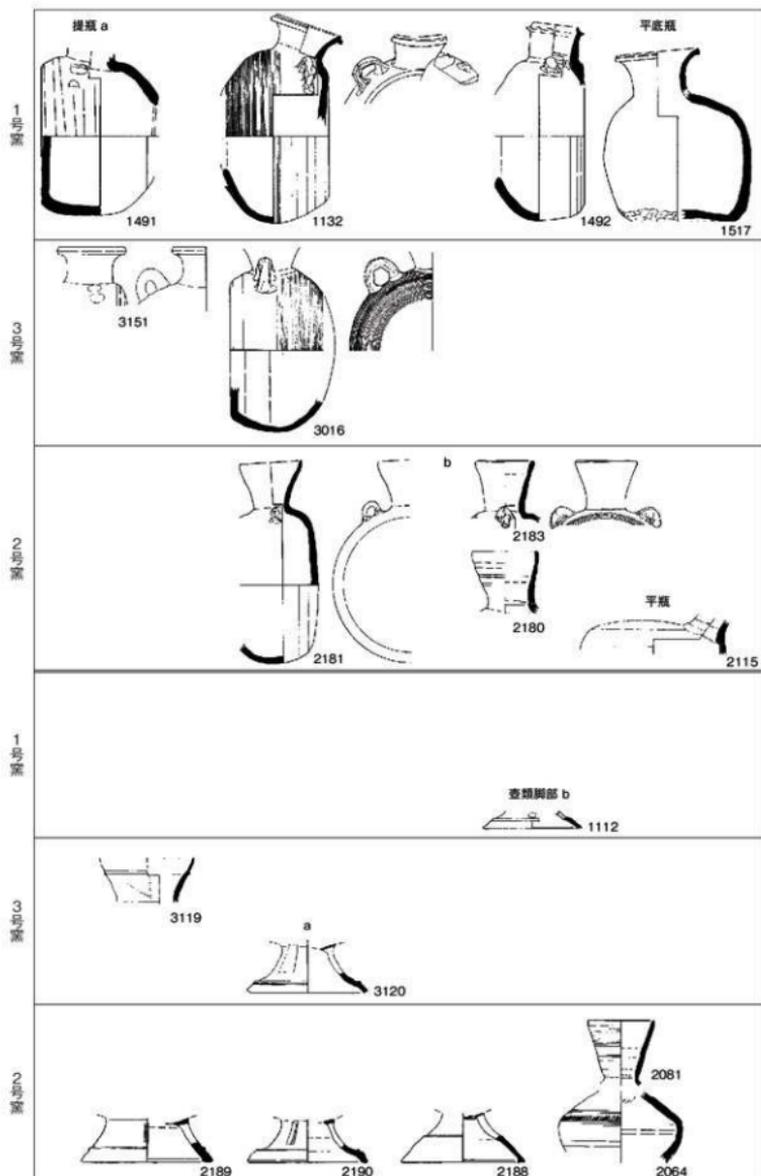
平瓶は2号窯から1点だけ出土している。1号窯と3号窯からは出土していないため、2号窯の時期から新たに出現すると考えられる。体部の一部から口縁部にかけての破片であるため、全体的な様相は不明である。

壺類の脚部は透かし孔の形態でa・bの2種類に分類できる。脚部aは長方形透かしで、透かし孔の数でa4・a3・a2に分類する。四方透かしのa4は2号窯のみ出土している。三方透かしのa3は3号窯と2号窯から出土している。二方透かしのa2が2号窯から出土している。脚部bは円孔透かしをあげるもので、四方透かしで1号窯のみ出土している。脚台を有する器種の比率が1号窯と3号窯に比べて2号窯は高くなる。

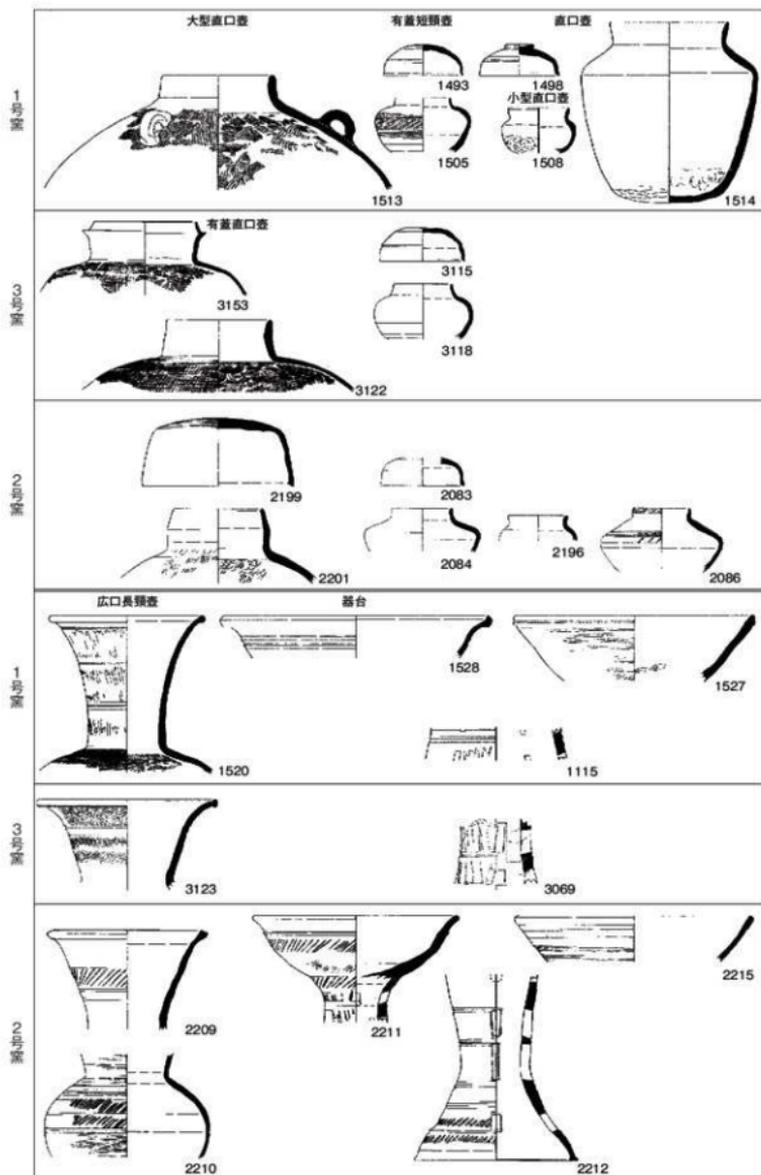
大型直口壺は各窯で出土している。球形の体部に短く直立あるいはやや内傾する口頸部を持つ。体部



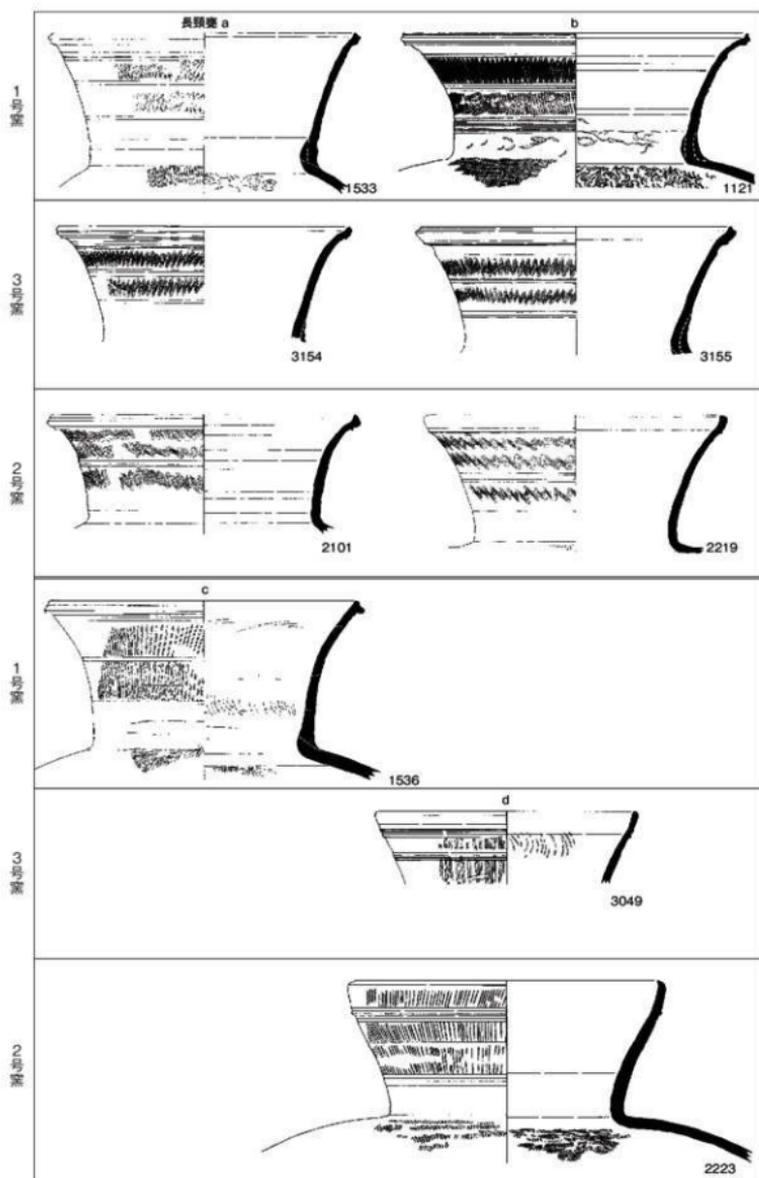
第22回 神野大林窯跡群 鉢・甌・横瓶



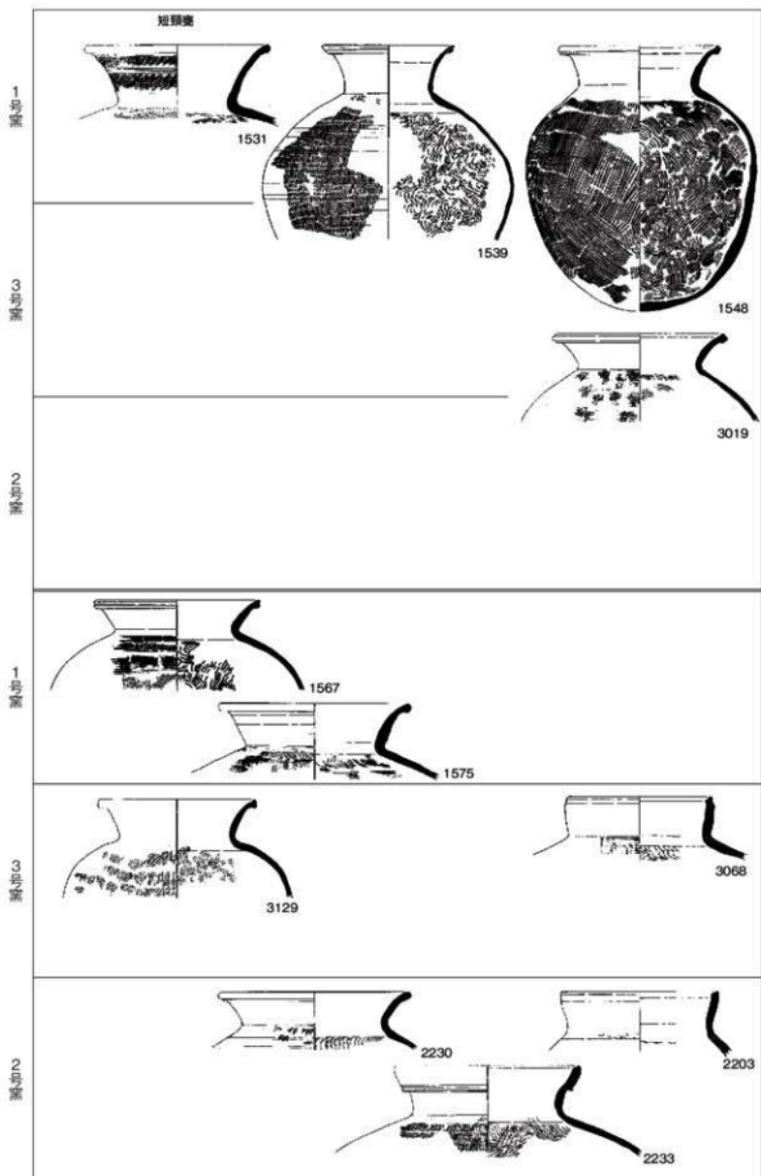
第23図 神野大林窯跡群 提瓶・平底瓶・壺類



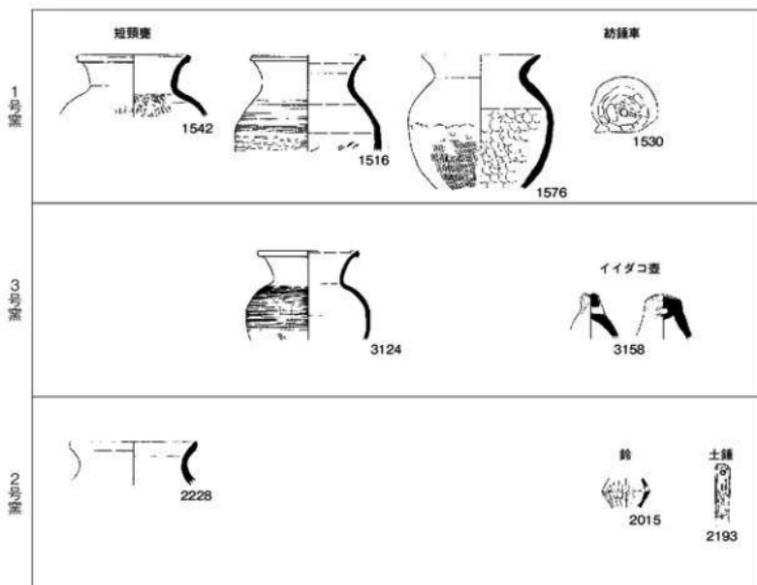
第24図 神野大林窯跡群 直口壺・有蓋短頸壺・広口長頸壺・器台



第25図 神野大林窯跡群 長頸甕



第26図 神野大林窯跡群 短頸甕



第27図 神野大林窯跡群 短頸甕・その他

はタタキ成形で、1号窯のものは肩部に環状の把手を三方向に貼り付ける。

有蓋直口壺は3号窯のみで出土している。斜め上方に開く口頸部に、蓋受けを作り、短く内傾する立ち上がり有する。

小型直口壺は1号窯と3号窯で出土している。扁球形の体部に、外傾する短い頸部を持つ。蓋は伴わない。

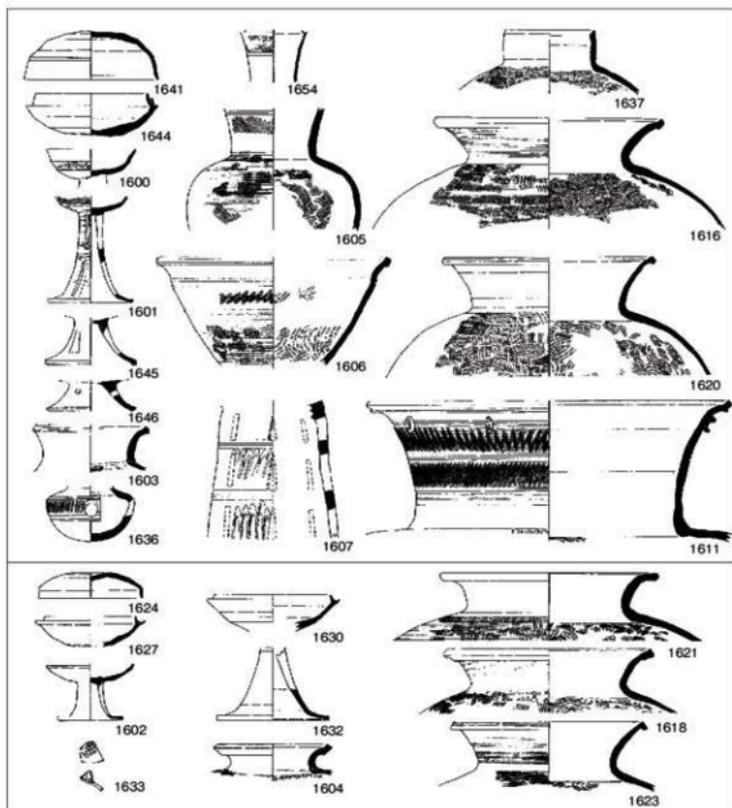
直口壺は1号窯と2号窯のみで出土している。体部は肩に稜を作り、直立する口縁部を持つ。体部は回転ナデ成形で、底部は手持ちケズリを施す丸底気味の平底である。

広口長頸壺は各窯で出土している。球形の体部から外方に大きく開く口頸部を持つ。

器台は各窯で出土している。ただし全容がわかるものは存在しない。

長頸甕は頸部が長く櫛描文を施文する大型の甕である。頸部は沈線により区画し区画内を施文する。多くのものが3段に区画するが4段あるいは2段のものもある。最下段は体部との接合ナデを行うため無文である。文様構成により4種類に分類できる。文様構成aは櫛描波状文のみを施文するもの、文様構成bは櫛描波状文と櫛描列点文を施文するもの、文様構成cは櫛描列点文のみを施文するもの、文様構成dは縦方向の櫛描条線を施文した後、沈線で区画するものである。1号窯は文様構成a・b・cがある。3号窯は文様構成a・dがある。2号窯は文様構成a・c・dがある。

その他の須恵器は容器として焼かれた以外のもので、1号窯では紡錘車、3号窯ではイイダコ壺、2号窯では土鈴と土鍾がある。



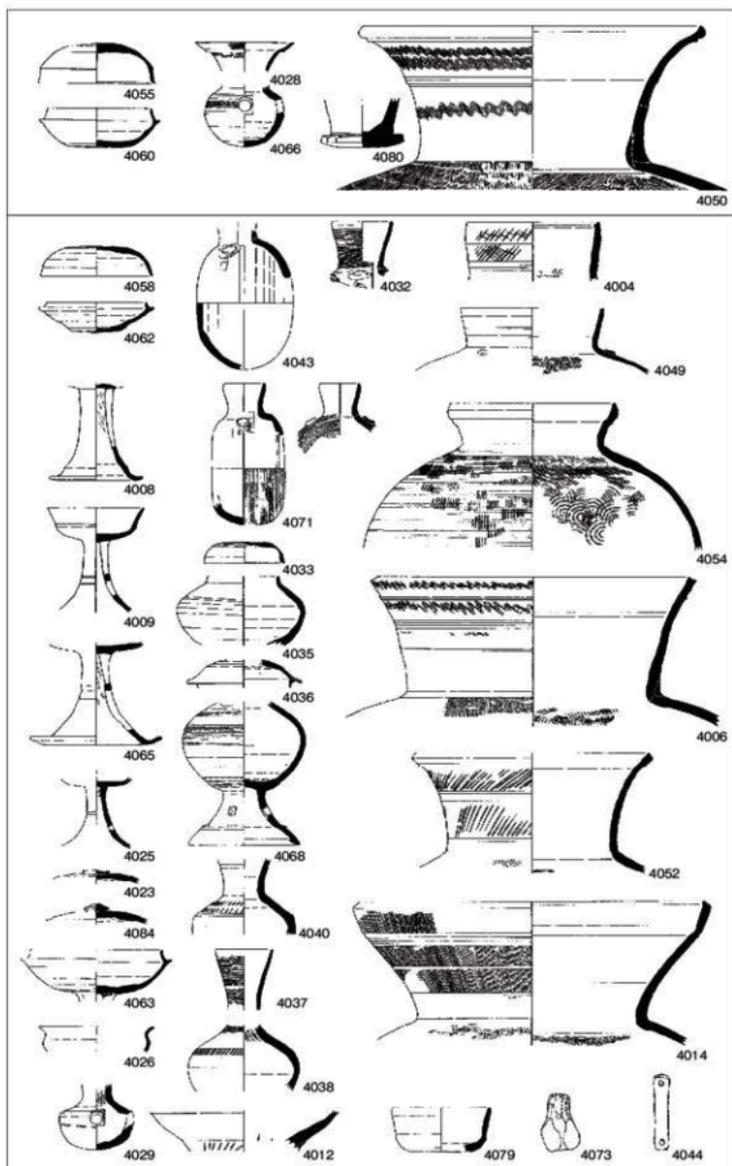
第28図 神野大林窯跡群 流路1 主要須恵器

3. 流路の須恵器

先に検討した各窯で焼成された須恵器の特徴から流路1と流路2から出土した須恵器について位置付ける。

流路1からは坏蓋・坏身・無蓋高坏・有蓋高坏・甕・横瓶・直口壺・有蓋長頸壺・器台・陶片・長頭甕・短頭甕・土錘が出土している。先に神野大林窯跡の各窯から出土した遺物の概要を述べたが、流路1出土の遺物も1号窯の範疇の遺物と1号窯以降の2号窯に相当する時期のものに分離可能である。流路という性格上、層位によって厳密に分かれるものではない。そこで、形式学的に、1号窯に相当する時期の遺物と2号窯に相当する時期のものにと分離した。

1号窯の範疇のものは坏蓋1641、坏身1644、無蓋高坏1600・1601、高坏1645・1646、甕1636、横瓶1603、有蓋長頸壺1654、大型直口壺、広口長頸壺1605、器台1606・1607、長頭甕1611、短頭甕1616・1620などがある。



第29図 神野大林窯跡群 流路2 主要須恵器

2号窯に相当するものは坏蓋1624、坏身1627、無蓋高坏1602、有蓋高坏1630、高坏1632、横瓶1604、提瓶1633、短頸甕1621・1618・1623などがある。

流路2からは坏蓋・坏身・無蓋高坏・高坏蓋・有蓋高坏・椀・外反椀・鉢・厚底鉢・甕・提瓶・密蓋・有蓋短頸甕・長頸甕・大型直口壺・器台・長頸甕・短頸甕・土鍾・斧形が出土している。先に神野大森の各窯から出土した遺物の概要を述べたが、流路2出土の遺物も3号窯の範疇の遺物と2号窯の範疇の遺物とに分離可能である。流路という性格上、層位によって厳密に分かれるものではない。そこで、形式的に、3号窯に相当する時期の遺物と2号窯に相当する時期のものに分離した。

3号窯の範疇のものは坏蓋4055、坏身4060、甕4028・4066、厚底鉢4080、長頸甕4050などがある。

2号窯の範疇のものは坏蓋4058、坏身4062、無蓋高坏4009・4025、高坏蓋4023・4084、有蓋高坏4063、高坏4008・4065、椀4079、甕4029、提瓶4043・4071・4032、壺蓋4033、有蓋短頸甕4035、密蓋4036、長頸甕4068・4040・4037・4038、器台4012、大型直口壺4004、直口甕4049、長頸甕4006・4052・4014、短頸甕4054などがある。また、提瓶4070は1点だけではあるが、タタキ成形をしている。提瓶4071は肩に把手は無く円形浮文を貼り付けている。提瓶の扁平率は50%～75%で平均63%である。

4. 蓋坏の度量

1号窯

1号窯の甕体床面出土の坏蓋の口径は13.8cmから16.1cmで平均15.0cm、器高の平均は4.9cmである。坏身中点の径は15.1cmから15.9cmで平均15.6cm、器高の平均は5.0cmである。

1号窯の甕体壁面出土の坏蓋の口径は14.7cmから15.5cmで平均15.2cm、器高の平均は5.0cmである。坏身中点の径は15.3cmから16.0cmで平均15.9cm、器高の平均は4.6cmである。

1号窯の甕体埋土出土の坏蓋の口径は13.1cmから16.2cmで平均15.2cm、器高の平均は4.9cmである。坏身中点の径は13.9cmから16.5cmで平均14.9cm、器高の平均は4.7cmである。

1号窯の甕体出土の坏蓋の口径は14.7cmから15.5cmで平均15.2cm、器高の平均は5.0cmである。坏身中点の径は15.3cmから16.0cmで平均15.6cm、器高の平均は4.6cmである。

1号窯の焚口出土の坏蓋の口径は14.7cmから16.1cmで平均15.3cm、器高の平均は5.1cmである。坏身中点の径は15.5cmから18.5cmで平均16.6cm、器高の平均は5.1cmである。

1号窯の灰原第1層出土の坏蓋の口径は13.0cmから15.9cmで平均14.6cm、器高の平均は4.6cmである。坏身中点の径は13.8cmから15.9cmで平均14.9cm、器高の平均は4.7cmである。

1号窯の灰原第2層出土の坏蓋の口径は13.5cmから18.6cmで平均14.9cm、器高の平均は4.8cmである。坏身中点の径は13.5cmから18.6cmで平均15.1cm、器高の平均は5.2cmである。

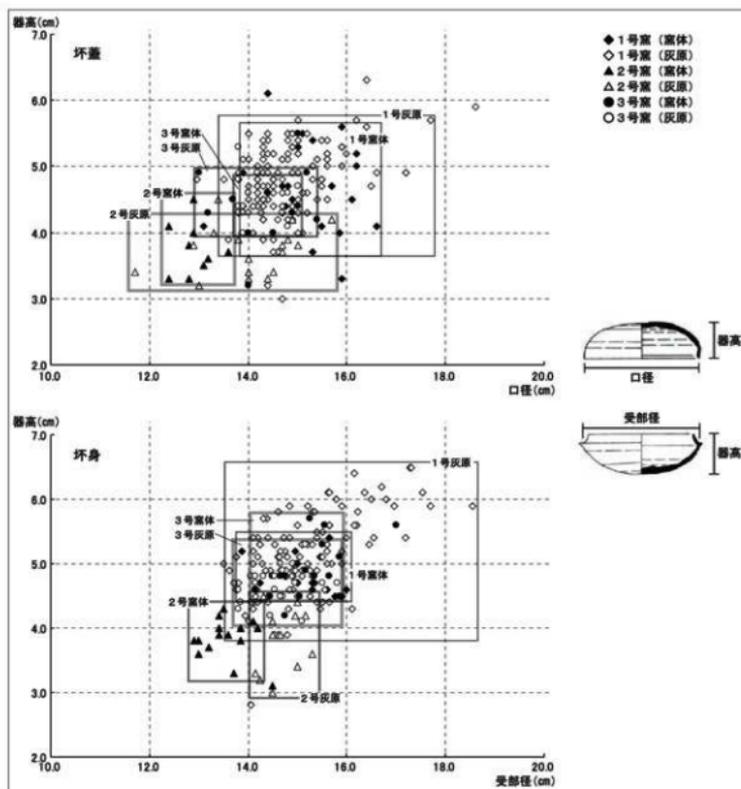
3号窯

3号窯の甕体第1次床面出土の坏蓋の口径は13.0cmから15.2cmで平均14.3cm、器高の平均は4.5cmである。坏身中点の径は14.7cmから17.0cmで平均15.4cm、器高の平均は5.0cmである。

3号窯の甕体第1次・2次床面出土の坏蓋の口径は13.2cmから15.4cmで平均14.3cm、器高の平均は4.2cmである。坏身中点の径は14.2cmから15.9cmで平均15.1cm、器高の平均は4.9cmである。

3号窯の第2次床面出土の坏蓋の口径は13.7cmから15.5cmで平均14.4cm、器高の平均は4.9cmである。坏身は1点だけであり、中点の径は14.4cm、器高は4.8cm以上である。

3号窯の甕体埋土上層出土の坏蓋の口径は13.7cmから15.0cmで平均14.6cm、器高の平均は4.8cmで



第30図 神野大林窯跡群 須恵器蓋環口径比

ある。坏身中点の径は14.5cmから14.9cmで平均14.7cm、器高の平均は4.7cmである。

3号窯の窯体埋土下層出土の坏蓋の口径は14.1cmから15.0cmで平均14.6cm、器高の平均は4.3cmである。坏身中点の径は14.9cmから17.6cmで平均16.2cm、器高の平均は5.7cmである。

3号窯の灰原第Ⅱ層出土の坏蓋の口径は13.8cmから15.0cmで平均14.3cm、器高の平均は4.4cmである。坏身中点の径は13.8cmから15.5cmで平均14.6cm、器高の平均は4.7cmである。

3号窯の灰原第Ⅲ層出土の坏蓋の口径は13.8cmから14.8cmで平均14.2cm、器高の平均は4.6cmである。坏身中点の径は13.8cmから15.8cmで平均14.6cm、器高の平均は4.7cmである。

2号窯

2号窯の第2次窯体床面出土の坏身中点の径は13.3cmから16.1cmで平均14.2cm、器高の平均は3.6cmである。

2号窯の第1次・第2次窯体床面間出土の坏蓋の口径は13.2cmから13.6cmで平均13.4cm、器高の平

均は4.1cmである。坏身中点の径は15.0cmから16.3cmで平均15.5cm、器高の平均は4.5cmである。

2号窯の第1次窯体床面出土の坏蓋の口径は12.5cmから13.6cmで平均12.9cm、器高の平均は4.1cmである。坏身1点だけであり、中点の径は14.4cm、器高は3.6cmである。

2号窯の窯体土上層出土の坏蓋の口径は12.4cmから13.6cmで平均12.9cm、器高の平均は3.6cmである。坏身中点の径は12.9cmから14.5cmで平均13.6cm、器高の平均は3.9cmである。

2号窯の窯体土上層出土の坏蓋の口径は13.0cmから15.2cmで平均14.0cm、器高の平均は3.9cmである。坏身1点だけであり、中点の径は14.1cm、器高は4.1cmである。

2号窯の灰原第1層出土の坏蓋の口径は12.5cmから14.0cmで平均13.3cm、器高の平均は3.7cmである。坏身中点の径は11.6cmから12.8cmで平均12.2cm、器高の平均は3.9cmである。

2号窯の灰原第1・Ⅱ層出土の坏蓋の口径は12.9cmから14.5cmで平均13.8cm、器高の平均は3.6cmである。坏身中点の径は14.2cmから15.2cmで平均14.8cm、器高の平均は4.0cmである。

2号窯の灰原第Ⅱ層出土の坏蓋の口径は11.7cmから15.7cmで平均14.1cm、器高の平均は3.9cmである。坏身中点の径は14.3cmから15.3cmで平均14.6cm、器高の平均は3.7cmである。

流路1

流路1の第Ⅱ層出土の坏蓋の口径は12.8cmから13.4cmで平均13.1cm、器高の平均は3.8cmである。坏身中点の径は13.0cmから14.8cmで平均13.8cm、器高の平均は3.3cmである。

流路2

流路2の3号窯下第Ⅱ層出土の坏蓋の口径は12.8cmから13.6cmで平均13.3cm、器高は不明である。坏身中点の径は13.3cmから16.5cmで平均14.2cm、器高の平均は3.7cmである。

流路2の3号窯下第Ⅲ層出土の坏蓋の口径は13.5cmから14.8cmで平均14.0cm、器高の平均は4.3cmである。坏身中点の径は13.6cmから14.5cmで平均14.2cm、器高の平均は4.2cmである。

以上のように、口径と器高は最大の1号、3号、2号と縮小していくことが判明した。底部の痕跡は、1号・3号が回転ケズリであり、2号は回転ケズリを省略したヘラ切りである。

以上、神野大林窯跡群の遺物について、各窯の機種構成・法量の検討を行ってきた。

機種構成と製作技法および法量から1号窯→3号窯→2号窯の順に変遷したことが読み取れる。

時間的な位置付けは、1号窯は坏身の口縁部が丸く仕上げられ、蓋坏の口径が最大であり、高坏の長脚2段透かしの配置が千鳥のものが存在することなどから、陶邑のTK10型式に平行する時期から操業が開始された。また坏の口径が小さいものも存在し、遺物量も多いことからMT85型式に平行する時期まで継続すると推測される。

3号窯は、坏身内面の段が存在するものが1点存在し、長脚1段四方透かしの高坏も1点存在するが、蓋坏の口径が1号窯の小さい範囲にあることから、MT85型式に平行する時期に位置付けられる。遺物量が少ないことから、2号窯は蓋坏の口径と器高が小さくなり、外面切り難しも回転ケズリを省略して、ヘラ切りのみである。したがって陶邑のTK209型式に平行する時期に位置付けられる。

このことから、神野大林窯跡群の調査を実施した3基の窯は1号窯が操業開始であり、1号窯操業中に、3号窯も操業を開始した。操業終了は1号窯が僅かに早く、続いて3号窯も操業を終了した。しばらく開いて、2号窯が操業を開始した。

今回調査を実施した谷部を流れる流路からも須恵器が出土しているが、今回調査を実施した3基の須恵器窯の範疇であり、この谷に限って言えば、この3基以外の時期の窯は存在しないと考えられる。

第2節 神野大林窯跡群の須恵器坏類内面の痕跡について

須恵器の製作技法のうち、成形時・整形時の痕跡や焼成前に記されたヘラ記号や焼成時の自然軸の状況など、多くの情報がある。ここではこのうち、坏蓋・坏身・高坏蓋・高坏などの坏類の内面に残る痕跡とヘラ記号を検討する。

1. 坏類の内面痕跡

6世紀中頃の須恵器の蓋坏の口径が大きくなる時期は内面に「同心円スタンプ」の痕跡が目立つようになり、植野（植野1983）や江浦（江浦1986）によって具体的に検討され、ヘラ削りの際のシッタ代わりあるいは外面タタキの当て具、器壁の叩き締め・平滑化を目的とした押圧などの多様性が考えられた。

また以前、三田市平方窟で、内面に残る痕跡である内面調整に時期差が現れていることを指摘したが（篠宮1993）、摂津・播磨・和泉の坏内面の検討を行った藤原（藤原2002）は生産地の地域差の違いによるものとの指摘を行った。

このように、坏類内面に残された痕跡は生産地での時期差・地域差を捉える指標となるため、神野大林窯跡群での様相を示し、検討する。

神野大林窯跡群での坏類の内面痕跡には①成形時の回転ナデの痕跡のままのもの（回転ナデ）、②回転ナデの後、同心円押圧の痕跡を残すもの（同心円押圧）、③回転ナデの後、無文押圧の痕跡を残すもの（無文押圧）、④回転ナデの後、布目押圧の痕跡を残すもの（布目押圧）、⑤回転ナデの後、静止ナデの痕跡を残すもの（静止ナデ）に分けられる。

このうち、③の無文押圧と④の布目押圧は従来指摘されていないが、これは微細な痕跡のため、従来は見逃されてきたか、あるいは集落出土の須恵器は使用により痕跡が消えてしまった可能性がある。ただし、現在出土品整理を進めている三木市吉田住山古墳群出土の須恵器蓋坏にも同心円押圧の痕跡とともに、無文押圧の痕跡が存在しているため、見過ごされてきた可能性が高い。

各窟の内面痕跡を見る。

1号窟出土の坏蓋の内面痕跡は内面が観察できるもの203個体のうち、同心円押圧が51.7%、無文押圧が18.2%、静止ナデが7.9%、回転ナデ後未調整のものが7.9%である。1号窟出土の坏身の内面痕跡は内面が観察できるもの159個体のうち、同心円押圧が54.7%、無文押圧が13.2%、静止ナデが11.9%、回転ナデ後未調整のものが7.5%である。

3号窟出土の坏蓋の内面痕跡は内面が観察できるもの43個体のうち、同心円押圧が30.2%、無文押圧が46.5%、静止ナデが4.7%、回転ナデ後未調整のものが14.0%である。3号窟出土の坏身の内面痕跡は内面が観察できるもの41個体のうち、同心円押圧が17.4%、無文押圧が41.3%、静止ナデが17.4%、回転ナデ後未調整のものが19.6%である。

2号窟出土の坏蓋の内面痕跡は内面が観察できるもの39個体のうち、同心円押圧が17.9%、無文押圧が7.7%、静止ナデ痕跡が23.1%、回転ナデ後未調整のものが10.3%である。2号窟出土の坏身の内面痕跡は内面が観察できるもの41個体のうち、同心円押圧が31.7%、無文押圧が2.4%、静止ナデ痕跡が22.0%、回転ナデ後未調整のものが17.0%である。

なお、1号窟・3号窟は坏蓋・坏身ともに回転ナデを行っており、同心円押圧・無文押圧の痕跡が2/3以上存在する。2号窟のヘラ切りのみのものでも同心円押圧・無文押圧の痕跡が1/4程度存在する。

以上、坏類の内面の痕跡は同心円押圧や静止ナデだけではなく、無文押圧などの存在も含めてその残された痕跡から改めて製作技法を検討しなければならないと考える。

2. 坏類の外表面痕跡

坏類外面に残る痕跡は成形後の切り離し痕跡と、切り離し後の整形痕跡がある。またその間に着いたと考えられる痕跡がある。切り離しの痕跡は回転ヘラ切りであるが、回転ヘラ切りには二つの手法がある。一つは、螺旋状の痕跡が残る回転ヘラ切り（ヘラ切りE）で、一つは切り離し面の周囲に回転ケズリ様の痕跡が残るもの（ヘラ切りD）である。この回転ケズリ様の痕跡は佐藤浩司が指摘している（佐藤1989）ように体部成形、ヘラ切り痕跡と同じ回転方向であり、切り離し前に行われている。

切り離し後、ある程度の乾燥を経て裏返しにしてケズリを行う。このとき、据え直して回転を利用しながら削るものを回転ケズリ、回転を利用せずに行うものを不定方向ケズリ（ケズリC）とした。回転ケズリには外面のケズリの範囲が広いものが古く、狭いものが新しいと言われている。今回はこのほかに回転ケズリのうち、外面中央部分にケズリ残しの有無を検討の対象とした。これは中央部まで回転ケズリを行う（ケズリA）とケズリ残しのある粗雑化した回転ケズリ（ケズリB）とがある。ケズリ残しの存在するケズリBのケズリ残し部分には切り離しから回転ケズリの間の乾燥時についてと考えられる平行タタキの痕跡が存在するものがある。

1号窯の坏類の外表面痕跡は坏蓋がケズリAとしたケズリ範囲内の全面を回転ケズリするものは66.5%、ケズリBとしたケズリ残しが存在するものは33.5%で、ケズリAの方が多い。ヘラ切りD・Eとしたヘラ切りのものは全く存在しない。坏身はケズリAとしたケズリ範囲内の全面を回転ケズリするものは60.6%、ケズリBとしたケズリ残しが存在するものは39.4%で、ケズリAの方が多い。ヘラ切りD・Eとしたヘラ切りのものは全く存在しない。

1号窯のケズリBのうち木目痕跡が存在する坏蓋には1148・1233、坏身には1384・1289・1365がある。

3号窯の坏類の外表面痕跡は坏蓋がケズリAとしたケズリ範囲内の全面を回転ケズリするものは66.7%、ケズリBとしたケズリ残しが存在するものは33.3%で、ケズリAの方が多い。ヘラ切りD・Eとしたヘラ切りのものは全く存在しない。坏身はケズリAとしたケズリ範囲内の全面を回転ケズリするものは69.0%、ケズリBとしたケズリ残しが存在するものは31.0%で、ケズリAの方が多い。ヘラ切りD・Eとしたヘラ切りのものは全く存在しない。

3号窯のケズリBのうち木目痕跡が存在する坏蓋には3036・3060、坏身には3024・3044がある。

2号窯の坏類の外表面痕跡は坏蓋がケズリAとしたケズリ範囲内の全面を回転ケズリするものは10.8%、ケズリBとしたケズリ残しが存在するものは2.7%で、ヘラ切りDとした切り離し面の周囲に回転ケズリ様の痕跡が残るものは13.5%で、ヘラ切りEとした螺旋状の痕跡が残るものは73.0%であり、回転ケズリ13.5%に対して、ヘラ切り86.5%とヘラ切りが主流である。坏身はケズリAとしたケズリ範囲内の全面を回転ケズリするものは17.5%、ケズリBとしたケズリ残しが存在するものは5.0%で、ヘラ切りDとした切り離し面の周囲に回転ケズリ様の痕跡が残るものは37.5%で、ヘラ切りEとした螺旋状の痕跡が残るものは40.0%であり、回転ケズリ22.5%に対して、ヘラ切り77.5%とヘラ切りが主流である。

3. 坏類の外表面痕跡と内表面痕跡の関係

先に、分類検討した外表面痕跡と内表面痕跡との関係を見る。

1号窯の坏蓋と坏身の外表面痕跡は先に詳述したとおり、すべての個体で回転ケズリ(ケズリA・ケズリB)を行っている。これに対する内表面痕跡は同心円押圧53%、無文押圧6%、布目状押圧1%、静止ナデ9%、回転ナデ痕跡7%であり、同心円押圧と無文押圧と布目状押圧の圧痕が残っている割合は70%と非常に高い。

3号窯の坏類の外表面痕跡は1号窯と同様に、すべての個体で回転ケズリ(ケズリA・ケズリB)を行っている。これに対する内表面痕跡は同心円押圧22%、無文押圧45%、布目状押圧0%、静止ナデ9%、回転ナデ痕跡16%であり、同心円押圧と無文押圧と布目状押圧の圧痕が残っている割合は67%と非常に高い。

2号窯の坏類の外表面痕跡はヘラ切りDとヘラ切りEであるが内表面痕跡は同心円押圧20%、無文押圧5%、静止ナデ23%、回転ナデ痕跡14%であり、静止ナデと回転ナデ痕跡が残っている割合は37%と高いが同心円押圧と無文押圧も25%存在する。

以上1号窯・3号窯は外面が回転ケズリで内面は同心円押圧と無文押圧が主体を占め、2号窯は外面がヘラ切りで内面は回転ナデ、静止ナデが主流を占めるが、同心円押圧、無文押圧も残る。

4. 坏類のヘラ記号

神野大林窯跡群から出土しているヘラ記号は坏蓋・坏身が一番多く、他に甕などにも少量存在する。通常の実測では完形のものを中心に実測を行っているが、ヘラ記号の抽出は細片も含めて行っているため、ヘラ記号が記される割合は統計的には不明である。ただし、記号の種類相互の比率は坏蓋・坏身のヘラ記号を検討するとヘラ記号の種類は「×」「-」が殆どであり、複数の線を描いたその他とがある。

1号窯のヘラ記号は坏蓋が「×」が5.9%、「-」が11.8%、そのほかが2.0%である。坏身が「×」が5.0%、「-」が5.7%、そのほかが0.6%である。

3号窯のヘラ記号は「-」のみで坏蓋が9.3%、坏身は2.2%のみである。

2号窯のヘラ記号は坏蓋はなく坏身は「×」のみで4.9%である。

註

明石市教育委員会 1990『赤根川・金ヶ崎窯-昭和63年度発掘調査概報-』

植野浩三 1983『須恵器蓋杯の製作技術』『文化財学報』第二集 奈良大学文学部文化財学科

江浦 洋 1986『同心円文スタンプを有する須恵器蓋杯の製作技術』『鴨谷池遺跡』明石市教育委員会

佐藤浩司 1989『古墳時代須恵器蓋杯の研究(1)-製作技術と法量変化から見た須恵器生産の画期について-』『研究紀要』第3号 財団法人北九州教育文化事業団埋蔵文化財調査室

佐藤は「体部との境を一周のみ回転ヘラケズリして、いっきにヘラ切り離しを行う手法」を「回転ヘラケズリ」としているが、「ケズリ」は切り離し後、ある程度の乾燥を経て裏返して行うものなので、これは切り離しの一つの技法であるから、ここでは「ヘラ切りD」とした。

篠宮 正 1993『古墳時代』『北摂ニュータウン内遺跡調査報告書Ⅲ』兵庫県教育委員会

藤原 学 2002『群集墳と群集窯-八十塚古墳群出土須恵器と周辺の生産地の関連から-』『八十塚古墳群の研究』関西大学考古学研究室

第3節 神野大林窯跡群の窯体構造の特徴について

1. 窯体外施設

前庭部の形成土

窯体の構築時に掘削した土は焚口前の前庭部の形成土に利用される。1号窯ではその痕跡がよく残されており、図版101に示した27層と29層が該当する。また、下層の28層および30層は旧表土層である可能性が高い。27層と29層は灰層31・32によって分断されているが、本来は連続した層であり、焚口の前面にテラス状の広い前庭部を形成していたと思われる。

前庭部前土坑

今回発見された3基はいずれも前庭部を大きく掘り下げたという形態をとっているのが特徴である。掘り下げの理由および効果は以下の通りと考える。

- ① 窯の構築後も窯の焚口の閉塞・窯天井部内壁の修復等に絶えず相当量の土を必要とする。こうした土の確保にあたっては、新たに斜面の一部を取り崩して採取するか、窯の構築時に発生した土を利用する。当該窯跡群における前庭部前土坑の存在は第1次的にはこうした必要土の採取の結果によるものと考えられる。
- ② 上記の採土は窯体左右の斜面を切り崩して行われることが多く、当該窯跡群においてもその痕跡が1号窯・3号窯に認められるが、焚口前を大きく掘り込む例は他ではあまり見かけない。前庭部における土坑の存在は第1次的には採土による結果と考えるが、副次的に、焚口の高さと作業時の目線が同じ位置となり、投薪や窯内の焼成状況の確認行為が容易になる効果をもたらしている。また、これは、窯体左右に存在したであろう作業路への接続を示唆するもので、土坑が作業場および作業路としての役割を果たしていたと見なしてよい。

2. 窯体構造

焚口

3号窯は焚口が「ハ」の字状に開く。このタイプの焚口の多くは開いた部分までが被熱酸化するのが特徴である。こうした現象については焚口外であふりを行ったとする考えや澳（おき）の掻き出しによるものとする考えなどが示されているが、結論は見い出されていない。このタイプの焚口での「ハ」の字の開き方はゆるやかで、それほど強い熱を受けていないのが一般的である。3号窯の場合はほぼ直角に近い角度で開き、強く被熱硬化しているのが特徴であり、このような痕跡を残す窯例は管見では例がない。3号窯の被熱の範囲を見ると、焚口の両端部から前庭部側へ半楕円状に被熱範囲が広がり、その外側を灰の堆積が取り巻いている（写真図版29参照）。この残存痕跡と被熱硬化の強さからみて外側に仮設の袋状の焚口が存在したかのような印象を受けるが、確証はない。ただ、3号窯の左右の焚口には炭化杭が発見されており、仮設の天井が存在したことはほぼ確実である。

排煙部

排煙部については各窯とも残存していないのでその形状を知ることができないが、1号窯については、窯体先端部の外側平坦面に被熱酸化の広がり認められることから、排煙口は上向きではなく恐らくは横向きに近い形で設けられていたものと考えられる。また、3号窯の排煙部については図版21の縦断面では、奥壁が存在するように見えるが、これは破壊を受けているため、本来の排煙部の床面の傾斜は1

号窯と同様にゆるやかに弧を描いて立ち上がるものと思われる。左記のように3号窯の排煙部は床面に至るまで大きく破壊を受けているが、埋土層を見る限り、破壊は後世の攪乱によるものではない。破壊は窯操業段階に恐らくは意図的に行われたものと考えられる。すなわち、最終操業時に排煙部の天井を取り除き、製品の取り出しを行ったと思われる、床面の破壊痕跡がステップ状になっているのは、取り出し時の足場確保の痕跡と理解したい。排煙部からの製品の出し入れについては、いくつかの例が報告されている。

3. 窯体の構築痕跡

架構痕跡

窯体の天井架構にかかるビットが、1号窯では主軸線上に、2号窯では主軸線上と左右の側壁沿いに検出されている。この違いは半地下式構造と地上式構造の窯構造の違いを示している。すなわち半地下式構造の1号窯における主軸線上のビットは構築時に架構天井の構造材を支える支保工材を据えるために掘られたビットである。これに対して2号窯は側壁の残存高の低さからみて明らかに地上式窯構造であり、左右のビットは地上式窯の構造材のビット、主軸線上のビットは1号窯と同じく構造材を支える支保工材のビットである。地上式窯の構造材のビットは一直線に並ぶのが特徴である。

補修痕跡

1号窯ではC断面に補修の痕跡を残す。1号窯の側壁の還元部は少なくとも3枚認められる。このうち当初の側壁部は地山が還元したもので、あとの2枚は粘土の貼り付けによるものである。従来、この種の壁の還元部の枚数の重なりは側壁の補修と見なされているが、実際は補修天井を支えるために下からアーチ状に塗り上げたもので、側壁の補修痕ではなく天井補修にかかわる痕跡と見なした方が適切である。また、3号窯の窯体先端部右側壁内に坯蓋の塗り込めが検出されている。操業当初の側壁面上端部から検出されたもので、その位置は天井部と側壁の境付近にあたる。このような製品の塗り込め行為は天井境の補強にあると考える。窯の還元実験の経験では、焼結壁の上での補強粘土の貼り付けはきわめて難しく、そのうえ、水を含んだ粘土は厚く塗れば塗るほど自重で落下しやすい。ところが、下地粘土のうえに土器などを貼り付け、さらにその上を粘土で覆えば、土器片が繋ぎの役割を果たすうえに、厚みも増し、自重も緩和される。坯蓋のような内部に空間をもつものは立体的な厚みと軽さにおいてより有効である。

4. 窯体構造の変化について (図版8)

窯の操業年代は遺物の検討から1号窯、3号窯、2号窯の順となる。それでは窯の形態や構造はどうか。結論を先にいえば、窯体についても、遺物の年代検討の結果と齟齬はない。まず、窯体規模については、1号窯から3号窯、2号窯へと規模の縮小化が認められる。また、窯構造については1号窯が半地下式であるのに対して最も新しい2号窯では地上式構造となっている。地上式構造の窯は平安時代の播磨の窯構造を特徴づけるものではあるが、それにつながるものではない。古墳時代の窯で地上式窯構造をもつものは、陶邑古窯址群中のON222号窯、ON22-1号窯などがあるが、数は少なく、一過性の窯構造例の1つとしてみなしてよい。

なお、3号窯については、胴張りの平面プラン、支保工ビットを有しない点、焚口の形態など1号窯や2号窯とはいくつかの点で異なる特徴を有しているが、窯の構造形態については、1号窯や2号窯と異なる系譜をもつのかどうかは今のところ判断できない。

別表1 神野大木窟跡群遺物一覽(1)

遺物ID	発掘年度	発見位置	種類	素材	用途	場所	層	法量(cm)						奥行き	Dの中心	内面調整	環境	開口部	遺物ID	
								口径	厚さ	底径	長さ	幅	厚さ							重量(g)
1011	28	45	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	13.9		4.9*									0627	
1012	28	45	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	15.0		5.3				底 E	磨石ナサ	底 E			0628	
1013	28	45	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	15.7		4.7*				底 E	-	底 E			0606	
1014	28	45	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	15.1		5.5				底 E	同心円跡	底 E			0607	
1015	28	45	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	12.8		4.8				底 E	無文跡	底 E			0605	
1016	28	45	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	16.3		4.5*				底 E	同心円跡	底 E			0622	
1017	28	45	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.8		4.4				底 E	同心円跡	底 E			0529	
1018	28	45	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	15.3		5.7*				底 E	-	底 E			0650	
1019	28	45	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	15.9		5.2*				底 E	-	底 E			0601	
1020	28	45	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.9		4.5				底 E	同心円跡	底 E			0624	
1011	28	45	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	15.8	15.7	5.4				底 E	凹ノナサ				0604	
1012	28	45	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	13.9	15.8	4.5*				底 E	-				0658	
1013	28-96	45-100	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	12.9	15.1	5.3			286.5	底 E	同心円跡				0604	
1014	28-96		底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.8	15.9	4.5				底 E	同心円跡				0623	
1015	28	45	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	13.2	15.4	4.7				-	-	同心円跡			0625	
1016	28	45	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土			3.7*	112.6)			-	-	-			0325	
1017	28	45	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土					(2.9)	(1.7)	1.1					0558	
1018	28	46	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	15.5		5.4				底 E	凹ノナサ	底 E			0602	
1019	28	46	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.7		4.7				底 E	無文跡	底 E			0611	
1020	28	46	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	15.5		4.8				底 E	無文跡	底 E			0625	
1021	28-63		底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	15.3		5.0				底 E	無文跡	底 E			0622	
1022	28	46	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	13.7	16.6	4.6				底 E	-				0519	
1023	28-96	46-100	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	13.1	15.3	4.6			251.6	底 E	-	凹ノナサ			0604	
1024	28	46	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	13.3	15.6	4.6				底 E	-				0620	
1025	28	46	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土			7.0*	(8.1)								0606	
1026	28	46	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土			2.1*	(9.9)								0607	
1027	28	46	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土			3.0*	(10.4)								0608	
1028	28	46	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.9		3.5*									0529	
1029	28	46	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土			6.9*	7.6*	1.7*	72.6						0642	
1030	28	46	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.9		4.1				底 E	無文跡	底 E			0623	
1031	28	46	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	12.1	12.9	4.4				底 E	同心円跡				0622	
1032	28	46	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	12.2	14.4	4.2				-	-				0611	
1033	28	46	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.7	16.5	4.6				底 E	同心円跡				0620	
1034	28	46	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.4		4.7*				底 E	無文跡				0564	
1035	29	47	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.8		4.1				底 E	同心円跡	底 E			0614	
1036	29	47	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.8		4.7				底 E	凹ノナサ	底 E			0645	
1037	29	47	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	15.9		5.6				底 E	同心円跡	底 E			0644	
1038	29	47	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	16.2		5.2				底 E	-	底 E			0622	
1039	29	47	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	15.5		4.1				底 E	同心円跡	底 E			0605	
1040	29	47	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	16.6		4.1*				底 E	-	底 E			0651	
1041	29	47	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	15.9		4.0*				底 E	同心円跡	底 E			0620	
1042	29-94	47-98	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	16.2		5.0				底 E	同心円跡	底 E			0622	
1043	29	47	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.9		4.4				底 E	同心円跡	底 E			0636	
1044	29	47	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	13.1		4.1*				底 E	-	底 E			0640	
1045	29-94	47	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.5		4.8				底 E	同心円跡	底 E			0646	
1046	29	47	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.4		4.5				底 E	同心円跡	底 E			0607	
1047	29	48	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	15.7	15.5	5.1				底 E	無文跡				0647	
1048	29	47	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	12.3	12.3	4.5				底 E	同心円跡				0648	
1049	29	48	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	11.6	12.9	5.2				底 E	同心円跡	底 E			0649	
1050	29	47	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	12.6	15.0	5.2				底 E	同心円跡				0649	
1051	29	48	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	12.0	14.3	4.7				底 E	-				0642	
1052	29	48	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	13.0	15.3	4.7				底 E	-				0643	
1053	29	48	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土			2.0*									0646	
1054	29	48	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	15.0		5.4				底 E	同心円跡	底 E			0646	
1055	29	48	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	16.1		5.4				底 E	同心円跡	底 E			0611	
1056	29	48	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.7		4.6				底 E	-	底 E			0613	
1057	29	48	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.1	16.4	5.3				底 E	同心円跡				0614	
1058	29	48	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	12.9	15.0	4.7				底 E	-				0615	
1059	29	48	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.3	16.5	5.2				底 E	同心円跡				0600	
1060	29	48	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	16.7		5.2*				底 E	同心円跡				0612	
1061	30	49	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	15.9		5.0				底 E	同心円跡	底 E			0528	
1062	30	49	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	15.6		5.4				底 E	磨石ナサ	底 E			0297	
1063	30	49	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.3		4.2				底 E	同心円跡	底 E			0298	
1064	30	49	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.7		4.6				底 E	同心円跡	底 E			0424	
1065	30	49	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.4		4.6				底 E	磨石ナサ	底 E			0425	
1066	30	49	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.5		3.9				底 E	同心円跡	底 E			0423	
1067	30	49	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	14.2		4.8				底 E	無文跡-磨石ナサ	底 E			0426	
1068	30	49	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	15.0		4.3				底 E	同心円跡	底 E			0621	
1069	30	49	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	13.0		4.8			222.0	底 E	無文跡	底 E			0622	
1070	30	49	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土			5.4				底 E	-	無文跡	底 E		0299	
1071	30-93	48	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土			1.2*				底 E	磨石ナサ	-	-	-	0680	
1072	30	48	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土			1.4*				底 E	無文跡	-	-	-	0457	
1073	30	48	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土			2.5*				底 E	凹ノナサ	-	-	-	0436	
1074	30	48	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土							底 E	有目状跡	-	-	-	0429	
1075	30-93	48	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土							底 E	凹ノナサ	-	-	-	0435	
1076	30	50	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	12.4	14.2	4.5				底 E	同心円跡				0630	
1077	30	50	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	12.7	13.9	5.0				底 E	同心円跡				0630	
1078	30-96	50-95	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	12.1	13.8	4.6			256.8	底 E	同心円跡				0625	
1079	30		底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	12.8	14.9	4.8				底 E	同心円跡				0627	
1080	30	101	底意部	埴土	埴土	埴土	埴土	13.3	15.4	4.4				底 E	凹ノナサ				0628	

別表1 神野大林富跡群遺物一覧(2)

遺物 種類	調査 年度	発見 位置	種別	材質	用途	場所	層	法量(cm)							出土 位置	出土 状況	保存 状況	備考	
								口径	最大 径	底径	高さ	幅	厚さ	重量(g)					
1391	30		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	12.5	14.8	4.8								0328	
1392	30		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	12.8	15.4	4.4*								0324	
1393	30		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	13.9	15.7	5.0								0425	
1394	30		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	11.8	13.8	4.6								0325	
1395	30		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	11.8	14.4	4.5								0422	
1396	30	30	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	12.1	15.0	4.7								0321	
1397	30		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	12.2	15.0	4.6								0318	
1398	30		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	13.5	15.3	4.9								0329	
1399	30	50	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	12.7	14.8	4.8								0317	
1400	30	49	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層			1.3*							×	0454	
1401	30-90	49	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層											×	0438
1402	31	50	須恵器	釉薬	1号器	瓦葺	第1層	11.9		4.9*								0313	
1403	31	50	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層			1.6*	11.8*							0009	
1404	31	50	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	13.4		5.1								0323	
1405	31	50	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	-		3.7*								0428	
1406	31	50	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	18.7		5.1*								0394	
1407	31	50	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	18.7		3.8*								0360	
1408	31	50	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	18.9		8.0*								0390	
1409	31	50	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	-		6.1*								0362	
1410	31	50	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	15.3		15.4*								0377	
1411	31	50	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層											0365	
1412	31	50	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層											0361	
1413	31	50	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層											0363	
1414	31	50	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層											0327	
1415	31	51	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	40.2		19.0*								0426	
1416	31	51	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	40.2		19.0*								0426	
1417	32	54	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	40.7		19.7*								0420	
1418	32	54	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	41.9		19.8*								0446	
1419	32-97	52	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	40.2		61.9*								0458	
1420	32-97	53	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層			7.2*								0354	
1421	32-97	53	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	41.2		30.3*								0328	
1422	33	34	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	143.1		5.8*								0448	
1423	34-97	53-04	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	38.4		82.6*								0471	
1424	34		須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	22.1		4.8*								0443	
1425	34	54	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	26.8		6.9*								0394	
1426	34		須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	25.5		7.2*								0465	
1427	30-97		須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	22.1		40.0*								0327	
1428	35-68	54	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	25.6		14.6*								0477	
1429	35	52	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	12.2	15.8	5.1								0456	
1430	35	52	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	-		6.2*	9.6							0237	
1431	35	55	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	-		10.2*	15.3							0398	
1432	35	55	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	8.0		25.4								0411	
1433	35	55	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	15.7		4.1*								0400	
1434	35	55	須恵器	高坪	1号器	瓦葺	第1層	119.4		10.2*								0421	
1435	36-94	91-92	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	118.6		5.9								0347	
1436	36	56	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	18.4		6.3								0424	
1437	36-94	91-93	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	16.2		5.7								0350	
1438	36		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	17.7		5.7								0335	
1439	36		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	17.2		4.9								0341	
1440	36	56-91	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	16.6		4.9								0343	
1441	36		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	16.0		5.2								0319	
1442	36		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	15.9		5.3								0446	
1443	36		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	14.5		5.4								0448	
1444	36	90	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	15.3		5.0								0429	
1445	36		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	15.0		5.7								0349	
1446	36		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	14.0		5.3								0339	
1447	36		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	14.9		5.3								0440	
1448	36-94	90-91	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	14.8		5.5								0404	
1449	36		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	14.2		5.0								0465	
1450	36	36-90	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	14.2		4.9								0342	
1451	36		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	15.6		5.2								0424	
1452	36		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	15.2		5.5								0334	
1453	36		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	14.1		4.0								0324	
1454	36		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	14.4		5.5								0354	
1455	36-94	92	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	14.2		4.4								0362	
1456	36		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	14.0		5.1								0329	
1457	36		須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	14.3		5.1								0358	
1458	36-94	93	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	14.3		5.2								0400	
1459	36-94	36-92	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	14.2		4.7								0345	
1460	36	56	須恵器	埴土	1号器	瓦葺	第1層	14.9		4.4								0410	

別表1 神野大木窟跡群遺物一覽(3)

調査年度	調査地点	発見位置	種別	種類	遺域	場所	層	法量(cm)								奥行き(土台)	Dの最大径	内容物	環境	土台形状	調査者
								口径	縁の立ち高	縁高	底径	長さ	幅	厚み	重量(g)						
1191	39-64	90	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.4	4.3						陶A	右	陶心内側	瓦	瓦	0271	
1192	39-64	56	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.2	4.7						陶A	右	陶心内側	瓦	瓦	0158	
1193	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.0	4.7						陶B	右	陶心内側	瓦	瓦	0162	
1194	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.4	5.4						陶A	右	陶心内側	瓦	瓦	0153	
1195	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.6	5.0						陶B	右	凹凹十字	瓦	瓦	0272	
1196	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.4	5.2						陶A	右	陶心内側	瓦	瓦	0285	
1197	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.5	4.4						陶A	右	陶心内側	瓦	瓦	0262	
1198	39-64	56-60-92	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.7	4.8						陶B	右	陶心内側	瓦	瓦	0151	
1199	39-64	94	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.4	4.6						陶B	左	陶心内側	瓦	瓦	0287	
1170	39	56	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.3	4.4						陶A	左	無支辨	瓦	瓦	0403	
1171	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.2	4.8						陶A	右	陶心内側	瓦	瓦	0266	
1172	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.2	4.3						陶B	右	陶心内側	瓦	瓦	0266	
1173	37-64	92	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.9	4.2						陶B	右	陶心内側	瓦	瓦	0409	
1174	37	56	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.0	4.5						陶A	右	無支辨	瓦	瓦	0270	
1175	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.7	4.3						陶A	左	陶心内側	瓦	瓦	0159	
1176	37-64	56-87	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.6	3.7						陶A	右	陶心内側	瓦	瓦	0152	
1177	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.5	4.6						陶A	左	陶心内側	瓦	瓦	0121	
1178	37-64	37-90-91	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.3	5.4						陶A	-	無支辨	瓦	瓦	0162	
1179	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.3	4.9						陶A	左	無支辨	瓦	瓦	0301	
1180	37	57	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.0	4.5						陶B	右	無支辨	瓦	瓦	0278	
1181	37-64	37-49	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.4	3.8						陶A	右	陶心内側	瓦	瓦	0136	
1182	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.9	5.3						陶B	右	墨土十字	瓦	瓦	0208	
1183	37	57	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.6	5.1						陶A	右	凹凹十字	瓦	瓦	0144	
1184	37-64	94	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.1	4.0						陶A	左	無支辨	瓦	瓦	0168	
1185	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.9	5.3						陶A	右	陶心内側	瓦	瓦	0123	
1186	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.8	5.5						陶B	右	陶心内側	瓦	瓦	0212	
1187	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.7	5.1						陶A	左	無支辨	瓦	瓦	0142	
1188	37-64	94	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.6	4.9						陶B	左	無支辨	瓦	瓦	0304	
1189	37-64	94	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.5	3.7						陶B	右	陶心内側	瓦	瓦	0159	
1190	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.3	3.9						陶B	左	陶心内側	瓦	瓦	0205	
1191	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.1	4.4						陶A	左	陶心内側	瓦	瓦	0120	
1192	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	13.9	4.4						陶B	左	凹凹十字	瓦	瓦	0138	
1193	37-64	37-93	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	13.8	4.9						陶A	右	陶心内側	瓦	瓦	0167	
1194	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	13.6	5.1						陶A	左	墨土十字	瓦	瓦	0129	
1195	37-64	93	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	13.3	4.8						陶A	左	陶心内側	瓦	瓦	0265	
1196	37	91	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	13.0	5.4						陶B	右	墨土十字	瓦	瓦	0126	
1197	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.9	5.5						陶B	左	陶心内側	瓦	瓦	0137	
1198	37-64	37-84	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.4	5.2						陶A	左	陶心内側	瓦	瓦	0161	
1199	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.3	4.9						陶A	右	陶心内側	瓦	瓦	0284	
1200	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.3	4.5						陶A	左	陶心内側	瓦	瓦	0269	
1201	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.2	4.4						陶B	右	墨土十字	瓦	瓦	0283	
1202	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.0	5.5						陶A	左	陶心内側	瓦	瓦	0314	
1203	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	13.8	4.3						陶B	右	陶心内側	瓦	瓦	0166	
1204	37	57	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.0	4.0						283.3	陶A	左	墨土十字	瓦	瓦	0147
1205	37-64	37-86	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.0	5.2						陶B	右	陶心内側	瓦	瓦	0144	
1206	37		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.8	5.2						陶A	左	陶心内側	瓦	瓦	0189	
1207	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.7	4.4						陶B	右	陶心内側	瓦	瓦	0313	
1208	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.6	4.2						陶A	左	陶心内側	瓦	瓦	0267	
1209	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.5	4.4						陶A	左	陶心内側	瓦	瓦	0122	
1210	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.5	4.8						陶A	右	陶心内側	瓦	瓦	0279	
1211	39-64	37-93	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.5	4.7						陶A	右	陶心内側	瓦	瓦	0268	
1212	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.3	4.5						陶B	左	陶心内側	瓦	瓦	0267	
1213	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.2	4.6						陶A	右	陶心内側	瓦	瓦	0264	
1214	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.4	4.6*						陶A	右	凹凹十字	瓦	瓦	0401	
1215	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.3	4.5						陶B	左	陶心内側	瓦	瓦	0124	
1216	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.2	4.7						陶A	右	陶心内側	瓦	瓦	0266	
1217	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	13.9	5.1						陶A	左	-	瓦	瓦	0141	
1218	39-64	37-89	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.0	4.9						陶A	右	陶心内側	瓦	瓦	0212	
1219	39-65	37-87	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.5	5.2						284.4	陶B	右	陶心内側	瓦	瓦	0125
1220	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.4	4.7						陶A	左	陶心内側	瓦	瓦	0117	
1221	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.6	4.5						陶A	左	陶心内側	瓦	瓦	0303	
1222	39-65	37-94	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.5	4.7						陶B	左	陶心内側	瓦	瓦	0263	
1223	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.2	4.6						陶B	右	無支辨	瓦	瓦	0123	
1224	39	58	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.8	5.4						陶B	右	墨土十字	瓦	瓦	0130	
1225	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.8	5.1						陶B	左	陶心内側	瓦	瓦	0126	
1226	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.4	3.2						陶B	左	無支辨	瓦	瓦	0277	
1227	39-65	92	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.3*	4.3						-	右	陶心内側	瓦	瓦	0282	
1228	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.3	4.7						陶A	左	陶心内側	瓦	瓦	0223	
1229	39	58	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	13.6	3.9						陶A	右	凹凹十字	瓦	瓦	0129	
1230	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.4	4.5						陶A	左	無支辨	瓦	瓦	0142	
1231	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.1	4.6						陶A	左	陶心内側	瓦	瓦	0263	
1232	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.8	4.2						陶A	左	無支辨	瓦	瓦	0138	
1233	39-63-65	39-91	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.7	5.1						陶A	左	陶心内側	瓦	瓦	0132	
1234	39	58	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.3	5.0						陶A	右	墨土十字	瓦	瓦	0206	
1235	39	58	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.3	5.3						陶A	右	墨土十字	瓦	瓦	0107	
1236	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.3	4.9						陶A	右	凹凹十字	瓦	瓦	0210	
1237	39	58	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.2	4.3						陶B	右	陶心内側	瓦	瓦	0274	
1238	39	58	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.9	4.9						陶A	右	陶心内側	瓦	瓦	0274	
1239	39-65	39-89	灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	14.4	4.9						陶B	右	無支辨	瓦	瓦	0181	
1240	39		灰土器	杯蓋	1号区	瓦屋	第4層	15.1	4.6						陶A	右	陶心内側	瓦	瓦	0303	

別表1 神野大木富跡群遺物一覽(4)

遺物 番号	遺物 種類	発見 位置	類別	種類	用途	場所	層	法量(cm)							高さ 約10cm	出土 状況	出土 位置	内装調査	注	備考	その他	写真 番号	
								口径	最大径 約30mm	縦高	底径	長さ	幅	厚み									重量(g)
1201	38-85	58-87	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	14.4		5.0					部A	左	無文押印	瓦	段			0149	
1202	38		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	16.5		4.7					部A	左	墨色十字	瓦	段			0150	
1203	38-85	58-89	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	15.4		5.1					部A	右	無文押印	瓦	段			0101	
1204	38	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	14.1		4.4					部A	右	同心押印	瓦	段			0271	
1205	38	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	14.7		5.0					部A	左	無文押印	瓦	段			0276	
1206	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層				3.74				部A	右	同心押印	瓦	段			0161	
1207	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層								部A	右	同心押印	瓦	段			0172	
1208	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	15.6		4.0					部A	左	同心押印	瓦	段			0081	
1209	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層			2.64					部A	右	不明	瓦	段			0079	
1210	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層			2.54					部A	右	同心押印	瓦	段			1207	
1211	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層								部A	右	無文押印	瓦	段			0071	
1212	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層			2.84					部A	右	無文押印	瓦	段			0041	
1213	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層			3.74					部A	右	不明	瓦	段			0076	
1214	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層								部A	右	不明	瓦	段			0039	
1215	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層								部A	右	同心押印	瓦	段			0074	
1216	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層			2.04					部A	左	同心押印	瓦	段			0009	
1217	38	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層								部A	右	無文押印	瓦	段			0034	
1218	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層								部A	左	不明	瓦	段			0032	
1219	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	16.4		6.5					部A	右	不明	瓦	段			0070	
1220	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	15.5		6.1					部A	左	不明	瓦	段			0267	
1221	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層				1.54				部A	右	墨色十字	瓦	段			0084	
1222	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層								部A	左	不明	瓦	段			0042	
1223	38	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層				4.94				部A	右	同心押印	瓦	段			0011	
1224	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層								部A	右	不明	瓦	段			0083	
1225	38	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層								部A	左	不明	瓦	段			0044	
1226	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層			1.24					部A	右	無文押印	瓦	段			0025	
1227	38	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層			1.54					部A	右	無文押印	瓦	段			0030	
1228	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層								部A	右	同心押印	瓦	段			0073	
1229	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層			1.74					部A	右	無文押印	瓦	段			0078	
1230	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層			1.04					部A	左	同心押印	瓦	段			0080	
1231	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層			2.64					部A	右	同心押印	瓦	段			0036	
1232	38-83	58	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	15.0		4.8					部A	右	同心押印	瓦	段			0106	
1233	40	60	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	13.8		2.54									瓦	段			0097
1234	41	64	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	115.8		7.94										瓦	段		0259
1235	42	62	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層			2.54											瓦	段	0065
1236	37		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	13.8	14.1	2.84													0022
1237	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	13.5	15.6	6.1					部A	右	同心押印	瓦	段			0104	
1238	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.9	14.9	4.6					部A	右	同心押印	瓦	段			0259	
1239	40	60	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.6	14.8	5.2					部A	右	墨色十字	瓦	段			0261	
1240	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.3	14.4	4.4					部A	右	無文押印	瓦	段			0269	
1241	40-96	60-98	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	13.8	15.9	5.2					部A	右	同心押印	瓦	段			0119	
1242	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	13.6	15.5	4.3					部A	左	無文押印	瓦	段			0258	
1243	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	13.4	15.7	4.4					部A	右	同心押印	瓦	段			0267	
1244	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.5	14.3	5.3					部A	右	同心押印	瓦	段			0261	
1245	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.1	14.2	4.6					部A	右	凹字十字	瓦	段			0261	
1246	40	60	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.4	14.9	4.6					部A	右	無文押印	瓦	段			0269	
1247	40	60	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	15.8	15.6	5.3					部A	右	無文押印	瓦	段			0270	
1248	40-96	60-95	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.5	15.5	4.8					部A	右	無文押印	瓦	段			0249	
1249	40-96	97	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.1	14.0	4.1					部A	右	同心押印	瓦	段			0260	
1250	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.7	15.2	5.0					部A	右	同心押印	瓦	段			0260	
1251	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	15.3	14.7	5.2					部A	右	無文押印-墨色十字	瓦	段			0173	
1252	40	60	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	14.0	16.2	5.8					部A	右	凹字十字	瓦	段			0262	
1253	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	13.8		5.84					部A	右	同心押印	瓦	段			0067	
1254	40	60	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.9	14.9	5.9					部A	右	同心押印	瓦	段			0265	
1255	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.4	14.6	5.1					部A	右	同心押印	瓦	段			0019	
1256	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	11.8	14.1	4.4					部A	右	無文押印	瓦	段			0107	
1257	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.4	14.1	4.4					部A	右	同心押印	瓦	段			0177	
1258	40-96	98	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	11.5	13.8	5.1					部A	右	同心押印	瓦	段			0125	
1259	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.9	14.9	4.9					部A	右	同心押印	瓦	段			0268	
1300	40-96	96	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.4	15.0	5.0					部A	右	同心押印	瓦	段			0276	
1301	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.3	14.7	5.4					部A	右	同心押印-墨色十字	瓦	段			0266	
1302	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.6	15.4	5.9					部A	右	無文押印	瓦	段			0178	
1303	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	11.2	14.2	5.1					部A	右	無文押印	瓦	段			0260	
1304	40-96	96	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.4	14.2	4.4					部A	右	無文押印	瓦	段			0221	
1305	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.1	14.2	5.4					部A	右	墨色十字	瓦	段			0262	
1306	40-96	40-96 101	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	11.8	14.1	5.4					部A	右	同心押印	瓦	段			0231	
1307	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	11.8	13.8	4.7					部A	右	墨色十字	瓦	段			0261	
1308	40		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	11.5	13.8	5.1					部A	右	同心押印	瓦	段			0260	
1309	40-96	98-98	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	13.0	14.5	4.9					部A	右	無文押印	瓦	段			0018	
1310	40	64	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	12.1	13.7	4.7					部A	右	同心押印	瓦	段			0223	
1311	40	60	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	15.2	17.3	6.5					部A	右	同心押印	瓦	段			0103	
1312	40	60-101	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	14.5	17.3	6.5					部A	右	同心押印	瓦	段			0205	
1313	41	80	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	14.0	17.0	5.9					部A	右	同心押印	瓦	段			0042	
1314	41		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	13.0	16.2	6.4					部A	右	同心押印	瓦	段			0202	
1315	41		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	14.0	16.5	6.0					部A	右	凹字十字	瓦	段			0251	
1316	41		須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	14.1	16.8	6.0					部A	右	無文押印	瓦	段			0259	
1317	41	61	須恵器	杯蓋	1号型	瓦屋	第3層	14.3	16.7	6.2					部A	右	同心押印	瓦	段			0257	
1318	41-96	98	須																				

別表1 神野大森窟群遺物一覽 (5)

遺物 番号	発掘 調査年度	発見 場所	種別	材質	用途	場所	層	法量 (cm)							調査 層別	調査 位置	調査 時期	調査 者	調査 機関	
								口径	厚さ	最大径	最大厚	長さ	幅	厚み						重量(g)
1323	41		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	13.2	14.4	5.7			ⅢA	右	同心円形			0113	
1322	41-85	61-95	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	13.1	15.4	4.9			281.1	Ⅲ	同心円形			0122	
1325	41		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	13.2	15.2	5.3*				ⅢA	右	不明		0149	
1324	41		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	13.3	15.1	4.9				ⅢA	右	同心円形		0149	
1325	41	41	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	15.1	17.7	5.9				ⅢA	左	同心円形		0128	
1326	41-85	61-95	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	14.8	17.5	4.1				ⅢA	左	同心円形		0161	
1327	41	64	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	16.2	18.5	5.2*				ⅢA	右	埴土ナゲ		0164	
1328	41		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.6	13.7	6.1				ⅢA	右	同心円形		0166	
1329	41-85	61-95	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.6	14.9	5.4				ⅢB	右	同心円形		0166	
1330	41		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.0	14.6	5.8				ⅢA	右	同心円形		0172	
1331	41	61	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	13.1	15.4	5.4				ⅢA	右	同心円形		0188	
1332	41		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.5	14.7	4.9				ⅢA	左	凹型ナゲ		0114	
1333	41		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	11.9	14.1	5.0				ⅢA	右	同心円形		0174	
1334	41		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	14.0	16.1	4.3				ⅢA	右	同心円形-埴土ナゲ		0158	
1335	41	61-100	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	13.5	15.6	5.2			230.3	ⅢA	右	埴土ナゲ		0187	
1336	41-85	61-95	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.7	15.3	4.5				ⅢB	右	同心円形		0146	
1337	41-85	100	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.6	14.9	4.8				ⅢA	右	同心円形		0136	
1338	41		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	13.2	15.0	4.5				ⅢB	右	同心円形		0147	
1339	41	61	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.8	15.0	4.9			217.4	ⅢA	左	無文様		0198	
1340	41	61	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.3	14.8	5.1*				ⅢB	右	同心円形		0174	
1341	41		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	11.8	14.4	5.8				ⅢA	右	同心円形		0117	
1342	41	64	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	14.1	16.0	5.4				ⅢA	右	同心円形		0147	
1343	41		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	13.6	15.8	6.0				ⅢB	右	同心円形		0182	
1344	41		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	13.6	15.7	5.6				ⅢB	右	同心円形		0177	
1345	41		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	13.3	15.4	5.5				ⅢA	右	同心円形		0192	
1346	41		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.3	15.0	5.6				ⅢA	右	埴土ナゲ		0195	
1347	41	61	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.4	14.8	4.8				ⅢA	右	埴土ナゲ		0199	
1348	41-85	99	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.5	14.4	5.4				ⅢB	右	同心円形		0118	
1349	42	61	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.7	14.4	4.9				ⅢB	右	同心円形		0179	
1350	42		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.6	15.5	5.1				ⅢB	右	同心円形		0156	
1351	42		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.7	14.6	5.3*				ⅢB	右	同心円形		0111	
1352	42	62	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	13.6	15.7	5.6				ⅢA	右	埴土ナゲ		0125	
1353	42		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.8	15.1	4.8				ⅢA	左	埴土ナゲ		0196	
1354	42		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.2	15.1	5.1				ⅢB	右	同心円形		0154	
1355	42	62-101	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	13.0	14.8	4.3				ⅢB	左	凹型ナゲ		0141	
1356	42-85	100	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.7	14.8	3.9				ⅢB	右	同心円形		0140	
1357	42		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.5	14.8	4.9				ⅢB	左	-		0136	
1358	42-85	04-99	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	15.9	18.6	5.9				ⅢA	右	無文様		0102	
1359	42-85	02-99	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.0	14.1	5.2				ⅢA	左	無文様		0124	
1360	42		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	14.0	15.9	5.9				ⅢB	右	同心円形		0190	
1361	42		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.2	15.1	5.3				ⅢB	右	同心円形		0123	
1362	42		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.9	15.3	5.5				ⅢA	左	同心円形		0108	
1363	42	62	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.5	14.9	5.0				ⅢB	右	埴土ナゲ		0123	
1364	42		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.4	15.0	5.0				ⅢB	右	埴土ナゲ		0168	
1365	42-85-96	62-101	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.3	14.6	5.1			292.1	ⅢD-111	Ⅲ	無文様		0145	
1366	42	62	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	11.6	14.3	5.7			314.1	ⅢA	左	無文様		0154	
1367	42	62	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	13.7	16.2	5.8				ⅢB	右	凹型ナゲ		0113	
1368	42	62	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	13.3	15.6	5.0				ⅢA	左	凹型ナゲ		0165	
1369	42	62-101	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	11.9	14.3	5.6			340.5	ⅢA	右	無文様		0162	
1370	42		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	11.6	14.1	4.3				ⅢB	左	同心円形		0176	
1371	42	62	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	11.3	13.6	4.9				ⅢA	右	凹型ナゲ		0194	
1372	42		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.2	14.0	4.2				ⅢA	右	同心円形		0112	
1373	42		灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	11.3	13.5	5.0				ⅢB	左	同心円形		0109	
1374	42	62	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.9	15.3	5.3				ⅢB	右	凹型ナゲ		0170	
1375	42-85	62-99	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.2	14.3	5.3				ⅢB	右	埴土ナゲ		0145	
1376	43-96	63	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	15.1	17.2	5.4				ⅢB	右	埴土ナゲ		* 0168	
1377	43-96	63	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	14.1	16.6	5.4				ⅢA	右	同心円形		* 0182	
1378	43-95-96	63-97	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	14.8	16.4	6.1				ⅢA	右	同心円形		* 0127	
1379	43-96	63	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	-	-	2.0*				ⅢA	右	同心円形		* 0187	
1380	43	63	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	-	-	-				ⅢB	右	同心円形		* 0140	
1381	43	63	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	-	-	-				ⅢA	左	同心円形		* 0147	
1382	43-85	63-97	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	13.1	15.1	5.1				-	左	同心円形		* 0114	
1383	43	63	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	-	-	0.9*				-	-	埴土ナゲ		* 0152	
1384	43-96	63	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	-	-	-				-	-	埴土ナゲナゲ		* 0142	
1385	43	63	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	-	-	2.0*				ⅢA	右	-		* 0153	
1386	43	63	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	-	-	-				ⅢA	右	無文様		* 0149	
1387	43-96	63	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	-	-	1.4*				ⅢB	不明	不明		* 0177	
1388	43-96	63	灰土器	埴土	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.3	14.5	5.2				ⅢB	右	同心円形		0160	
1389	44	65	灰土器	粘土高坪	1号器	灰土	埴土	埴土器	(12.2)	12.6	9.8				Ⅲ	右	-		0146	
1390	44	65	灰土器	粘土高坪	1号器	灰土	埴土	埴土器	12.7	8.6	-				Ⅲ	右	同心円形		0129	
1391	44	65	灰土器	粘土高坪	1号器	灰土	埴土	埴土器	-	7.7	8.1				-	-	-		0105	
1392	44	65	灰土器	粘土高坪	1号器	灰土	埴土	埴土器	-	5.6	(7.1)				-	-	-		0128	
1393	44	65	灰土器	粘土高坪	1号器	灰土	埴土	埴土器	-	5.7	(9.7)				-	-	-		0104	
1394	44	65	灰土器	粘土高坪	1号器	灰土	埴土	埴土器	11.5	15.0	10.2				-	-	-		0120	
1395	44	65	灰土器	粘土高坪	1号器	灰土	埴土	埴土器	11.8	12.0	-				-	-	-		0136	
1396	44	65	灰土器	粘土高坪	1号器	灰土	埴土	埴土器	-	19.0	-				-	-	-		0141	
1397	44	65	灰土器	粘土高坪	1号器	灰土	埴土	埴土器	-	9.5	9.0				-	-	-		0144	
1398	44	65	灰土器	粘土高坪	1号器	灰土	埴土	埴土器	11.6	9.7	-				-	-	-		0121	
1399	44	65	灰土器	粘土高坪	1号器	灰土	埴土	埴土器	10.9	7.5	-				-	-	-		0129	
1400	44	65	灰土器	粘土高坪	1号器	灰土	埴土	埴土器	10.8	8.4	-				-	-	-		0127	

別表1 神野大林富跡群遺物一覽(6)

遺物 種別	遺物 番号	発見 時期	種類	素材	遺構	場所	層	測量(m)							方位	D/G 関係	内周調査	採掘 状況	小 さ	調査 時期	
								口径	横列径 (最大径)	縦長	底径	長さ	幅	厚み							重量(g)
481	44		須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	7.4										0198		
482	44		須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	5.7	8.7									0243		
483	44		須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	4.5										0201		
484	44		須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	8.0	8.7									0199		
485	44	65	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	13.6	8.6									0224		
486	44		須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	4.3						左				0193		
487	44		須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	4.7										0251		
488	44		須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	(3.1)	3.9										0626		
489	44		須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	(11.4)	4.1					左					0197		
490	44	66	須恵器	高坏	1号	瓦	須恵器	14.7	6.0					右	同心円				0383		
491	44	68	須恵器	高坏	1号	瓦	須恵器	(14.8)	6.6					右	同心円				0311		
492	44	66	須恵器	高坏	1号	瓦	須恵器	14.5	6.1					右	同心円				0411		
493	44	66	須恵器	高坏	1号	瓦	須恵器	(14.9)	5.6					右	同心円				0278		
494	44	68	須恵器	高坏	1号	瓦	須恵器	(14.6)	6.1					右	同心円				0312		
495	44	68	須恵器	高坏	1号	瓦	須恵器	(14.8)	6.1					右	同心円				0273		
496	44	66	須恵器	高坏	1号	瓦	須恵器	13.4	5.8					左	同心円				0345		
497	44	68	須恵器	高坏	1号	瓦	須恵器	-	2.6					左	同心円				0286		
498	44	68	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	(12.5)	14.8	9.8	(11.0)			右	同心円				0206		
499	44		須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	5.9	(10.2)									0216		
500	44		須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	7.7	(9.9)									0249		
501	44	68	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	(12.2)	(14.5)	9.9	8.8				同心円				0218		
502	44	66	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	(10.4)	12.9	10.2	(11.2)				同心円				0248		
503	44	68	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	12.6	11.4	9.9	(9.3)				同心円				0365		
504	44	66	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	6.7	10.2					同心円				0302		
505	45	68	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	10.1	9.8						同心円			0394		
506	45		須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	(12.2)	10.0	9.4									0389		
507	45		須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	(12.1)	14.2	9.4					左	同心円			0382		
508	45	66	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	8.3	10.3						同心円			0309		
509	45		須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	7.2	9.2						同心円			0281		
510	45		須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	5.8	(10.4)					右	同心円			0282		
511	45		須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	5.3	10.0						同心円			0217		
512	45	66	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	13.4	15.2	8.6	11.7				右	同心円			0328		
513	45	66	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	22.4	14.4	8.1	10.2					同心円			0240		
514	45	67	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	(13.6)	16.2	13.6	11.7				右				0245		
515	45	68	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	12.5										0255		
516	45	68	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	13.7	15.9	10.8						同心円			0192		
517	45		須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	(13.7)	16.7	7.3					右				0373		
518	45	67	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	8.9	11.4									0310		
519	45	68	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	12.4	14.6	15.7					右				0212		
520	45	67	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	15.3	10.6						同心円			0253		
521	45	68	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	11.5	14.6						同心円			0233		
522	45	68	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	10.1							同心円			0194		
523	45	67	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	15.9	17.8	17.4	14.2				右	同心円			0219		
524	45	67	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	3.5	(11.5)									0235		
525	45	67	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	6.0	(14.3)					右				0249		
526	45	67	須恵器	和瓦高坏	1号	瓦	須恵器	-	4.0	(10.3)									0227		
527	46	69	須恵器	小型筒	1号	瓦	須恵器	-	6.9	5.6									0179		
528	46	69	須恵器	小型筒	1号	瓦	須恵器	19.4	5.4						右				0260		
529	46	69	須恵器	小型筒	1号	瓦	須恵器	19.6	7.5										0261		
530	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	-	6.3										0284		
531	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	-	3.5	7.5									0195		
532	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	-	4.0	(10.3)									0286		
533	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	12.2	20.1	16.1	14.2				右				0174		
534	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	12.3	14.4	18.0	11.2								0271		
535	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	(15.1)	14.2										0276		
536	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	-	10.2										0363		
537	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	11.4	10.1										0278		
538	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	13.7	12.8						右				0372		
539	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	-	10.8	10.7									0273		
540	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	-	6.1						左				0362		
541	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	-	5.1	6.1									0203		
542	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	-			4.3	2.1	1.2						0197		
543	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	-			5.1	2.1	1.3						0261		
544	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	-			5.2	2.0	1.3						0202		
545	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	-			4.2	1.8	1.1						0268		
546	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	-			4.0	1.5	1.1						0269		
547	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	-			4.1	1.6	1.1						0268		
548	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	-			4.3	1.6	1.3						0301		
549	46	69	須恵器	肥子付筒	1号	瓦	須恵器	-			4.5	1.3	1.0						0303		
550	46	70	須恵器	鉢	1号	瓦	須恵器	16.4	8.9					左					0191		
551	46	70	須恵器	鉢	1号	瓦	須恵器	17.6	11.9	15.0									0262		
552	46	70	須恵器	鉢	1号	瓦	須恵器	19.8	7.1					左					0289		
553	46	70	須恵器	蓋	1号	瓦	須恵器	11.0	2.2										0246		
554	46	70	須恵器	蓋	1号	瓦	須恵器	11.3	2.5										0302		
555	46	70	須恵器	蓋	1号	瓦	須恵器	-	8.9						右				0175		
556	46	70	須恵器	蓋	1号	瓦	須恵器	14.6	11.7										0202		
557	46	70	須恵器	蓋	1号	瓦	須恵器	14.8	10.2										0303		
558	46	70	須恵器	蓋	1号	瓦	須恵器	14.0	5.7										0222		
559	46	70	須恵器	蓋	1号	瓦	須恵器	14.1	5.6										0311		
560	46	70	須恵器	蓋	1号	瓦	須恵器	-	6.5										0419		

別表1 神野大林窟跡群遺物一覽(7)

遺物 番号	遺物 種類	発見 時期	遺物 種類	遺物 種類	遺物 種類	遺物 種類	法量(cm)						出土 位置	出土 位置	出土 位置	出土 位置	出土 位置	出土 位置		
							口徑	最大径	高さ	底径	長さ	幅							厚み	重量(g)
1481	47	71	須恵器	模範	1号	瓦屋	須恵器	11.8		27.8							0330			
1482	47		須恵器	模範	1号	瓦屋	須恵器			32.9*							0333			
1483	47-68		須恵器	模範	1号	瓦屋	須恵器			22.1*							0351			
1484	47-68	71	須恵器	模範	1号	瓦屋	須恵器	7.6		24.0							0349			
1485	47	72	須恵器	模範	1号	瓦屋	須恵器	11.4		5.8*			右				0341			
1486	47		須恵器	模範	1号	瓦屋	須恵器	13.3		1.4*							0347			
1487	47	71	須恵器	模範	1号	瓦屋	須恵器	13.5		7.0*							0359			
1488	47	72	須恵器	模範	1号	瓦屋	須恵器	7.7		3.4*							0358			
1489	47	72	須恵器	模範	1号	瓦屋	須恵器	7.8		5.9*			右				0395			
1490	47	72	須恵器	模範	1号	瓦屋	須恵器	-		26.5*							0314			
1491	47	72	須恵器	模範	1号	瓦屋	須恵器	-		20.0*							0322			
1492	47	72	須恵器	模範	1号	瓦屋	須恵器	5.4		24.0							0313			
1493	48	73	須恵器	遺棄	1号	瓦屋	須恵器	19.6)		3.8			右				0302			
1494	48	73	須恵器	遺棄	1号	瓦屋	須恵器	9.6		3.0*			右				0301			
1495	48	73	須恵器	遺棄	1号	瓦屋	須恵器	19.9)		3.7			右				0372			
1496	48	73	須恵器	遺棄	1号	瓦屋	須恵器	8.2		3.1			左				0347			
1497	48	73	須恵器	遺棄	1号	瓦屋	須恵器	19.9)		4.0							0389			
1498	48	73	須恵器	遺棄	1号	瓦屋	須恵器	19.6)		3.9			左				0389			
1499	48	73	須恵器	遺棄	1号	瓦屋	須恵器	11.6		6.5			右				0346			
1500	48	73	須恵器	遺棄	1号	瓦屋	須恵器	15.1		7.6			右				0386			
1501	48	73	須恵器	大型器	1号	瓦屋	須恵器	29.9		9.9*			右				0388			
1502	48	73	須恵器	大型器	1号	瓦屋	須恵器	27.7		6.3*			左				0325			
1503	48		須恵器	遺棄	1号	瓦屋	須恵器	49.8		0.8*							0364			
1504	48	73	須恵器	舟倉形須恵器	1号	瓦屋	須恵器			3.9*							0302			
1505	48	73	須恵器	舟倉形須恵器	1号	瓦屋	須恵器	16.5)		6.7*			右				0386			
1506	48	74	須恵器	舟倉形須恵器	1号	瓦屋	須恵器	7.3		6.4*			右				0365			
1507	48	73	須恵器	舟倉形須恵器	1号	瓦屋	須恵器	7.3		4.7*							0368			
1508	48	73	須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	7.2		5.6*							0367			
1509	48	74	須恵器	長7号	1号	瓦屋	須恵器	10.0		20.8*							0380			
1510	48		須恵器	長3号	1号	瓦屋	須恵器	11.9		10.5*							0314			
1511	48		須恵器	長3号	1号	瓦屋	須恵器	13.6		10.3*							0481			
1512	48		須恵器	長7号	1号	瓦屋	須恵器	13.0		11.1*							0379			
1513	48-68	74	須恵器	長7号	1号	瓦屋	須恵器	15.2		14.0*							0462			
1514	48	74	須恵器	長7号	1号	瓦屋	須恵器	14.2		23.9*	14.1						0477			
1515	48	74	須恵器	長7号	1号	瓦屋	須恵器	12.9		19.0*							0316			
1516	48	74	須恵器	長7号	1号	瓦屋	須恵器	13.2		11.8*							0483			
1517	48	74	須恵器	平底型	1号	瓦屋	須恵器	9.8		23.0	12.2						0436			
1518	49	75	須恵器	長7号	1号	瓦屋	須恵器	13.0		3.9*							0428			
1519	49	75	須恵器	長7号	1号	瓦屋	須恵器	16.2)		4.1*							0425			
1520	49	75	須恵器	北口須恵器	1号	瓦屋	須恵器	18.2		19.3*							0406			
1521	49	75	須恵器	北口須恵器	1号	瓦屋	須恵器			11.8*							0405			
1522	49	75	須恵器	北口須恵器	1号	瓦屋	須恵器	17.8		7.4*							0408			
1523	49	75	須恵器	北口須恵器	1号	瓦屋	須恵器	18.0)		9.9*							0403			
1524	49	75	須恵器	北口須恵器	1号	瓦屋	須恵器	22.0)		8.4*							0407			
1525	49		須恵器	北口須恵器	1号	瓦屋	須恵器	24.4)		4.9*							0404			
1526	49		須恵器	器	1号	瓦屋	須恵器	-		11.0*			右				0447			
1527	49	75	須恵器	器台	1号	瓦屋	須恵器	20.0		8.1*							0393			
1528	49	75	須恵器	器台	1号	瓦屋	須恵器	132.1)		5.3*							0484			
1529	49	75	須恵器	器台	1号	瓦屋	須恵器	130.0)		4.0*							0489			
1530	49	75	須恵器	器鉢	1号	瓦屋	須恵器										0323			
1531	50	76	須恵器	長須恵器	1号	瓦屋	須恵器			9.9*							0444			
1532	50	76	須恵器	長須恵器	1号	瓦屋	須恵器	125.9)		7.9*							0473			
1533	50	76	須恵器	長須恵器	1号	瓦屋	須恵器	36.8		19.6*							0449			
1534	50	76	須恵器	長須恵器	1号	瓦屋	須恵器	42.9)		10.4*							0322			
1535	50-67	76	須恵器	長須恵器	1号	瓦屋	須恵器	-		19.8*							0404			
1536	50	76	須恵器	長須恵器	1号	瓦屋	須恵器	37.5		23.9*							0405			
1537	51		須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	19.6		8.0*							0484			
1538	51	76	須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	16.8		9.9*			右				0322			
1539	51-67	76	須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	15.7		23.7*							0488			
1540	51	78	須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	12.1		6.0*			右				0311			
1541	51	78	須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	14.4		6.6*							0319			
1542	51		須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	12.2		7.4*							0484			
1543	51		須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	112.4)		9.6*							0481			
1544	51	78	須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	16.4		6.2*			右				0488			
1545	51		須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	18.0		6.5*							0490			
1546	51		須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	118.0)		6.5*							0479			
1547	51-67		須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	18.6		15.5							0489			
1548	51-67	77	須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	18.9		32.4							0461			
1549	51-67	77	須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	19.0		33.5							0462			
1550	52-67	79	須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	19.1		14.1*							0325			
1551	52-67	78	須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	19.8		22.8*							0375			
1552	52	78	須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	20.5		10.4							0300			
1553	52		須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	25.1		6.7*							0309			
1554	52	78	須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	24.6		8.5*							0308			
1555	52		須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	38.1		7.1*							0416			
1556	52	79	須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	24.3		19.2*							0307			
1557	52	79	須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器			9.1*							0317			
1558	52-67	78	須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	26.1		15.1							0478			
1559	52		須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	127.1)		14.5*							0485			
1560	53-68	79	須恵器	短須恵器	1号	瓦屋	須恵器	25.4		27.9*							0407			

別表1 神野大木富跡群遺物一覽(8)

遺物 番号	調査 年度	発見 地点	種類	材質	用途	場所	層	法量(cm)							出土 位置	出土 状況	出土 時期	内蔵品	備考	出 土 者		
								口径	最大径 部径	高さ	底径	長さ	幅	厚み							重量(g)	図
1561	53/97	79	須臾器	短距離	1号器	瓦器	須臾器	25.7		20.8*											060	
1562	53	78	須臾器	短距離	1号器	瓦器	須臾器	18.6		9.3*											049	
1563	53		須臾器	短距離	1号器	瓦器	須臾器	23.0		4.4*											6472	
1564	53		須臾器	短距離	1号器	瓦器	須臾器	21.0		4.3*											085	
1565	53		須臾器	短距離	1号器	瓦器	須臾器	18.9		7.9*											092	
1566	53	79	須臾器	短距離	1号器	瓦器	須臾器	19.9		9.9*											089	
1567	53		須臾器	短距離	1号器	瓦器	須臾器	29.8		11.7*											052	
1568	53		須臾器	短距離	1号器	瓦器	須臾器	26.9		9.3*											013	
1569	53	79	須臾器	短距離	1号器	瓦器	須臾器	22.8		11.0*											6474	
1570	54/68		須臾器	短距離	1号器	瓦器	須臾器	126.2		62.9*											060	
1571	54		須臾器	短距離	1号器	瓦器	須臾器	20.8		6.6											076	
1572	54		須臾器	短距離	1号器	瓦器	須臾器	125.2		13.3*											033	
1573	54		須臾器	短距離	1号器	瓦器	須臾器	27.0		14.9*											086	
1574	54		須臾器	短距離	1号器	瓦器	須臾器	120.9		5.6*											081	
1575	54		須臾器	短距離	1号器	瓦器	須臾器	22.8		9.3*											031	
1576	54	79	須臾器	短距離	1号器	瓦器	須臾器	14.2		36.3											020	
1577		79	須臾器	陶片	1号器	瓦器	須臾器															
1578	55		須臾器	埴盆	1号器	瓦器	須臾器	14.9		5.1											123	
1579	55		須臾器	埴盆	1号器	瓦器	須臾器	13.9		4.8											123	
1580	55	80	須臾器	埴盆	1号器	瓦器	須臾器	14.7		4.8											123	
1581			須臾器	埴盆	1号器	瓦器	須臾器														123	
1582	55/65	80	須臾器	埴盆	1号器	瓦器	須臾器	14.9		4.5											122	
1583	55		須臾器	埴盆	1号器	瓦器	須臾器			1.5*											066	
1584	55		須臾器	埴盆	1号器	瓦器	須臾器	113.2		3.9*											091	
1585	55		須臾器	埴盆	1号器	瓦器	須臾器	12.8		14.6											092	
1586	55		須臾器	高埴盆	1号器	瓦器	須臾器	15.0		6.0											132	
1587	55		須臾器	有蓋高埴	1号器	瓦器	須臾器	14.1		9.3											124	
1588	55		須臾器	有蓋高埴	1号器	瓦器	須臾器	12.8		10.6											125	
1589	55	80	須臾器	肥子付埴	1号器	瓦器	須臾器														084	
1590	55	80	須臾器	肥子付埴	1号器	瓦器	須臾器	22.4		10.3*											128	
1591	55	80	須臾器	陶片	1号器	瓦器	須臾器														127	
1592	55	80	須臾器	陶片	1号器	瓦器	須臾器														128	
1593	55	80	須臾器	有蓋高埴	1号器	瓦器	須臾器	11.0		3.0*											067	
1594	55	80	須臾器	埴盆	1号器	瓦器	須臾器	4.9		2.6*											097	
1595	55	80	上埴器	盆	1号器	瓦器	須臾器	126.0		4.4*											028	
1596	56	81	須臾器	埴盆	流跡1	須臾器	須臾器	13.8		4.4											032	
1597	56		須臾器	埴盆	流跡1	須臾器	須臾器														045	
1598	56/65	81/86	須臾器	埴盆	流跡1	須臾器	須臾器	13.3		15.0											031	
1599	56	81	須臾器	埴盆	流跡1	須臾器	須臾器	14.1		16.1											030	
1600	56	81	須臾器	有蓋高埴	流跡1	須臾器	須臾器	10.0		3.4											024	
1601	56	82	須臾器	有蓋高埴	流跡1	須臾器	須臾器			12.9*											006	
1602	56	82	須臾器	有蓋高埴	流跡1	須臾器	須臾器			7.0*											025	
1603	56	82	須臾器	陶瓶	流跡1	須臾器	須臾器	13.4		3.8*											042	
1604	56	82	須臾器	陶瓶	流跡1	須臾器	須臾器	13.2		4.3*											043	
1605	56	82	須臾器	甕	流跡1	須臾器	須臾器			14.9*											065	
1606	56	82	須臾器	鉢	流跡1	須臾器	須臾器	12.3		13.3*											004	
1607	56	82	須臾器	鉢	流跡1	須臾器	須臾器			16.9*											060	
1608	56	81	須臾器	陶片	流跡1	須臾器	須臾器														041	
1609	56	81	須臾器	鉢	流跡1	須臾器	須臾器														040	
1610	56	82	須臾器	須臾器	流跡1	須臾器	須臾器	146.8		16.7*											051	
1611	56	82	須臾器	須臾器	流跡1	須臾器	須臾器	148.0		17.1*											053	
1612	57	83	須臾器	短距離	流跡1	須臾器	須臾器	17.4		11.5*											047	
1613	57	83	須臾器	短距離	流跡1	須臾器	須臾器	25.0		12.4*											034	
1614	57/68		須臾器	短距離	流跡1	須臾器	須臾器	24.4		9.7*											023	
1615	57	83	須臾器	短距離	流跡1	須臾器	須臾器	20.3		7.7*											012	
1616	57/68		須臾器	短距離	流跡1	須臾器	須臾器	27.4		13.6*											024	
1617	57	83	須臾器	短距離	流跡1	須臾器	須臾器	25.8		9.4*											026	
1618	57		須臾器	短距離	流跡1	須臾器	須臾器	28.8		11.5*											035	
1619	58	83	須臾器	短距離	流跡1	須臾器	須臾器	26.0		8.9*											030	
1620	58/68	83	須臾器	短距離	流跡1	須臾器	須臾器	25.2*		23.7*											063	
1621	58/68	83	須臾器	短距離	流跡1	須臾器	須臾器	26.0		20.5*											059	
1622	58		須臾器	短距離	流跡1	須臾器	須臾器	23.3		5.8*											025	
1623	58	83	須臾器	短距離	流跡1	須臾器	須臾器	22.7		8.5*											021	
1624	58	84	須臾器	埴盆	流跡1	須臾器	須臾器	12.6		3.1*											036	
1625	58	84	須臾器	埴盆	流跡1	須臾器	須臾器	12.8		3.8											032	
1626	58	84	須臾器	埴盆	流跡1	須臾器	須臾器	13.4		3.8											034	
1627	58	84	須臾器	埴盆	流跡1	須臾器	須臾器	11.0		13.0*											087	
1628	58	84	須臾器	埴盆	流跡1	須臾器	須臾器	13.0		14.8											085	
1629	58	84	須臾器	埴盆	流跡1	須臾器	須臾器	12.2		13.7											086	
1630	58	84	須臾器	有蓋高埴	流跡1	須臾器	須臾器	14.0		15.8											084	
1631	58	84	須臾器	沔	流跡1	須臾器	須臾器			7.8*											023	
1632	58	84	須臾器	沔	流跡1	須臾器	須臾器			9.0*											022	
1633	58	84	須臾器	陶瓶	流跡1	須臾器	須臾器														083	
1634	58	84	須臾器	短距離	流跡1	須臾器	須臾器														027	
1635	58	84	須臾器	上埴器	流跡1	須臾器	須臾器	14.6		9.9*											022	
1636	59	85	須臾器	甕	流跡1	須臾器	須臾器														038	
1637	59	85	須臾器	甕	流跡1	須臾器	須臾器	10.8		9.8*											015	
1638	59	85	須臾器	短距離	流跡1	須臾器	須臾器	24.0		8.8*											028	
1639	59/68		須臾器	短距離	流跡1	須臾器	須臾器	25.0		16.0*											036	
1640	59		上埴器	上埴器	流跡1	須臾器	須臾器	9.4		8.1*											029	

別表1 神野大木窟跡群遺物一覽(9)

遺物 番号	発見 場所	発 見 年	種類	器種	用途	場所	層	法量(cm)						出土 位置	出土 位置	出土 位置	出土 位置	出土 位置	出土 位置								
								口径	最大径	高さ	底径	長さ	幅							厚	重量(g)	内径	外径	口径	高さ	口径	高さ
1641	39	85	須臾器	坏蓋	底蓋1	第1層	第1層	16.1	6.0					甬口	右	同心円形	底	段	0306								
1642	39	86	須臾器	坏蓋	底蓋1	第1層	第1層								右	同心円形			0447								
1643	39	86	須臾器	坏身	底蓋1	第1層	第1層	11.6	12.7	4.6					右	扁平円形			0389								
1644	39-85	85-100	須臾器	坏身	底蓋1	第1層	第1層	13.6	15.5	5.1					右	同心円形			0388								
1645	39	86	須臾器	坏身	底蓋1	第1層	第1層			5.9	(10.2)				右				0521								
1646	39	85	須臾器	坏身	底蓋1	第1層	第1層			3.8	(10.0)				右				0520								
1647	39	85	須臾器	坏身	底蓋1	第1層	第1層	14.2	15.9						右				0545								
1648	39-88	86	須臾器	坏蓋	底蓋1	第1層	第1層	16.7	16.8										0487								
1649	39		須臾器	坏蓋	底蓋1	第1層	第1層	28.3	10.4										0522								
1650	39	86	須臾器	坏蓋	底蓋1	第1層	第1層			3.2*					甬口	右			1203								
1651	39	86	須臾器	坏蓋	底蓋1	第1層	第1層			2.2*					甬口	右	有目状押痕		1236								
1652	39	86	須臾器	坏蓋	底蓋1	第1層	第1層			1.8*					甬口	右			1225								
1653	39	86	須臾器	坏蓋	底蓋1	第1層	第1層			2.1*					甬口	右			1224								
1654	39	86	須臾器	有蓋高坏	底蓋1	第1層	第1層			6.4									1229								
1655	39	86	須臾器	坏蓋	底蓋1	第1層	第1層	17.8	5.6*										1221								
2001	60	102-123	須臾器	坏身	2層	第2層	第1段内	11.3	12.3	4.2				甬口	右	ワザナテ			0692								
2002	60	102-119	須臾器	坏身	2層	第2層	第1段内	11.4	12.4	3.5					右	ワザナテ			0693								
2003	60	102	須臾器	坏身	2層	第2層	第1段内	14.0	16.1	3.2					右	ワザナテ			0689								
2004	60	102	須臾器	坏蓋	2層	第2層	第1段内	12.4		2.9*									0745								
2005	60	102-118	須臾器	坏身	2層	第2層	第1段内	12.5	14.6	4.5				甬口	右	ワザナテ	丸	丸	0721								
2006	60	102-116	須臾器	坏身	2層	第2層	第1段内	13.2	15.6					甬口	右	ワザナテ	丸	丸	0718								
2007	60	102	須臾器	坏身	2層	第2層	第1段内	12.9	15.0	5.2				甬口	右	同心円形			0693								
2008	60	102	須臾器	坏身	2層	第2層	第1段内	13.0	15.2	4.5				277.0	甬口	右	無文押痕		0687								
2009	60	102	須臾器	坏身	2層	第2層	第1段内	14.8	16.3	3.7					甬口	右	ワザナテ		0697								
2010	60	102	須臾器	有蓋高坏	2層	第2層	第1段内	(14.7)	16.6	4.1*					甬口	左	扁平円形		0684								
2011	60	102	須臾器	有蓋高坏	2層	第2層	第1段内	16.3	17.7	4.2*					甬口	右	不明		0685								
2012	60	102	須臾器	大型前1段	2層	第2層	第1段内	16.6		7.2*									0700								
2013	60	102	須臾器	大型前1段	2層	第2層	第1段内			10.0*									0749								
2014	60	102	須臾器	底蓋	2層	第2層	第1段内	12.5		3.4*									0679								
2015	60	102	須臾器	約	2層	第2層	第1段内			3.6*				8.3*	甬口	左	ワザナテ	丸	丸	0747							
2016	60	103-116	須臾器	坏蓋	2層	第2層	第2段内	12.6	4.1										0716								
2017	60	103-117	須臾器	坏蓋	2層	第2層	第2段内	12.5	4.2					148.5	甬口	右	扁平円形	丸	丸	0743							
2018	60	103-117	須臾器	坏蓋	2層	第2層	第2段内	12.6	4.0						右	扁平円形	丸	丸	0730								
2019	60	103-118	須臾器	坏身	2層	第2層	第2段内	12.7	14.4	3.6					甬口	右	ワザナテ		0686								
2020	60	103	須臾器	北1段内	2層	第2層	第2段内	(28.4)	22.4										0746								
2021	60-89	103-117	須臾器	坏蓋	2層	第2層	第1段内	14.2	4.8					249.6	甬口	右	同心円形	丸	丸	0722							
2022	60	103	須臾器	坏蓋	2層	第2層	第1段内	(13.0)	4.6*						甬口	右	不明	丸	丸	0717							
2023	60	103	須臾器	高坏蓋	2層	第2層	第1段内			3.0*					左				0702								
2024	60	103	須臾器	高坏	2層	第2層	第1段内			6.8*					甬口	右	無文押痕		0727								
2025	60	103	須臾器	坏蓋	2層	第2層		(21.9)	5.9*										0675								
2026	60	103	須臾器	坏蓋	2層	第2層		22.8	4.9*										0676								
2027	60	103	須臾器	坏蓋	2層	第2層		20.9	6.9*						蓋?				0677								
2028	61	104	須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	13.6	3.7						甬口	同心円形-ワザナテ	丸	丸	0720								
2029	61	104-118	須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	12.9	4.0						甬口	右	扁平円形	丸	丸	0725							
2030	61		須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	13.1	3.5						甬口	右	不明	丸	丸	0723							
2031	61		須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	(12.8)	3.3						甬口	右	ワザナテ	丸	丸	0721							
2032	61	104	須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	12.4	3.3						甬口	右	扁平円形	丸	丸	0728							
2033	61	104-118	須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	13.2	3.6					141.0	甬口	右	ワザナテ	丸	丸	0724							
2034	61	104	須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	12.9	4.5*						甬口	右	ワザナテ	丸	丸	0726							
2035	61	104	須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	12.4	4.1*						甬口	右	不明	丸	丸	0723							
2036	61		須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	(12.8)	3.8						甬口	右	不明	丸	丸	0727							
2037	61		須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	11.2	13.2	3.7*					甬口	右	不明		0683								
2038	61		須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	11.2	13.0	3.8					甬口	右	不明		0708								
2039	61		須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	11.4	13.4	4.0					甬口	右	不明		0719								
2040	61	104	須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	12.0	13.6	3.9					甬口	右	扁平円形		0707								
2041	61		須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	12.0	13.7	3.3*					甬口	右	扁平円形		0700								
2042	61	104-120	須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	12.0	13.9	3.8				142.3	甬口	右	扁平円形		0688								
2043	61		須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	12.4	14.1	4.1*					甬口	右	不明		0699								
2044	61		須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	11.0	13.0	3.6					甬口	右	不明		0702								
2045	61	104-120	須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	11.5	13.4	4.2				156.1	甬口	右	扁平円形		0711								
2046	61	105-125	須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	11.7	12.4	3.9					甬口	右	扁平円形		0686								
2047	61		須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	(12.0)	13.0	4.0*					甬口	右	扁平円形		0705								
2048	61	104	須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	11.0	12.9	3.9					甬口	右	ワザナテ		0689								
2049	61		須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	(12.4)	14.2	4.0					甬口	右	扁平円形		0706								
2050	61		須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	12.4	14.5	3.1					甬口	同心円形-扁平円形			0705								
2051	61	105	須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	11.8	13.5	4.3					甬口	右	ワザナテ		0709								
2052	61	105	須臾器	高坏蓋	2層	第2層	甬口上	15.8	3.9*						甬口	右	ワザナテ		0723								
2053	61	104	須臾器	高坏蓋	2層	第2層	甬口上	15.9	4.3						甬口	右	不明		0728								
2054	61	104	須臾器	有蓋高坏	2層	第2層	甬口上	13.2	15.2	7.8*					甬口	右	扁平円形		0726								
2055	61	105	須臾器	有蓋高坏	2層	第2層	甬口上	13.0	14.8	4.3*					甬口	右	扁平円形		0730								
2056	61	105	須臾器	有蓋高坏	2層	第2層	甬口上	14.3	16.0	5.2*					甬口	右	扁平円形		0729								
2057	61	104	須臾器	有蓋高坏	2層	第2層	甬口上	14.8	16.6	3.5*					甬口	右	不明		0694								
2058	61	104	須臾器	有蓋高坏	2層	第2層	甬口上	15.2	17.2	3.9*					甬口	右	不明		0695								
2059	61	104	須臾器	有蓋高坏	2層	第2層	甬口上	14.4	16.4	2.5					甬口	右	不明		0685								
2060	61	105	須臾器	厚底鉢	2層	第2層	甬口上			6.8*									0701								
2061	61	105	須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	6.4	7.2*										0714								
2062	61	105	須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上	12.3	6.3*						甬口	右			0709								
2063	61	105	須臾器	坏蓋	2層	第2層	甬口上			19.3*									0753								
2064	61	105	須臾器	高坏蓋	2層	第2層	甬口上			6.7*									0746								
2065	61	105	須臾器	高坏蓋	2層	第2層	甬口上			6.8*	14.4								0743								

別表1 神野大木富跡群遺物一覽(10)

遺物 番号	発掘 調査年度	発掘 位置	種別	器種	遺域	場所	層	法量(cm)							出土 位置	出土 状況	内蔵調査	土質 調査	その他 調査	調査 番号		
								口径	器口 径の割合	器高	器底 径	器口 長	幅	厚							重量(g)	出土 位置
2086	63	105	須石部	長形壺	29号	赤地	層上1	-		21.5*											0861	
2087	63	105	須石部	短形壺	29号	赤地	層上1	14.8		9.2*			左								0862	
2088	62		須石部	坏	29号	赤地	層下1	33.0		2.8			壁	右	磨石ナシ	丸	丸				0714	
2089	62	106	須石部	坏	29号	赤地	層上1	33.7		3.9			壁	右	不明	丸	丸				0712	
2070	62	106	須石部	坏	29号	赤地	層上1	35.2		2.9			壁	右	丸、六角有目	丸	丸				0719	
2071	62/89	120	須石部	坏身	29号	赤地	層上1	12.3	14.1	4.1			壁	右	同心円形						0863	
2072	62		須石部	短形高坏	29号	赤地	層上1	12.3		4.6*			胎	右	磨石ナシ						0713	
2073	62	106	須石部	短形壺	29号	赤地	層上1	17.3		13.9	14.1		胎	右							0712	
2074	62	106	須石部	短形壺	29号	赤地	層上1	13.5		5.2*											0845	
2075	62	106	須石部	高坏	29号	赤地	-	-		3.9	11.4										0760	
2076	62	106	須石部	厚底鉢	29号	赤地	-	-		4.4*	8.4										0740	
2077	62		須石部	坏	29号	赤地		14.0		4.4			壁	左	磨石ナシ	丸	段				0866	
2078	62		須石部	坏	29号	赤地		12.8	14.5	3.3			壁	右	不明						0875	
2079	62	106	須石部	高坏	29号	赤地	-	-		3.8*	11.6			右							0777	
2080	62	106	須石部	高坏	29号	赤地	-	-		2.4*											0765	
2081	62	106	須石部	長形壺	29号	赤地		7.9		6.0*											0828	
2082	62/89	106	須石部	短壺	29号	赤地				4.7*											0867	
2083	62	106	須石部	壺	29号	赤地				3.4*			胎	右							0867	
2084	62	106	須石部	短形短形壺	29号	赤地		7.3		5.4*			胎	左							0862	
2085	62	106	須石部	短形短形壺	29号	赤地		10.4		10.0*			胎	左							0864	
2086	62	106	須石部	短形短形壺	29号	赤地		16.7		7.9*			胎	左							0865	
2087	62	106	須石部	短形壺	29号	赤地		19.0		24.7*											0858	
2088	62	106	須石部	上鉢	29号	赤地						2.8*	1.7	10.5							0824	
2089	63	107	須石部	坏	29号	赤地	第1層	12.5		3.8			壁	右	不明	丸	丸				0884	
2090	63	107	須石部	坏	29号	赤地	第1層	14.0		3.7			胎	右	同心円形	丸	丸				0890	
2091	63	107	須石部	坏	29号	赤地	第1層	12.8	14.5	2.9			壁	右	同心円形						0889	
2092	63	107	須石部	坏	29号	赤地	第1層	11.6	13.8	3.9*			壁	右	同心円形						0871	
2093	63	107	須石部	短形高坏	29号	赤地	第1層	11.1		3.2*											0752	
2094	63	107	須石部	短形高坏	29号	赤地	第1層	-		4.1*	9.0										0781	
2095	63	107	須石部	短形高坏	29号	赤地	第1層	-		7.2*											0726	
2096	63	107	須石部	壺	29号	赤地	第1層	10.9		2.7*											0867	
2097	63	107	須石部	壺	29号	赤地	第1層	10.5		3.3			胎	右							0861	
2098	63	107	須石部	壺	29号	赤地	第1層	10.0		3.0*			胎	左							0860	
2099	63	107	須石部	短形短形壺	29号	赤地	第1層	7.0		6.2*											0714	
2100	63	107	須石部	短形壺	29号	赤地	第1層	-		6.0*	106.0										0859	
2101	63	107	須石部	高形壺	29号	赤地	第1層	36.8		34.4*											0756	
2102	63	107	須石部	短形壺	29号	赤地	第1層	136.0		5.4*											0878	
2103	63	107	須石部	高形壺	29号	赤地	第1層	128.3		4.0*											0868	
2104	63	107	須石部	頸瓶	29号	赤地	第1層	12.7		5.6*			左								0797	
2105	63	107	須石部	短形壺	29号	赤地	第1層	18.1		7.0*											0853	
2106	63	107	須石部	短形壺	29号	赤地	第1層	26.6		12.7*											0829	
2107	64	108	須石部	坏	29号	赤地	第1層	112.9		3.8				左	同心円形	段	丸				0880	
2108	64/89	108-118	須石部	坏	29号	赤地	第1層	14.5		3.4				壁	左	同心円形					0885	
2109	64	108	須石部	坏	29号	赤地	第1層	14.0		3.6				壁	右	不明	段	丸			0884	
2110	64		須石部	坏身	29号	赤地	第1層	12.7		34.2	3.3*			胎	左	同心円形					0872	
2111	64	108	須石部	坏	29号	赤地	第1層	122.9		25.0	4.4			壁	右	同心円形					0869	
2112	64/89	108-120	須石部	坏身	29号	赤地	第1層	15.1	15.2	4.2			壁	左	同心円形						0873	
2113	64	108	須石部	坏	29号	赤地	第1層	13.4	15.0	2.4			壁	右	同心円形						0867	
2114	64	108	須石部	頸瓶	29号	赤地	第1層	3.5		6.1*											0829	
2115	64	108	須石部	平鉢	29号	赤地	第1層	-		5.0*	117.7										0811	
2116	64	108	須石部	壺	29号	赤地	第1層	10.4		3.1*											0899	
2117	64	108	須石部	壺	29号	赤地	第1層	-		3.9*	100.4										0784	
2118	64	108	須石部	壺	29号	赤地	第1層	-		5.1*	111.0										0792	
2119	64	108	須石部	志10鉢	29号	赤地	第1層	113.9		4.9*				右							0819	
2120	64	108	須石部	丸型磁10	29号	赤地	第1層	18.0		6.6*											0851	
2121	64	108	須石部	長形壺	29号	赤地	第1層	44.2		14.4*											0821	
2122	64/89	108	須石部	短形壺	29号	赤地	第1層			42.3*											0811	
2123	65		須石部	坏	29号	赤地	第1層	14.7		3.7			壁	左	凹凸ナシ	段	段				0881	
2124	65		須石部	坏	29号	赤地	第1層	14.0		2.3*			-	左	-	-	-	-	-	-	0894	
2125	65		須石部	坏	29号	赤地	第1層	14.4		3.3											0888	
2126	65/89	118	須石部	坏	29号	赤地	第1層	15.7		4.2			壁	右	同心円形	丸	段				0895	
2127	65	108	須石部	坏	29号	赤地	第1層	14.9		4.2			壁	右	磨石ナシ	丸	段				0896	
2128	65		須石部	坏	29号	赤地	第1層	14.7		2.8			壁	左	無文	段	丸	段			0829	
2129	65		須石部	坏	29号	赤地	第1層	13.4		4.5*											0879	
2130	65	110	須石部	坏	29号	赤地	第1層	14.8		3.9			壁	左	無文	段	丸	段			0887	
2131	65		須石部	坏	29号	赤地	第1層	14.0		3.4*			壁	左	-	-	-	-	-	-	0898	
2132	65		須石部	坏	29号	赤地	第1層	15.0		3.8			壁	右	無文	段	丸	丸			0888	
2133	65/89	108-118	須石部	坏	29号	赤地	第1層	13.8		3.9			壁	右	同心円形	磨石ナシ					0889	
2134	65		須石部	坏	29号	赤地	第1層	13.3		4.0*											0879	
2135	65		須石部	坏	29号	赤地	第1層	11.7		3.4*			-	右	-	-	-	-	-	-	0826	
2136	65		須石部	坏	29号	赤地	第1層	13.0		3.2*			壁	右	-	-	-	-	-	-	-	0828
2137	65		須石部	坏身	29号	赤地	第1層	12.4		4.5			壁	右	磨石ナシ						0864	
2138	65	89	須石部	坏身	29号	赤地	第1層	12.6	14.5	4.1*			壁	左	-	-	-	-	-	-	-	0899
2139	65		須石部	坏	29号	赤地	第1層	12.7	14.6	3.9*			壁	左	同心円形						0861	
2140	65		須石部	坏	29号	赤地	第1層	115.4	15.3	3.6*			壁	右	同心円形						0872	
2141	65		須石部	坏	29号	赤地	第1層	12.3	15.0	4.2			壁	右	凹凸ナシ						0866	
2142	65		須石部	坏	29号	赤地	第1層	112.0	14.7	3.9*			壁	右							0870	
2143	65		須石部	坏	29号	赤地	第1層	12.7	14.5	2.9*											0860	
2144	65/89	120	須石部	坏	29号	赤地	第1層	12.6	14.3	3.2			壁	左	同心円形						0865	
2145	65		須石部	坏	29号	赤地	第1層	12.9	14.5	3.0			壁	左	同心円形						0862	

別表1 神野大木遺跡群遺物一覧(11)

遺物 種別	遺物 名称	発見 場所	遺物 種別	遺物 種別	遺物 種別	遺物 種別	遺物 種別	法量(cm)					遺物 種別	遺物 種別	遺物 種別	遺物 種別	遺物 種別	遺物 種別							
								口徑	横径	縦径	長さ	幅							厚み	重量(g)	出土 状況	出土 位置	出土 層	出土 時期	出土 状況
2146	65-89		須石部	高坪土	2号	瓦	須石部	-	1.0+									○	0908						
2147	65-89		須石部	坪土	2号	瓦	須石部	-	0.9+									+	0909						
2148	65-89		須石部	坪土	2号	瓦	須石部	-	0.9+									x	0910						
2149	65	116	須石部	物置高坪	2号	瓦	須石部	11.8	3.7+										0906						
2150	65	116	須石部	物置高坪	2号	瓦	須石部	-	6.2+										0976						
2151	65	116	須石部	物置高坪	2号	瓦	須石部	-	9.9+										0971						
2152	65	116	須石部	高坪	2号	瓦	須石部	-	16.0	10.4									0974						
2153	65	116	須石部	高坪	2号	瓦	須石部	-	6.5+	9.5									0963						
2154	65	116	須石部	物置高坪	2号	瓦	須石部	15.2	2.1+										0913						
2155	65	109	須石部	高坪土	2号	瓦	須石部	-	2.8+										0903						
2156	65-89	109-121	須石部	高坪土	2号	瓦	須石部	-	2.5+										0906						
2157	65	109	須石部	高坪土	2号	瓦	須石部	-	1.6+										0904						
2158	65	109	須石部	有蓋高坪	2号	瓦	須石部	13.4	4.1+										0905						
2159	65	109	須石部	高坪	2号	瓦	須石部	-	3.8+										0974						
2160	65	109	須石部	高坪	2号	瓦	須石部	-	7.8+										0973						
2161	65-89	109-121	須石部	高坪	2号	瓦	須石部	-	2.0+										0972						
2162	65	109	須石部	高坪	2号	瓦	須石部	-	6.9+	12.6									0977						
2163	65	109	須石部	高坪	2号	瓦	須石部	-	4.8	12.6									0979						
2164	65	109	須石部	高坪	2号	瓦	須石部	-	14.2	13.3									0974						
2165	65	109	須石部	高坪	2号	瓦	須石部	-	9.2+										0975						
2166	65	109	須石部	高坪	2号	瓦	須石部	-	13.1	13.3									0976						
2167	66	110	須石部	瓦	2号	瓦	須石部	12.0	3.9										0977						
2168	66	110	須石部	瓦	2号	瓦	須石部	12.8	3.9+										0917						
2169	66	110	須石部	瓦	2号	瓦	須石部	11.0	2.9+										0912						
2170	66	110	須石部	瓦	2号	瓦	須石部	12.4	3.8+										0902						
2171	66	111	須石部	厚皮漆	2号	瓦	須石部	14.7	12.8	9.3									0921						
2172	66	110	須石部	厚皮漆	2号	瓦	須石部	-	7.6+	9.2									0920						
2173	66	110	須石部	厚皮漆	2号	瓦	須石部	-	2.3+	8.8									0918						
2174	66	110	須石部	厚皮漆	2号	瓦	須石部	-	1.9+	7.4									0919						
2175	66	110	須石部	瓦	2号	瓦	須石部	13.4	4.8										0914						
2176	66	110	須石部	瓦	2号	瓦	須石部	16.1	3.9+										0914						
2177	66	111	須石部	須石	2号	瓦	須石部	-	8.8	5.3+									0923						
2178	66	111	須石部	須石	2号	瓦	須石部	11.5	6.3+										0920						
2179	66	111	須石部	須石	2号	瓦	須石部	15.7	2.8+										0913						
2180	66	111	須石部	須石	2号	瓦	須石部	-	7.8										0927						
2181	66	111	須石部	須石	2号	瓦	須石部	7.4	24.7										0914						
2182	66	111	須石部	須石	2号	瓦	須石部	-	24.1+										0926						
2183	66	111	須石部	須石	2号	瓦	須石部	7.2	9.2+										0925						
2184	66	111	須石部	須石	2号	瓦	須石部	12.0	4.6+										0954						
2185	66	111	須石部	須石	2号	瓦	須石部	14.3	4.5+										0970						
2186	66	111	須石部	須石	2号	瓦	須石部	14.5	4.5+										0906						
2187	66	111	須石部	須石	2号	瓦	須石部	12.0	3.8+										0976						
2188	66	110	須石部	須石	2号	瓦	須石部	-	6.0+	14.8									0928						
2189	66	110	須石部	須石	2号	瓦	須石部	-	3.4+	15.6									0978						
2190	66	110	須石部	須石	2号	瓦	須石部	-	5.2+	14.3									0970						
2191	66	110	須石部	須石	2号	瓦	須石部	-	2.5+	15.7									0966						
2192	66	110	須石部	須石	2号	瓦	須石部	-	5.3+	14.6									0949						
2193	66	110	須石部	土俵	2号	瓦	須石部	-	-	-									0923						
2194	67	112	須石部	須石	2号	瓦	須石部	9.9	3.5+		6.0+	1.6	1.4	20.0					0941						
2195	67	112	須石部	須石	2号	瓦	須石部	3.68	3.7										0910						
2196	67	112	須石部	須石部	2号	瓦	須石部	7.0	3.2+										0968						
2197	67	112	須石部	須石部	2号	瓦	須石部	-	5.6+										0909						
2198	67	112	須石部	大型破片	2号	瓦	須石部	17.2	8.3+										0916						
2199	67	112	須石部	大型破片	2号	瓦	須石部	18.2	8.2										○	0917					
2200	67	112	須石部	大型破片	2号	瓦	須石部	11.0	6.4+										0906						
2201	67	111	須石部	大型破片	2号	瓦	須石部	10.6	9.2+										0911						
2202	67	112	須石部	大型破片	2号	瓦	須石部	14.2	8.4										0912						
2203	67	112	須石部	大型破片	2号	瓦	須石部	18.8	7.2+										0908						
2204	67	112	須石部	大型破片	2号	瓦	須石部	15.9	7.2+										0927						
2205	67	113	須石部	大型破片	2号	瓦	須石部	-	6.1+										0908						
2206	67	113	須石部	大型破片	2号	瓦	須石部	-	6.1+										0906						
2207	67	112	須石部	大型破片	2号	瓦	須石部	13.2	12.5+										0909						
2208	67	112	須石部	須石	2号	瓦	須石部	9.9	6.3+										0923						
2209	67	113	須石部	須石	2号	瓦	須石部	17.9	12.1+										0922						
2210	67	113	須石部	須石	2号	瓦	須石部	-	12.8+										0906						
2211	67	113	須石部	須石	2号	瓦	須石部	24.6	13.2+										0928						
2212	67	112	須石部	須石	2号	瓦	須石部	-	17.6+	19.7									0927						
2213	67	113	須石部	須石	2号	瓦	須石部	28.4	4.3+										0928						
2214	67	113	須石部	須石	2号	瓦	須石部	29.9	5.8+										0929						
2215	67	113	須石部	須石	2号	瓦	須石部	38.4	5.6+										0925						
2216	68	114	須石部	長須石	2号	瓦	須石部	33.7	17.2+										0903						
2217	68	114	須石部	長須石	2号	瓦	須石部	44.8	10.9+										0949						
2218	68	114	須石部	長須石	2号	瓦	須石部	37.8	26.0+										0906						
2219	68	114	須石部	長須石	2号	瓦	須石部	35.5	16.8+										0904						
2220	68	114	須石部	長須石	2号	瓦	須石部	136.8	9.8+										0975						
2221	69	115	須石部	長須石	2号	瓦	須石部	143.6	35.1+										0912						
2222	69	115	須石部	長須石	2号	瓦	須石部	130.3	13.9+										0924						
2223	69-89	114	須石部	長須石	2号	瓦	須石部	12.2	19.6+										0972						
2224	70	115	須石部	長須石	2号	瓦	須石部	130.6	10.1+										0947						
2225	70	115	須石部	長須石	2号	瓦	須石部	138.6	14.5+										0959						

別表1 神野大林富跡群遺物一覽 (12)

遺物 番号	発掘 年次	発見 位置	種別	種類	遺種	場所	層	法量 (cm)							出土 位置	出土 状況	保存 状況	登録 番号	備考			
								口径	最大径	高さ	底径	長さ	幅	厚さ						重量(g)	内径	外径
2226	70	115	須臾器	長距離	2号	瓦葺	墓室	24.0		11.2*								0707				
2227	70	115	須臾器	短距離	2号	瓦葺	墓室	16.0		4.8*								0811				
2228	70	115	須臾器	短距離	2号	瓦葺	墓室	14.4		5.4*								0852				
2229	70	115	須臾器	短距離	2号	瓦葺	墓室	17.8		5.8*								0830				
2230	70		須臾器	短距離	2号	瓦葺	墓室	22.5		7.1*				右				0763				
2231	70-80		須臾器	短距離	2号	瓦葺	墓室	23.6		18.0*								0874				
2232	70	115	須臾器	短距離	2号	瓦葺	墓室	28.0		5.2*								0841				
2233	70		須臾器	短距離	2号	瓦葺	墓室	30.2		11.2*								0843				
2234	70-80		須臾器	短距離	2号	瓦葺	墓室	-		22.5*								0871				
3001	71	122	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	13.0		4.9				部A	右	無文押	直	0893				
3002	71	122	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	14.0		3.2*				部A	左	無文押	直	0891				
3003	71	122	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	14.9		4.3*				-	右	瓦文押	直	0892				
3004	71	122	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	14.5		4.0				部A	右	無文押	直	0894				
3005	71	122	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	14.4		4.6				部A	左	ワツナテ	直	0878				
3006	71	122	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	15.2		4.9*				部A	左	無文押	直	0890				
3007	71	123	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	12.7	14.7	4.8				部A	右	無文押	直	0899				
3008	71	124	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	12.8	13.0	4.7				部A	左	無文押	直	0896				
3009	71	123	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	12.9	14.8	4.2*				部A	右	無文押	直	0897				
3010	71	123	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	12.8	13.1	4.5				不明	右	磨上テ	直	0901				
3011	71-90	124	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	12.4	13.9	4.5				部A	左	瓦文押	直	0872				
3012	71-90		須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	14.0	13.6	4.6				部A	右	瓦文押	直	0851				
3013	71	123	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	15.5	17.0	5.6				部A	右	ワツナテ	直	0856				
3014	71	124	須臾器	大形埴土	3号	唐焼	埴土灰層	124.4		10.44								1306				
3015	71	124	須臾器	埴土付埴土	3号	唐焼	埴土灰層	-		-						5.3	1.7	1.3	1112			
3016	71	124	須臾器	唐焼	3号	唐焼	埴土灰層	-		22.14								1005				
3017	71	124	須臾器	唐焼	3号	唐焼	埴土灰層	10.1		5.2*								1001				
3018	71	124	須臾器	新巻埴土	3号	唐焼	埴土灰層	16.6		2.9*								1003				
3019	71	124	須臾器	短距離	3号	唐焼	埴土灰層	20.0		10.7*								1009				
3020	71	122	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	113.2		4.3				部A	左	無文押	直	0879				
3021	71	122	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	14.5		4.0				部A	右	瓦文押	直	0876				
3022	71	122	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	15.4		4.2				部A	右	無文押	直	0892				
3023	71	122	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	14.0		4.0				部A	左	無文押	直	0890				
3024	71-90	123-135	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	12.9	15.0	5.0				299.3	部B-1111	右	無文押	直	0951			
3025	71	123	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	12.4	14.2	4.6								0962				
3026	71	123	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	12.4	13.5	4.5								0964				
3027	71-90	123	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	13.0	14.9	4.8				313.0	部A	右	無文押	直	0967			
3028	71	124	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	13.2	15.2	4.9				部A	右	瓦文押	直	0968				
3029	71	123	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	13.2	15.5	5.3*				部A	左	無文押	直	0958				
3030	71	124	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	13.5	15.7	4.8				部A	左	磨上テ	直	0907				
3031	71	123	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	13.5	15.4	4.8				275.1	部A	左	ワツナテ	直	0873			
3032	71	124	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	14.1	15.9	5.1								0963				
3033	71	123	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	13.3	15.3	5.7				不明	右	ワツナテ	直	0875				
3034	71	123-136	須臾器	埴土	3号	唐焼	埴土灰層	12.6	14.5	4.8				部A	右	無文押	直	0974				
3035	72	125	須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	15.5	15.1	4.8				部A	右	磨上テ	直	0899				
3036	72-90	125-134	須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	14.1		4.6				209.9	部B-1111	右	瓦文押	直	0999			
3037	72		須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	15.7		4.6*								0977				
3038	72	125	須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	12.8	14.4	4.8*								0953				
3039	72	125	須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	12.9		4.2								0986				
3040	72		須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	13.0		4.9								0988				
3041	72		須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	14.0		4.6								0889				
3042	72	125	須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	14.2		4.3								0978				
3043	72		須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	15.6		4.1								0874				
3044	72-90	125-137	須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	13.2	14.1	4.2				部B-1111	右	無文押	直	0953				
3045	72-90	125-137	須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	13.7	15.3	5.2				263.8	部A	右	瓦文押	直	0954			
3046	72	125	須臾器	柳葉形埴土	3号	唐焼	磨上テ	17.0		4.8*				部A	右	磨上テ	直	1000				
3047	72	125	須臾器	埴土付埴土	3号	唐焼	磨上テ	111.80		9.6*								1102				
3048	72	125	須臾器	埴土付埴土	3号	唐焼	磨上テ	-		-								1111				
3049	72	125	須臾器	長距離	3号	唐焼	磨上テ	38.2		8.9*								1008				
3050	72	125	須臾器	短距離	3号	唐焼	磨上テ	-		26.5*								1016				
3051	72		須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	13.9		4.7				部A	右	無文押	直	0995				
3052	73		須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	15.0		5.5				部A	左	無文押	直	0996				
3053	73		須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	12.7		4.7				部A	右	瓦文押	直	0984				
3054	73	126	須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	12.0		4.4								0998				
3055	73	126	須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	12.7	14.5	4.9								0963				
3056	73	126-137	須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	13.1	14.9	4.5				20.5	部A	右	ワツナテ	直	0943			
3057	73	126	須臾器	短距離	3号	唐焼	磨上テ	146.80		3.24								1007				
3058	73		須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	-		12.5*				部B-1111	右	無文押	直	1017				
3059	73	126	須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	15.0		4.2				部A	右	無文押	直	0991				
3060	73-90		須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	14.1		4.3				部B-1111	右	無文押	直	0985				
3061	73-90	137	須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	112.60	14.9	4.8				部A	左	無文押	直	0870				
3062	73	126-137	須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	14.8	17.6	4.5				496.4	部A	右	ワツナテ	直	0929			
3063	73	126	須臾器	埴土付埴土	3号	唐焼	磨上テ	12.8		9.6*								1004				
3064	73	126	須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	-		7.5*								1010				
3065	73		須臾器	埴土	3号	唐焼	磨上テ	-		17.2*								1011				
3066	73	126-137	須臾器	埴土	3号	瓦葺	瓦葺	12.5	14.5	4.6				300.2	部A	右	ワツナテ	直	1018			
3067	73	126	須臾器	埴土	3号	瓦葺	瓦葺	15.0		10.2*								1105				
3068	73	126	須臾器	大形埴土	3号	瓦葺	瓦葺	117.40		7.7*								1007				
3069	73	126	須臾器	埴土	3号	瓦葺	瓦葺	-		9.0*								1005				
3070	74	127	須臾器	埴土	3号	瓦葺	埴土	13.8		4.9				部A	左	無文押	直	1002				
3071	74	128	須臾器	柳葉形埴土	3号	瓦葺	埴土	111.0		3.4*								1002				

別表1 神野大森窟群遺物一覧(13)

発掘年	発掘層	発掘区画	遺物	種類	用途	場所	層	測量(cm)							出土位置	出土状況	内蔵品類	注目点	写真番号	
								口径	最大径	高さ	底径	長さ	幅	厚み						重量(g)
2072	74	128	須臾器	厚底鉢	390	瓦屋	第1層			3.1	11.0							1103		
2073	74	128	須臾器	横瓶	390	瓦屋	第1層	11.5		3.3*								1103		
2074	74	128	須臾器	横瓶	390	瓦屋	第1層	10.0		4.4*								1102		
2075	74	128	須臾器	短直器	390	瓦屋	第1層	19.1		7.4*								1118		
2076	74	127	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	13.9		4.4				照A	右	同心円押圧	底	段	3073	
2077	7490	127	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	14.8		4.6				照A	左	同心円押圧	底	段	3063	
2078	7490	127	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	12.0		4.7				照B	右	同心円押圧	底	段	3062	
2079	74	127	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	14.0		4.3				照A	右	凹形押圧	底	段	3061	
2080	74	127	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	12.8		4.4				照B	右	無文押圧	底	段	3058	
2081	74	127-134	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	13.9		4.3				照A	右	同心円押圧	底	段	3071	
2082	74	127	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	13.8		4.3				照A	右	不明	底	段	3071	
2083	74	127	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	13.9	13.9	4.4				不明		磨治ナメ			3052	
2084	74	127-135	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	12.4	14.1	4.8				照A	左	磨治ナメ			3044	
2085	74	128	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	13.5	13.3	4.7				照A	右	無文押圧-磨治ナメ			3043	
2086	74	128	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	12.2	14.3	4.2				照A	左	凹形ナメ			3056	
2087	7490	128-136	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	12.8	14.9	5.0				照B	右	同心円押圧			3042	
2088	74	128	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	13.0	14.7	4.9				照B	右	磨治ナメ			3040	
2089	74	128-136	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	13.3	15.1	4.1				照A	右	同心円押圧			3057	
2090	74	128	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	12.3	14.6	4.8				照B	右	無文押圧			3053	
2091	74	128-136	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	12.7	14.6	4.6				照A	左	無文押圧			3054	
2092	74	128	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	13.4	13.0	4.7				照A	左	磨治ナメ			3055	
2093	74	128	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	13.0	14.7	4.5				照A	左	凹形ナメ			3039	
2094	7490	128-135	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	11.6	11.3	4.8				照A	右	同心円押圧			3045	
2095	7490	128	須臾器	坏盆	290	瓦屋	第2層	14.9		4.3				照A	右	凹形ナメ	底	段	- 3032	
2096	7490	128	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層			2.54				照A	右	不明	-	-	- 3033	
2097	7490	128	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層			1.7*				照A	右	同心円押圧	-	-	- 3072	
2098	7490	128	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	12.5	13.8	4.6				照A	右	不明	-	-	- 3035	
2099	7490	128	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第2層	13.0	14.7	5.0				照A	左	無文押圧	x	1041		
2100	75	130	須臾器	盃坏盆	390	瓦屋	第2層			1.7*									1080	
2101	75	130	須臾器	有蓋高坏	390	瓦屋	第2層			4.0*	9.4								1087	
2102	75	130	須臾器	有蓋高坏	390	瓦屋	第2層	-	14.6	6.0*									1079	
2103	75	130	須臾器	高坏	390	瓦屋	第2層			3.4	10.25								1086	
2104	75	130	須臾器	高坏	390	瓦屋	第2層			7.9*	9.0								3076	
2105	75	130	須臾器	高坏	390	瓦屋	第2層			5.0*	9.1								3068	
2106	75	129	須臾器	把手付筒	390	瓦屋	第2層	13.4		13.0	4.7								3074	
2107	75	129	須臾器	把手付筒	390	瓦屋	第2層			8.4*									3075	
2108	75	129	須臾器	把手付筒	390	瓦屋	第2層			2.8*	7.8								3104	
2109	75	129	須臾器	把手付筒	390	瓦屋	第2層					5.5	1.4	1.3					3109	
2110	75	129	須臾器	把手付筒	390	瓦屋	第2層					1.7	1.7	1.0					3110	
2111	75	130	須臾器	横瓶	390	瓦屋	第2層	10.5		3.2*									3023	
2112	75	130	須臾器	横瓶	390	瓦屋	第2層			5.2*									3024	
2113	7590	130	須臾器	横瓶	390	瓦屋	第2層												□ 3093	
2114	75	129	須臾器	横瓶	390	瓦屋	第2層			4.9*									□ 1108	
2115	75	129	須臾器	徳蓋	390	瓦屋	第2層	10.2		4.1				照B	左	無文押圧			3099	
2116	7590	130	須臾器	徳蓋	390	瓦屋	第2層	10.4		3.7				照A	左	右心状有目			3100	
2117	75	130	須臾器	徳蓋	390	瓦屋	第2層	13.4		4.3				照A	右	同心円押圧			3101	
2118	75	130	須臾器	有蓋短直器	390	瓦屋	第2層			6.3*				照A	左				3106	
2119	7590	130	須臾器	盃	390	瓦屋	第2層	11.2		5.7*									□ 3096	
2120	75	131	須臾器	盃	390	瓦屋	第2層			4.0*	11.5								□ 3099	
2121	75	131	須臾器	盃	390	瓦屋	第2層			2.9*	11.43								3096	
2122	7590	129	須臾器	丸型前(口)	390	瓦屋	第2層	12.4		8.5*									3029	
2123	75	131	須臾器	口(具取器)	390	瓦屋	第2層	121.23		11.3*									3032	
2124	75	131	須臾器	短直器	390	瓦屋	第2層	11.9		12.0*									3026	
2125	75	131	須臾器	短直器	390	瓦屋	第2層	16.53		5.9*									3025	
2126	75	131	須臾器	短直器	390	瓦屋	第2層	20.0		7.1*									3022	
2127	75	131	須臾器	短直器	390	瓦屋	第2層	20.8		9.0*				右					3023	
2128	75	131	須臾器	短直器	390	瓦屋	第2層	18.6		10.3*									3022	
2129	75	131	須臾器	短直器	390	瓦屋	第2層	18.7		12.1*									3023	
2130	7690	132-138	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第3層	14.0		4.6									3054	
2131	76	132	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第3層	14.0		4.6				照A	左	同心円押圧	底	段	3064	
2132	76	132	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第3層	14.7		4.5				照A	右	凹形ナメ	底	段	3060	
2133	76	132-134	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第3層	14.2		4.9				照B	右	凹形ナメ	底	段	3070	
2134	76	132	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第3層	13.8		4.8				照A	右	無文押圧	底	段	3068	
2135	76	132-134	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第3層	13.9		4.0				照A	右	同心円押圧	底	段	3069	
2136	76	132	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第3層	13.8		5.3				照A	右	磨治ナメ	底	段	3059	
2137	7690	132	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第3層	14.8		4.1				照A	左	同心円押圧	底	段	- 3114	
2138	76	132	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第3層	12.9	12.2	5.3				照A	左	同心円押圧			3050	
2139	76	132	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第3層	12.1	14.2	4.8				照A	右	磨治ナメ			3047	
2140	76	132	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第3層	13.1	14.7	4.5				照A	右	凹形ナメ			3037	
2141	76	132	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第3層	12.4	14.2	4.7				200-3	照A	右	無文押圧			3046
2142	76	132	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第3層	11.9	13.8	4.3				照A	左	無文押圧			3049	
2143	76	132	須臾器	坏盆	390	瓦屋	第3層	13.9	13.8	4.7				照A	右	無文押圧			3048	
2144	76	132-137	須臾器	盃坏盆	390	瓦屋	第3層	15.1		5.7				照A	右	同心円押圧			3066	
2145	76	133	須臾器	盃坏盆	390	瓦屋	第3層			5.1*				照A	右				3079	
2146	76	133	須臾器	盃坏盆	390	瓦屋	第3層			3.14	9.6								3079	
2147	76	133	須臾器	盃坏盆	390	瓦屋	第3層			2.4*	8.0								3082	
2148	76	132	須臾器	有蓋高坏	390	瓦屋	第3層	13.6		7.9*				照A	右				3104	
2149	76	132	須臾器	盃坏	390	瓦屋	第3層			8.3*	10.2								3084	
2150	7690	133	須臾器	有蓋高坏	390	瓦屋	第3層			3.5*									3077	
2151	76	132	須臾器	横瓶	390	瓦屋	第3層	7.8		7.9*									3107	

別表1 神野大林窟跡群遺物一覧 (15)

遺物番号	発掘調査年度	発見者氏名	種別	器種	遺構	場所	層	法量 (cm)							片割形状	口の向き	内面調整	耳縁	小口縁	表面調整	
								口径	腹径	底径	高さ	幅	厚み	重量(g)							
								最大径	最大径	最大径	最大径	最大径	最大径	最大径							
4072	81	144	灰土器	長形壺	底跡2	3号下丁	壺身部	25.7					12.3*								1121
4073	81	144	灰土器	深形	底跡2	3号下丁	壺身部	2.6*2.2					7.1		42.4						1128
4074	82/91	147	灰土器	坏蓋	底跡2	3号下丁	壺身部					2.2*									1202
4075	82	146	灰土器	坏身	底跡2	3号下丁	壺身部	14.0	13.4	4.4					部A	右	-				1136
4076	82	146	灰土器	坏身	底跡2	3号下丁	壺身部	12.2	10.7	5.1				282.1	部A	左	取文押				1155
4077	82	146	灰土器	坏身	底跡2	3号下丁	壺身部	13.0	11.6	4.4					部A	右	-				1155
4078	82	147	灰土器	坏身	底跡2	3号下丁	壺身部	12.8	14.6	4.1					部B	-	-				1149
4079	82	147	灰土器	坏身	底跡2	3号下丁	壺身部	11.0		5.4					部A	右	取文押				1185
4080	82	147	灰土器	厚底鉢	底跡2	3号下丁	壺身部			5.9*	10.0										1186
4081	82	147	灰土器	土罐	底跡2	3号下丁	壺身部					4.6*	1.5	1.3	8.5						1199
4082	82	147	灰土器	肥子	底跡2	3号下丁				5.0*											1210
4083	82	146	灰土器	坏身	底跡2	西端	第1層	12.4	14.2	4.6					部A	左	取心内押				1150
4084	82	147	灰土器	甕	底跡2	西端	第1層			2.5*					部A	右	-				1164
4085	82	147	灰土器	坏蓋	底跡2	西端	壺身部	13.9		4.5*					部B	右	-				1139
4086	82	147	灰土器	坏環蓋	底跡2	西端	壺身部			3.2*					部A	右	-				1145
4087	82	147	灰土器	壺蓋	底跡2	西端	壺身部	10.1		3.4					部A	右	-				1189
4088	82/91	146	灰土器	坏蓋	底跡2	西端	壺身部西端	14.8		4.8											1143
4089	82	146	灰土器	坏身	底跡2	西端	壺身部西端	12.4	14.0	4.5				261.7	部A	右	-				1151
4090	82	147	灰土器	甕	その他					9.8*	11.1										1206
4091	82	147	灰土器	甕	その他					3.4*	10.4										1207
4092	82	147	灰土器	甕	その他					3.5*	9.8										1206
771		第146回	自然遺物	土器(ヤマト)	1号室	瓦	壺身部														0664

別表2 神野北山遺跡遺物一覧

遺物番号	発掘調査年度	発見者氏名	種別	器種	遺構	場所	層	法量 (cm)							片割形状	口の向き	内面調整	耳縁	小口縁	表面調整		
								口径	腹径	底径	高さ	幅	厚み	重量(g)								
								最大径	最大径	最大径	最大径	最大径	最大径	最大径								
5001	97	150	灰土器	坏蓋	確認遺物	44号シタ		15.8		4.3				158.9	部A	右	取心内押				2026	
5002	97	150	灰土器	坏蓋	確認遺物	44号シタ		14.9		4.2						部A	左	取心内押				2032
5003	97	152	灰土器	甕	確認遺物	44号シタ		10.9		4.8*												2030
5004	97	152	灰土器	甕	確認遺物	44号シタ		10.7		4.7*												2027
5005	97	152	灰土器	甕	確認遺物	44号シタ		20.6		4.2*												2028
5006	97	150	灰土器	甕	確認遺物	44号シタ				4.5*												2033
5007	97	150	灰土器	肥子付壺	確認遺物	44号シタ				7.8*												2034
5008	97	152	灰土器	甕	確認遺物	44号シタ				7.7*												2031
5009	97	130	灰土器	短縁壺	確認遺物	44号シタ		20.0				3.7	3.8	2.3	33.1							2032
5010	97	152	灰土器	短縁壺	確認遺物	60号シタ				8.4*												2040
5011	97	153	灰土器	坏身	SX01			132.6		2.6*	130.4				部A	右	-				2007	
5012	97	153	灰土器	坏身	SX01			111.3		3.8	129.2				部B	右	取心内押				2005	
5013	97	151	灰土器	坏身	SX01			113.0		3.4*	132.4				部A	不明	-				2004	
5014	97	151	灰土器	短縁壺	SX01			115.4		6.6*												2009
5015	97	153	灰土器	甕	SX01					4.0*	18.1											2008
5016	97	151	灰土器	甕	SX01					9.7*												2006
5017	97	153	灰土器	坏蓋	SX01			115.1		4.8					部A	右	取心内押				2001	
5018	97	152	灰土器	坏蓋	SX01			115.4		3.7*					部A	右	取心内押				2032	
5019	97	153	灰土器	短縁壺	包含層			122.0		4.2*												2013
5020	97	153	灰土器	短縁壺	包含層			126.4		6.0*												2014
5021	97	153	灰土器	肥子付壺	包含層					6.1*					部A	-	-					2017
5022	98	151	灰土器	坏身	焼成層上			12.8		4.7	11.8			208.7	部A	左	取心内押				2022	
5023	98	151	灰土器	坏身	焼成層上			13.4		5.4					部A	右	取心内押				2019	
5024	98	151	灰土器	坏身	焼成層上			14.4		4.6					部A	左	取心内押				2032	
5025	98	154	灰土器	坏身	焼成層上			13.6		4.1*					不明	-	-					2014
5026	98	151	灰土器	坏身	焼成層上			18.2		3.0	16.0				部A	-	-					2025
5027	98	152	灰土器	甕	焼成層上			15.0		5.9					部A	-	-					2011
5028	98	152	灰土器	坏蓋	焼成層上			14.8		4.8					部B	右	取心内押				2038	
5029	98	154	灰土器	坏蓋	焼成層上			13.9		4.1					部B	右	取心内押				2033	
5030	98	151	灰土器	坏蓋	焼成層上			17.4		5.2					部A	右	取心内押				2027	
5031	98	154	灰土器	短縁壺	焼成層上			116.8		4.5*												2015
5032	98	154	灰土器	短縁壺	焼成層上			125.2		7.3*												2014
5033	98	154	灰土器	短縁壺	焼成層上			122.6		7.3*												2030
5034	98	152	灰土器	短縁壺	焼成層上			132.4		8.2*												2031
5035		155	灰土器	甕	焼成層上	SX01																2035
5036		155	灰土器	甕	焼成層上	SX01																2036
5037		155	灰土器	甕	焼成層上	40号シタ																2041
5038		154	焼土層	確認遺物	44号シタ																	2037
5039		154	焼土層	確認遺物	44号シタ																	2038
5040		154	焼土層	確認遺物	44号シタ																	2039
5041		154	焼土層	不明	確認遺物	40号シタ																2042

凡例

・受け部中点……坏身の受け部の中点で坏蓋の口縁に対応する

・外面仕上げ

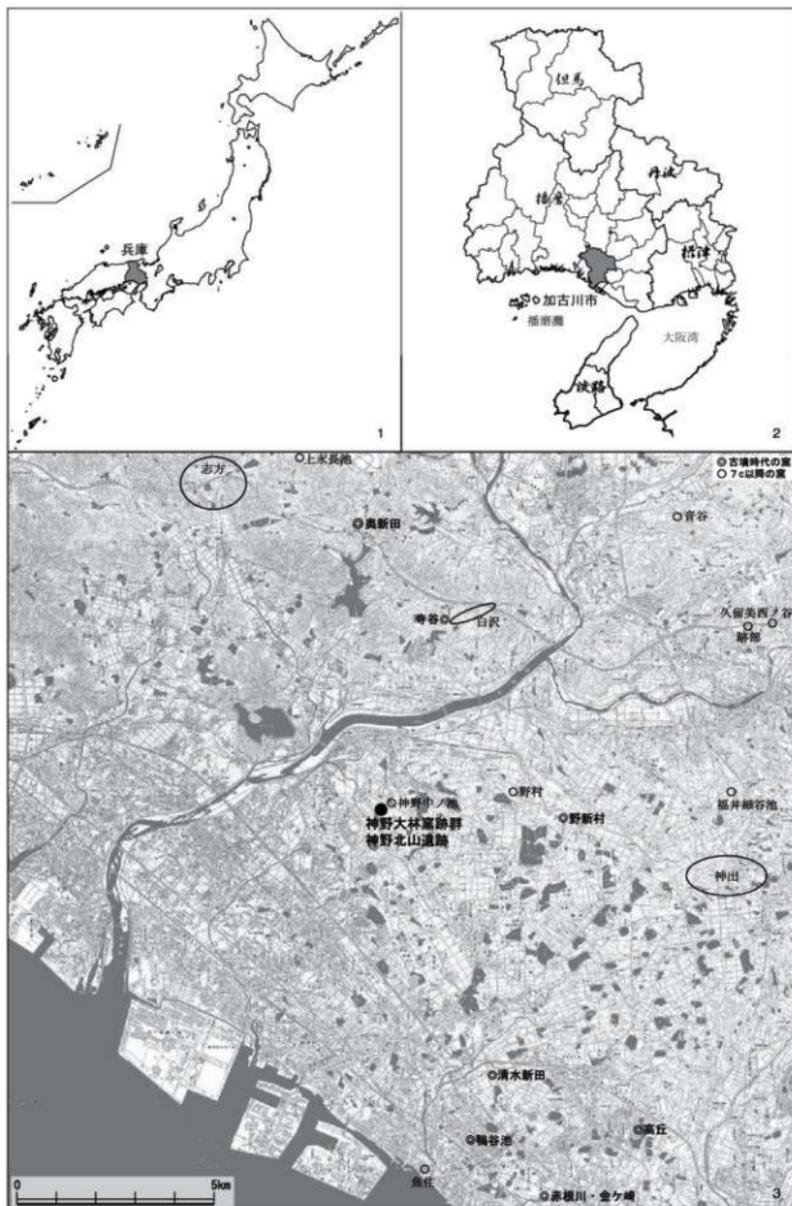
部A……………回転ケズリ

部B……………回転ケズリ、ケズリ残しあり

部C……………へら切り

部D……………へら切り、周囲にケズリ様の痕跡を残すもの

圖
版



1 兵庫県的位置 2 加古川市の位置 3 神野大林窯跡群・神野北山遺跡の位置 (参考: 周辺の道路)

神野大塚遺跡群・神野北山遺跡周辺の遺跡一覧

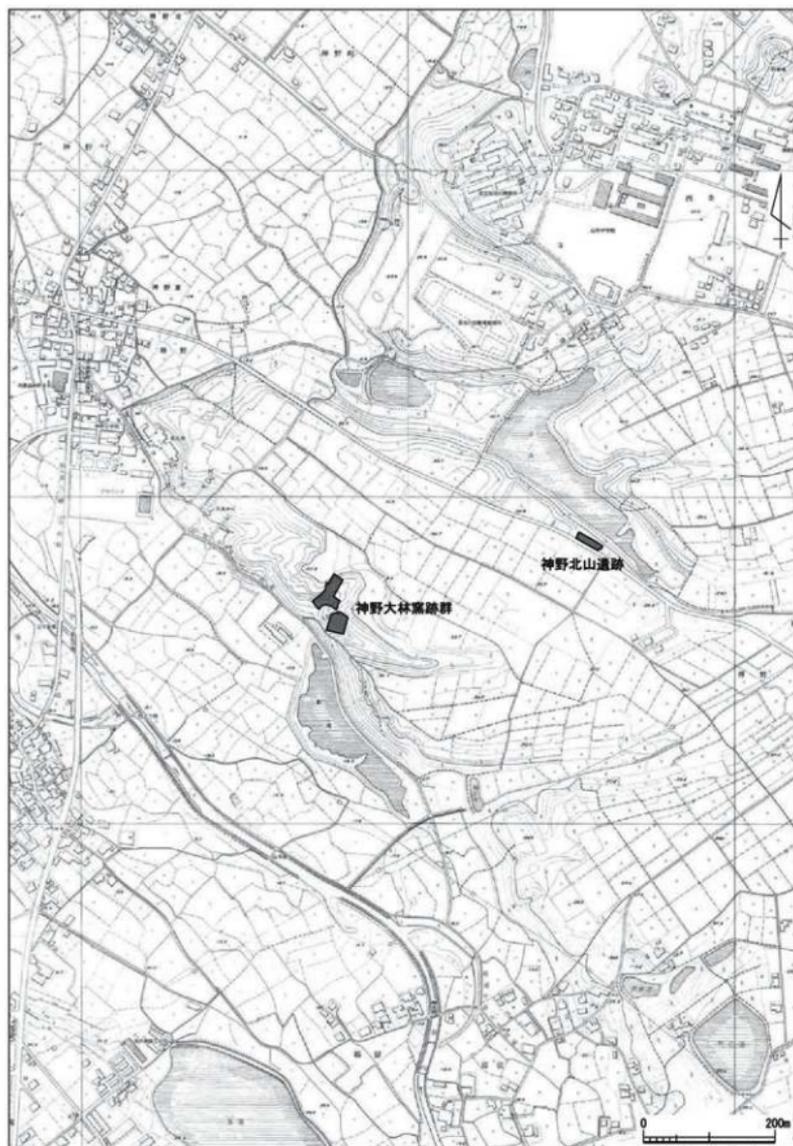
番号	地図	遺跡番号	遺跡名	時代・備考
1	85	110631～633	神野大塚遺跡群	古墳
2	85	110635	神野北山遺跡	古墳
3	85	110061	城山1号墳	古墳
4	85	110242	西条城跡	中世
5	85	110002	神野城山遺跡	旧石器
6	85	110229	西条蔵骨器群	中世
7	85	110230	西条土塚墓	中世
8	85	110485	神野遺跡	縄文～平安
9	85	110226	西条庵寺	奈良
10	85	110089	西条52号墳	弥生
11	85	110062～094	西条古墳群	古墳
12	85	110031	行者塚古墳	古墳、前方後円墳
13	85	110033	人塚古墳	古墳、帆立貝墳
14	85	110032	尼塚古墳	古墳、帆立貝墳
15	85	110249	手末構居跡	中世
16	85	110250	高田構居跡	中世
17	84	110095・96	二塚古墳群	古墳
18	84	110248	石守構居跡	中世
19	85	110225	石守庵寺	奈良
20	85	110611	天神前遺跡	中世
21	85	110118ほか	石守古墳群	古墳
22	84	110118・282	水足古墳群	古墳
23	84	110097	若神社古墳	古墳
24	84	110098～117	日岡山古墳群	古墳
25	84	110030	北大塚古墳	古墳、前方後円墳
26	84	110026	ひれ墓古墳	古墳、前方後円墳
27	84	110029	西大塚古墳	古墳、前方後円墳
28	84	110028	南大塚古墳	古墳、前方後円墳
29	84	110022	東車塚古墳	古墳、全壊、円墳
30	84	110027	西車塚古墳	古墳、円墳
31	84	110025	勸使塚古墳	古墳、前方後円墳
32	84	110024	狐塚古墳	古墳、帆立貝墳
33	84	110004	日岡山遺跡	旧石器
34	84	110234	日岡山遺跡	弥生・古墳
35	84	110231	日岡山壘棺墓	弥生
36	84	110218	美乃利遺跡	弥生～中世
37	84	110636	大野遺跡	弥生～中世
38	84	110251	中津構居跡	中世
39	84	110224	溝之口庵寺	奈良
40	84	110010	溝之口遺跡	弥生～平安
41	84	110263	加古川城跡	中世
42	84	110622	粟津大年遺跡	中世
43	84	110294	粟津遺跡	弥生・古墳
44	84	110357	平野遺跡	弥生
45	84	110292	北在家遺跡	弥生・古墳
46	84	110614	鶴林寺	平安
47	92	110212	尾上遺跡	弥生・古墳
48	92	110213	浜の宮遺跡	弥生・古墳
49	92	110017	長砂遺跡	弥生
50	92	110023	聖陵山古墳	古墳、前方後円墳
51	92	110260	長砂構居跡	中世
52	84	110261	細田構居跡	中世
53	84	110305	具平塚古墳	古墳
54	84	110617	具平塚遺跡	弥生
55	84	110634	坂元遺跡	旧石器、縄文～中世
56	84	110634	坂元埴輪窯跡	古墳
57	92	110220	古大内遺跡	奈良
58	92	110241	古大内城跡	中世
59	84	110621	教信寺	平安・中世
60	92	110259	野口城跡	中世

番号	地図	遺跡番号	遺跡名	時代・備考
61	84	110223	野口庵寺	奈良
62	92	110488	古代山陽道	奈良
63	92	110245	横倉城跡	中世
64	85	110487	都台古墳	古墳
65	85	110290ほか	地獄谷古墳群	古墳
66	85	110264・265	天坊山古墳群	古墳
67	85	110124	東山古墳	古墳
68	85	110122・123	印南山古墳群	古墳
69	85	110504	上原遺跡	奈良
70	85	110293・486	上原古墳群	古墳
71	85	110121	上原古墳	古墳
72	85	110505	長池遺跡	奈良
73	85	110499	助谷古墓	奈良
74	85	110517	峠上ノ池遺跡	奈良
75	84	110506	山角庵寺	奈良
76	84	110507	神木遺跡	奈良
77	84	110255	神木構居跡	中世
78	84	110125	小畑1号墳	古墳
79	84	110286ほか	八ツ仏古墳群	古墳
80	84	110206	小畑古墳	古墳、前方後円墳
81	84	110521	原兵庫寺墓	中世
82	84	110484	観音堂遺跡	旧石器
83	84	110042	里古墳	古墳、前方後円墳
84	84	110498	西山遺跡	古墳
85	84	110043	西山大塚古墳	古墳
86	84	110132ほか	地蔵寺古墳群	古墳
87	84	110137ほか	平山古墳群	古墳
88	84	110011	平山遺跡	弥生
89	84	110044	池尻2号墳	古墳、帆立貝墳
90	84	110045	カヌ塚古墳	古墳、帆立貝墳
91	84	110140ほか	池尻古墳群	古墳
92	84	110126～131	飯盛山古墳群	古墳
93	84	110554	黒岩山古墳	古墳
94	84	110200	天下原古墳	古墳
95	84	110222	天下原遺跡	弥生～奈良
96	84	110152ほか	升田山古墳群	古墳
97	84	110219	升田遺跡	奈良
98	84	110478	佐伯寺跡	平安
99	84	110257	砂部構居跡	中世
100	84	110009	砂部遺跡	縄文～奈良
101	84	110221	神吉南遺跡	弥生～奈良
102	84	110015	神吉遺跡	弥生
103	84	110256	神吉城跡	中世
104	84	110201～205	神吉山古墳群	古墳
105	84	110021	神吉山遺跡	弥生
106	84	110610	北谷遺跡	弥生～中世
107	84	110013	中西古池遺跡	弥生～中世
108	84	110006	宮前大池遺跡	縄文
109	84	110232	宮前大池埴輪窯跡	古墳
110	84	110208	宮山2号墳	古墳、前方後円墳
111	84	110207～209	宮山古墳群	古墳
112	84	110346	穴蔵古墳	古墳
113	84	110459	横山遺跡	縄文
114	84	110319	上富木遺跡	縄文～平安
115	84	110491	銅塚古墳	古墳
116	84	110341	山越古墳	古墳
117	84	110309	畑谷池遺跡	旧石器・縄文
118	84	110355	塚山古墳	古墳
119	84	110529	投松東古墳群	古墳
120	84	110347	二子塚古墳	古墳
121	84	110354	岡山西方遺跡	古墳

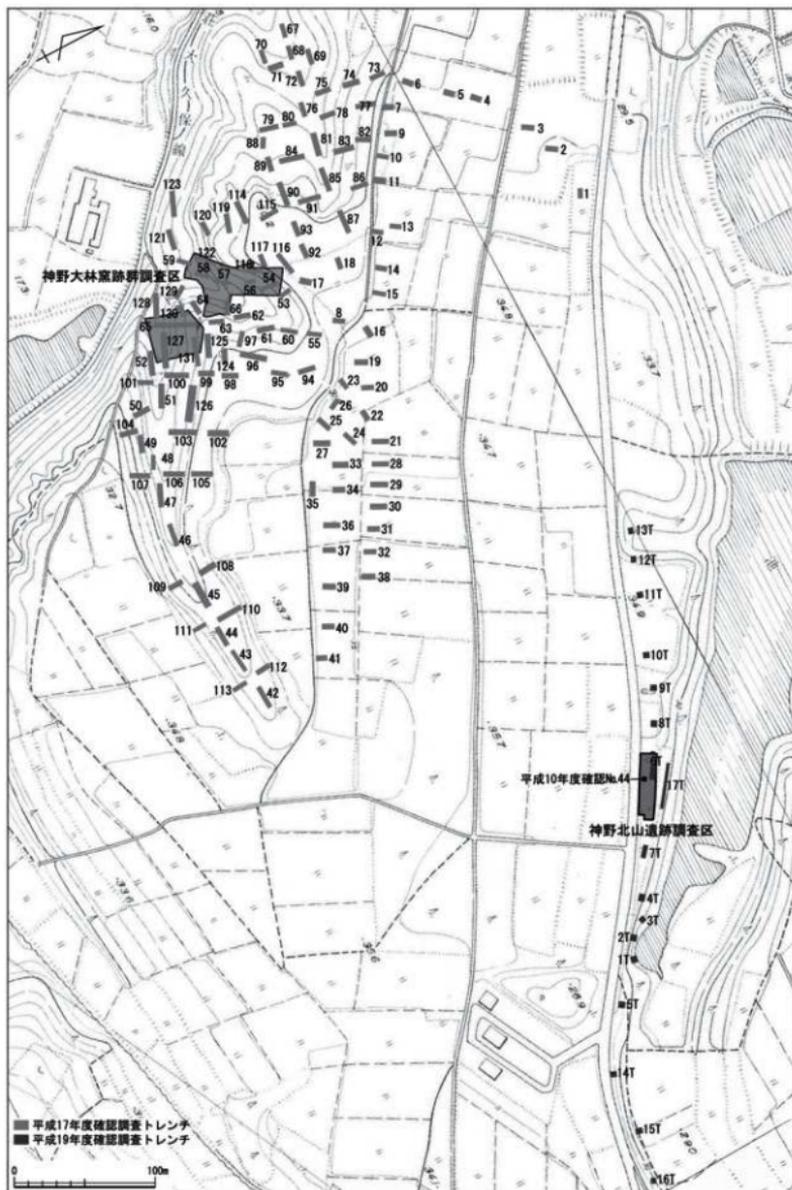


神野大林窯跡群・神野北山遺跡周辺の主要遺跡 (1:35,000)

図版 4
遺跡

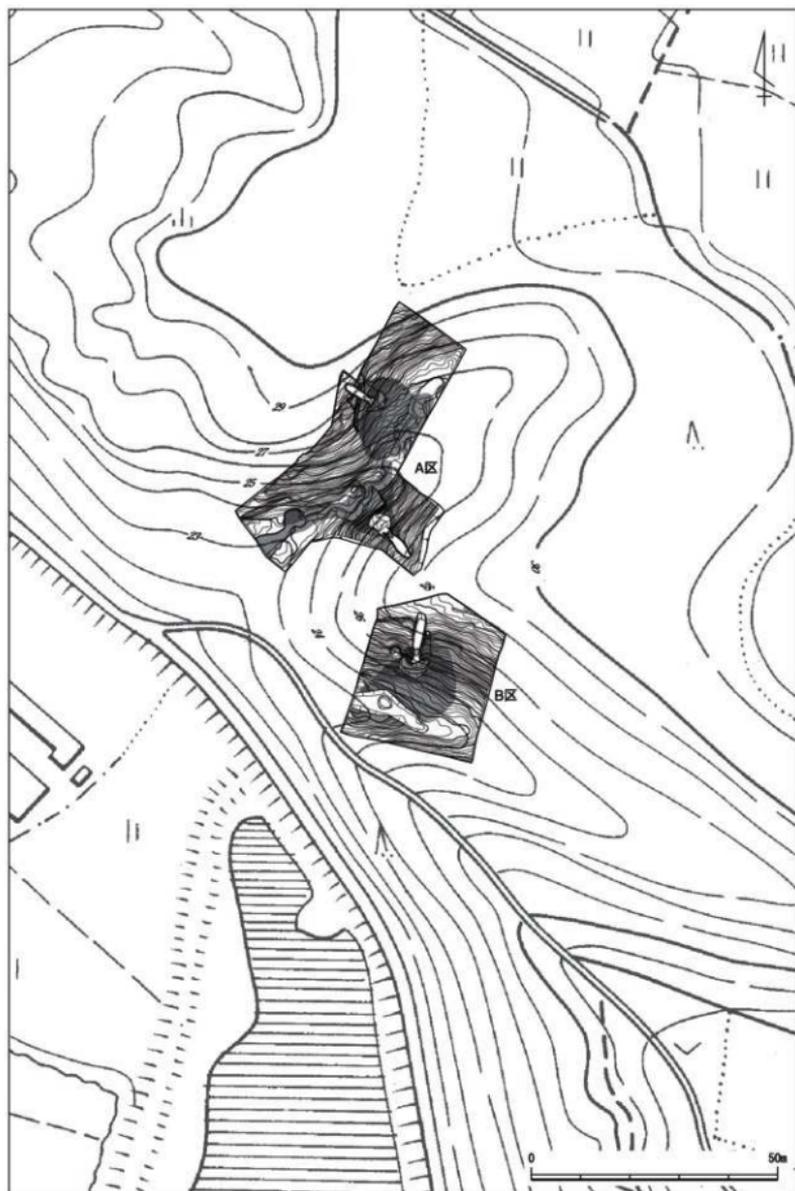


神野大林窟跡群・神野北山遺跡位置図 (1:7500)

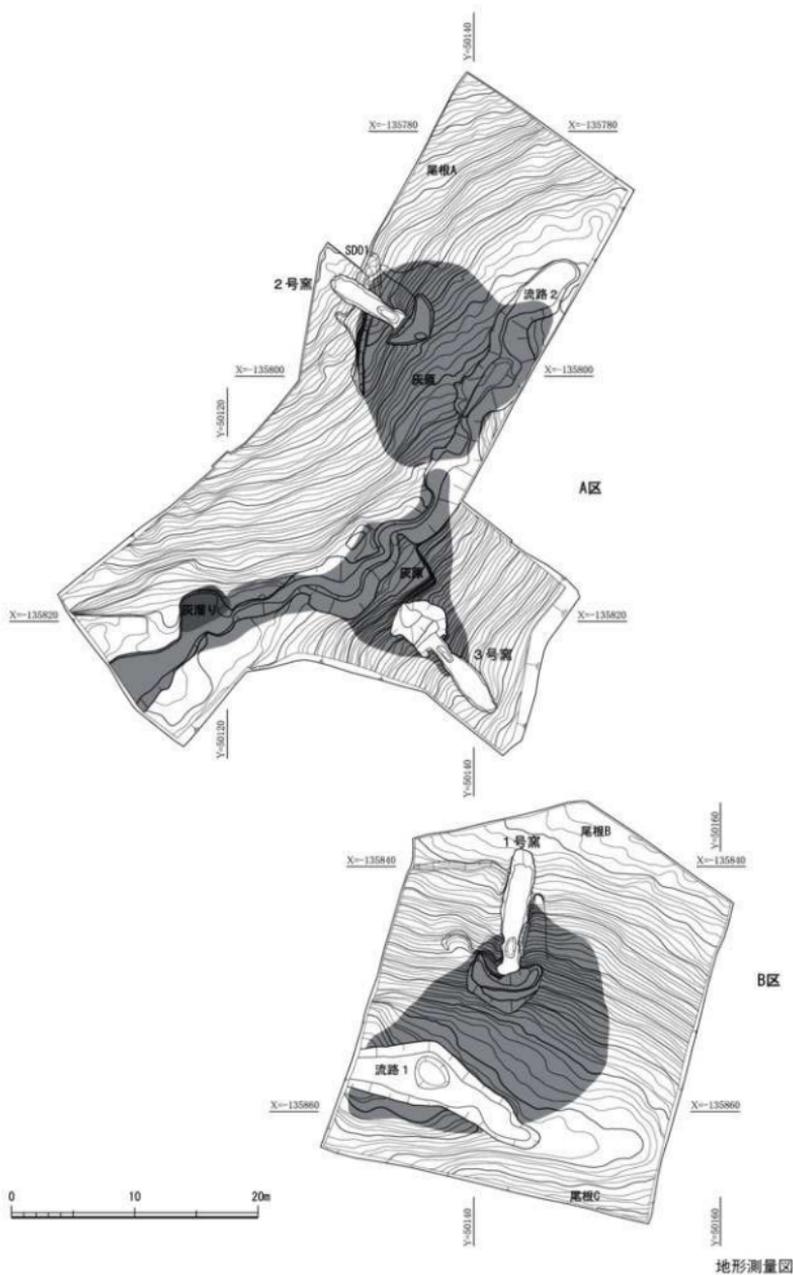


確認調査と本発掘調査の位置図 (1 : 3,500)

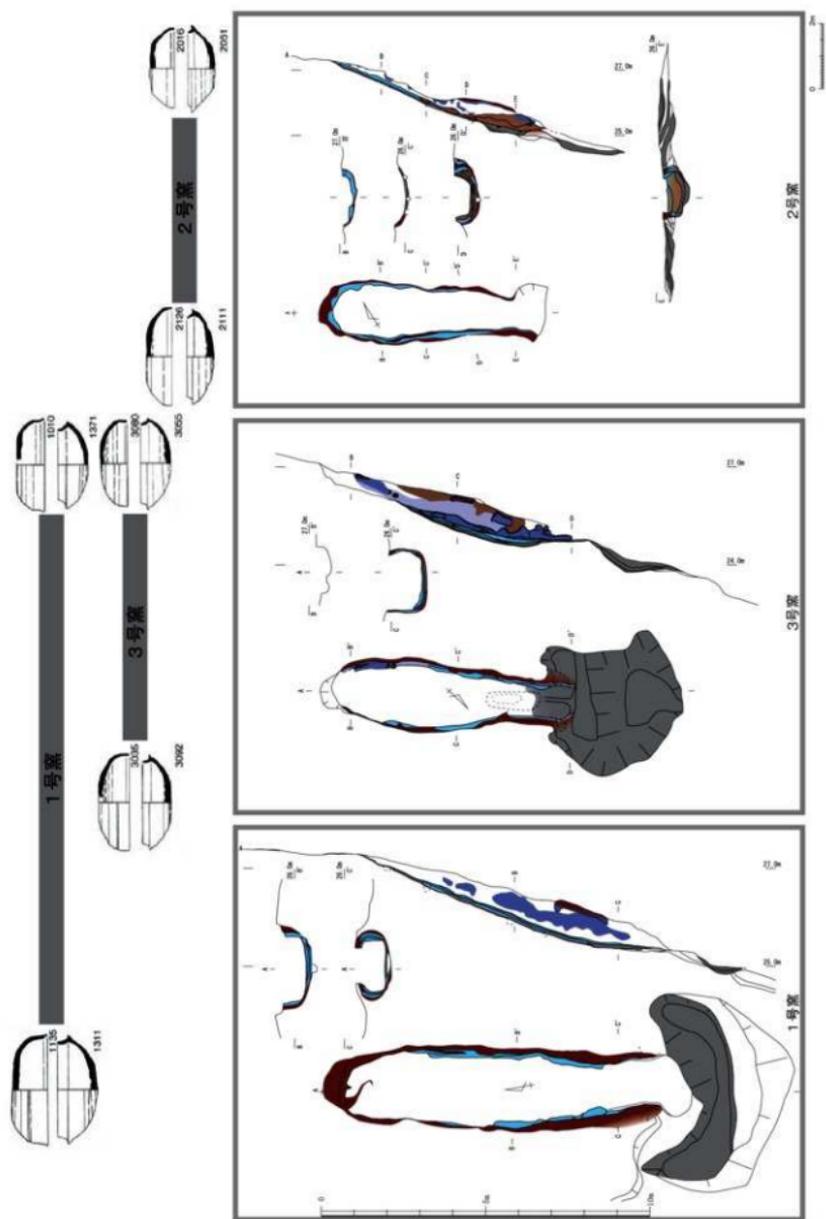
図版 6
遺跡
神野大林窯跡群



調査区位置図 (1:1,000)

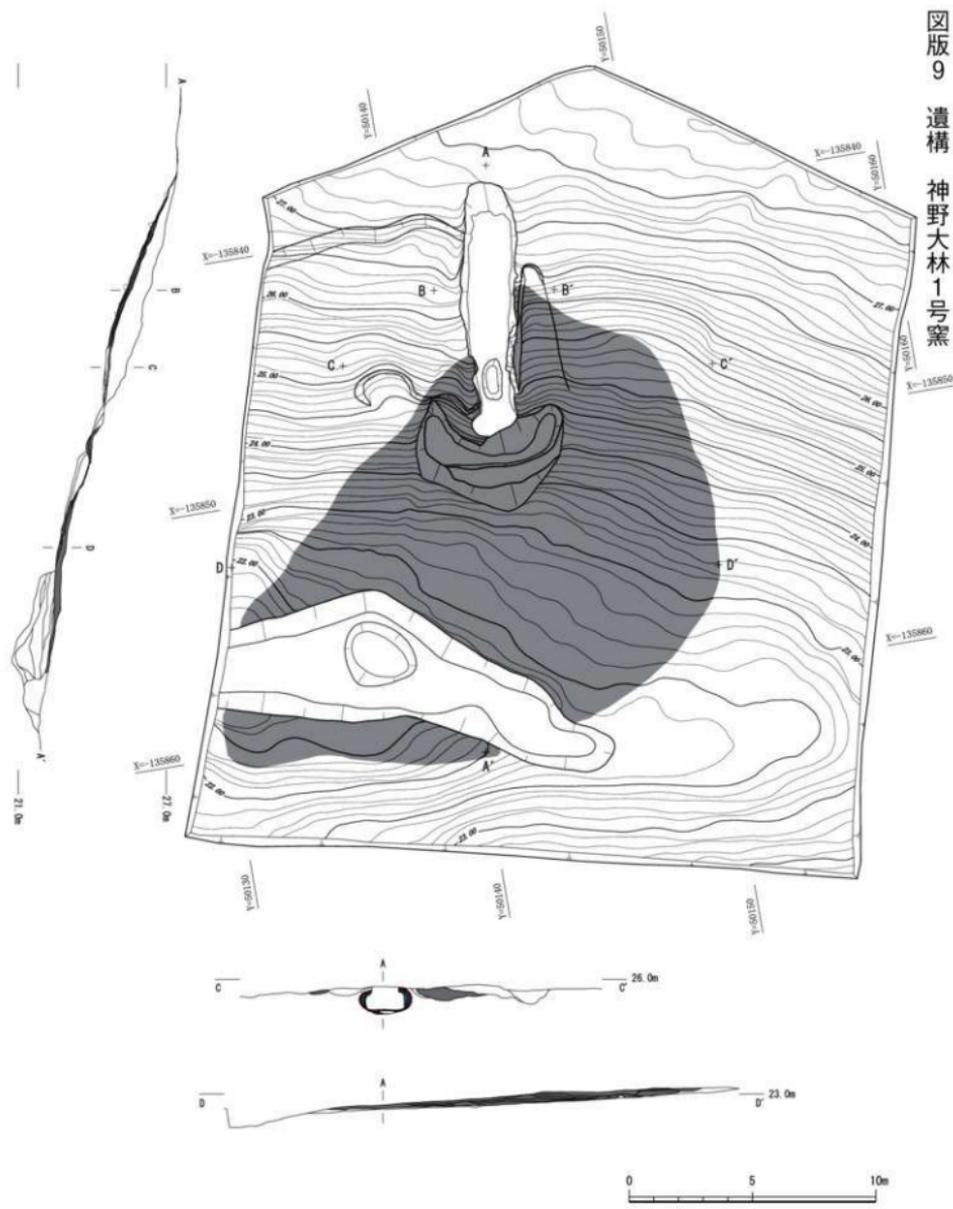


図版 8 遺跡 神野大林窯跡群

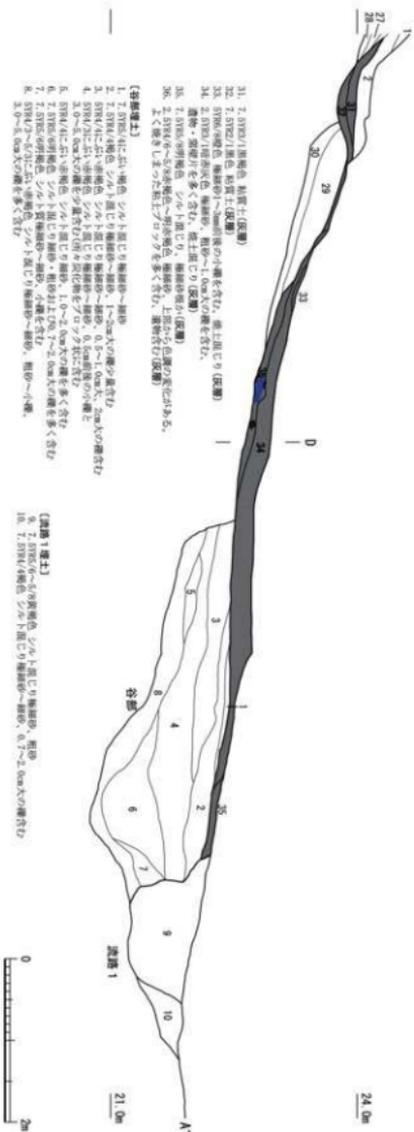
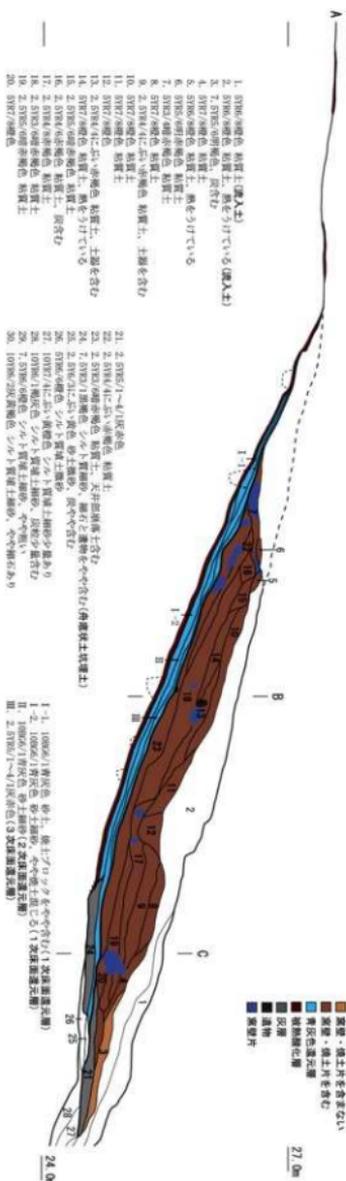


窯体比較図

図版9 遺構 神野大林1号窯



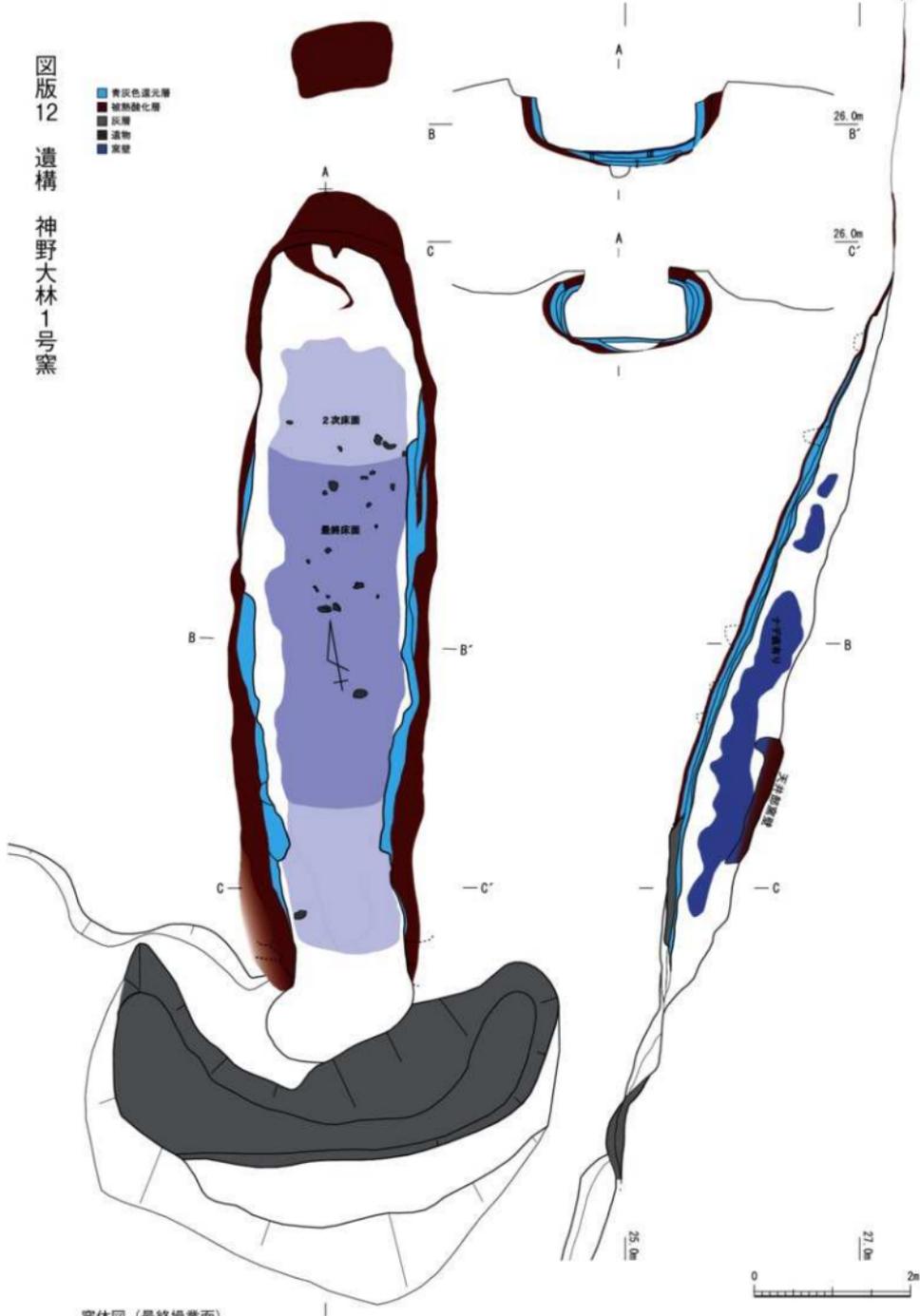
地形測量図



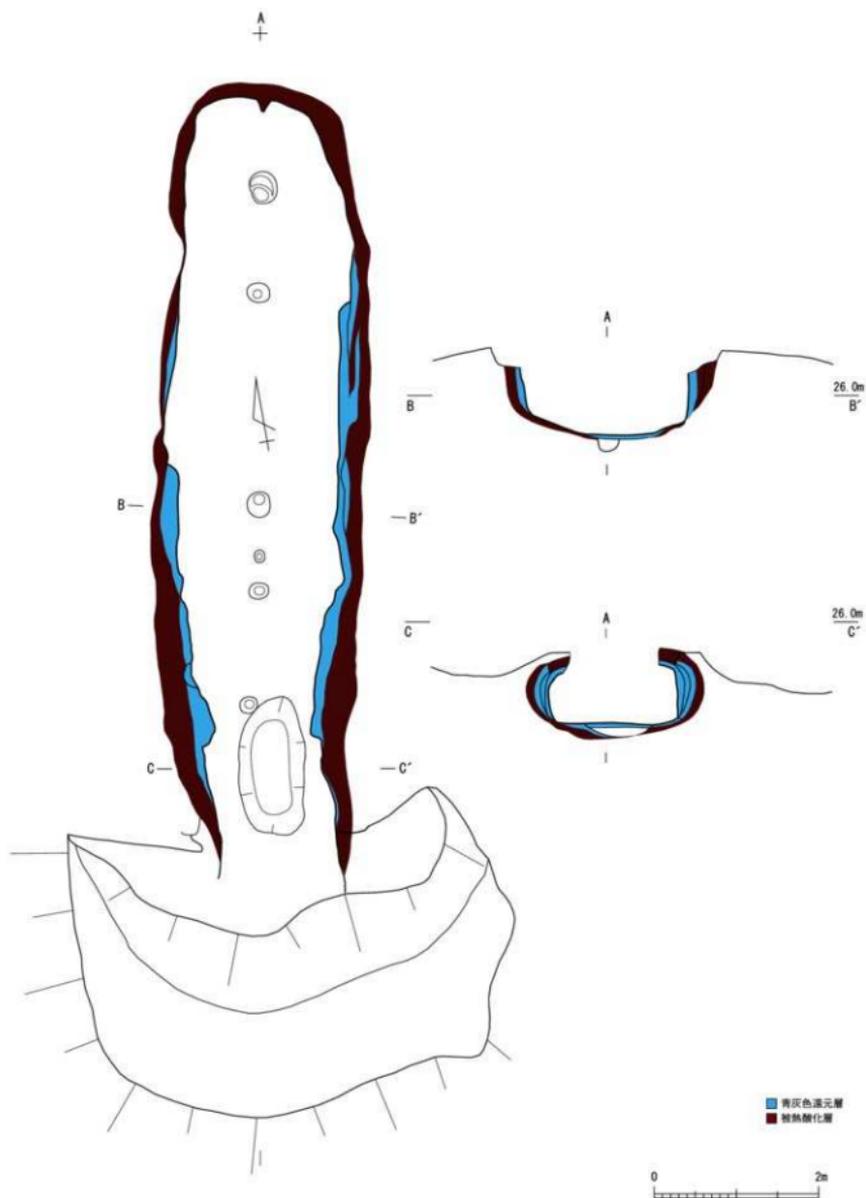
縦断土層図

図版 12 遺構 神野大林 1号窯

- 青灰色還元層
- 被熱酸化層
- 灰層
- 遺物
- 窯壁

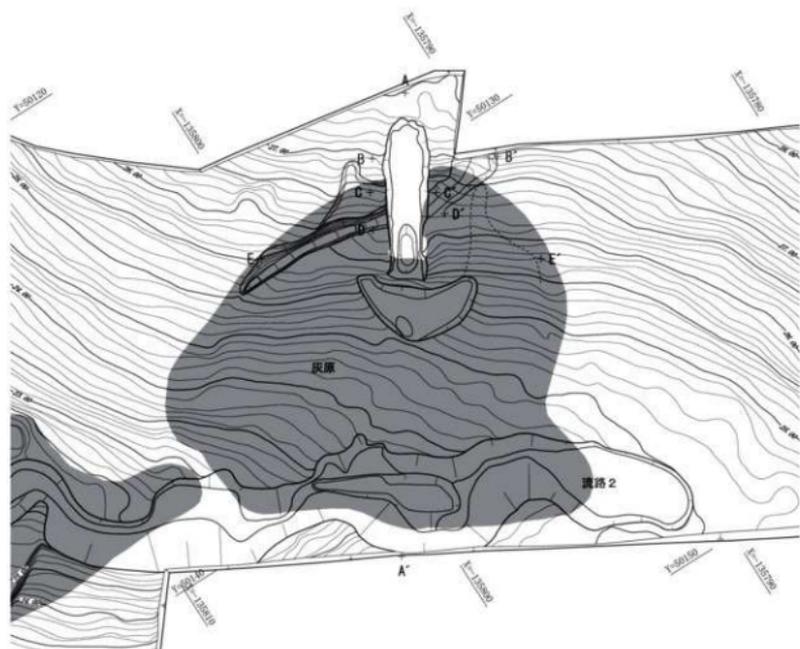


窯体図（最終操業面）

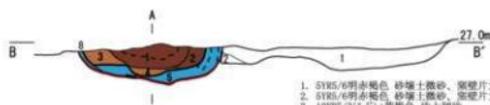


窯体図（操業当初面）・窯体内ビット検出状況

図版 14
遺構
神野大林2号窯



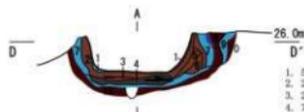
- 窯壁片・焼土を含まない
- 窯壁片・焼土を含む
- 黄灰色還元層
- 植物炭化層
- 灰層
- 遺物
- 窯壁片



1. 5YR5/6明赤褐色 砂壤土微砂、窯壁片大量に含む
2. 5YR5/6明赤褐色 砂壤土微砂、窯壁片大量に含む
3. 10YR5/2にぶい黄褐色 砂土微砂
4. 10YR5/2にぶい黄褐色 砂土微砂
5. 10Bz/1青灰色 砂土微砂、固くしめる
6. 2.5YR5/6明黄褐色 礫質砂土微砂、一部窯壁片含む

【窯体外埋土】

1. 7.5YR5/6褐色 礫質砂土微砂
2. 10YR5/4にぶい黄褐色 砂土微砂



1. 5S6/1緑灰色 砂土微砂
2. 2.5YR5/6褐色 砂土微砂 0.5程度の礫石有り
3. 2.5YR5/9明赤褐色 砂土微砂 0.5程度の礫石有り
4. 7.5YR2/1黒褐色 シルト質礫土微砂、灰・炭化材と遺物含む
5. 2.5YR5/6褐色 砂土微砂 0.5程度の礫石有り、細砂若干多い
6. 2.5YR5/6明赤褐色 砂土微砂
7. 9.5. 5YR5明赤褐色 砂土微砂
- 7.5S6/2緑白色 砂土微砂
8. 5YR5/6褐色 砂土微砂
9. 5Y7/1灰白色 砂土微砂
10. 5YR5/6褐色 砂土微砂

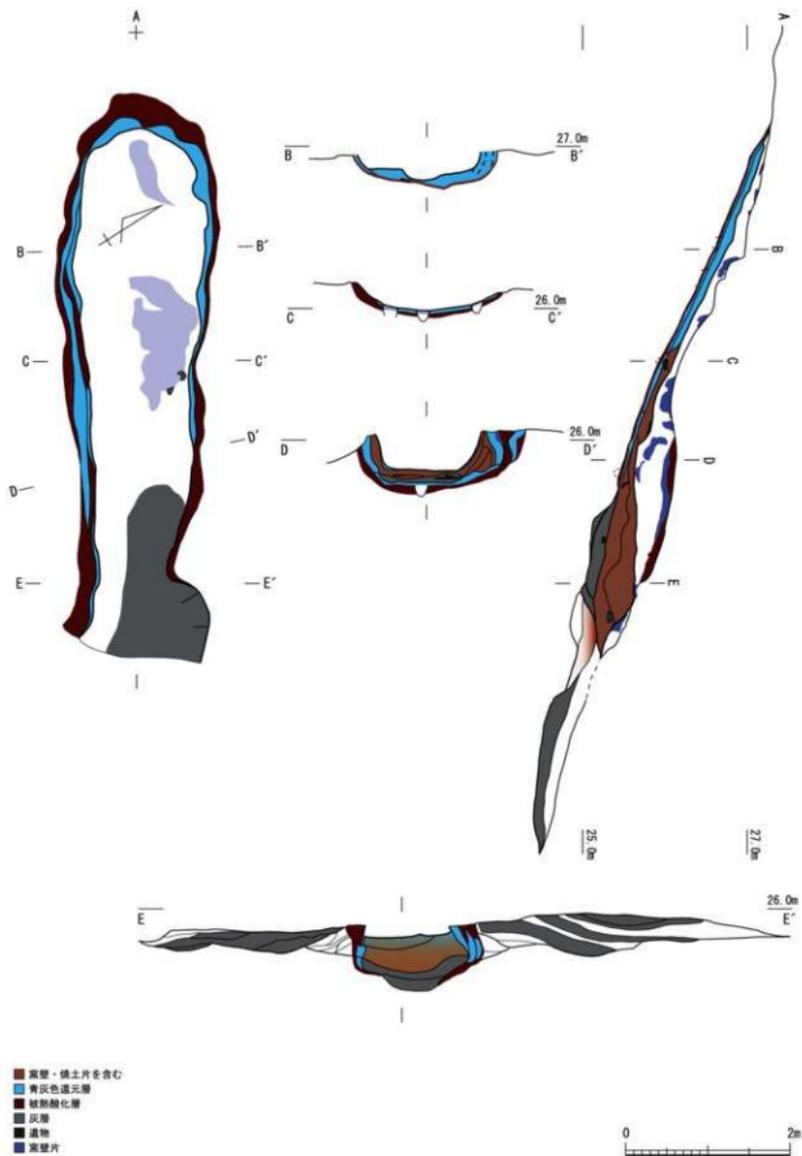


1. 10YR5/2灰黄褐色 砂壤土微砂、炭粒少量含む
2. 10YR5/2にぶい黄褐色 礫質砂土
3. 10YR5/2にぶい黄褐色 砂壤土微砂 (2次窯体)
4. 5YR5/6明赤褐色 礫質砂土微砂 (2次窯体)
5. 7.5YR3/1黒褐色 砂壤土微砂、炭粒少量含む (2箇目舟盛状土坑)
6. 暗褐色、窯壁片・炭化物含む、焼し残り強 (1箇目舟盛状土坑)

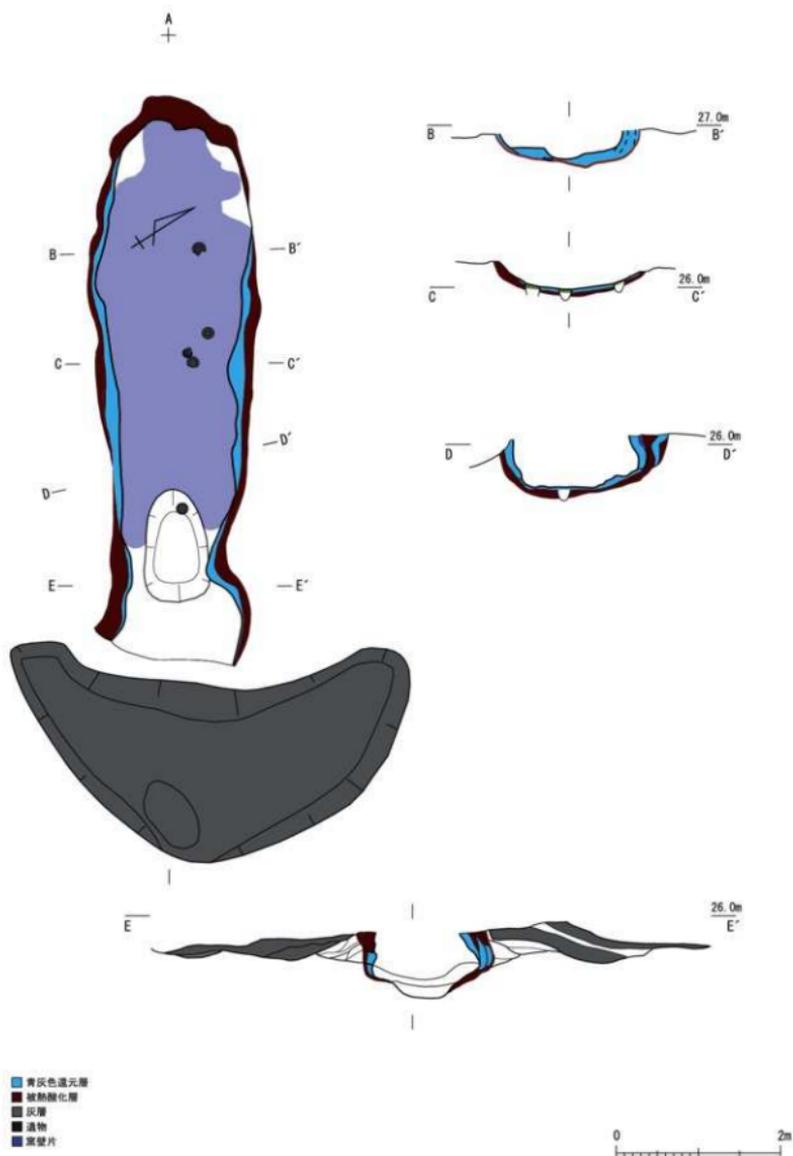
【窯体外埋土】

1. 10YR5/6明褐色 礫質土極細砂、固くしまっている
2. 10YR5/2にぶい黄褐色 砂壤土微砂、炭化材若干有り
3. 10YR7/6明黄褐色 砂土微砂、炭粒少量含む
4. 7.5YR5/6黄褐色 砂質礫壤土微砂、窯壁片と焼土混じる
5. 10YR5/4にぶい黄褐色 砂質礫土微砂、遺物若干散れ込む
6. 7.5YR7/6褐色 砂質礫土微砂、5~1.0cm程度の礫石含む
7. 5YR5/6明赤褐色 砂土微砂、窯壁片・焼土を含む
8. 10YR5/4にぶい黄褐色 砂土微砂、遺物含む

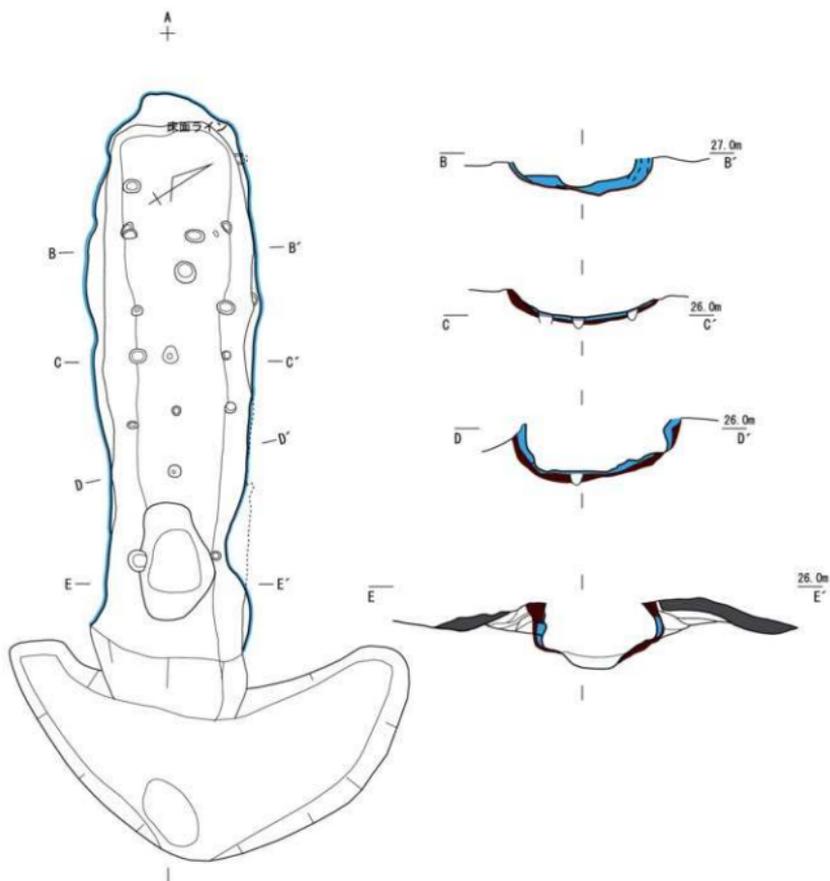




第2次窯体図



第1次窯体図

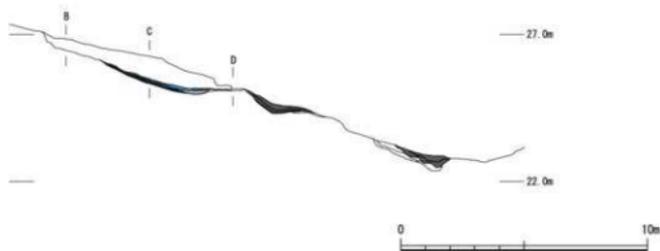
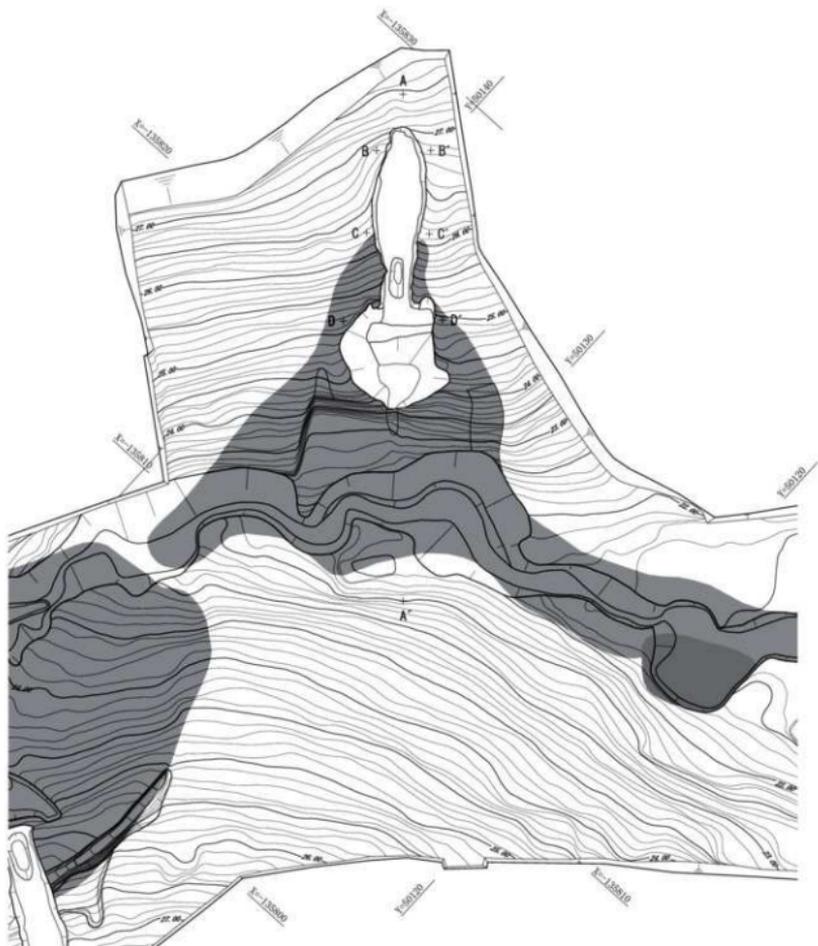


■ 青灰色還元層
■ 被熱酸化層
■ 灰層

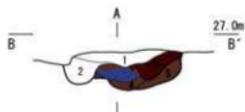
0 2m

第1次窯体図・ビット検出状況

図版 20
遺構
神野大林 3号窯



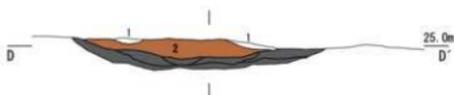
地形測量図



1. 5YR5/6明赤褐色 シルト質極細砂、粗砂～0.7cm大の小礫を少量含む
2. 5YR5/9明赤褐色 粘質土やや粘性有り、極細砂～細砂粗砂混じり
1.0cm前後～4cm大の礫を含む
3. 10R2/6～4/8暗赤色～赤色 粘質土、上層部に炭化物が沈着
4. 2. 5YR4/3濃い赤褐色 砂礫混じり
5. 2. 5YR4/9赤褐色 砂質土細砂～粗砂粘性わずか0.7cm前後礫少し含む、熱をうけている



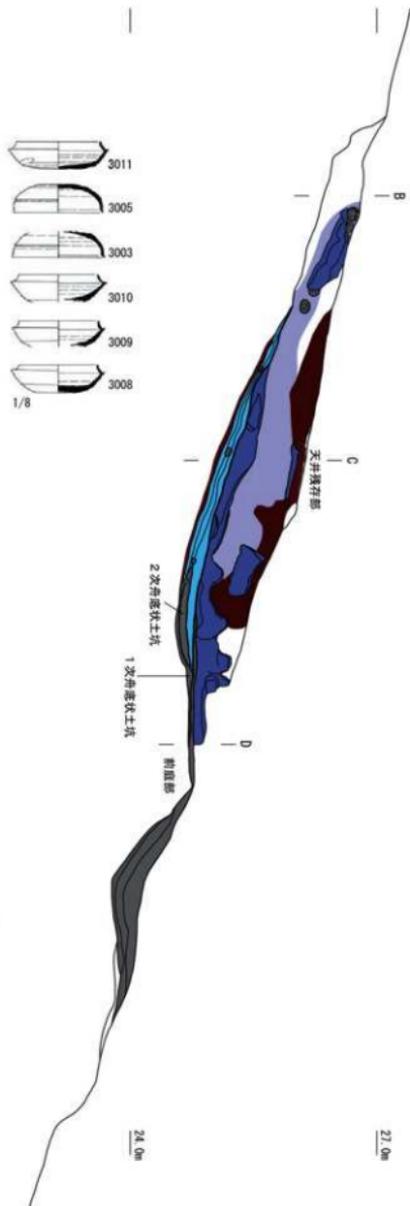
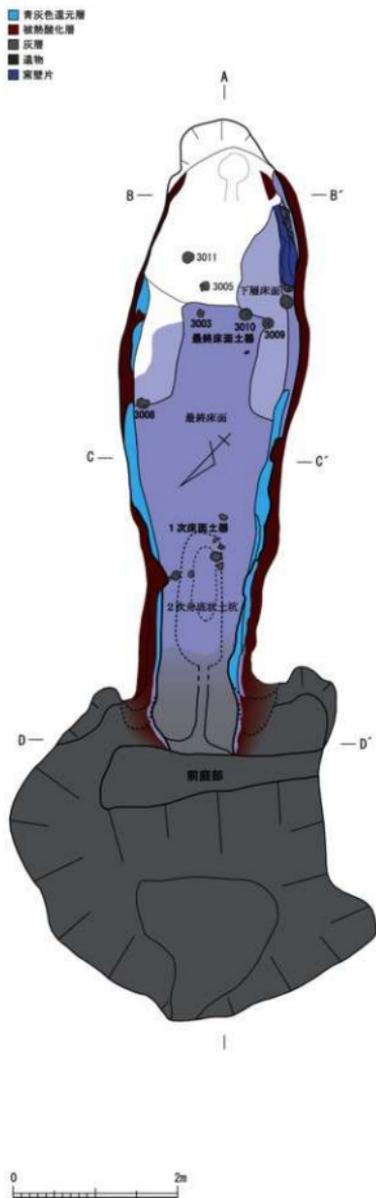
1. 5YR5/6明赤褐色 シルト混じり極細砂1.0～3.0cm大の礫をわずかに含む、流入土
2. 7. 5YR5/6～5/8明褐色 シルト混じり極細砂～細砂粗砂～1cm前後の礫を含む、流入土
3. 7. 5YR5/9明褐色 シルト混じり極細砂2cm大の礫を含む
4. 7. 5YR6/8褐色 砂質土シルト質極細砂粗砂混じり0.4～1.0cm前後の小礫を含む
5. 7. 5YR7/8黄褐色 シルト質極細砂粗砂～0.5cm前後の小礫多く含む
6. 10R4/6赤色 砂質土粗砂0.7cm前後の小礫を含む、焼土
7. 2. 5YR5/9明赤褐色 砂質土やや粘性有り極細砂～細砂1cm前後の礫少量含む、焼土
8. 7. 5YR5/9明褐色 シルト混じり砂質土0.8～2cm前後の礫を少量含む
9. 5YR4/6赤色 1～3cm大の礫を多く含む、焼土
10. 2. 5YR5/8赤褐色 シルト混じり極細砂～細砂（やや粘性有り）上部に3cm前後の礫をわずかに含む
11. 2. 5YR5/8赤褐色 シルト混じり極細砂～細砂やや粘性有り、焼土
12. 2. 5YR4/6赤褐色 シルト質極細砂やや粘性有り、焼土
13. 2. 5YR4/8赤褐色 砂質土極細砂～細砂わずかにシルトを含む、窯壁・焼土含む
14. 2. 5YR4/6赤褐色 砂質土極細砂～細砂やや粘性有り、窯壁片・焼土含む
15. 2. 5YR4/8赤褐色 砂質土極細砂～細砂わずかにシルトを含む、焼土含む
16. 2. 5YR4/6赤褐色 砂質土極細砂～細砂やや粘性有り、窯壁・焼土含む



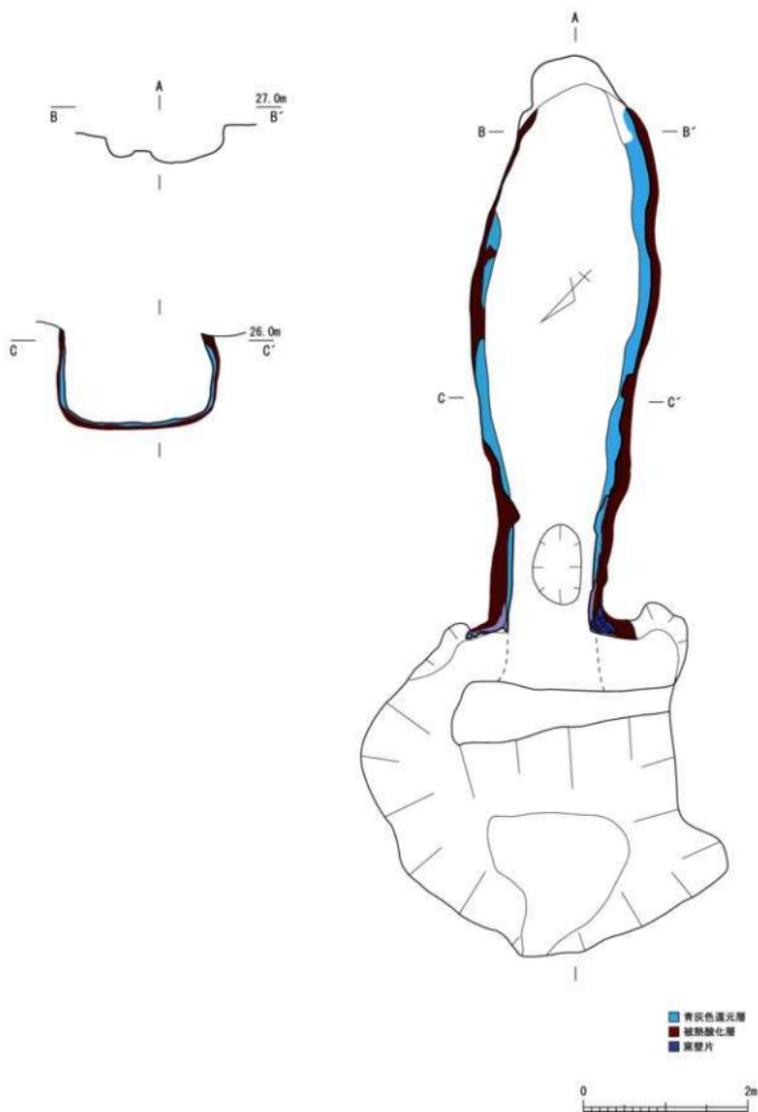
1. 7. 5YR6/8褐色
2. 5YR4/6赤褐色 極細砂～細砂粗砂～1.0～2.0cm大の礫を多く含む

- 窯壁片・焼土を含まない
- 窯壁片・焼土を含む
- 青灰色還元層
- 被熱酸化層
- 灰層
- 遺物
- 窯壁

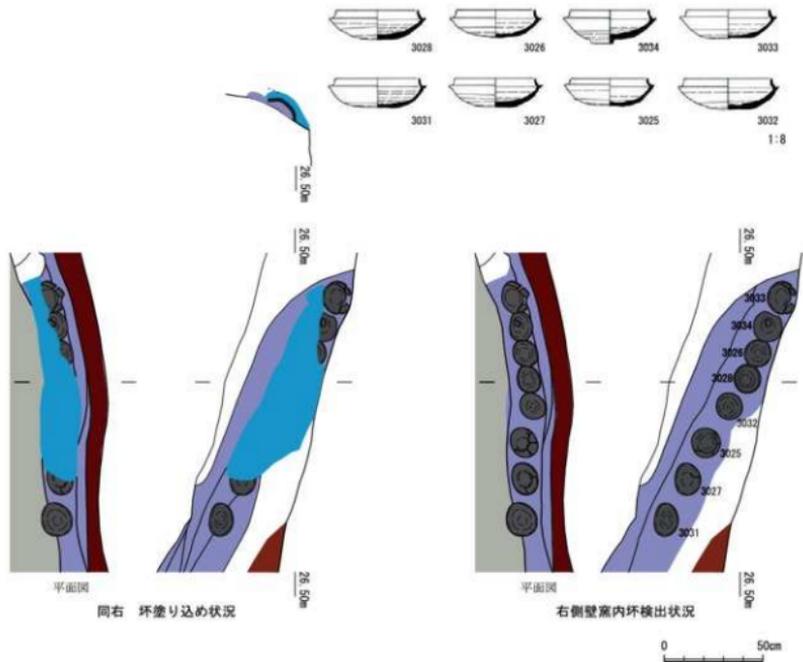




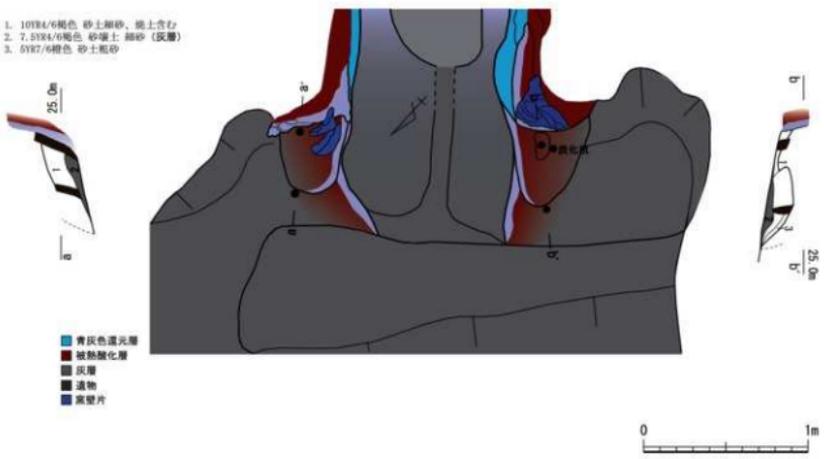
窯体図 (最終採掘面)



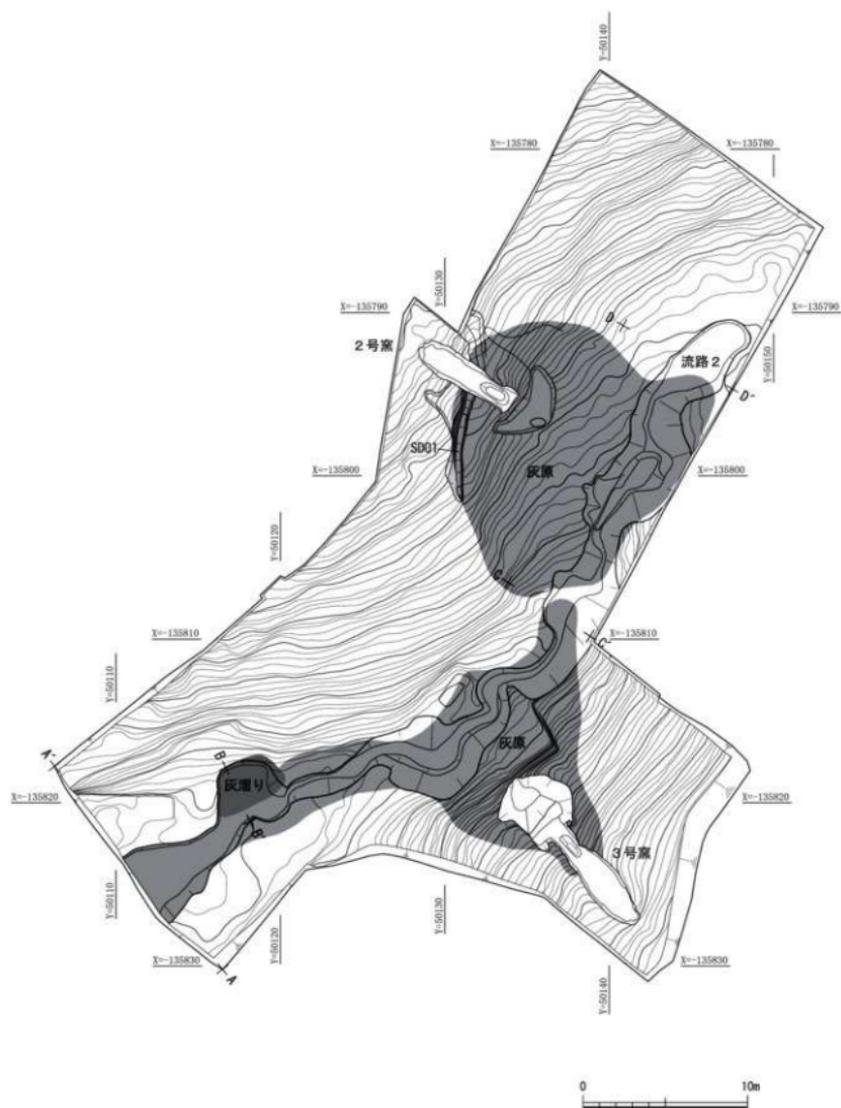
窯体図（採集当初面）

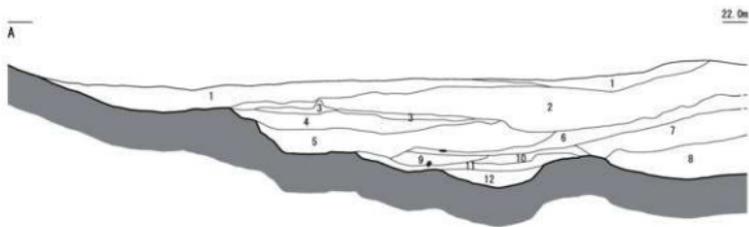


1. 10YR4/6褐色 砂土層砂、粘土含む
2. 7.5YR4/6褐色 砂礫土、細砂（灰層）
3. 5YR7/6褐色 砂土粗砂

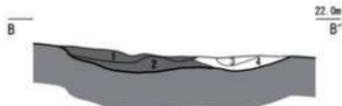
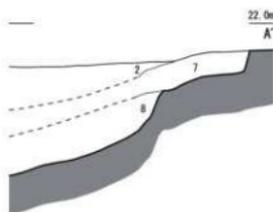


排煙部・焚口詳細図





1. 10YR5/6黄褐色 シルト1.0前後の礫をわずかに含む、表土直下層
2. 7.5YR5/6明褐色 シルト質礫細砂0.7~2.0cm大の礫を少量含む
3. 10YR6/6明黄褐色 シルト質礫細砂
4. 7.5YR6/6褐色 粗砂混じりシルト質礫細砂0.7~2.0cm前後の礫を含む
5. 7.5YR7/6褐色 礫細砂~細砂粗砂~3.0cm大の礫を若干ブロック状に含む
6. 10YR6/6~5明黄褐色~黄褐色 小礫混じり細砂
7. 5YR4/6褐色 粗砂混じり細砂小礫を少量含む
8. 7.5YR5/4にぶい褐色 細砂~粗砂小礫を多く含む
9. 10YR3/4暗褐色 礫細砂~細砂粗砂~1.0cm前後の礫を多く含む、遺物・炭灰片・灰土を多く含む
10. 10YR3/2黒褐色 粗砂混じり礫細砂~細砂、底土のブロックを少量含む
11. 7.5YR3/1黒褐色 礫細砂~細砂、炭化物を多量に含む
12. 7.5YR4/4褐色 シルト質礫細砂2~3cm大の礫をわずかに含む
13. 7.5YR5/6明褐色 粗砂混じり礫細砂~細砂



1. 10YR4/1褐灰色 シルト質壤土微砂、炭を若干含む
2. 7.5YR2/1黒色 シルト質壤土、炭と炭灰を含む
3. 10YR6/3にぶい黄褐色 シルト質壤土微砂・細石を含む
4. 10YR6/3.5にぶい黄褐色 シルト質壤土微砂、Mn多量に含む



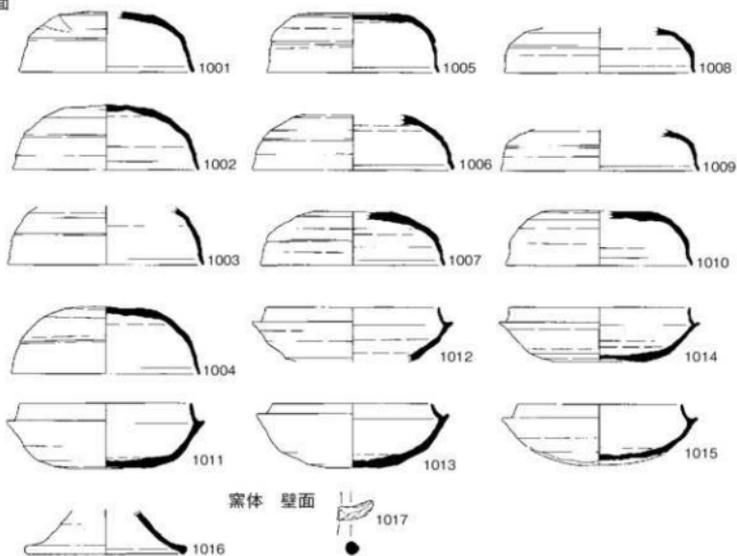
1. 10YR7/6明黄褐色 砂質壤土微砂
2. 10YR7/6明黄褐色 砂質壤土微砂
3. 10YR6/4にぶい黄褐色 シルト質壤土微砂、遺物と細石含む
4. 10YR5/2灰黄褐色 シルト質壤土微砂、炭と炭灰を含む
5. 10YR6/4にぶい黄褐色 シルト質壤土微砂、Mn有り
6. 10YR6/4にぶい黄褐色 シルト質壤土、1.0cm礫石と遺物含む
7. 10YR6/4にぶい黄褐色 シルト質壤土微砂、Mn有り、礫石含む
8. 10YR5/1褐灰色 シルト質壤土微砂
9. 10YR6.5/4にぶい黄褐色 シルト質壤土微砂、Mn粒中有り



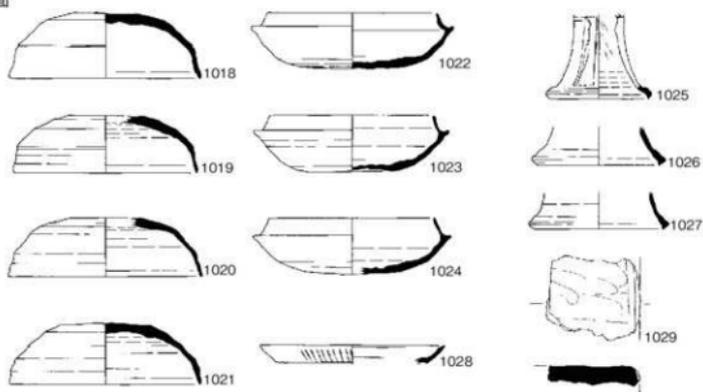
1. 10YR6/7明黄褐色 砂質壤土微砂 (Mn粒有り)
2. 10YR6/7明黄褐色 砂質壤土微砂 (Mn粒多)



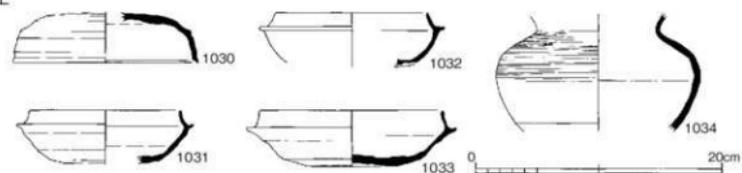
窯体床面



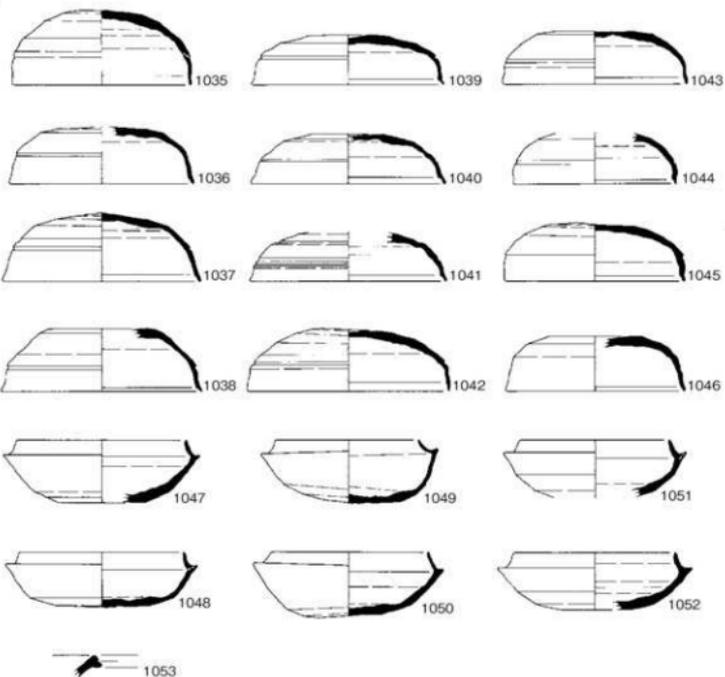
窯体壁面



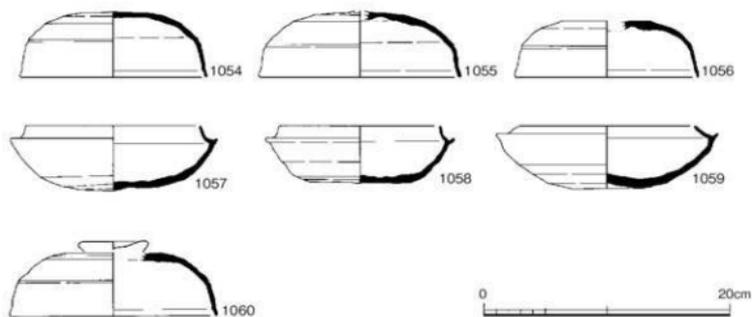
窯体埋土

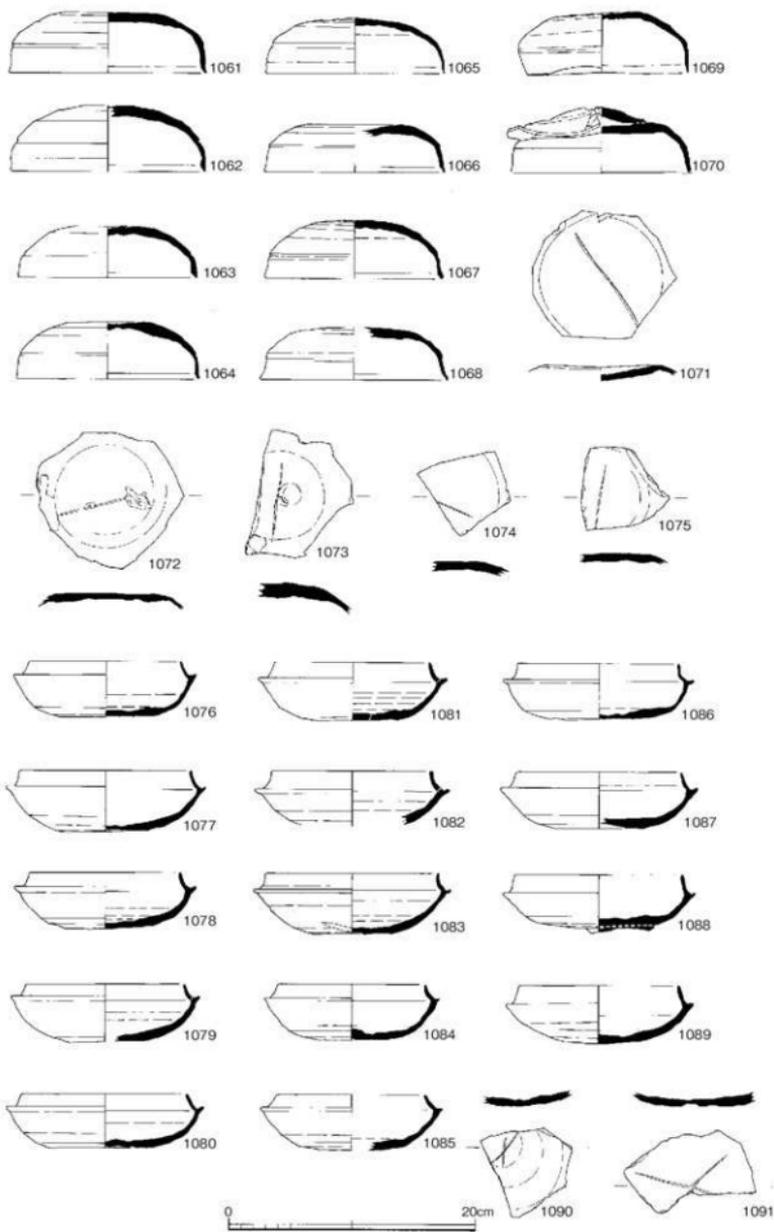


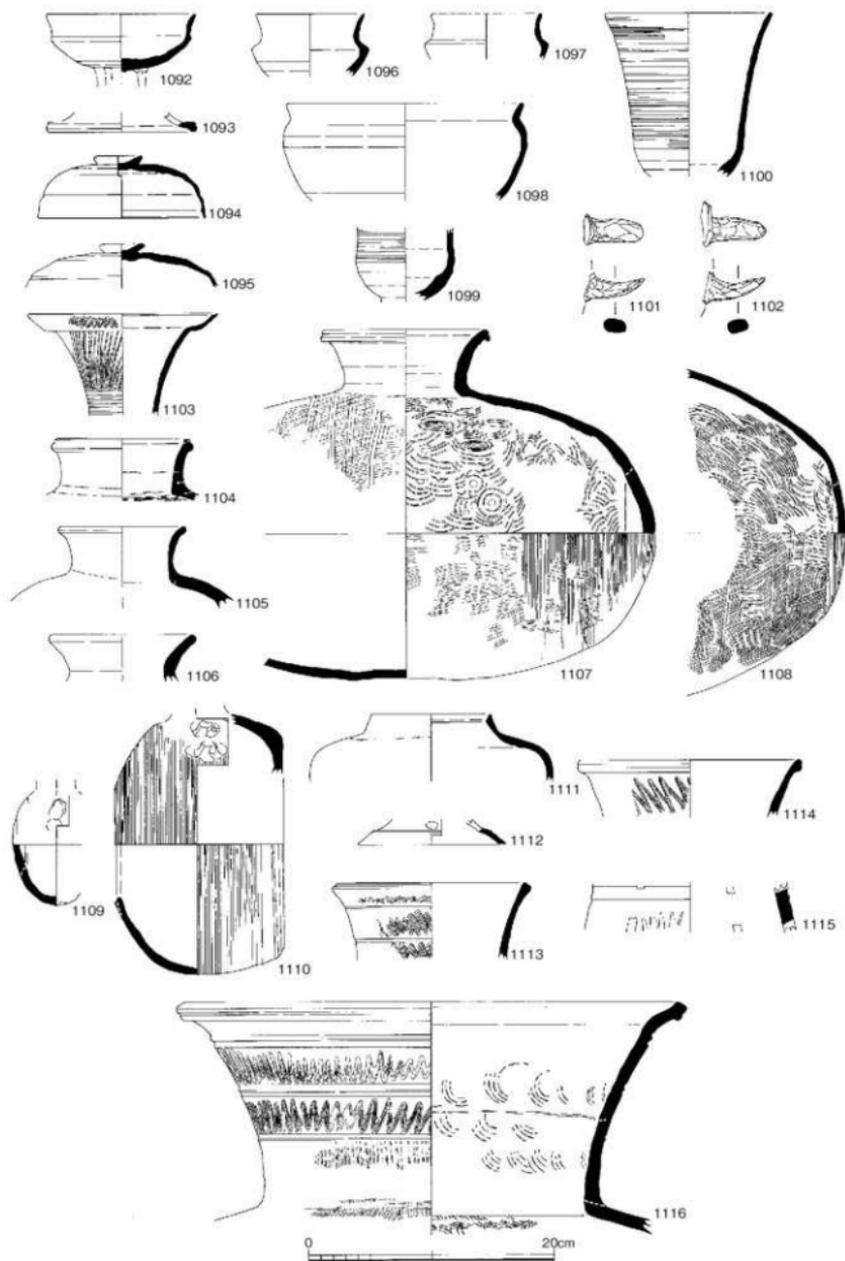
窯体埋土

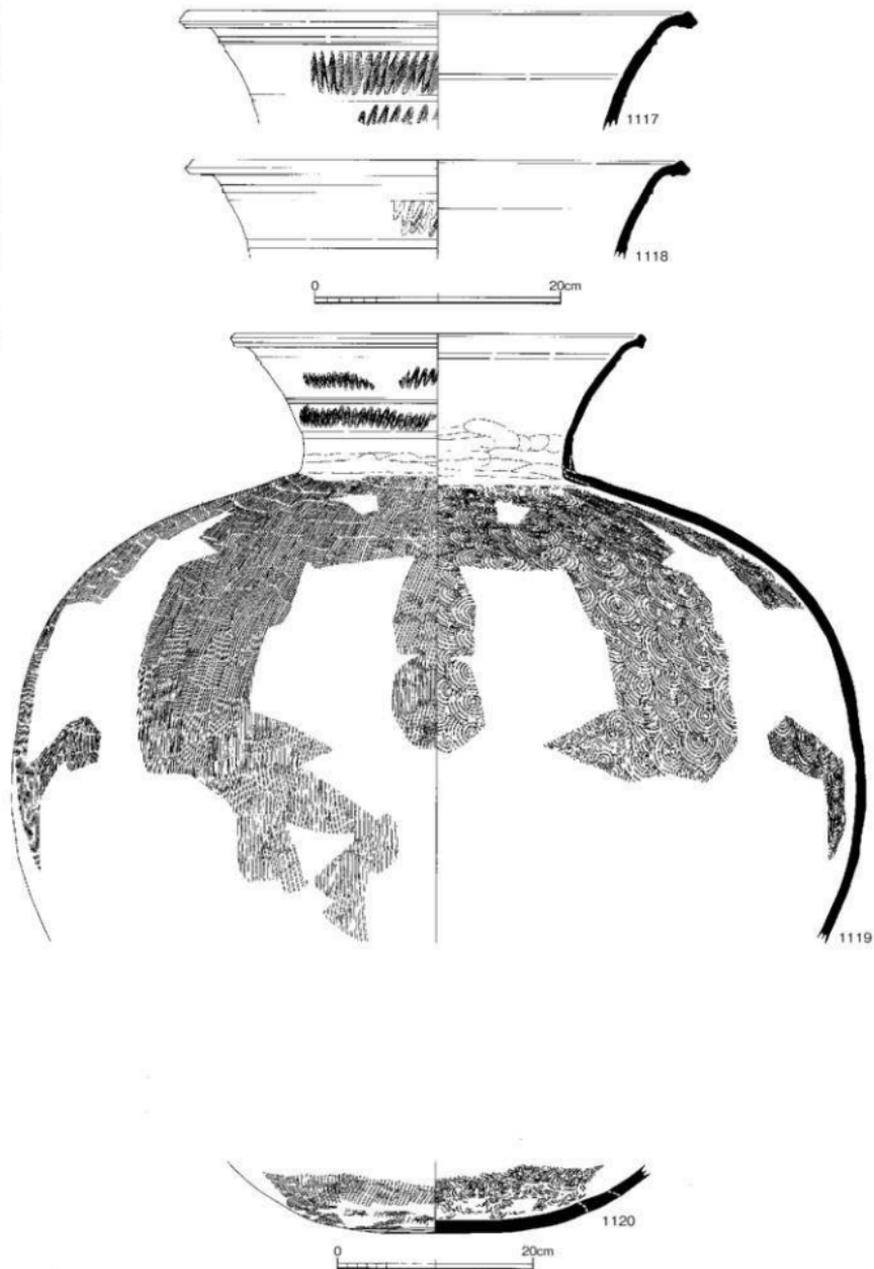


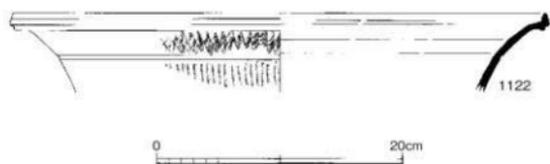
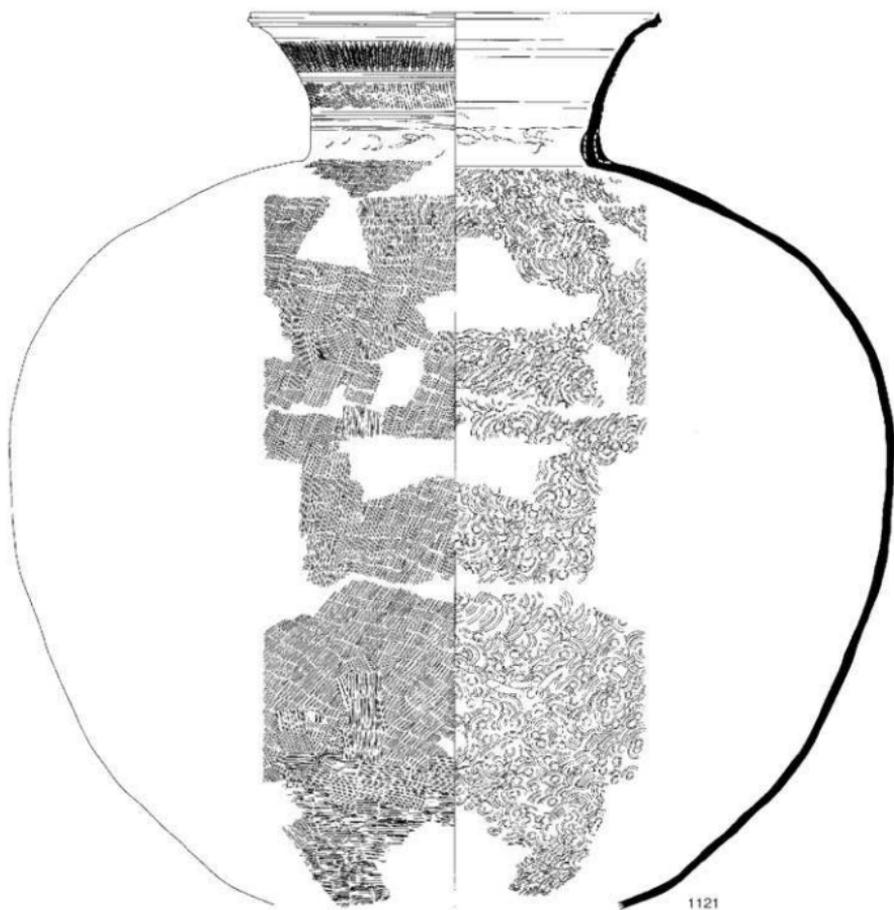
焚口



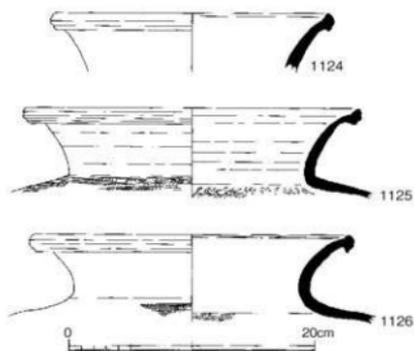
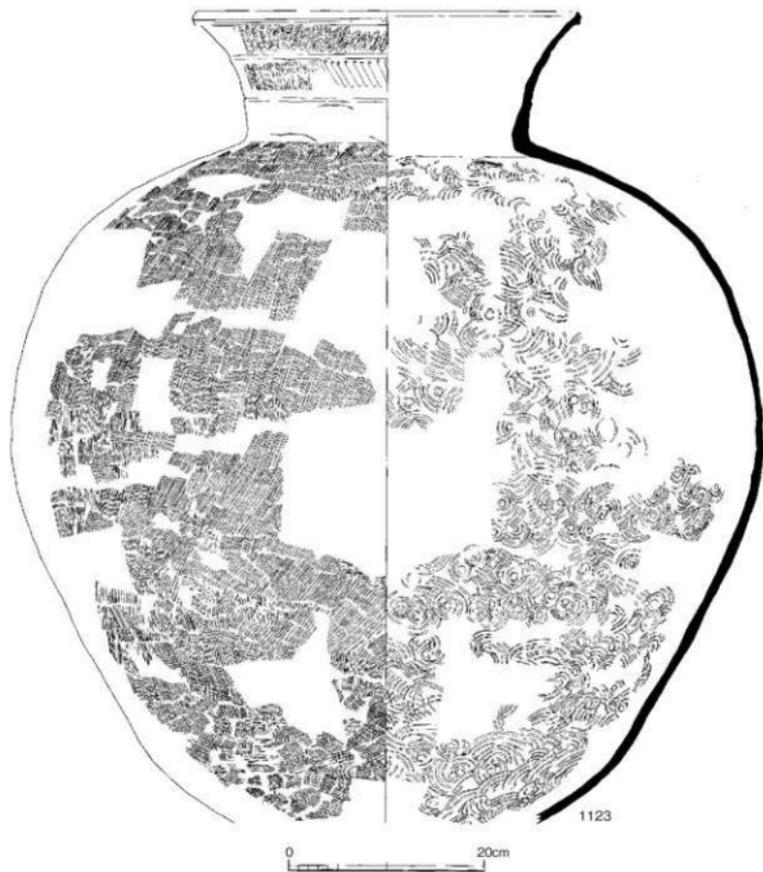


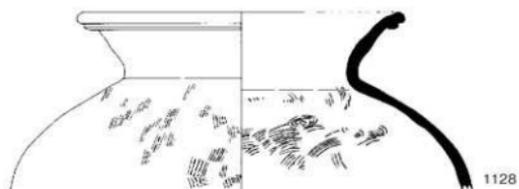




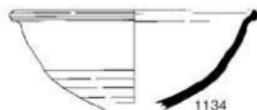
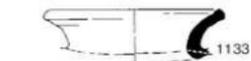
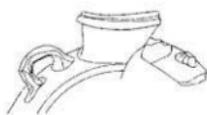
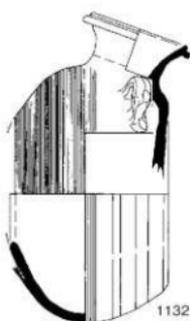
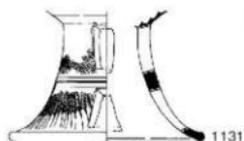


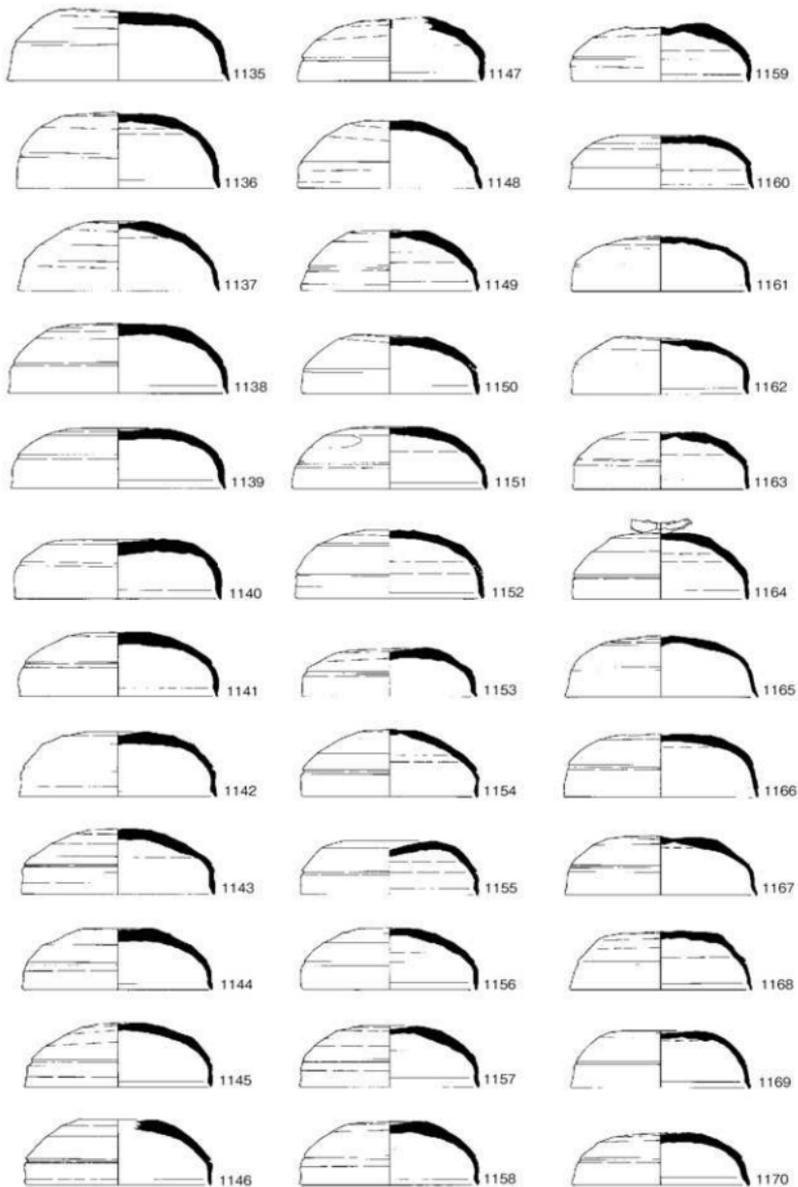
図版 34
遺物 神野大林 1号窯





灰原第 I・II 層

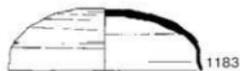




0 20cm



1171



1183



1195



1172



1184



1196



1173



1185



1197



1174



1186



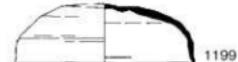
1198



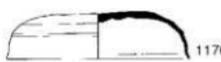
1175



1187



1199



1176



1188



1200



1177



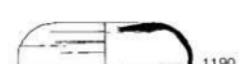
1189



1201



1178



1190



1202



1179



1191



1203

1276



1180



1192



1204



1181



1193



1205



1182

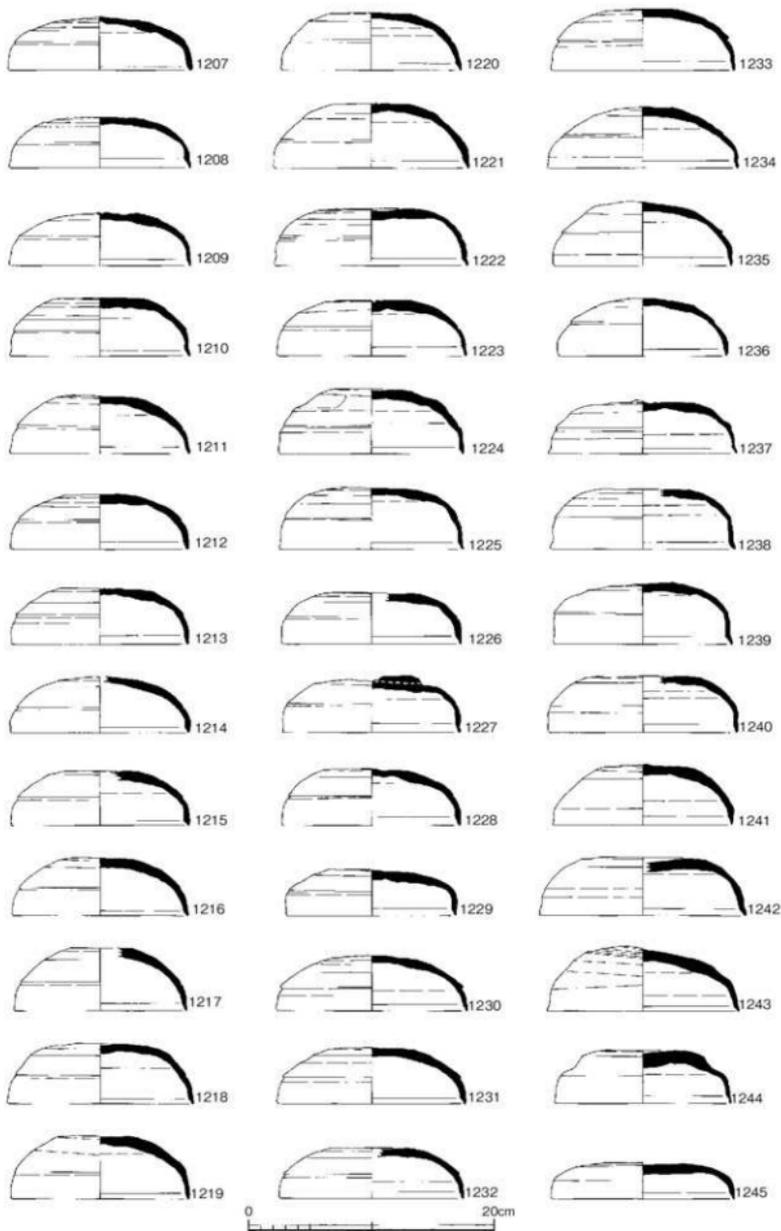


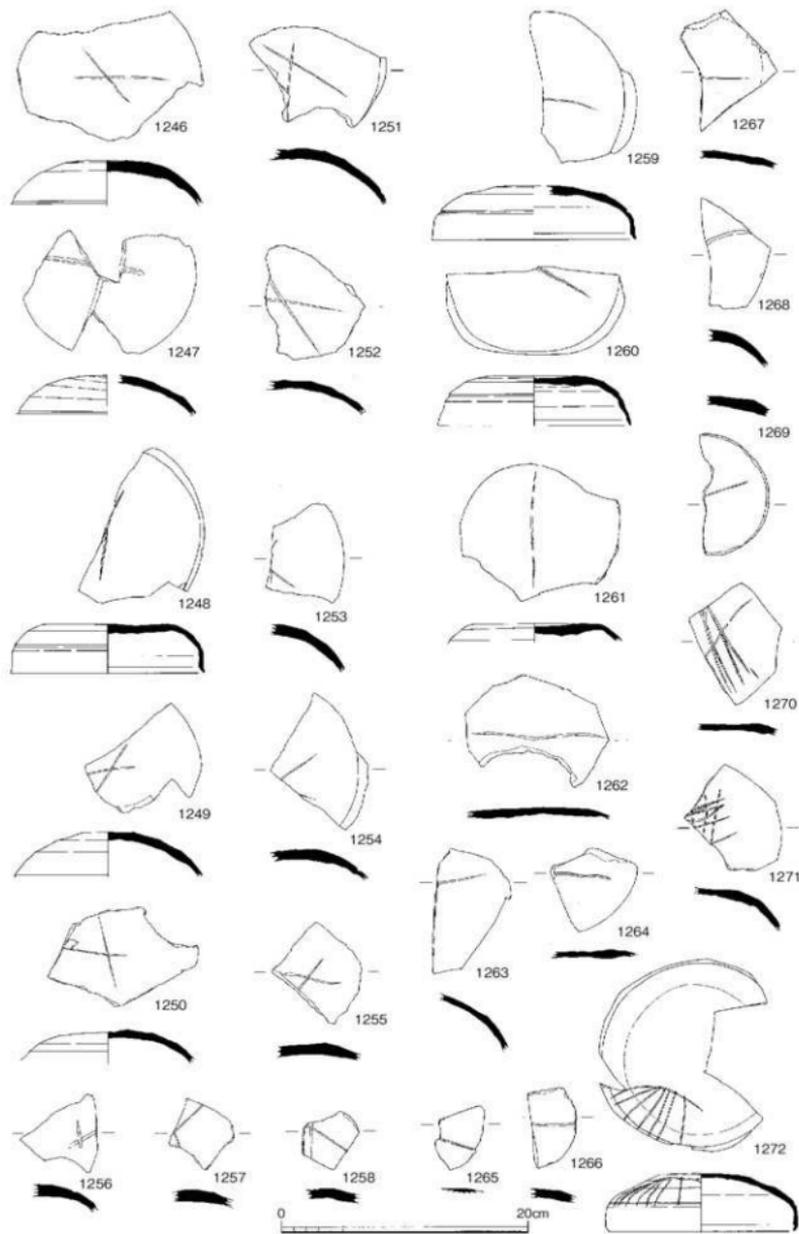
1194



1206









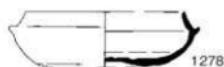
1277



1289



1301



1278



1290



1302



1279



1291



1303



1280



1292



1304



1281



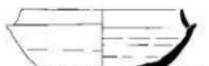
1293



1305



1282



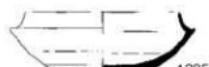
1294



1306



1283



1295



1307



1284



1296



1308



1285



1297



1273



1286



1298



1310



1287



1299



1311



1288

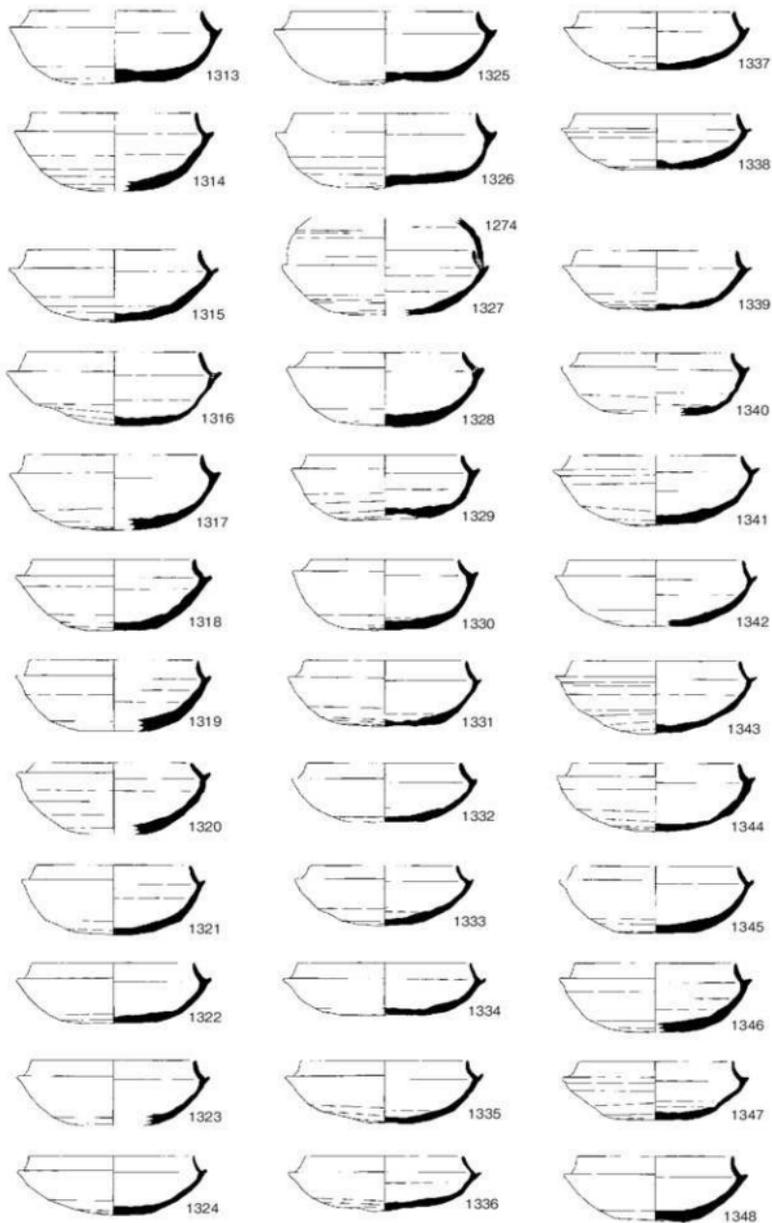


1300

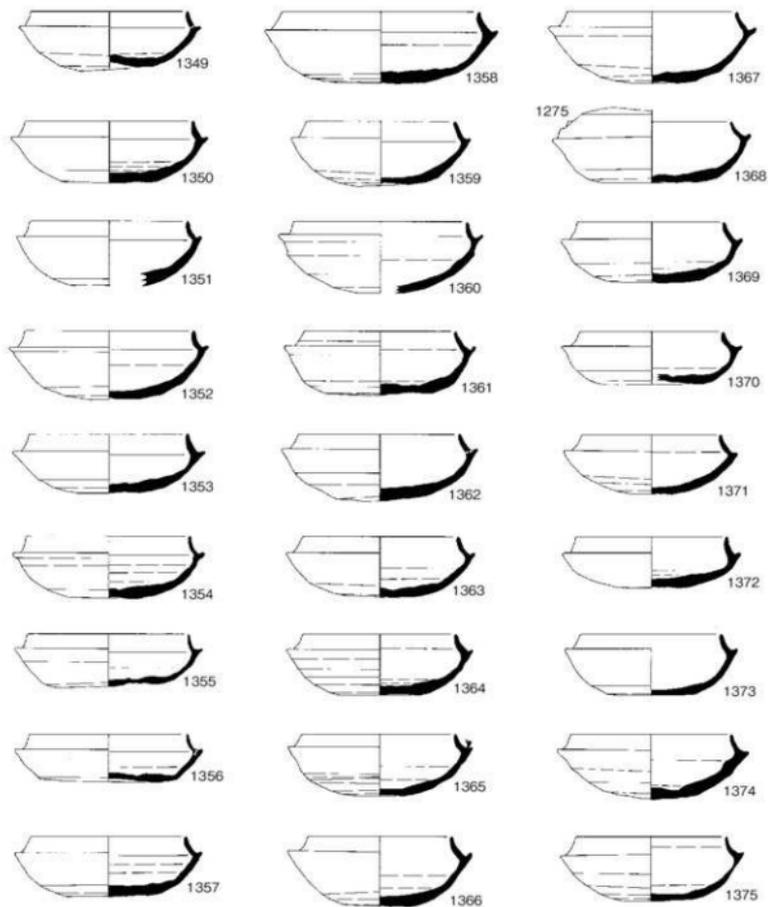


1312





0 20cm



0 20cm



1376



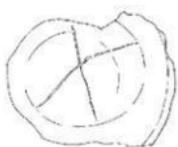
1378



1383



1385



1384



1386



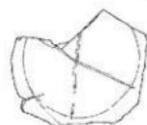
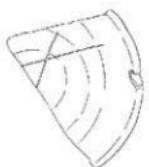
1377



1379



1387



1380



1381

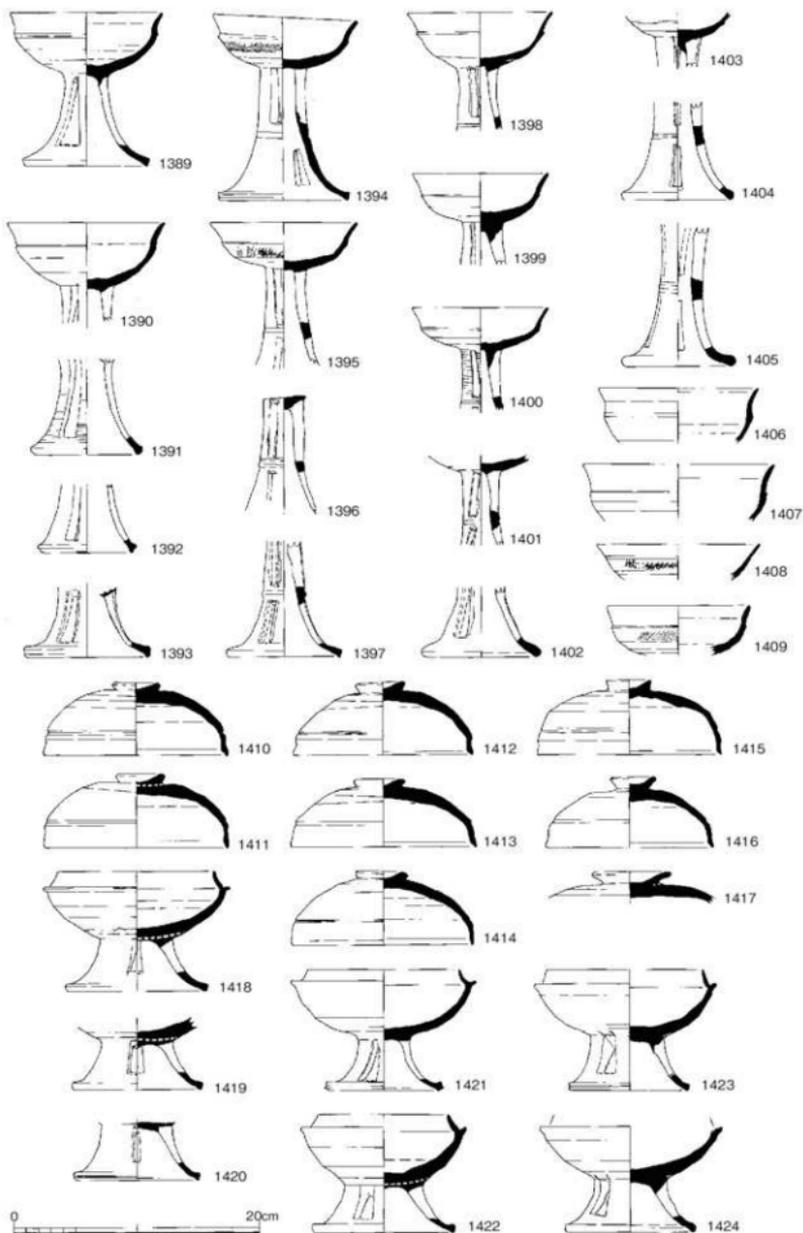


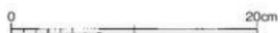
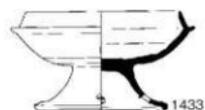
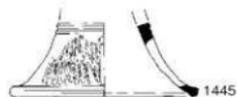
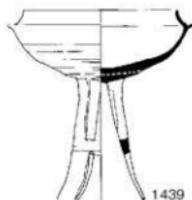
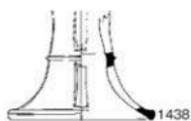
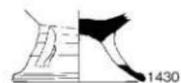
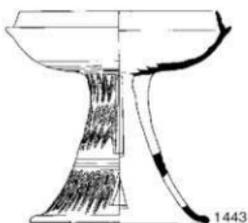
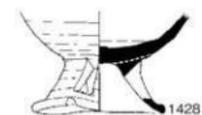
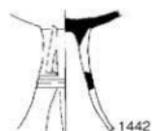
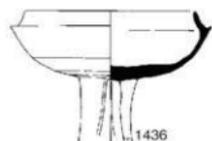
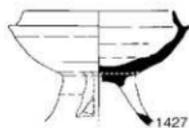
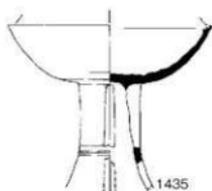
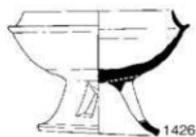
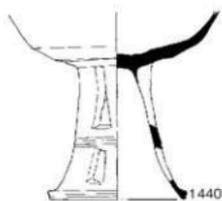
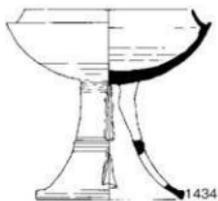
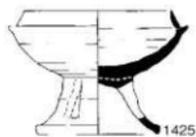
1382

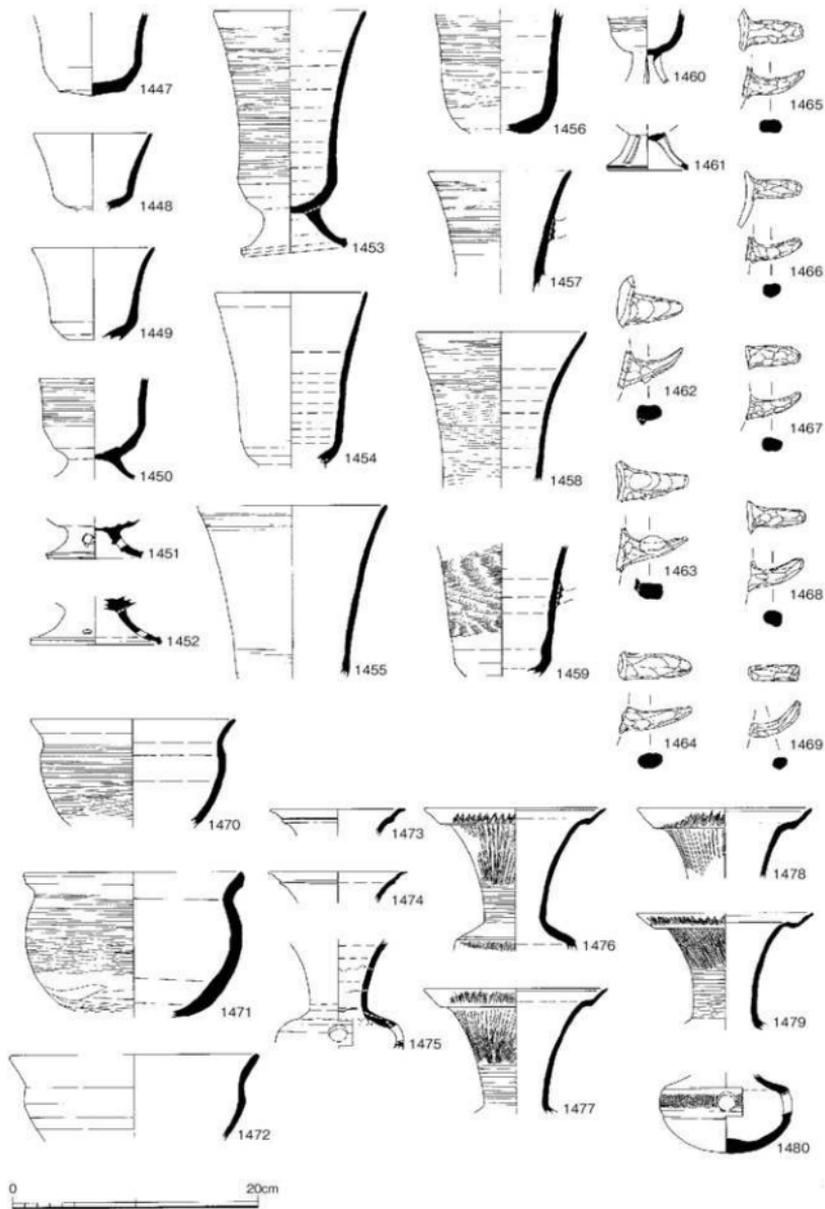


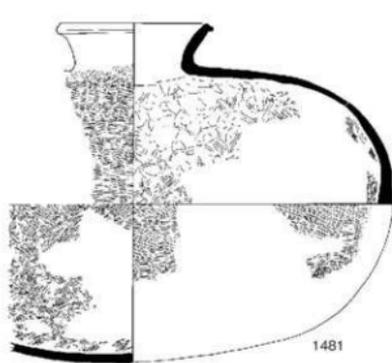
1388







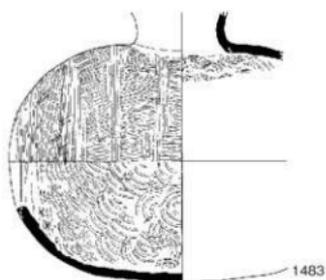




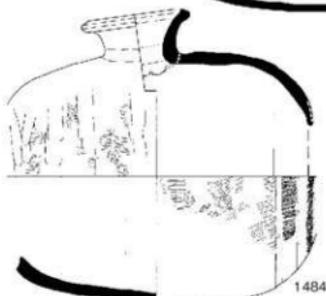
1481



1482



1483



1484



1485



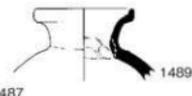
1486



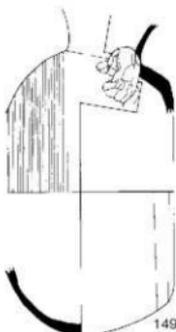
1488



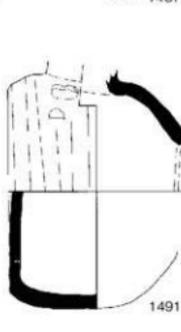
1487



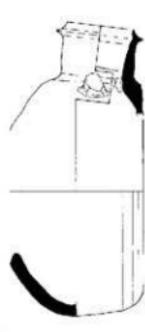
1489



1490

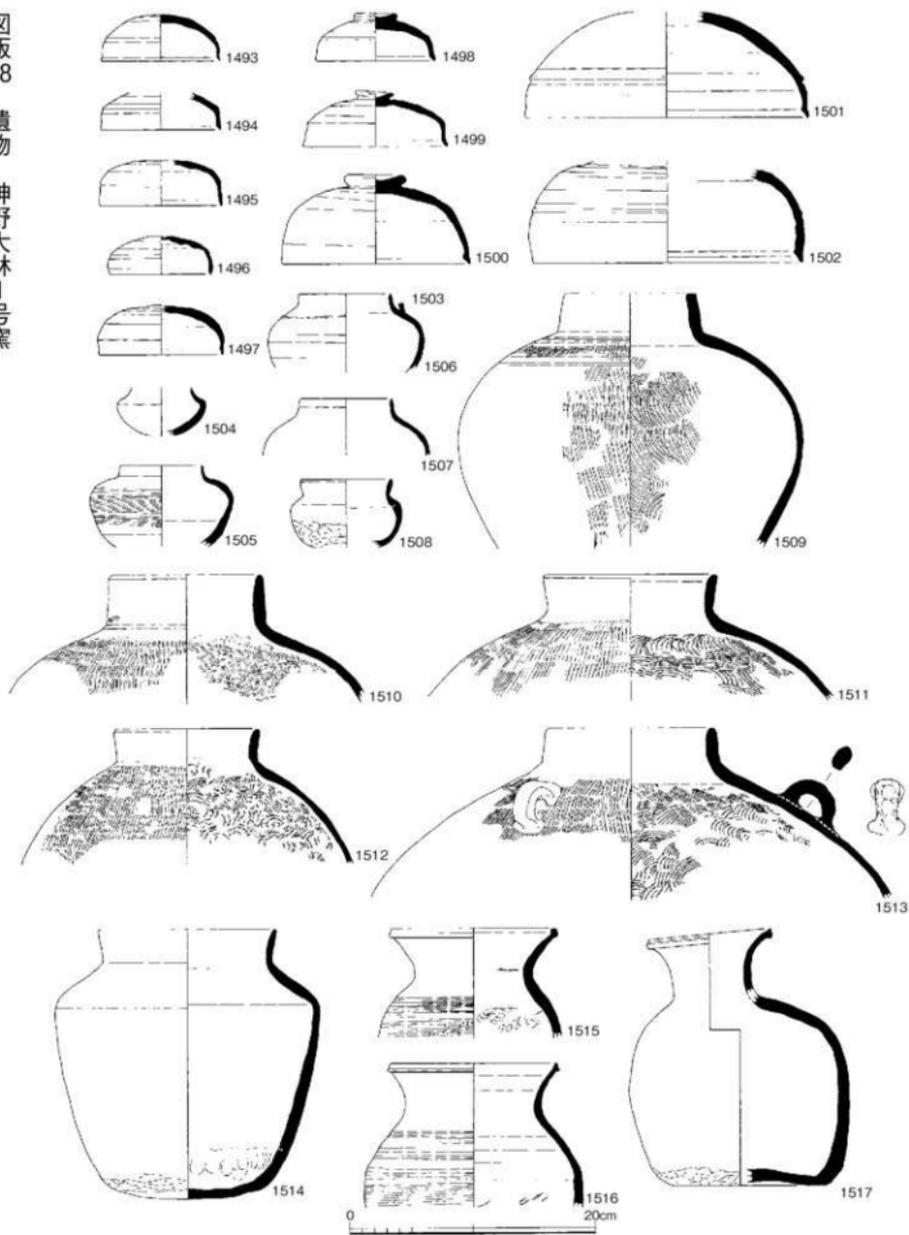


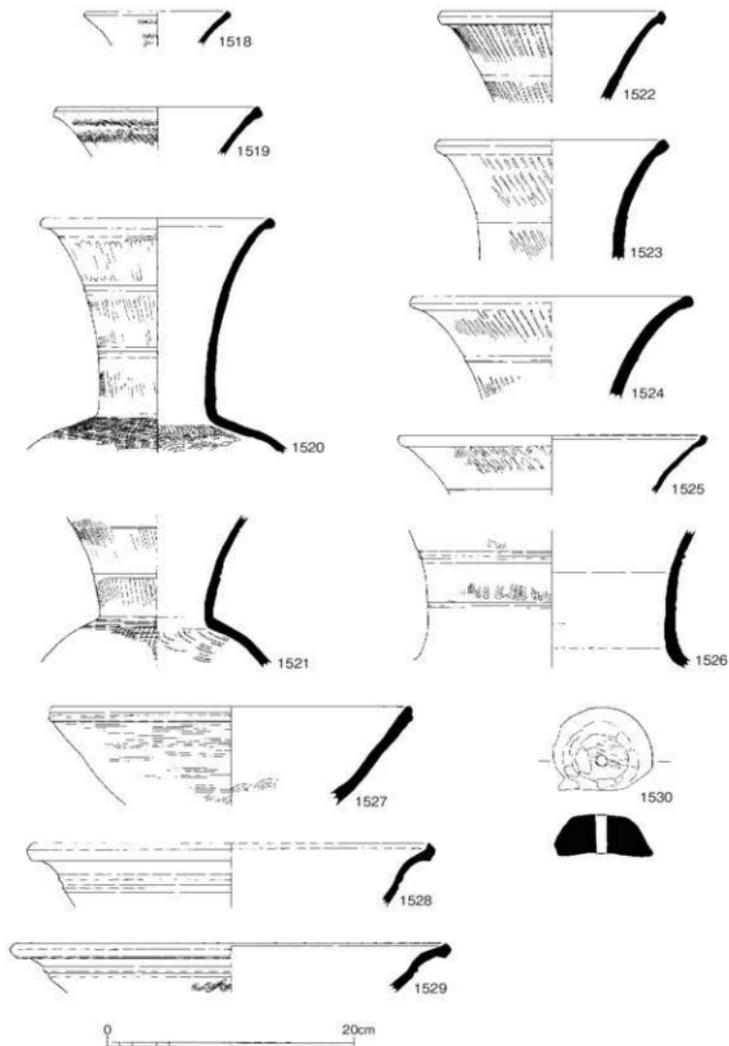
1491

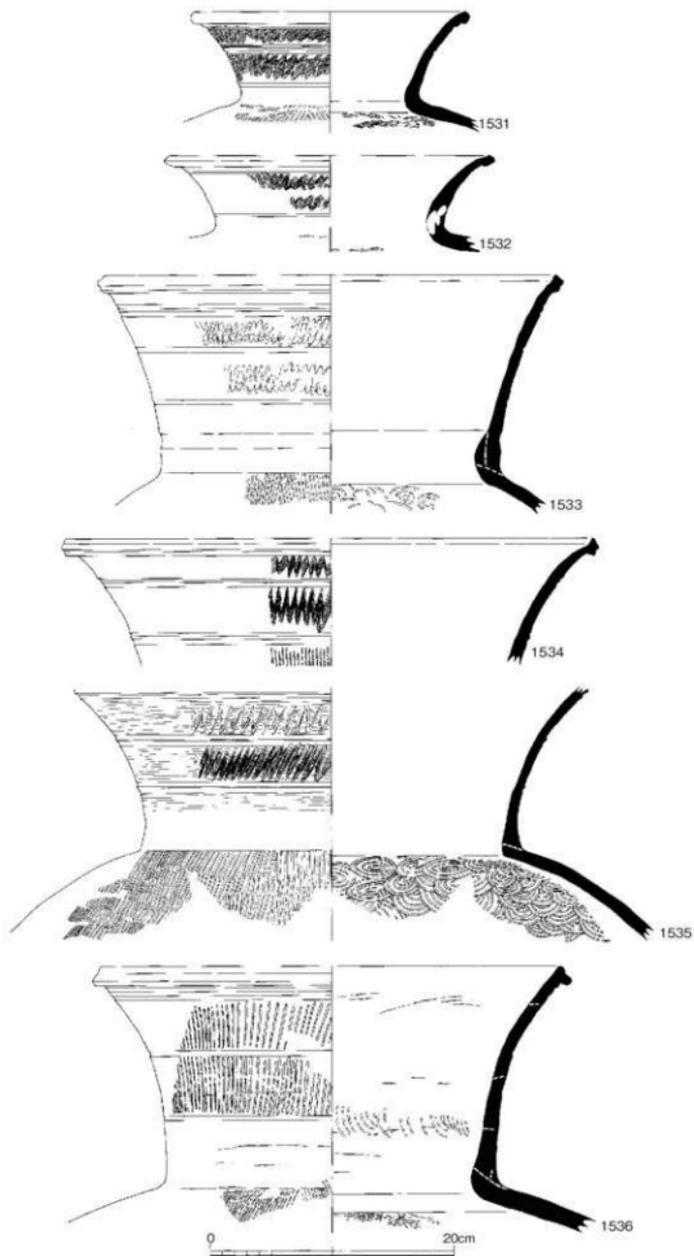


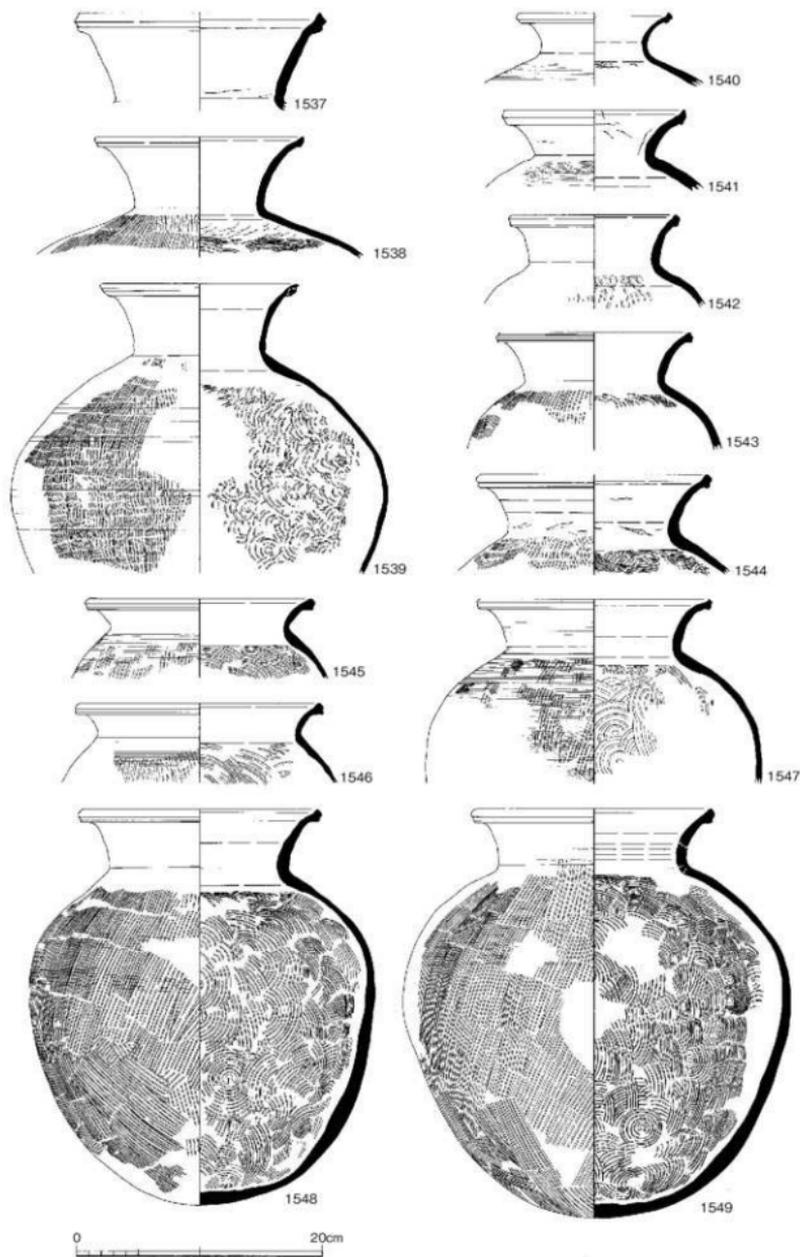
1492

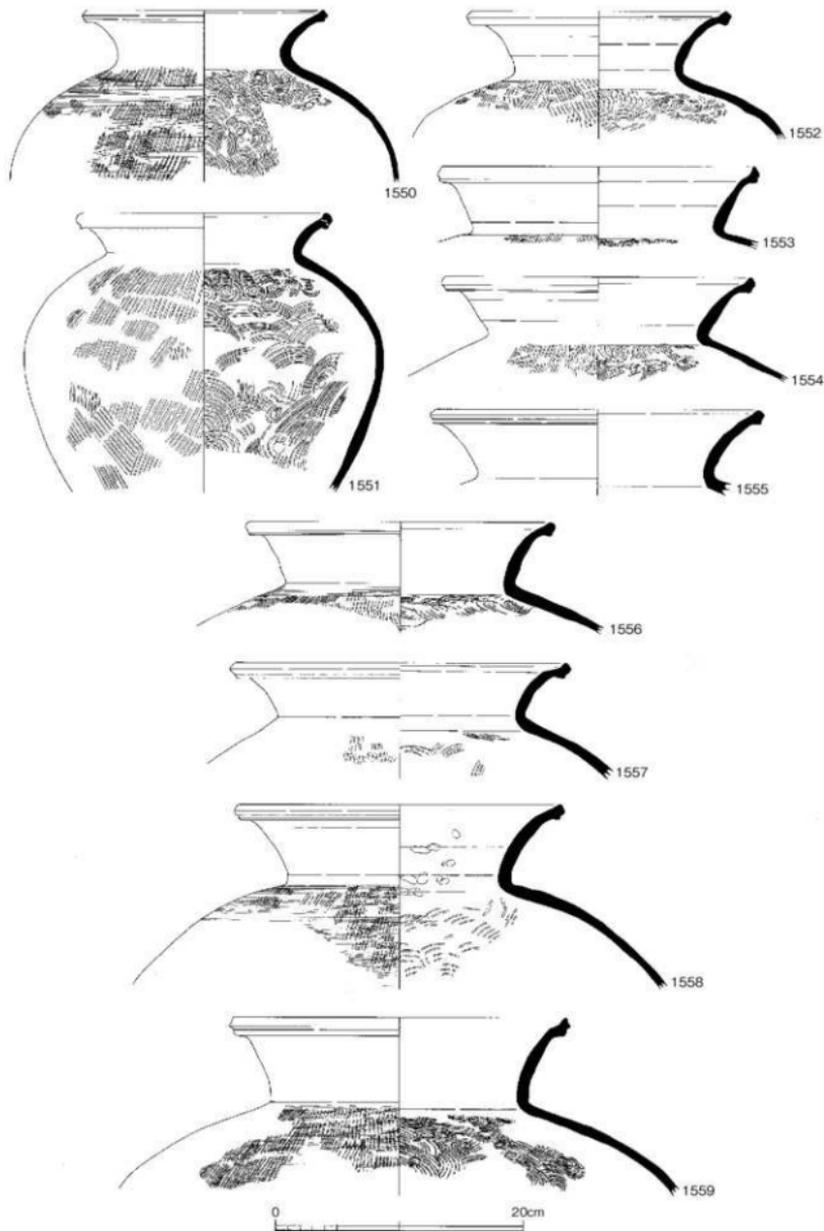


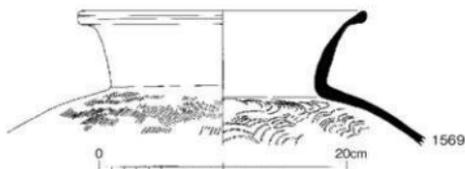
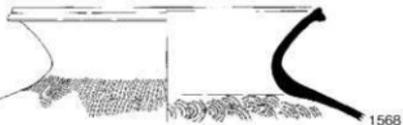
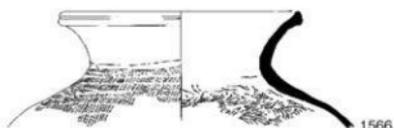
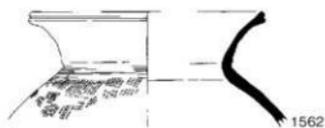
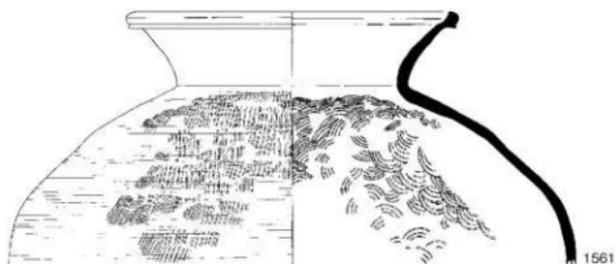
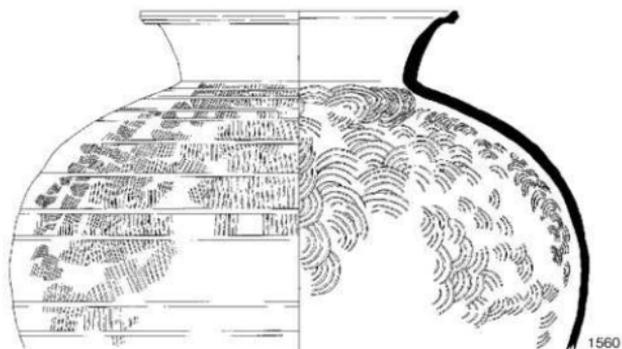


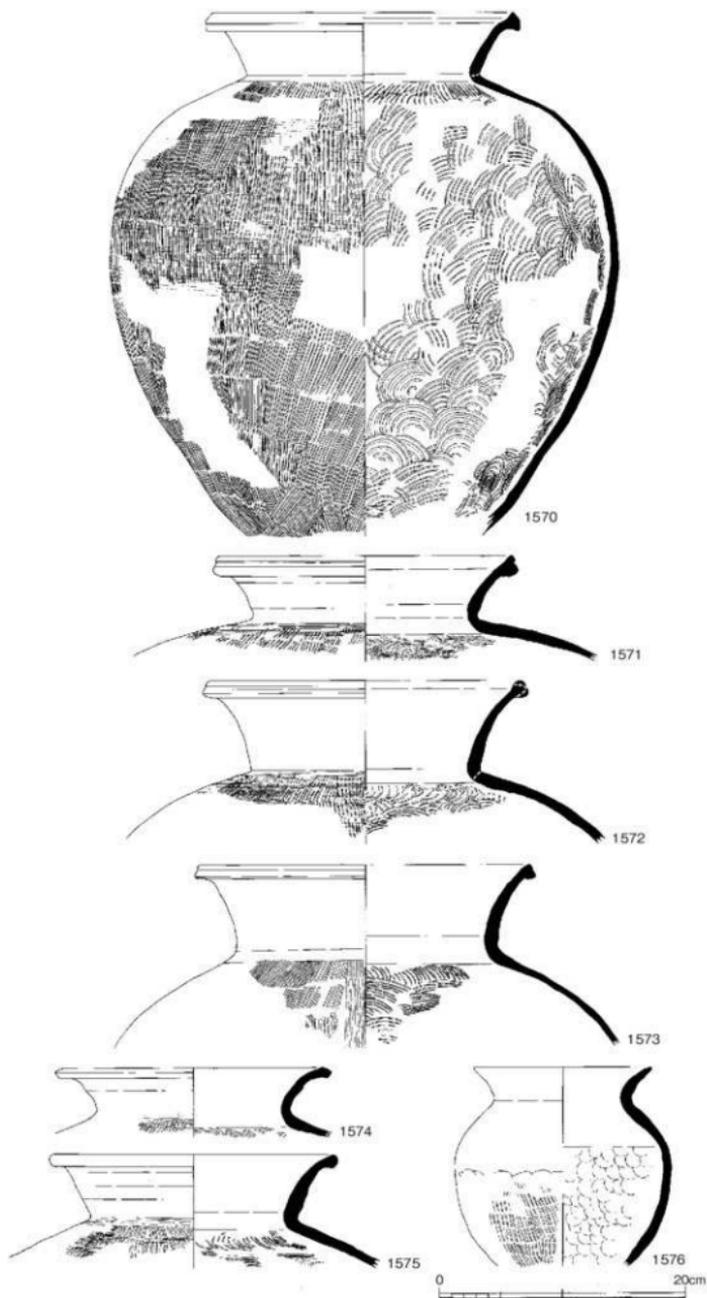


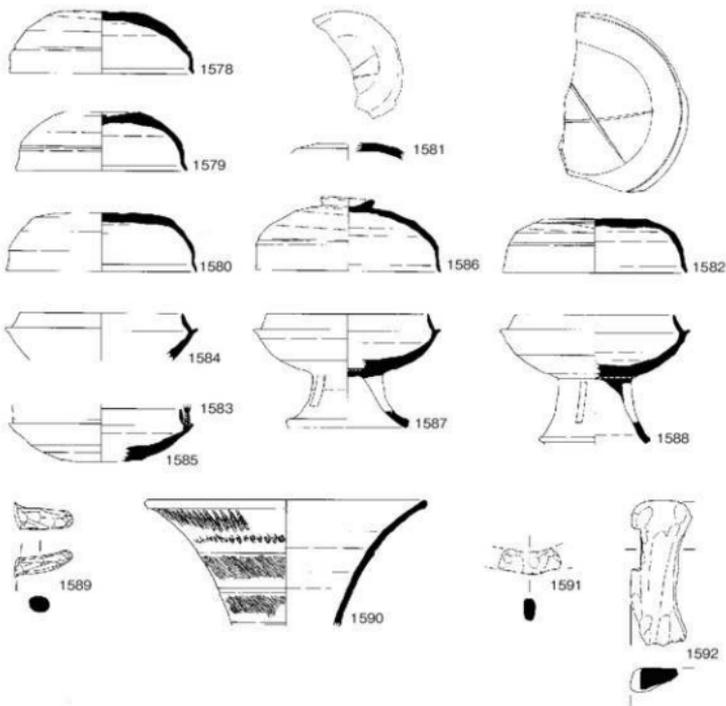




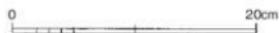


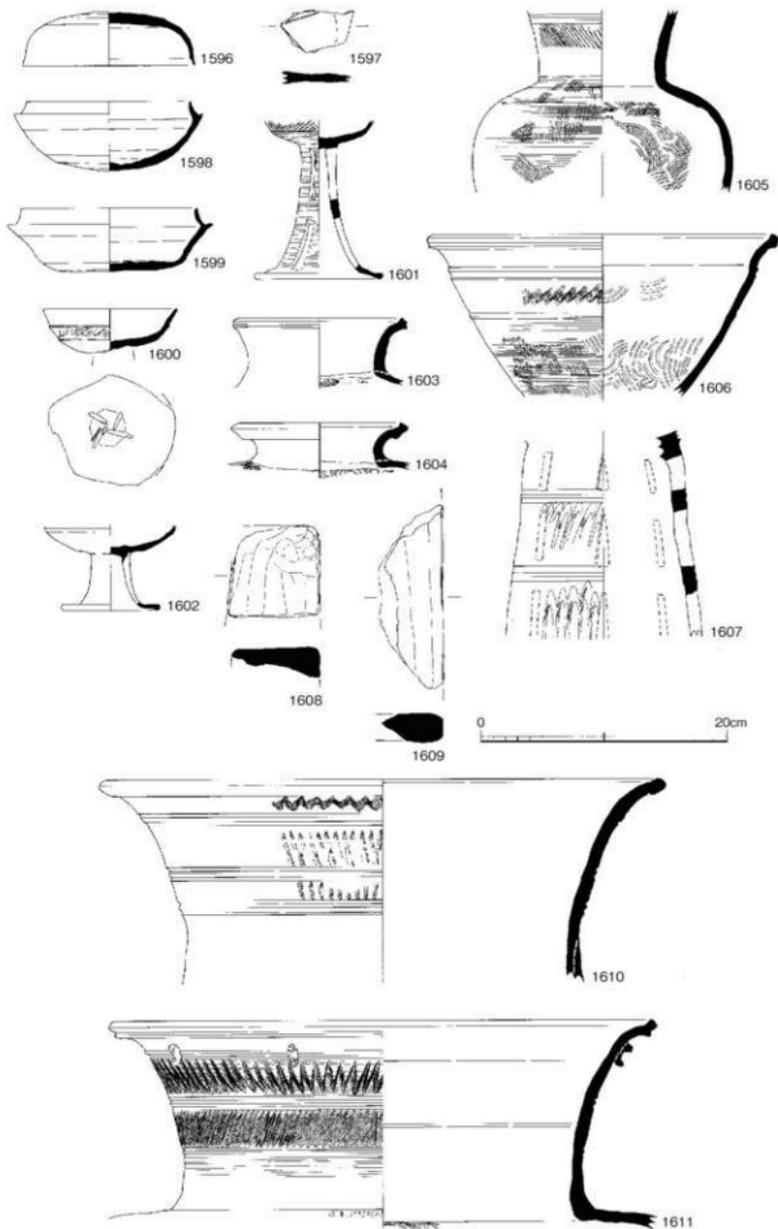


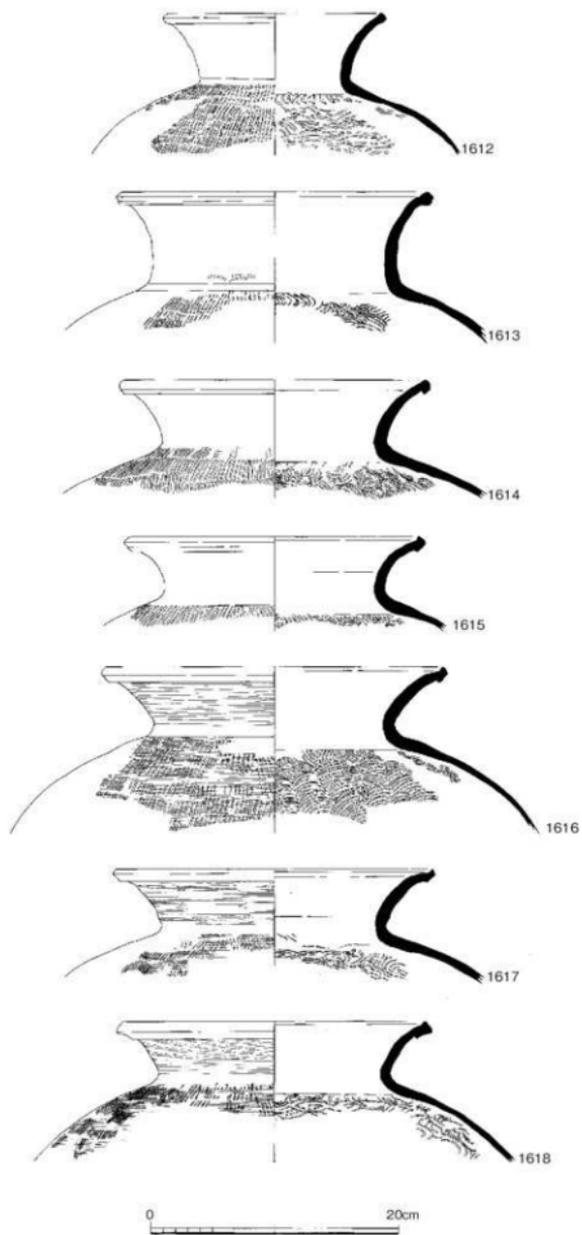




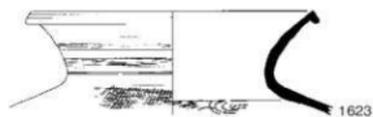
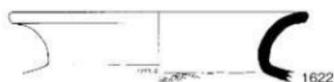
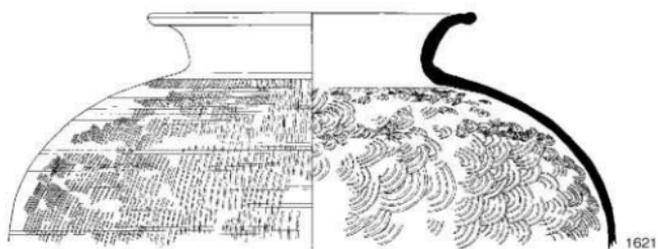
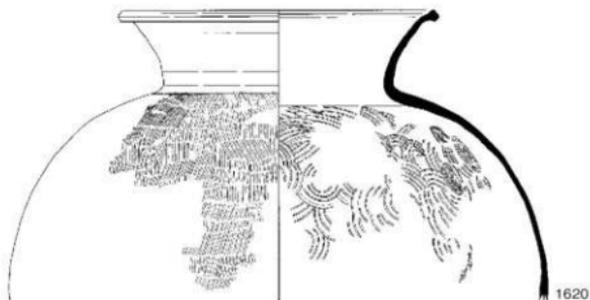
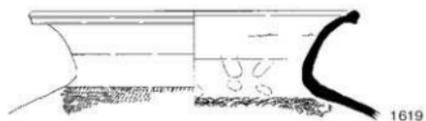
1号窯



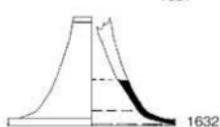
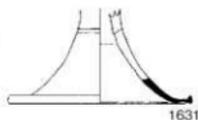
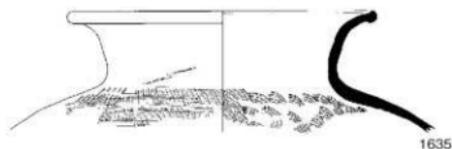
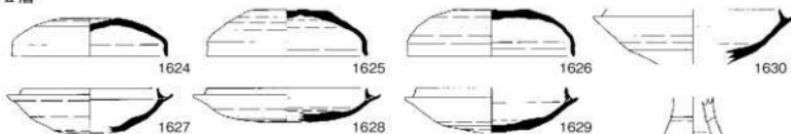




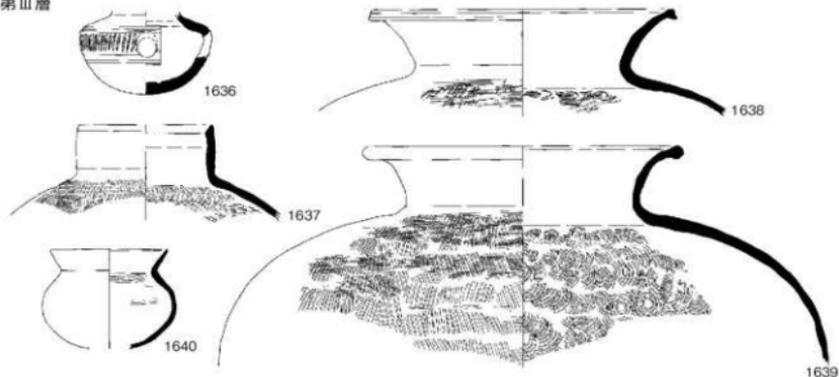
第 I 層



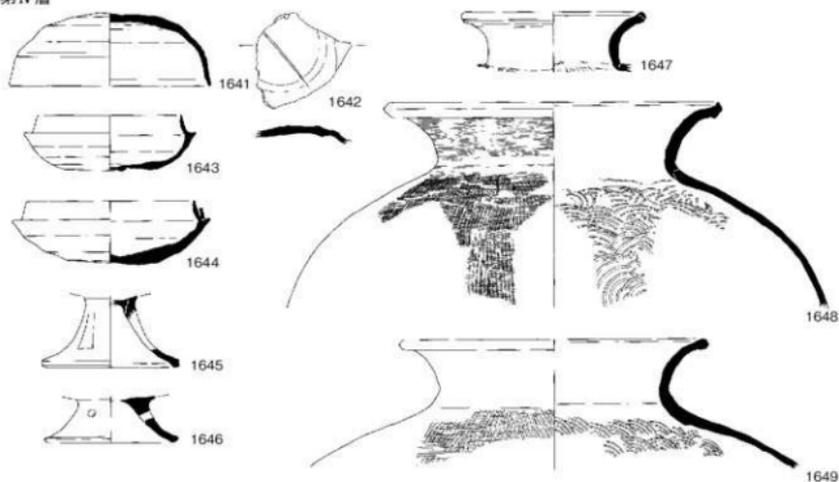
第 II 層



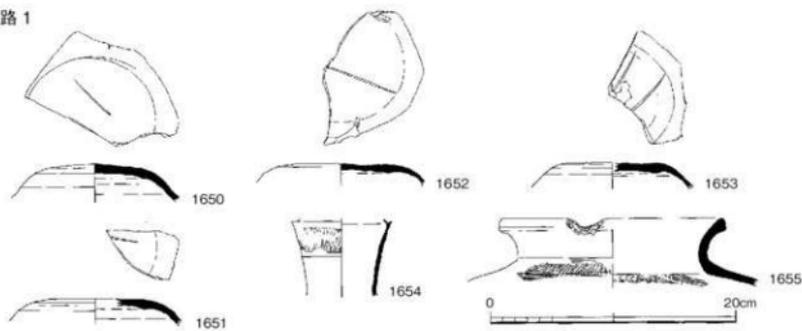
第三層



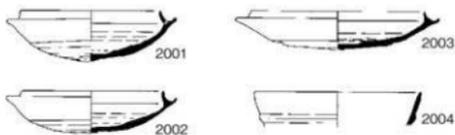
第四層



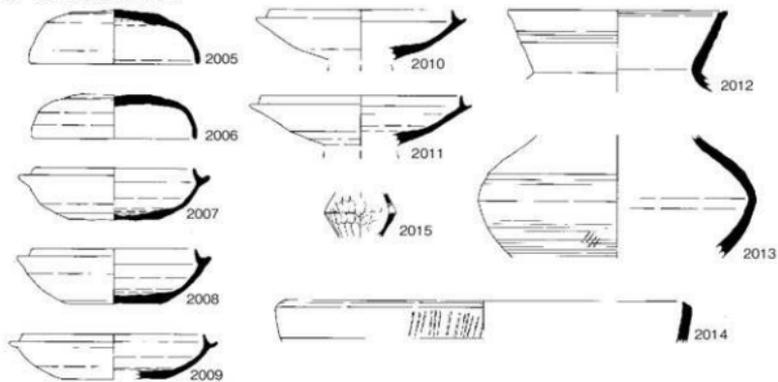
流路 1



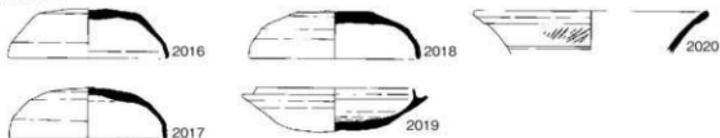
第1次窯体床面



第1次・第2次窯体床面間



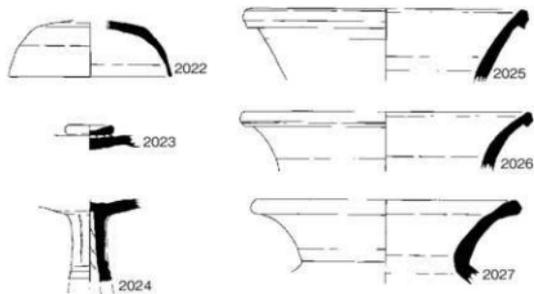
第2次窯体床面

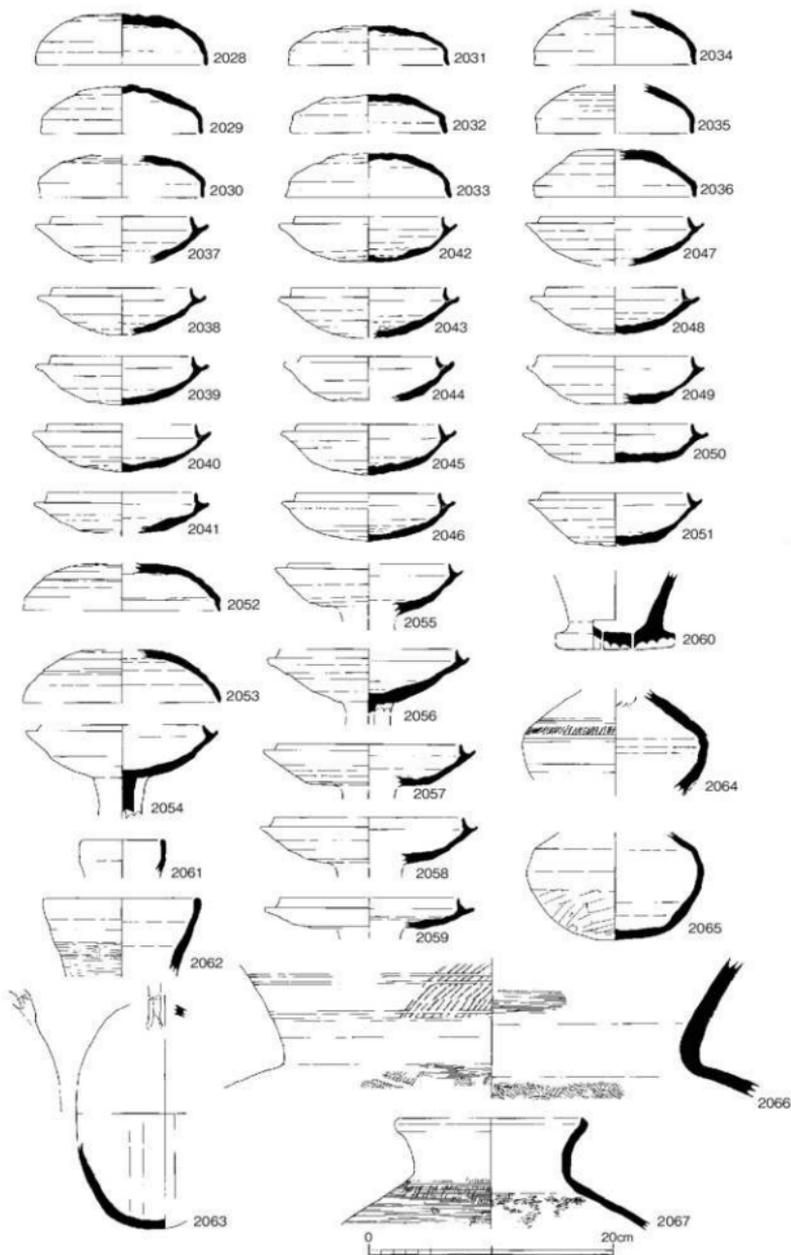


第1次窯体焚口

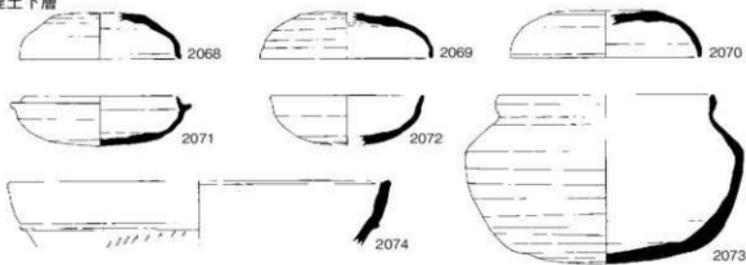


窯体





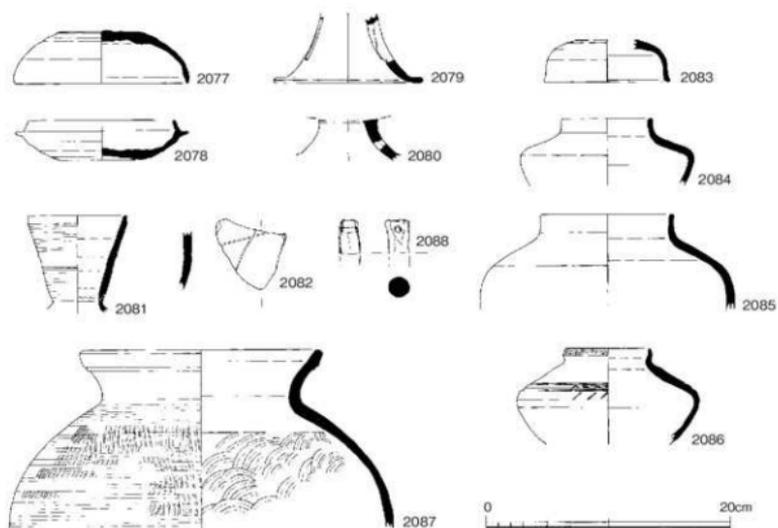
窯体埋土下層

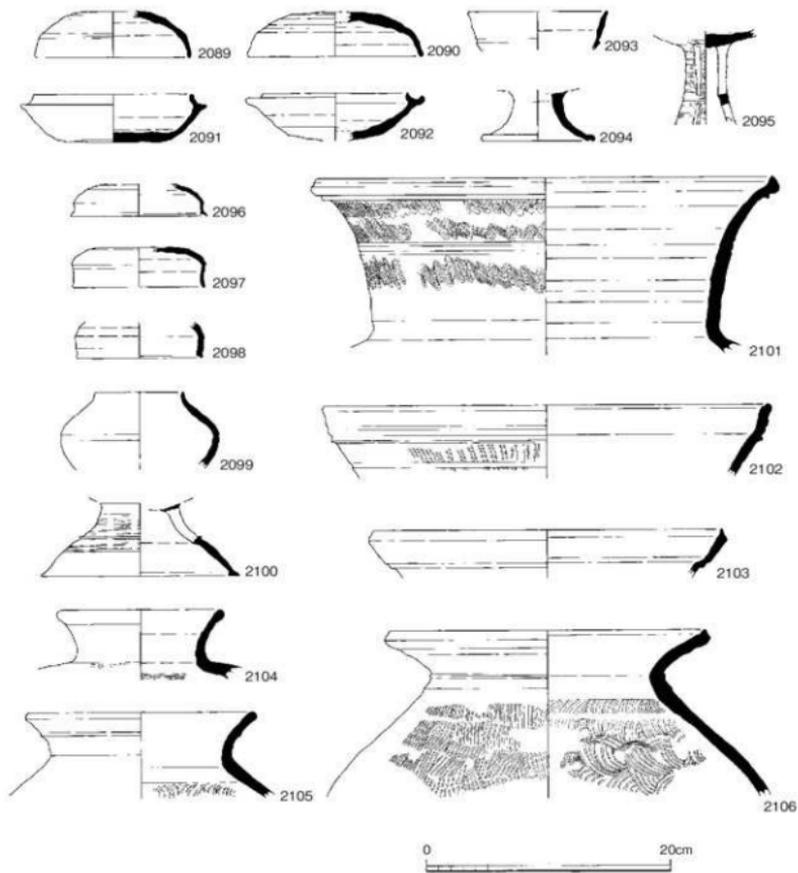


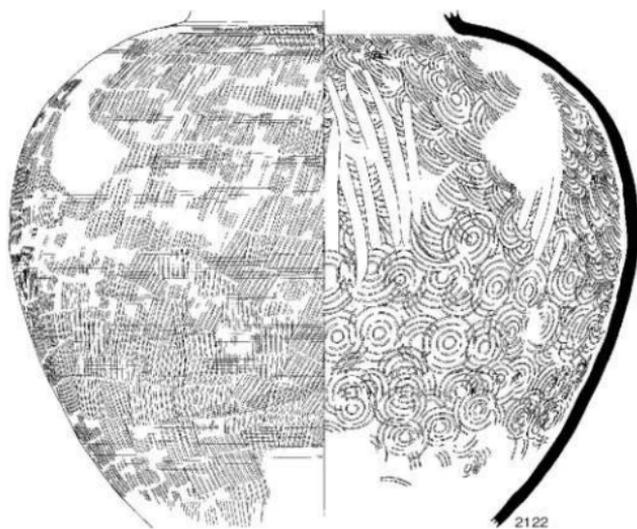
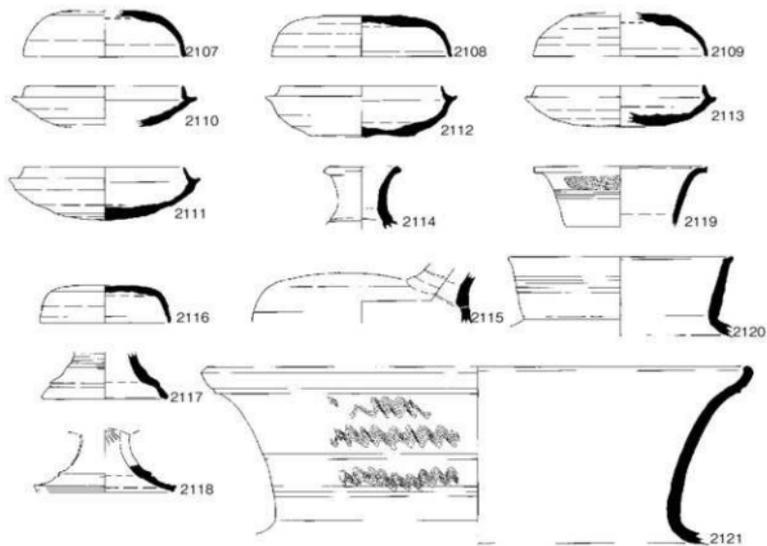
2号窯

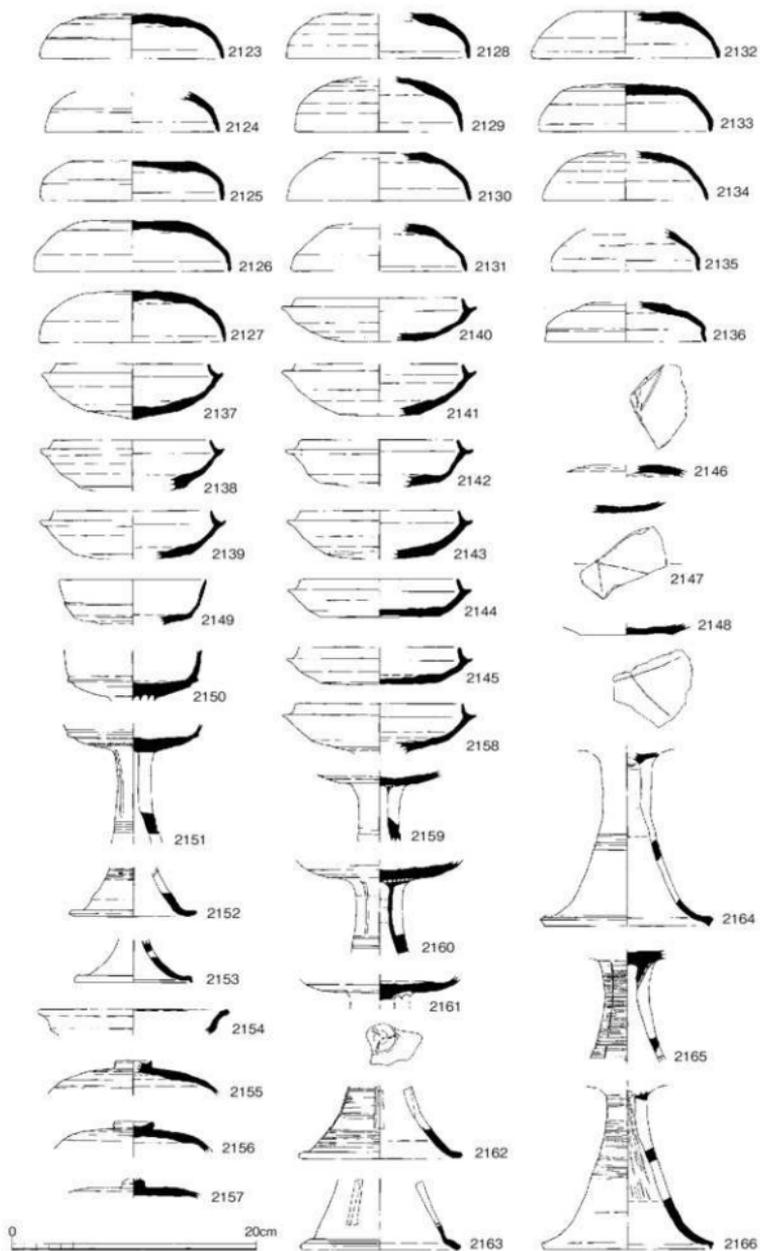


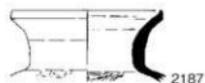
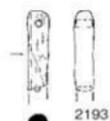
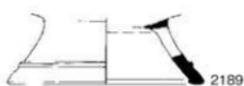
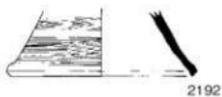
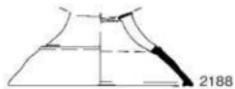
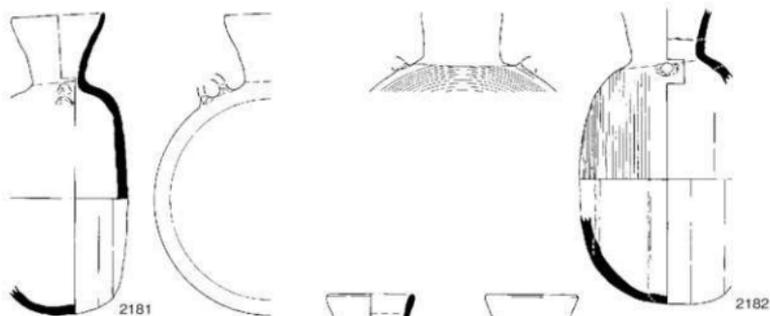
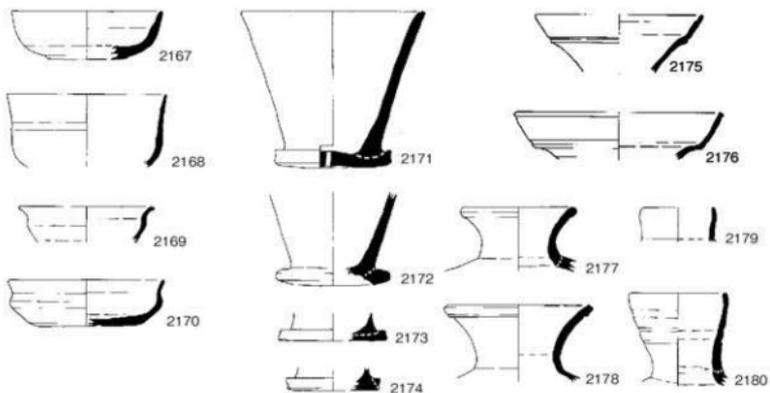
灰原

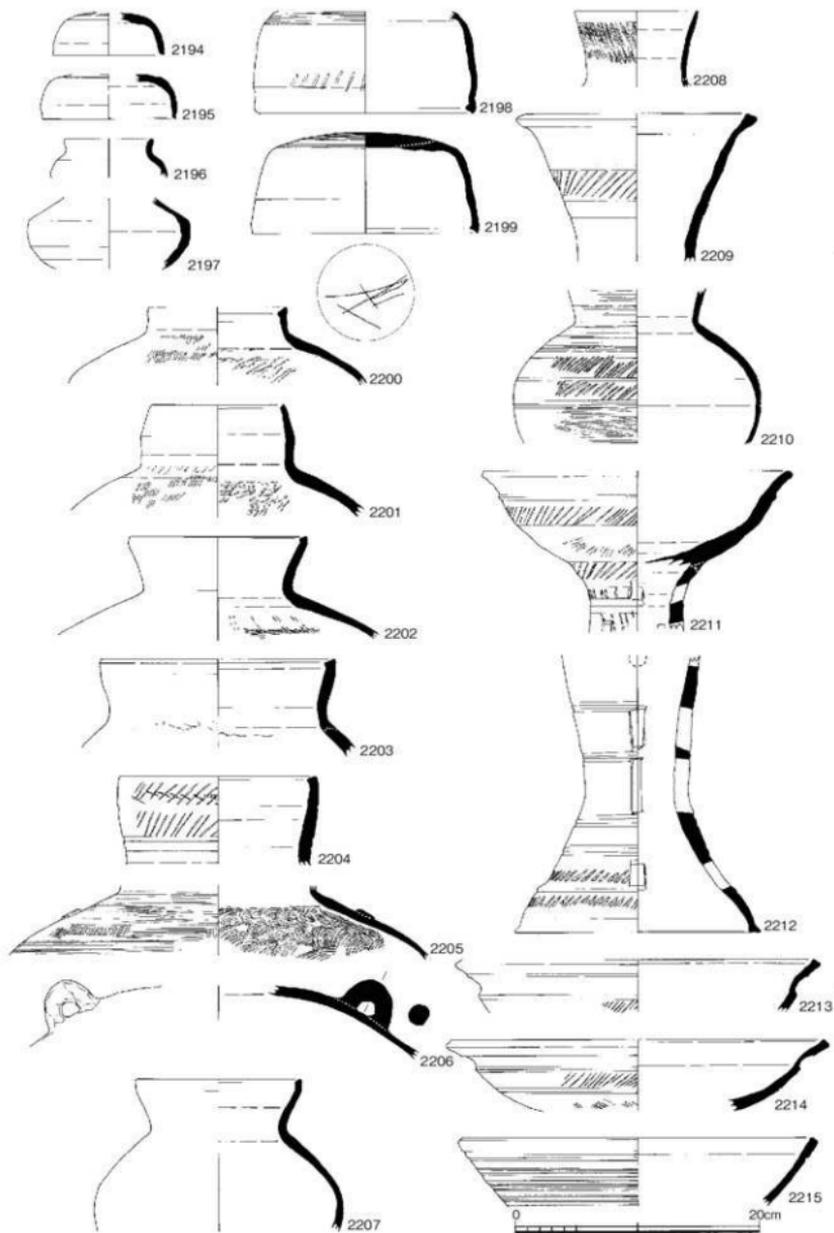


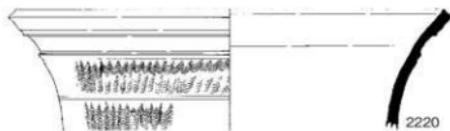
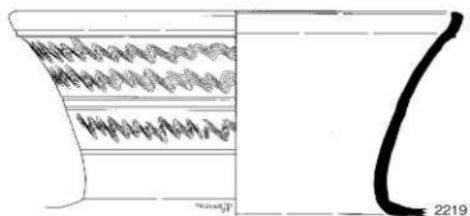
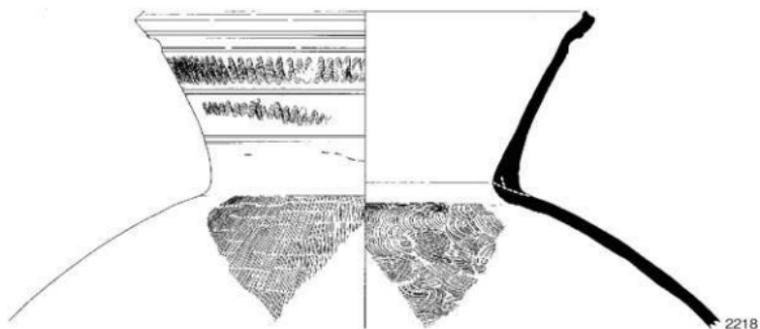
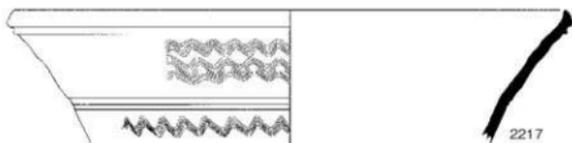
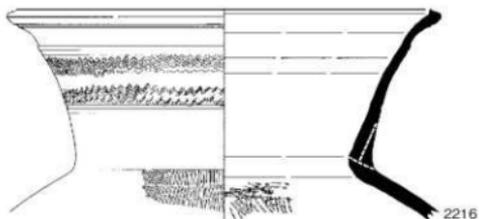




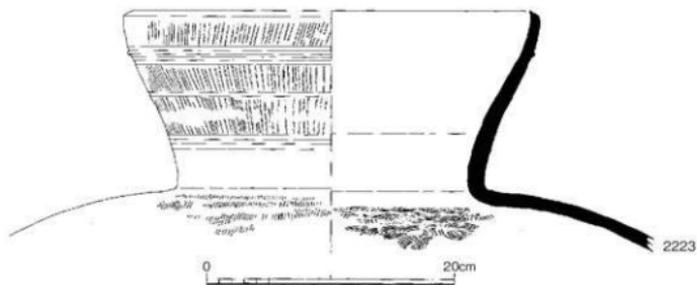
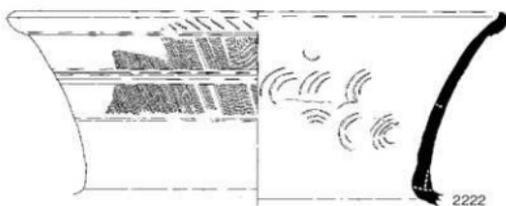
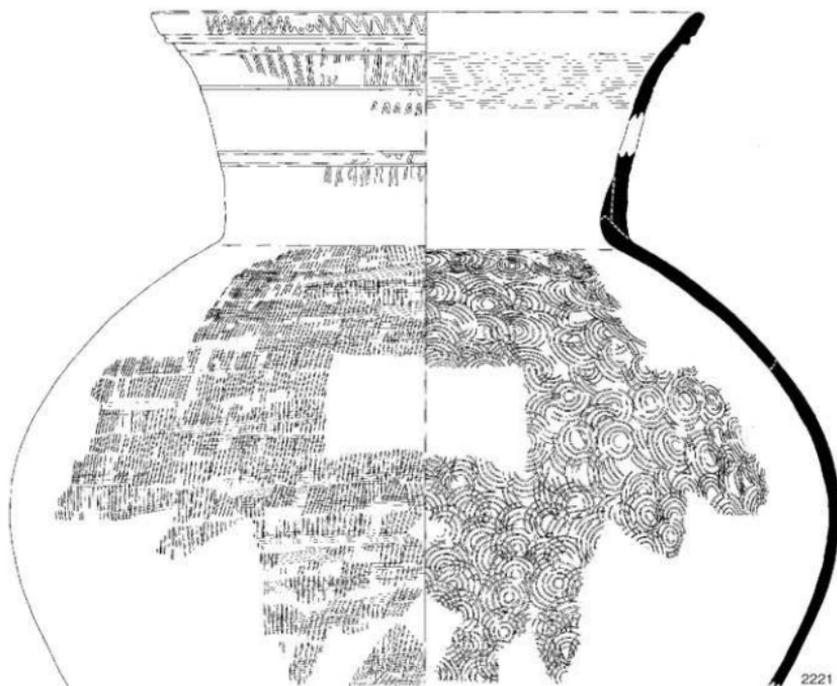


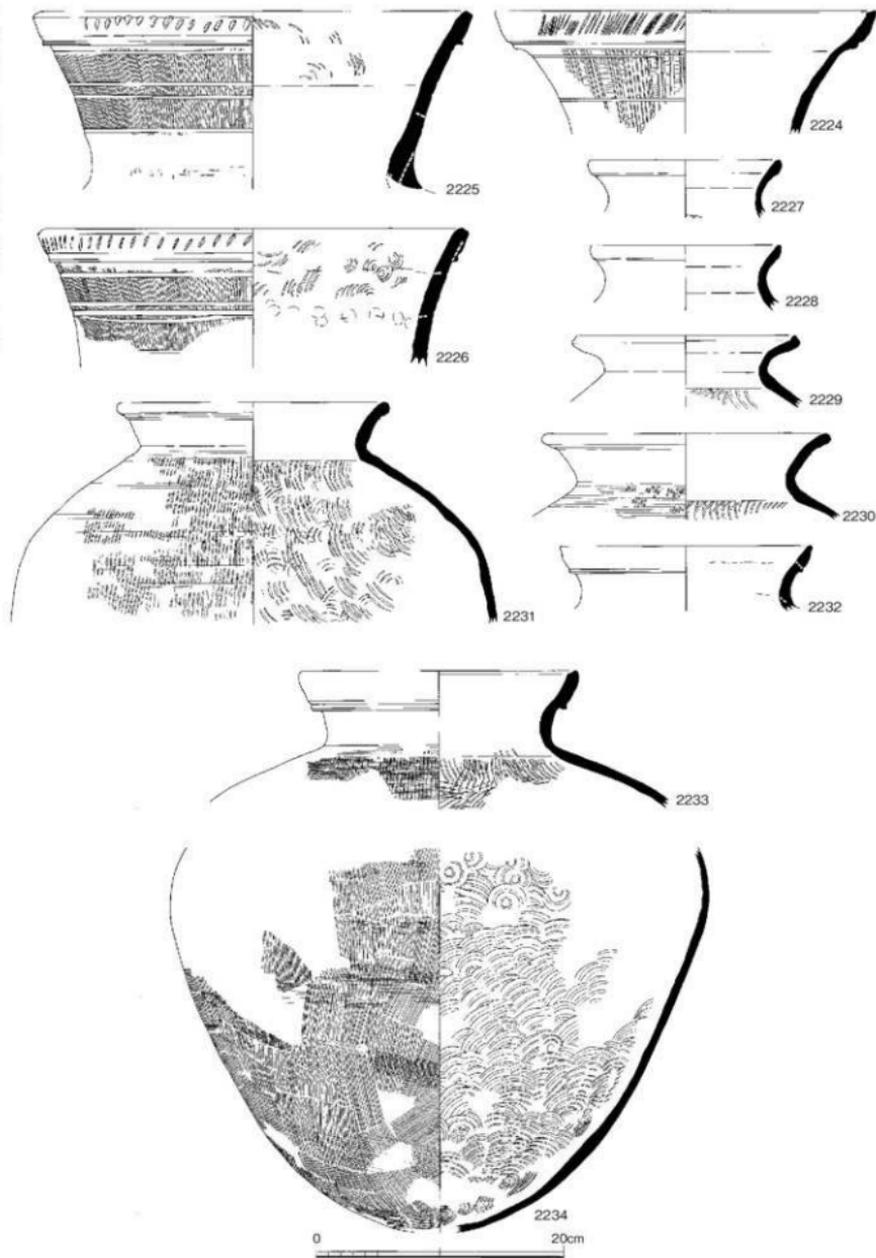




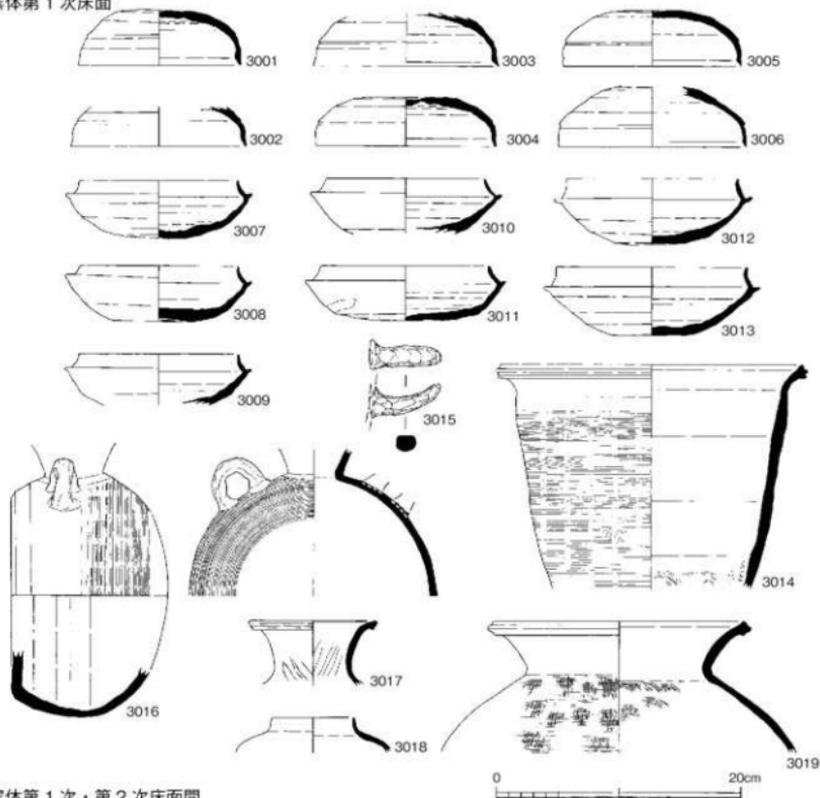


0 20cm

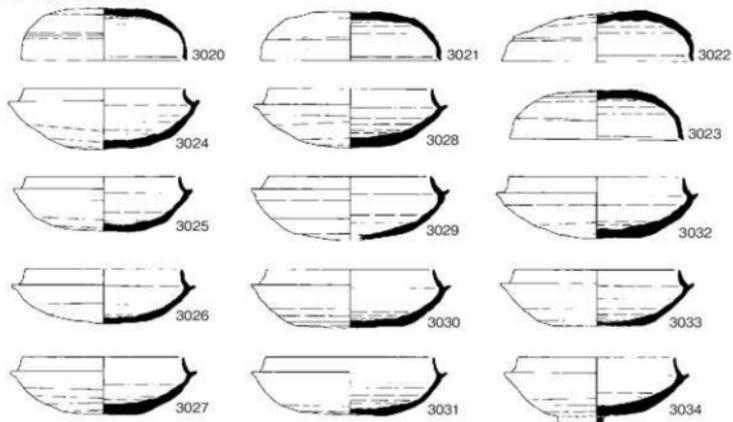




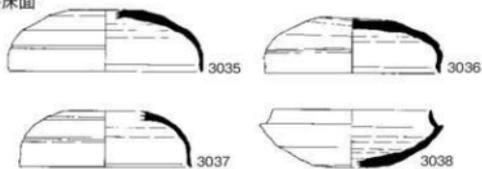
窯体第 1 次床面



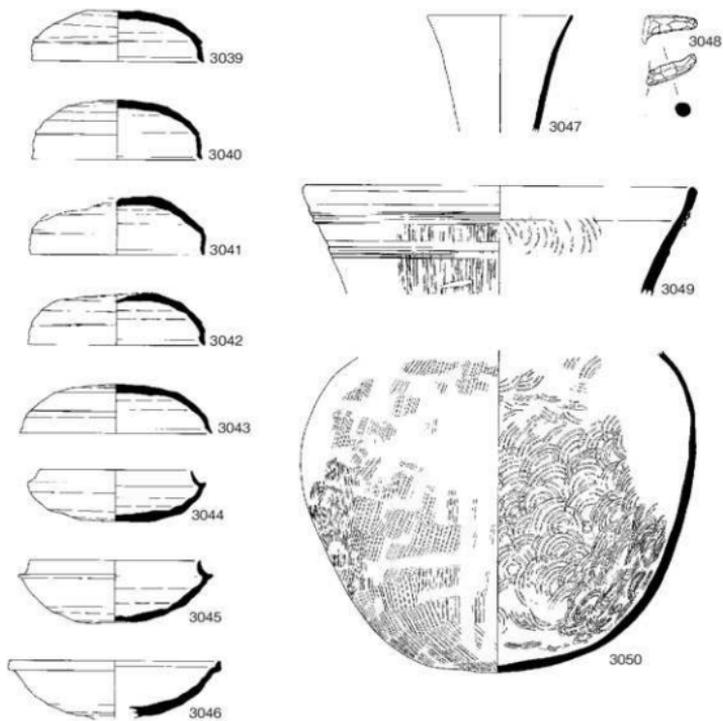
窯体第 1 次・第 2 次床面間



窯体最終床面



窯体



焚口



窯体埋土上層



3052



3055



3056



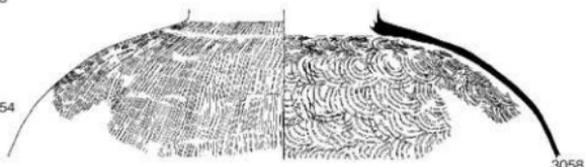
3053



3057



3054

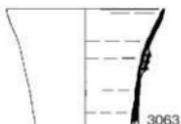


3058

窯体埋土下層



3059



3063



3060



3065



3061



3064



3062

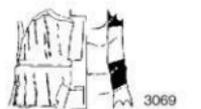
灰原



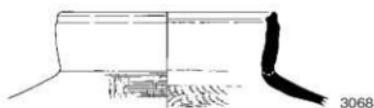
3066



3067



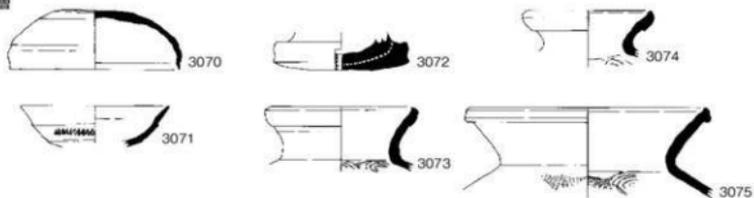
3069



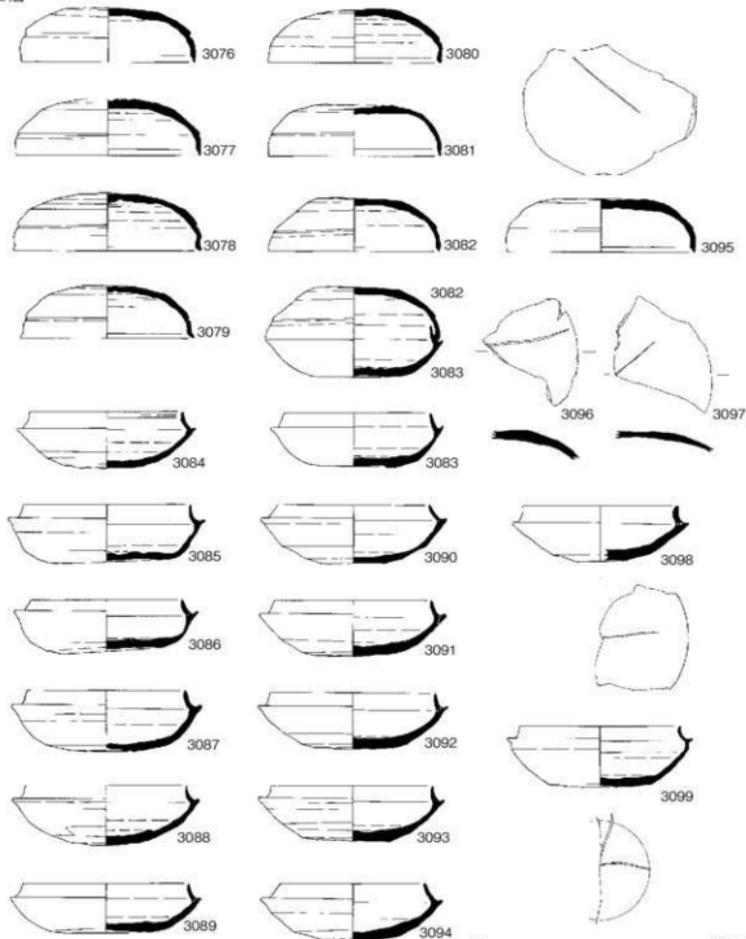
3068



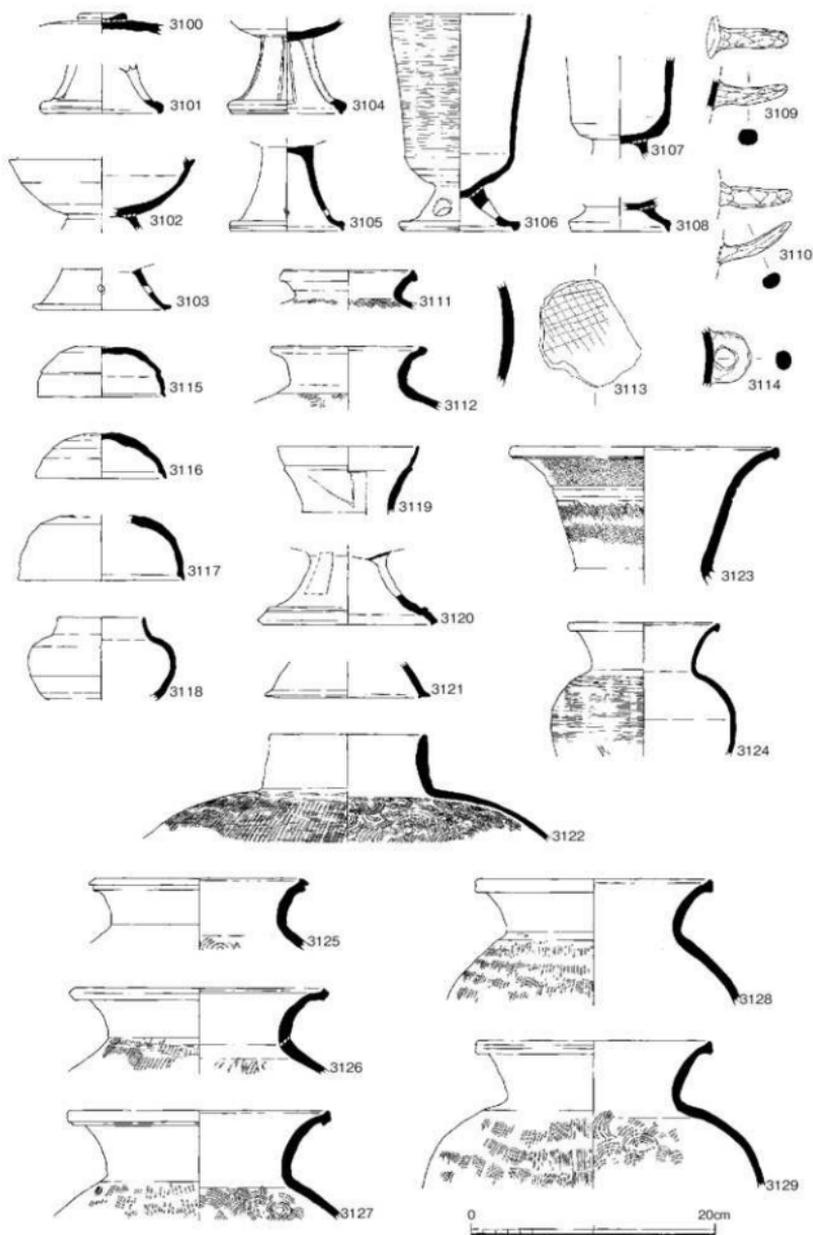
灰原第Ⅰ層

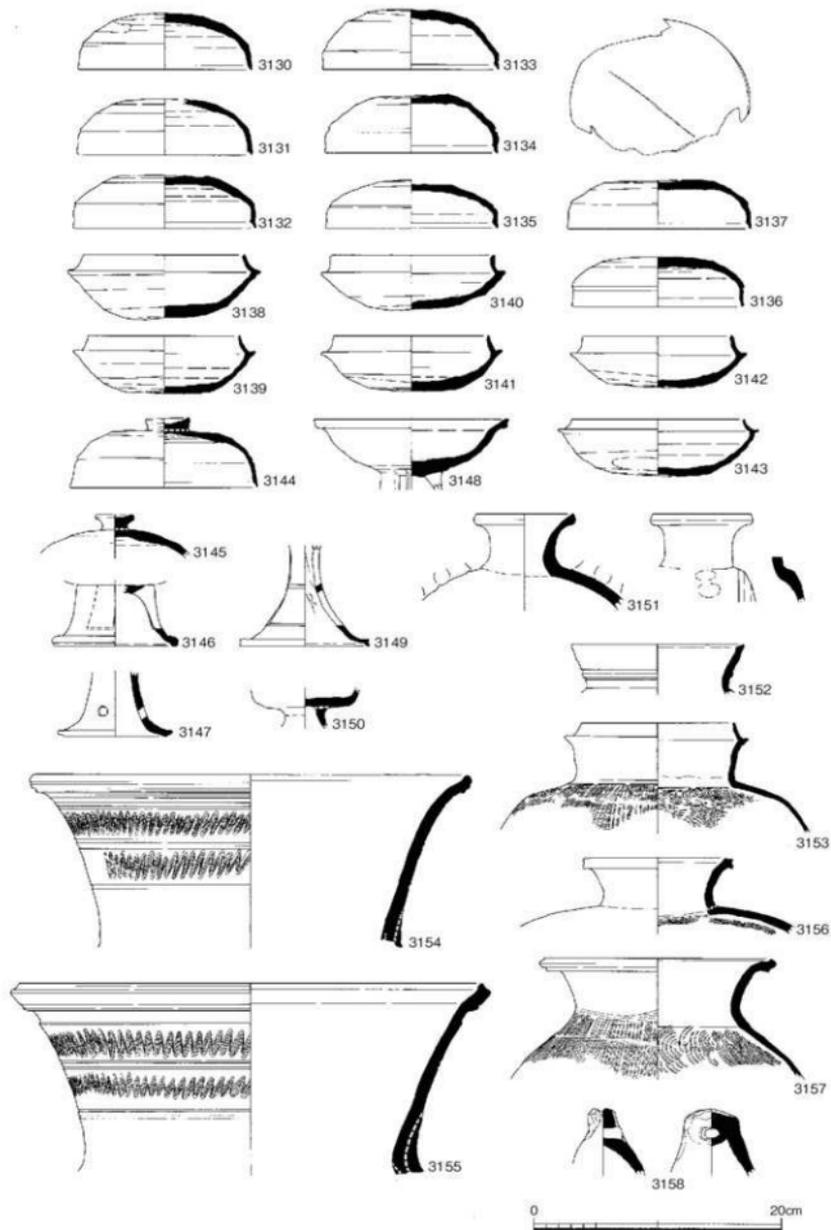


灰原第Ⅱ層

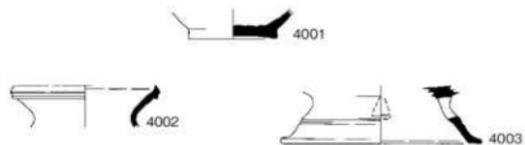


0 20cm

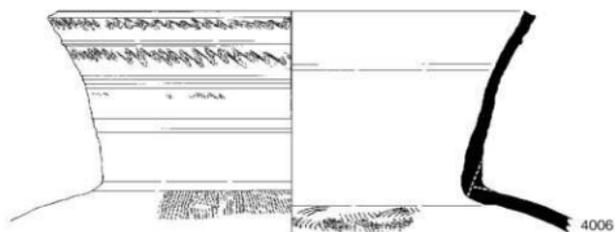




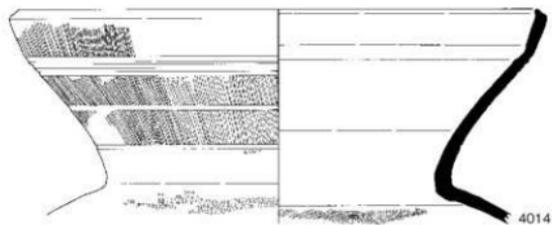
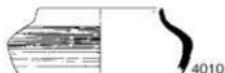
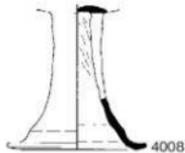
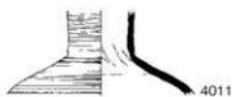
2号窯下

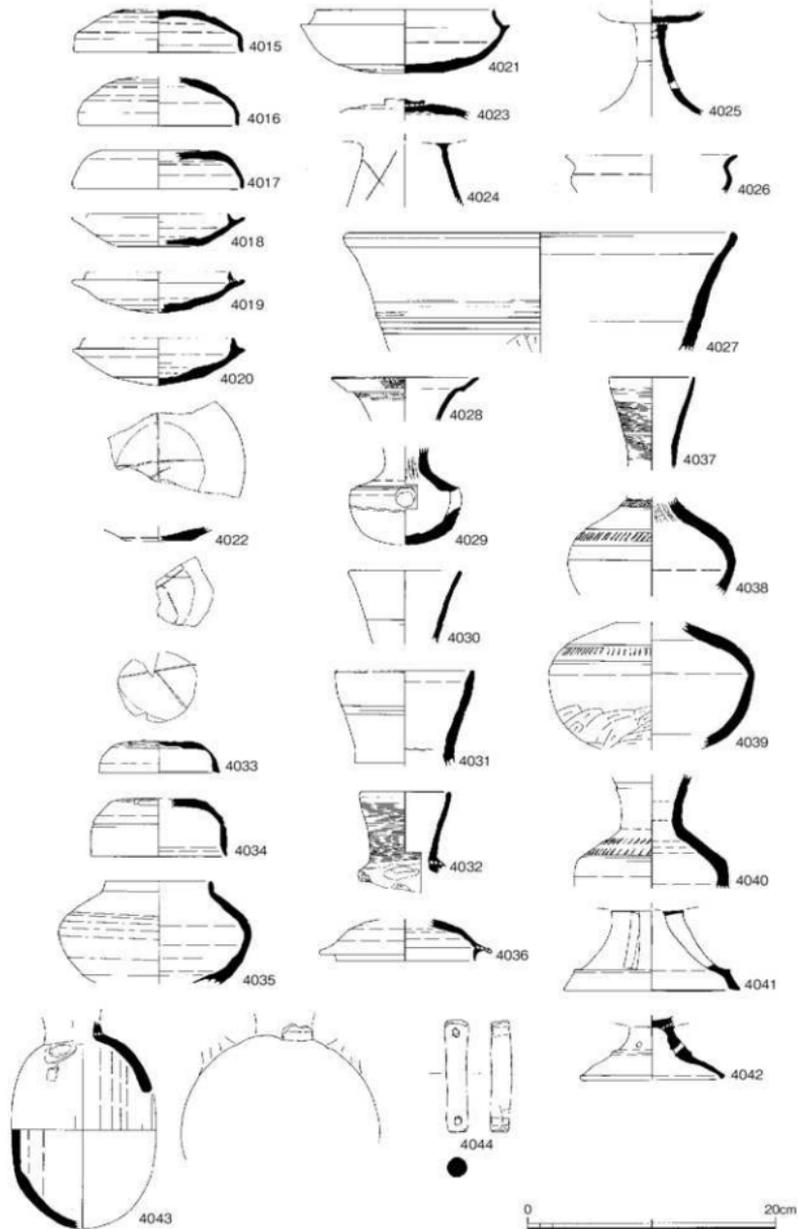


2号窯・3号窯下



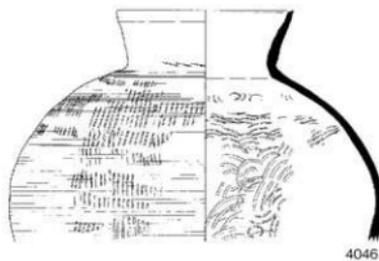
3号窯下第1層



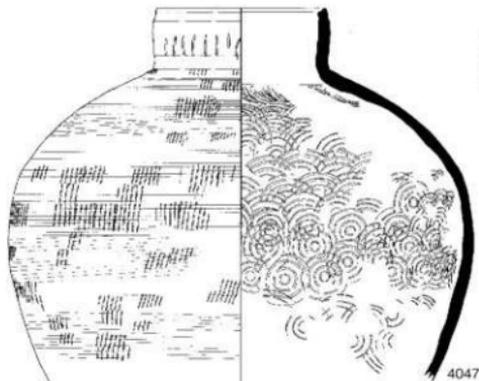




4045



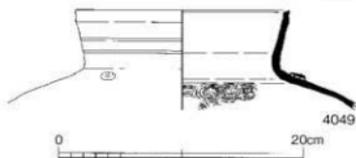
4046



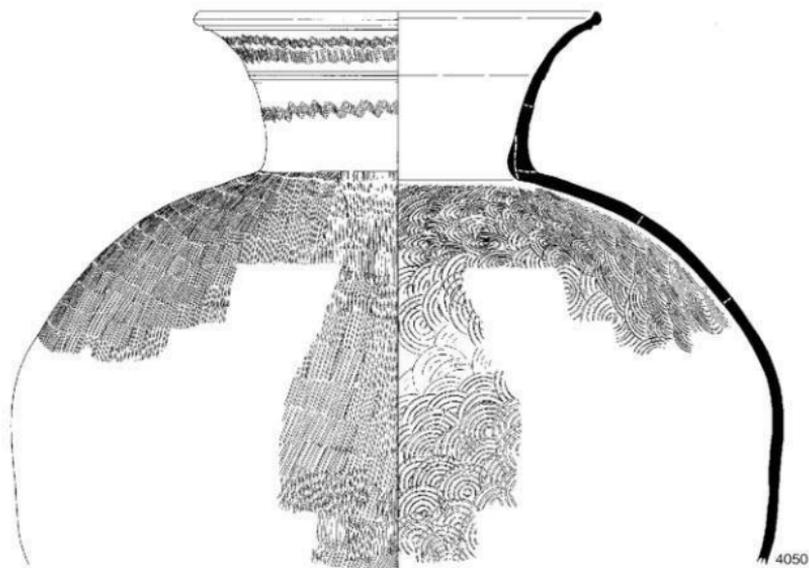
4047



4048

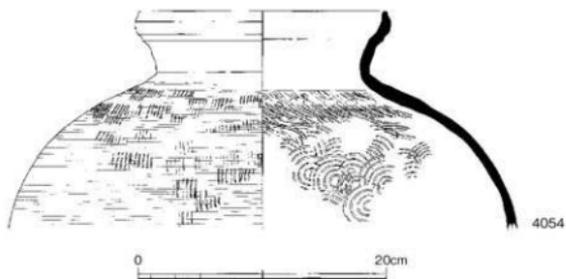
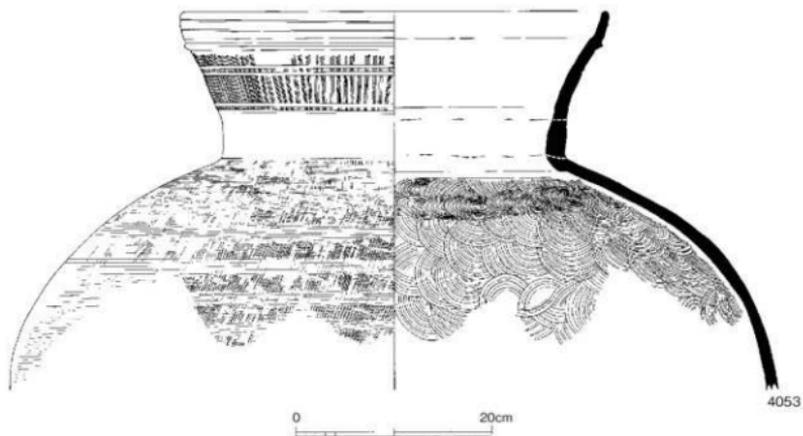
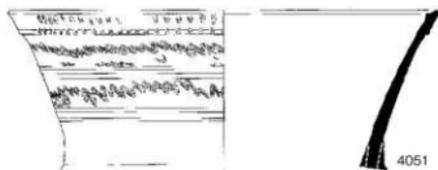


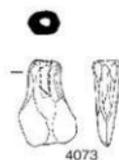
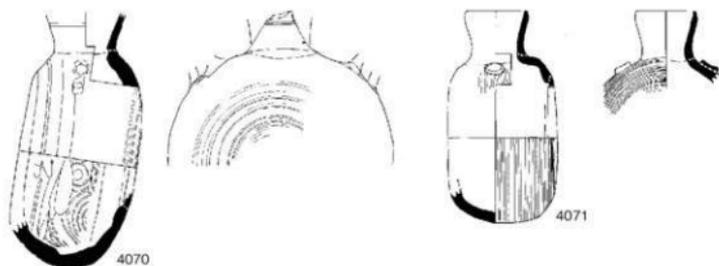
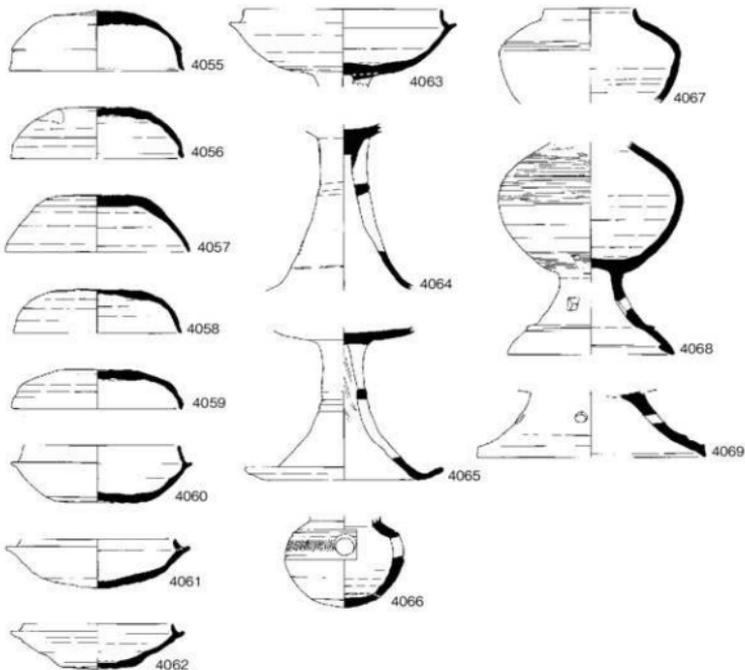
4049



4050

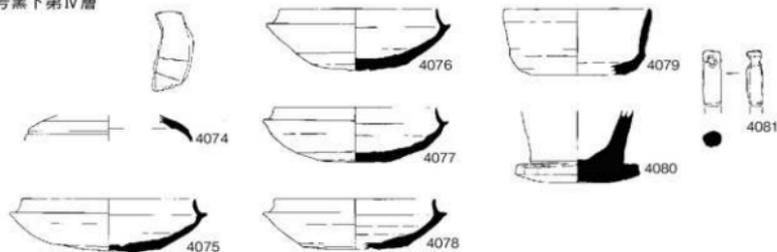






0 20cm

3号窯下第IV層



3号窯下



流路2西端第I層



流路2西端第III層

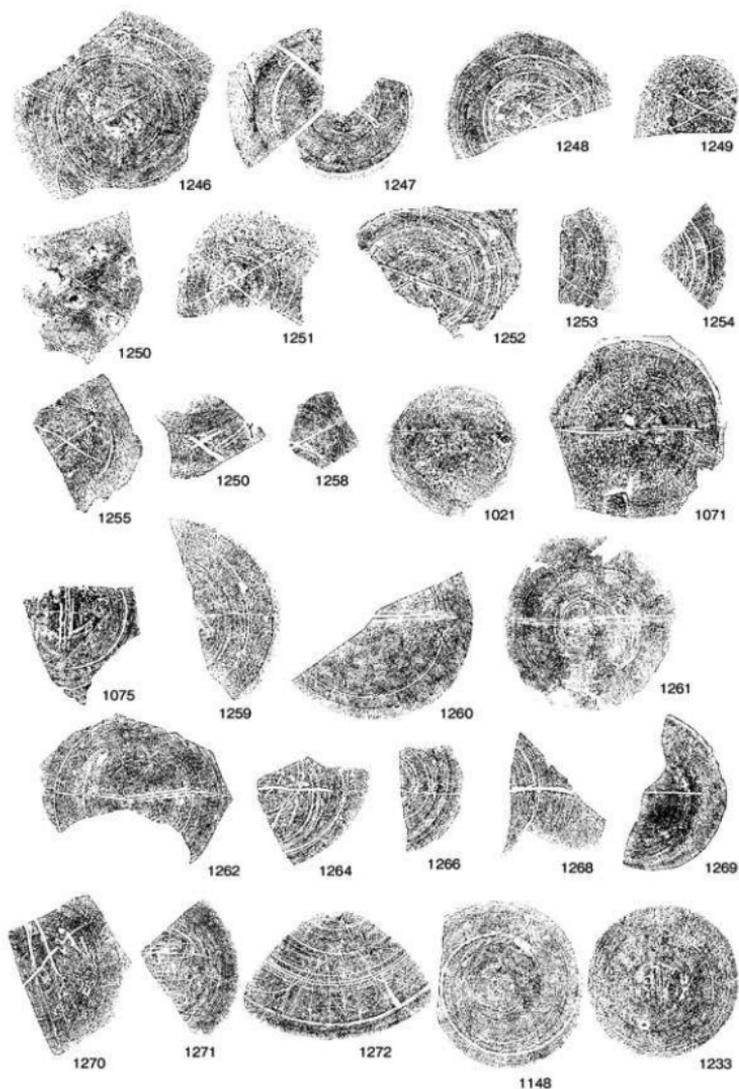


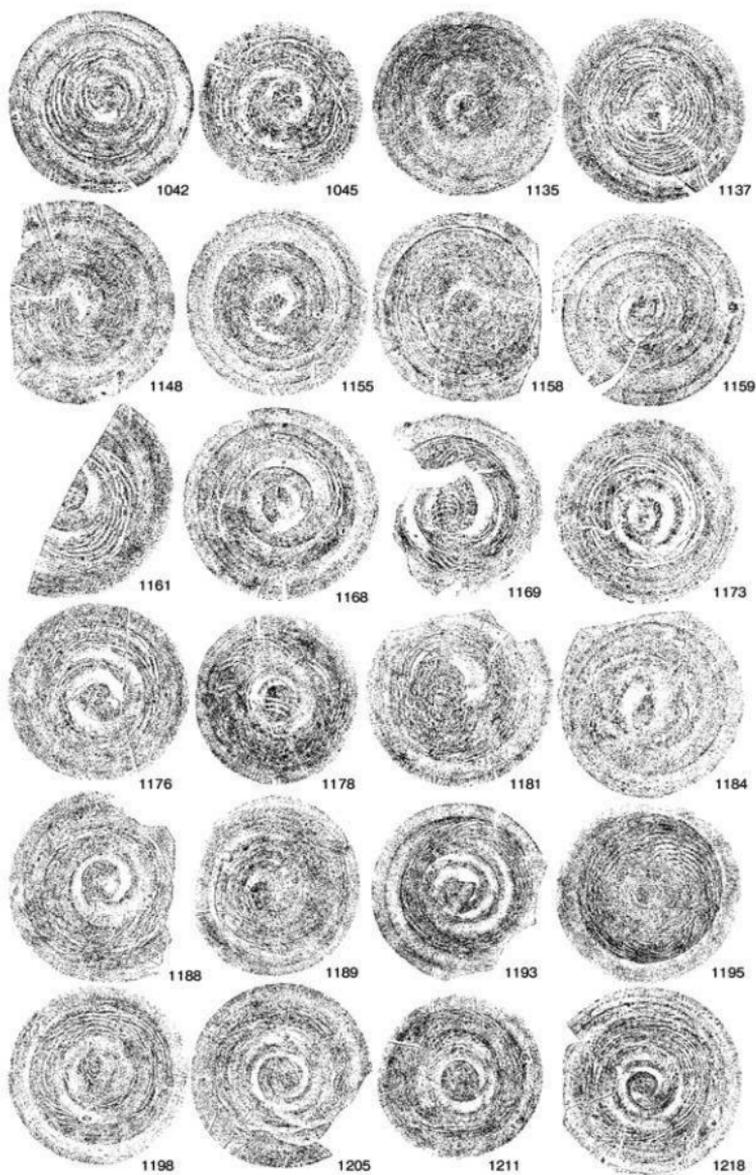
流路2西端第III層西端

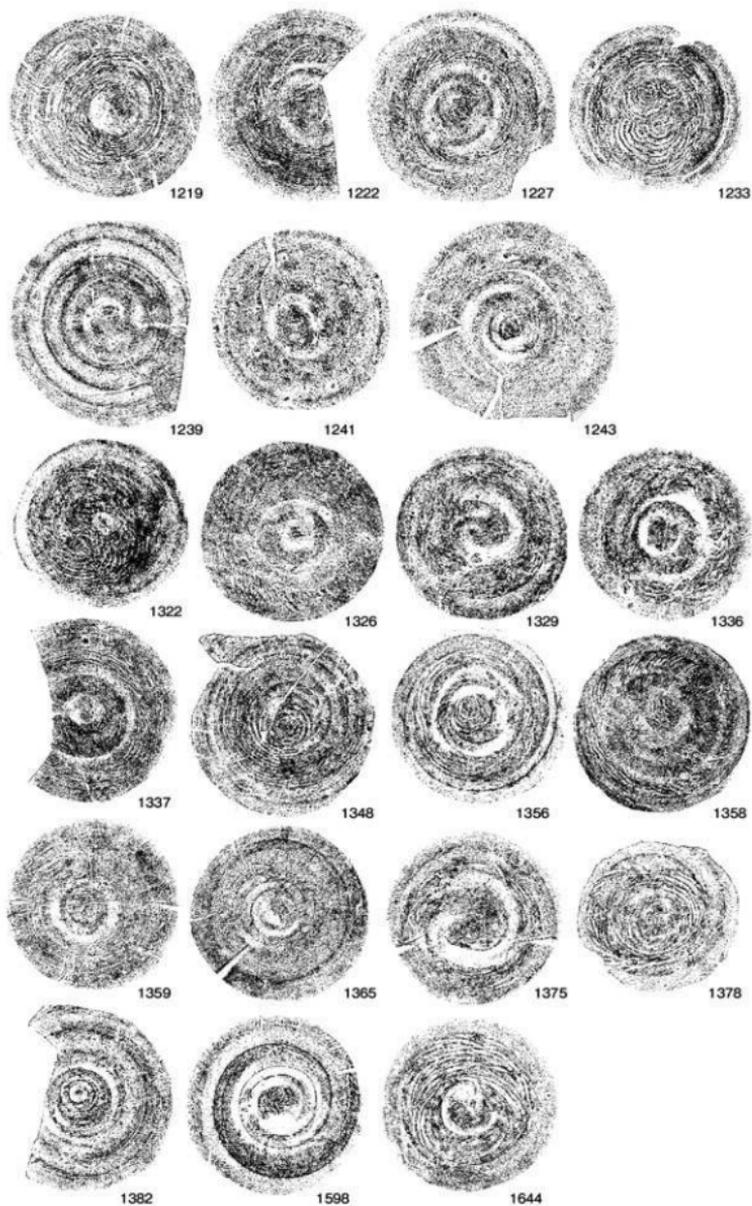


その他

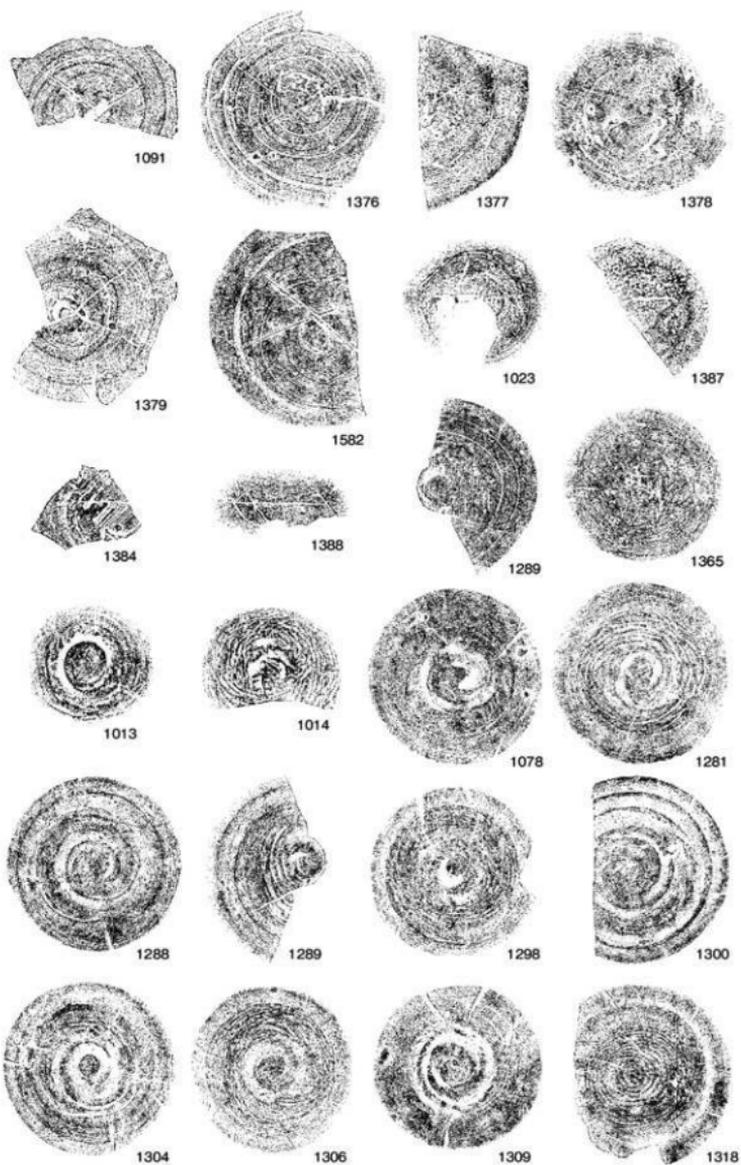


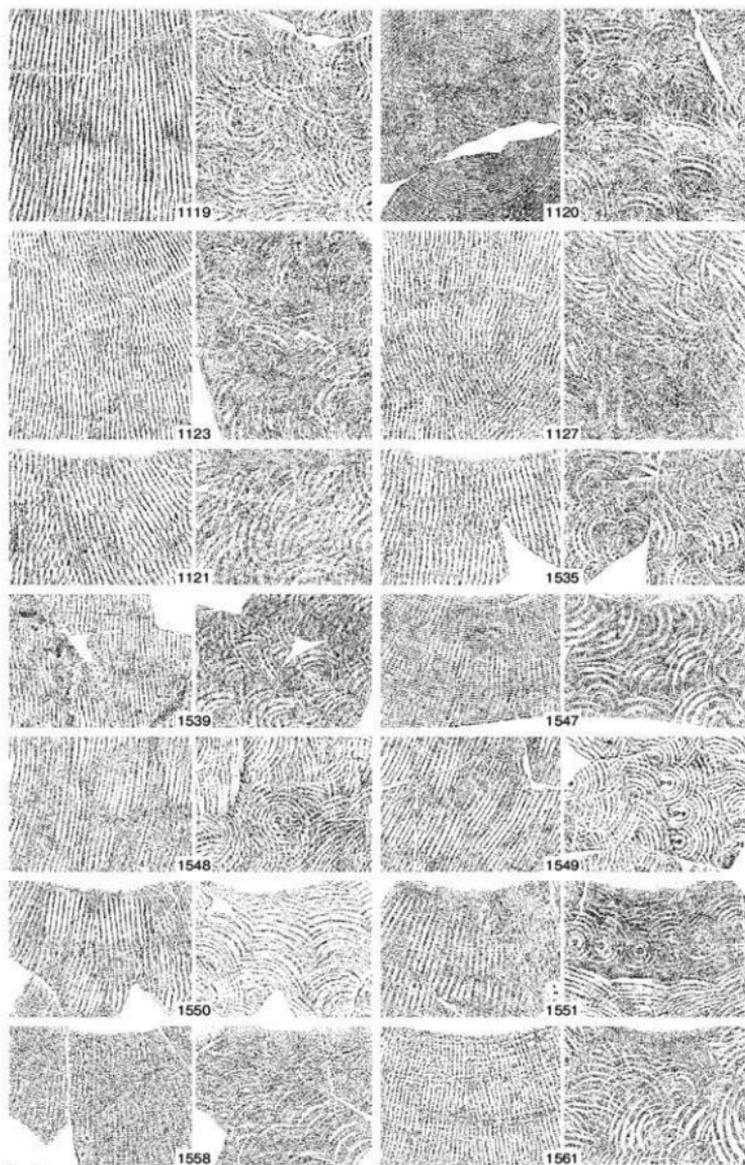


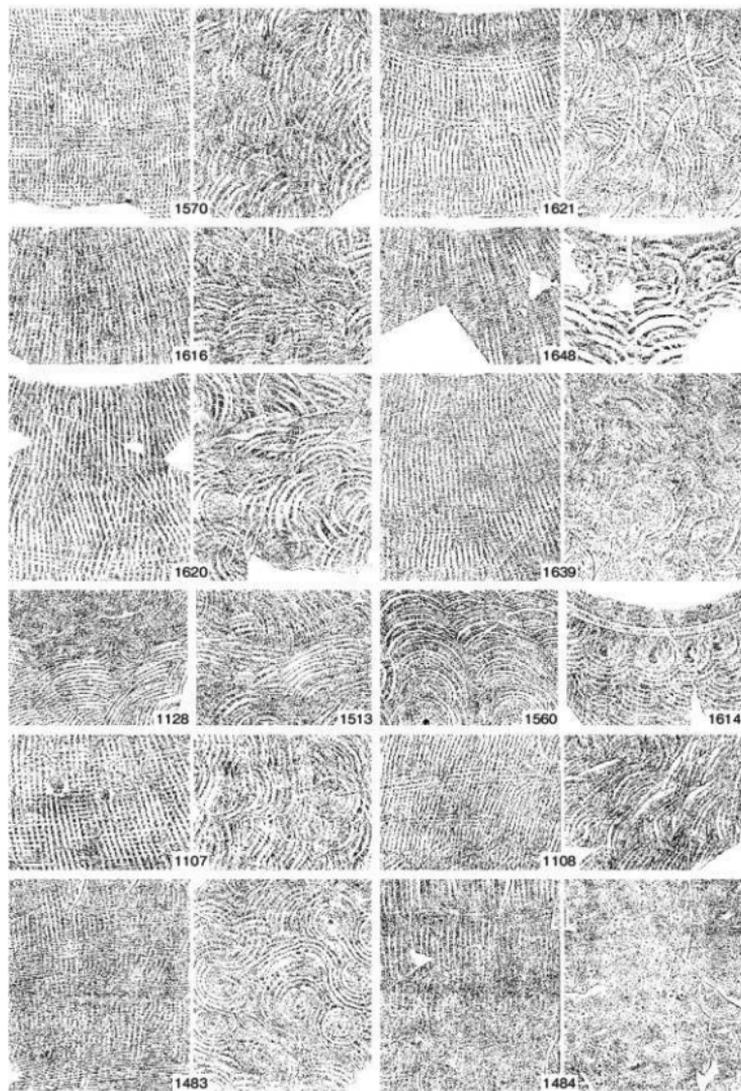


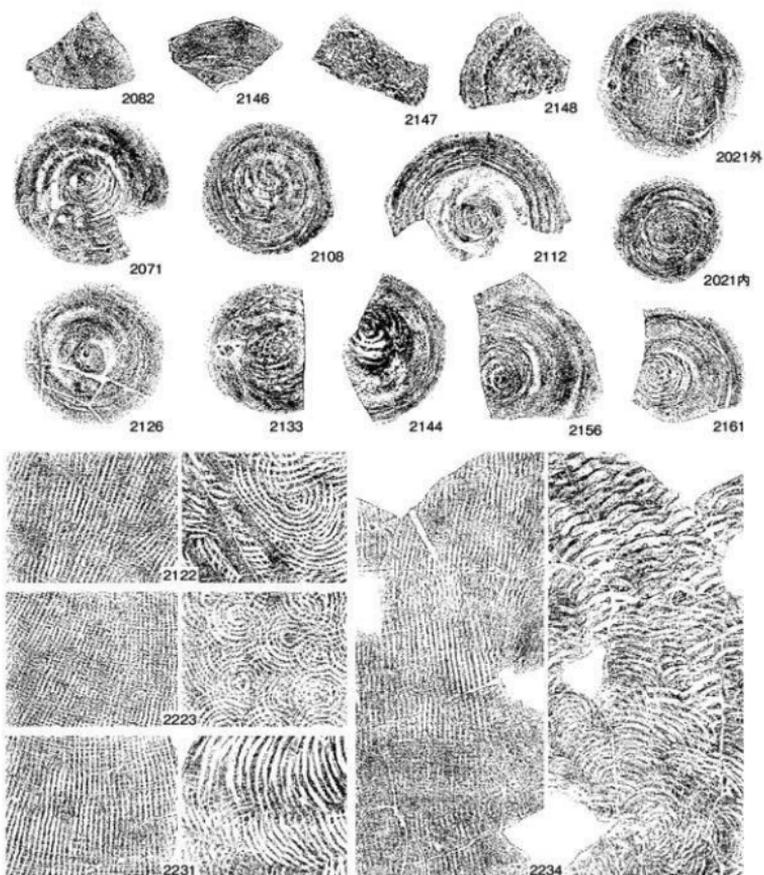


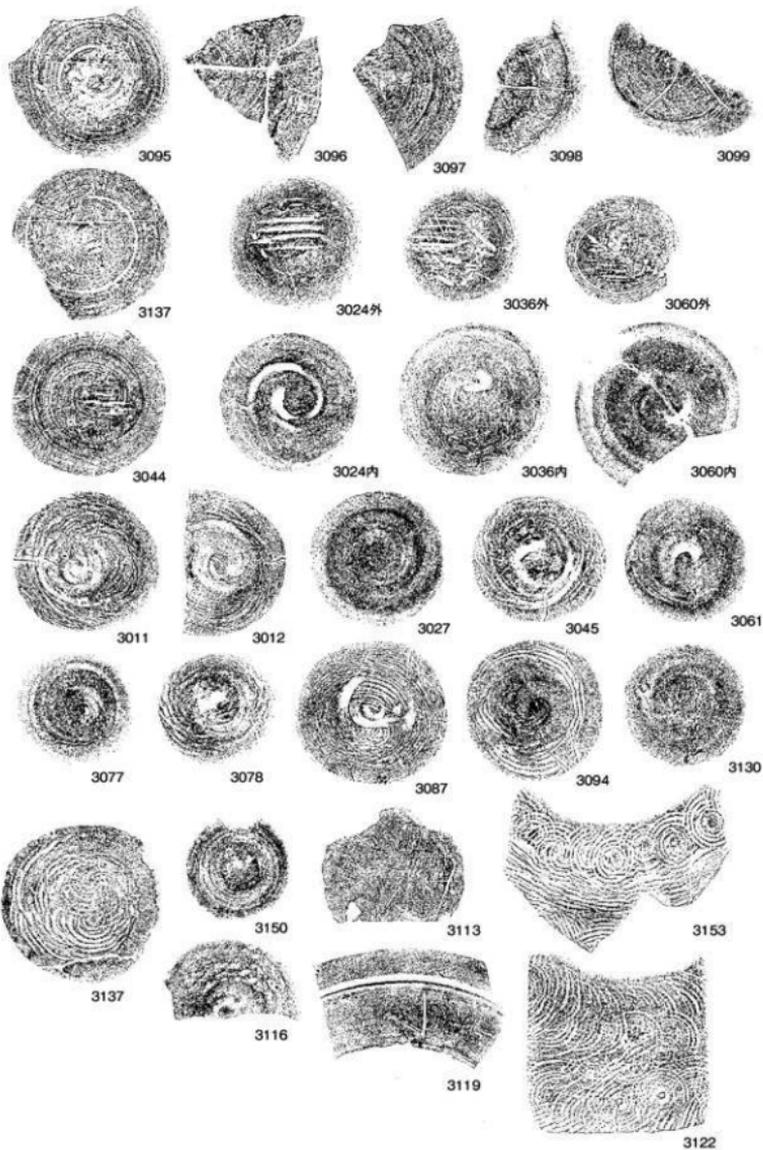
坏蓋内面痕跡 (2) 拓影 (1219~1243)
坏身内面痕跡 (1) 拓影 (1322~1644)

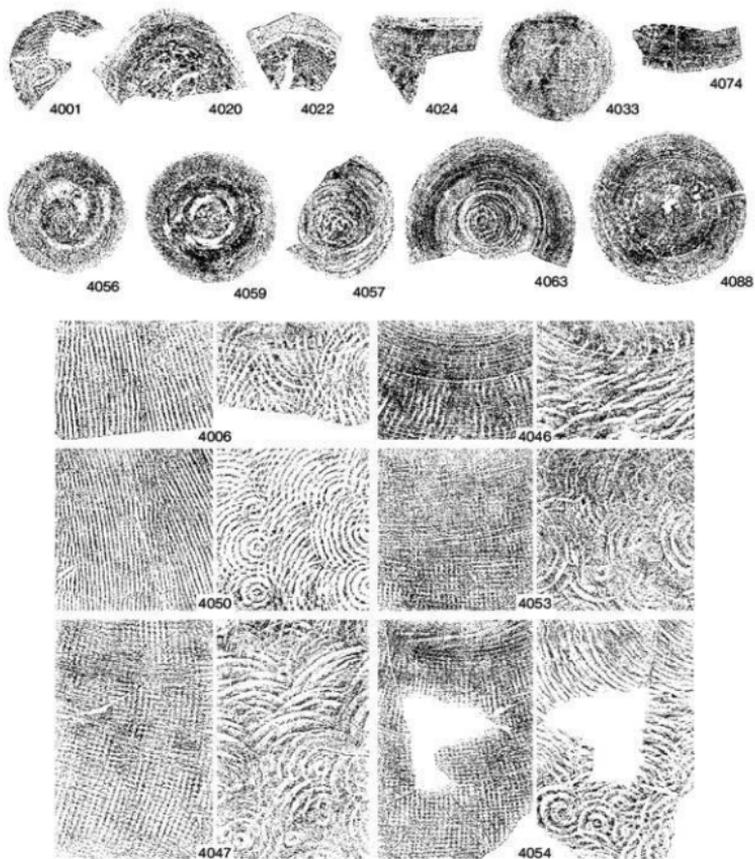


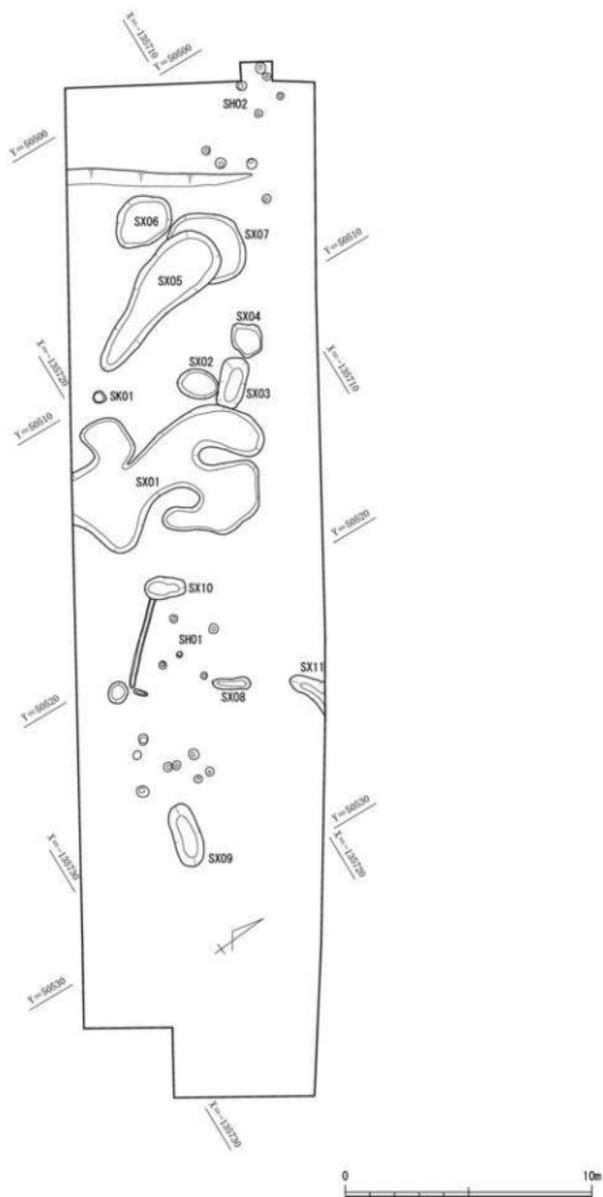


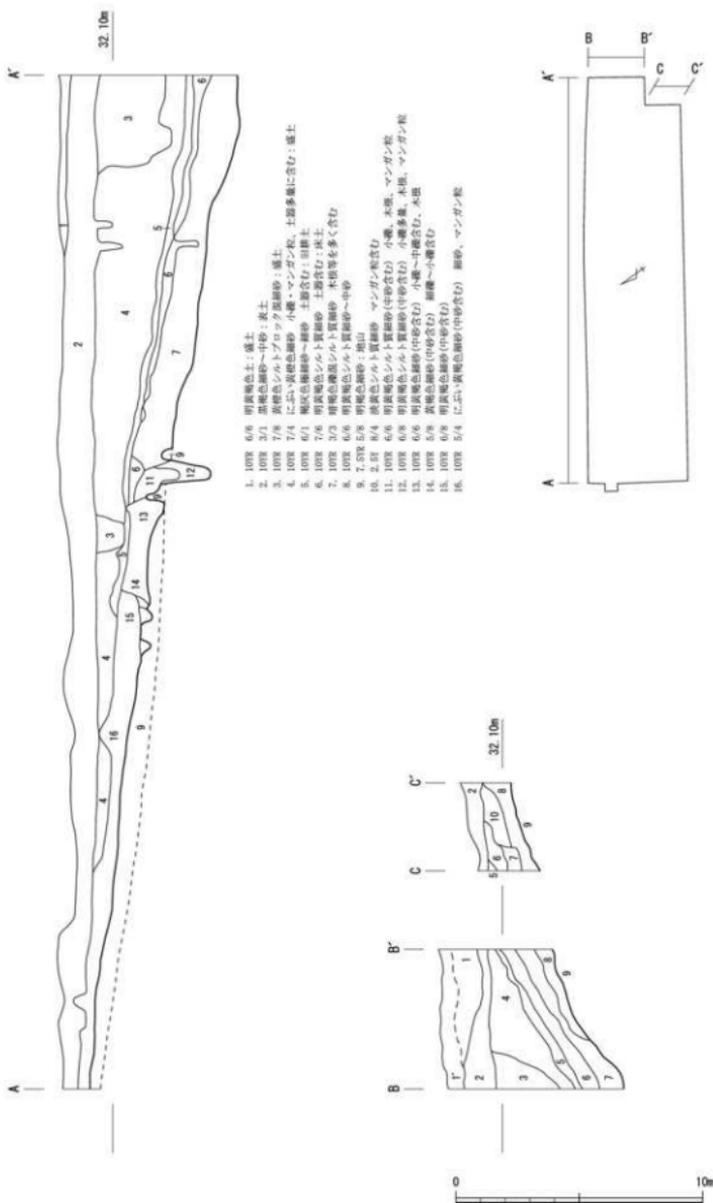






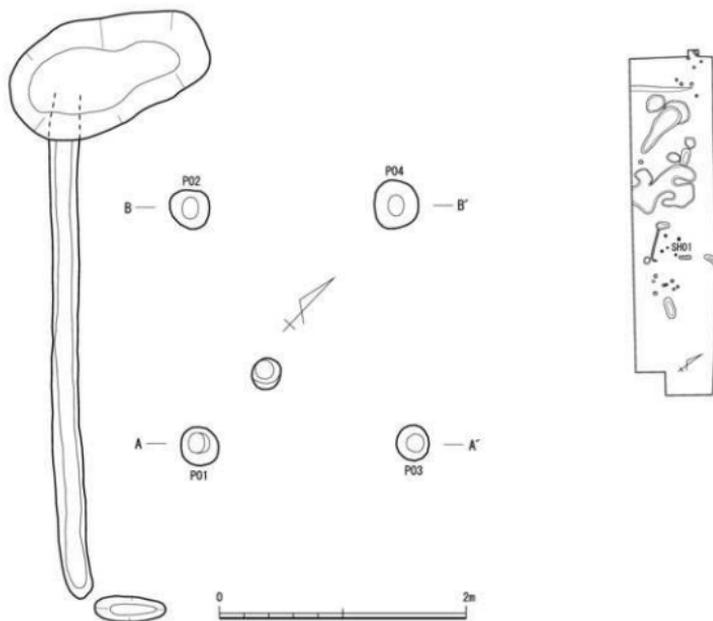






- 1. 107B 6.6 明黄褐色土：黄土
- 2. 107B 2/1 黄褐色細砂～中砂：黄土
- 3. 107B 7/8 北に露出したワシロクワ層砂：細土
- 4. 107B 6/1 黄褐色細砂～細砂
- 5. 107B 6/1 黄褐色細砂～細砂
- 6. 107B 7/6 明黄褐色シルト質細砂
- 7. 107B 2/2 明黄褐色シルト質細砂
- 8. 107B 6/6 明黄褐色シルト質細砂
- 9. 7.57B 5/8 明黄褐色砂
- 10. 2.37 8/4 黄褐色シルト質細砂
- 11. 107B 6/8 明黄褐色シルト質細砂
- 12. 107B 6/8 明黄褐色シルト質細砂
- 13. 107B 6/6 明黄褐色細砂
- 14. 107B 5/8 黄褐色細砂
- 15. 107B 6/8 明黄褐色細砂
- 16. 107B 5/4 北に露出した黄褐色細砂

調査区断面図



P02

1. 10YR 6/6 明黄褐色極細砂（中砂含む）炭粒少量
2. 10YR 6/8 明黄褐色極細砂（中砂含む）

P04

1. 10YR 6/6 明黄褐色極細砂（中砂～粗砂含む）炭粒
2. 10YR 6/8 明黄褐色極細砂～細砂（中砂含む）小礫



P01

1. 10YR 5/6 黄褐色極細砂（中砂含む）炭粒、燒土粒、小礫
2. 10YR 6/8 明黄褐色極細砂～細砂（中粗砂含む）

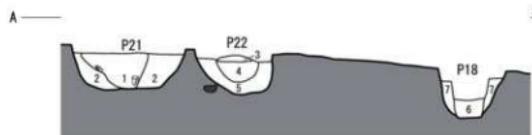
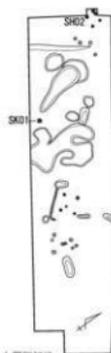
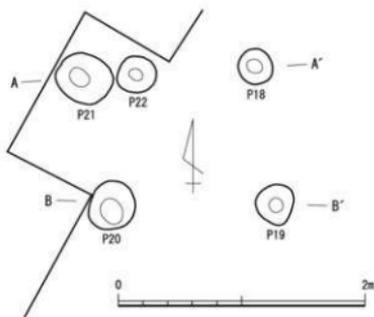
P03

1. 10YR 7/6 明黄褐色極細砂～細砂（中砂含む）炭粒
2. 10YR 7/8 黄褐色細砂（中粗砂含む）

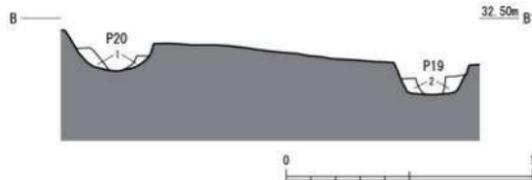


SH01平面図及び柱穴断面図

SH02

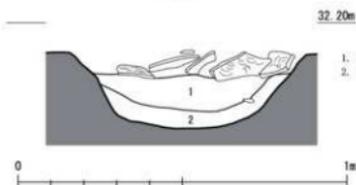
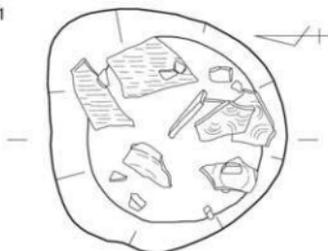


1. 10YR 4/6 褐色シルト質極細砂 (炭粒多く含む)
2. 10YR 5/8 黄褐色シルト質極細砂 (炭粒多く含む)
3. 7.5YR 5/8 明褐色中砂混じり極細砂 (粘土)
4. 10YR 4/6 褐色シルト質極細砂 (炭粒少量含む)
5. 10YR 5/8 黄褐色シルト質極細砂 (炭粒多く含む) : 2層と類似
6. 10YR 6/4 に近い黄褐色シルト質極細砂 (炭粒少量含む)
7. 10YR 6/6 明黄褐色極細砂 (細礫含む)

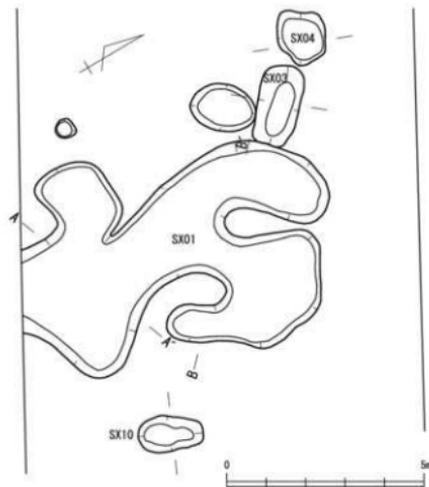


1. 10YR5/6 黄褐色極細砂
2. 10YR6/6 明黄褐色極細砂

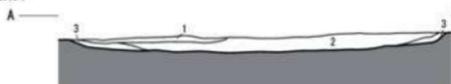
SK01



1. 10YR 5/8 黄褐色シルト質極細砂
2. 10YR 5/6 黄褐色シルト



SX01



1. 10YR 6/3 にぶい黄褐色細砂（中砂含む）
上面にマンガン粒、灰土跡おおく含む
2. 10YR 6/6 明黄褐色極細砂（中砂含む）
細粒、灰土跡少量含む
3. 10YR 7/6 明黄褐色シルト質極細砂（中砂含む）
マンガン粒、灰土跡少量含む

B

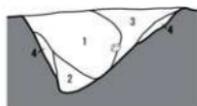


1. 10YR 6/6 明黄褐色極細砂（中砂含む）
2. 10YR 6/4 にぶい黄褐色細砂（中砂含む）明灰色シルト一部層状に堆積する、灰土跡少量含む
3. 10YR 6/6 明黄褐色シルト質極細砂（中砂含む）マンガン粒、灰土跡少量含む



SX03

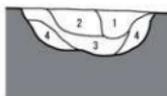
32.40m



1. 10YR 4/6 褐色中砂混じりシルト質極細砂
2. 10YR 6/4 にぶい黄褐色シルト
3. 10YR 5/8 黄褐色シルト質極細砂
4. 7.5YR 4/6 褐色シルト質極細砂（ベース層灰色か）

SX10

32.40m



1. 10YR 6/6 明黄褐色シルト質細砂（粗砂含む）
マンガン粒少量含む
2. 10YR 5/8 黄褐色シルト、マンガン粒含む
3. 10YR 7/6 明黄褐色シルト（中砂含む）
4. 7.5YR 5/6 明褐色シルト質極細砂
（ベース層に近接）

SX04



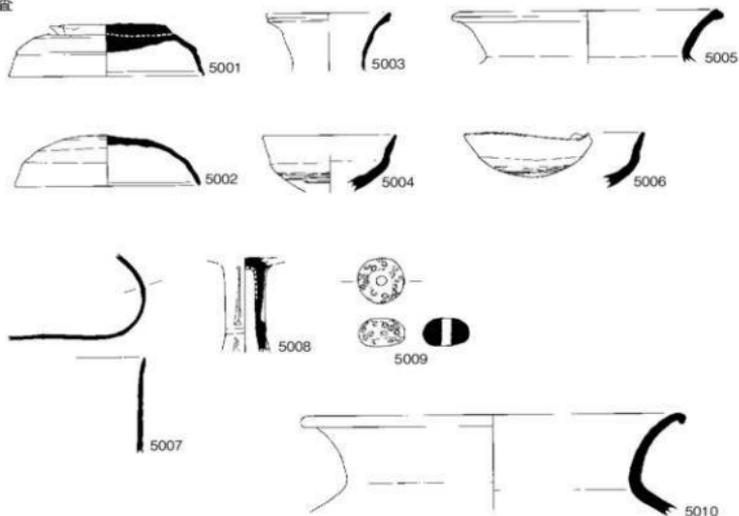
32.40m



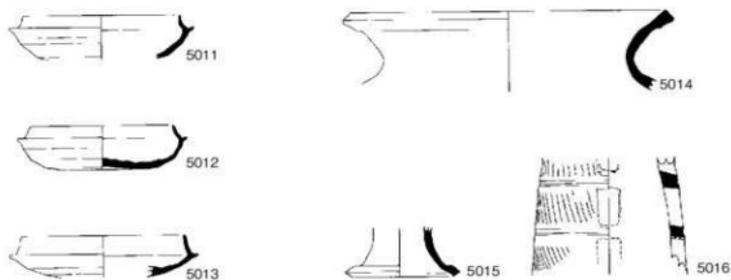
1. 10YR 5/6 黄褐色細砂混じりシルト質極細砂（炭化物含む）



確認調査



SX01

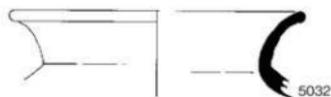


SK01



0 20cm

機械掘削



0 20cm

写
真
图
版



1 空中写真(上が北)
(国土地理院、昭和50年撮影)



2 遠景 (南から)



3 遠景 (南西から)



4 遠景（北から）



5 遠景（西から）



6 遠景 (南東から)



7 遠景 (南から)





9 調査前全景 (A区)
(東から)



10 調査前全景 (手前B区)
(南東から)



11 調査前全景 (B区)
(南から)

12 遠景 (南から)



13 中景 (南から)



14 近景 (南から)

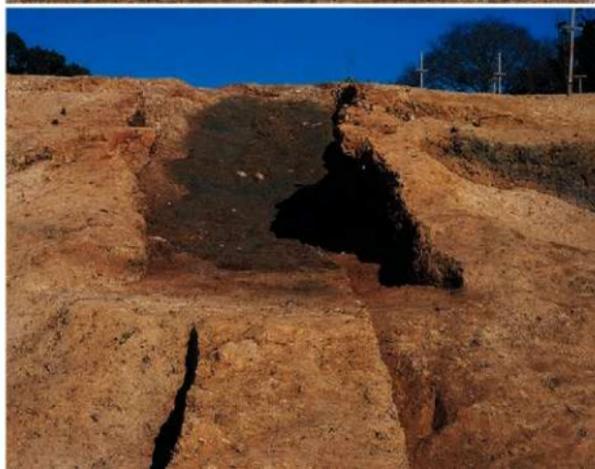




15 窯体全景 (南から)



16 窯体全景 (北から)



17 窯体全景 (南から)

18 焚口断面 (南から)



19 焚口付近 堆積状況 (西から)



20 前庭部 堆積状況 (西から)





21 東壁の状況（西から）



22 東壁の状況（西から）



23 東壁の状況（南東から）

24 窯体断割り (北西から)



25 窯体断割り (南から)



26 窯体断割り (南から)





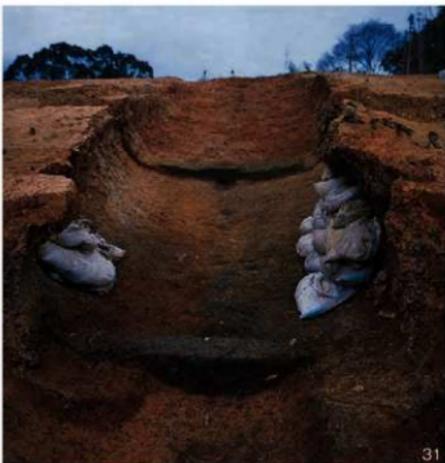
27 焚口断割り (南から)



28 焚口右側断割り (南から)



29 焚口左側断割り (南から)



- 30 断割り (南から)
- 31 床面断割り (南から)
- 32 窯体内ビット
- 33 舟底状土坑
- 34 窯体内ビット (北から)



35 全景（南東から）

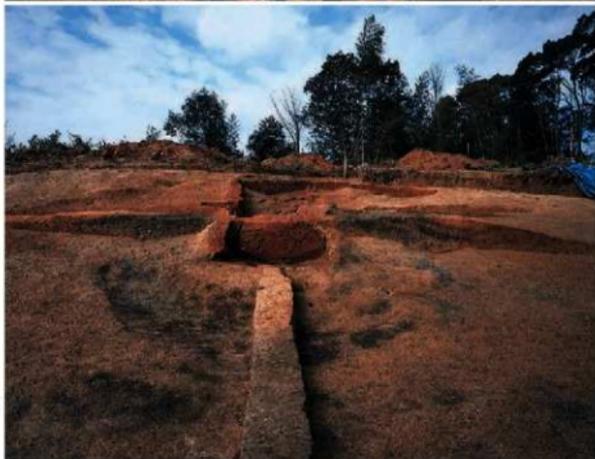


36 近景（南東から）

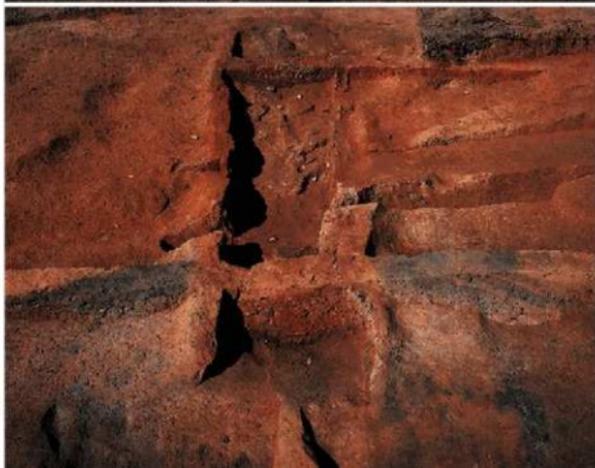
37 窯体・灰原全景（南東から）



38 焚口断面（南東から）

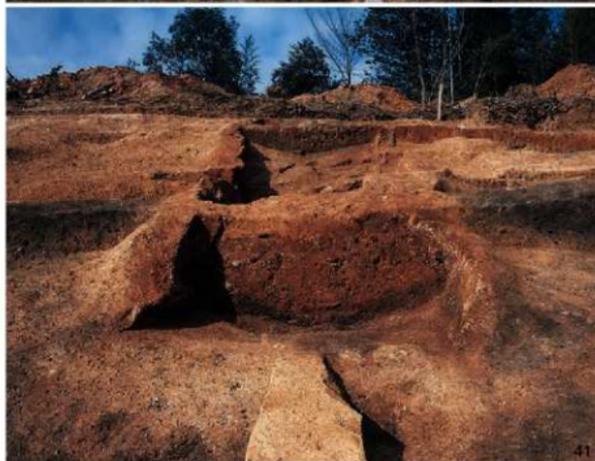


39 窯体（南東から）





40 排煙部断面 (南東から)



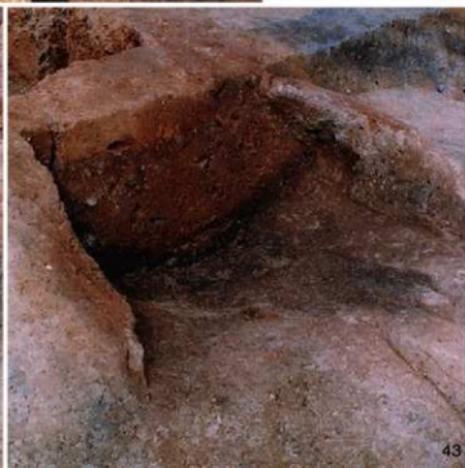
41 焚口断面 (南東から)

42 焚口断面 (南東から)

43 焚口断面 (東から)

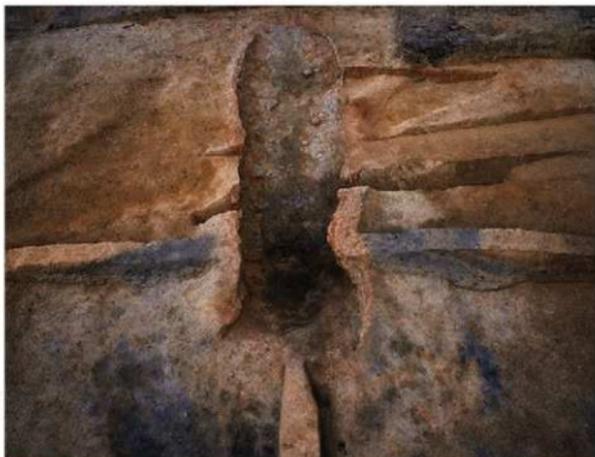


42



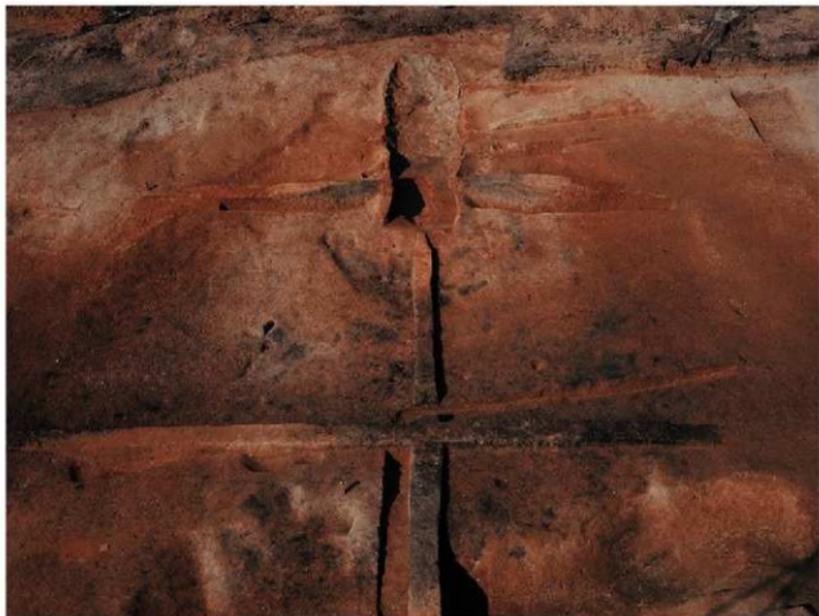
43

44 窯体 (南東から)



45 窯体 (焚口側から)
46 窯体 (焚口側から)
47 窯体 (北西から)





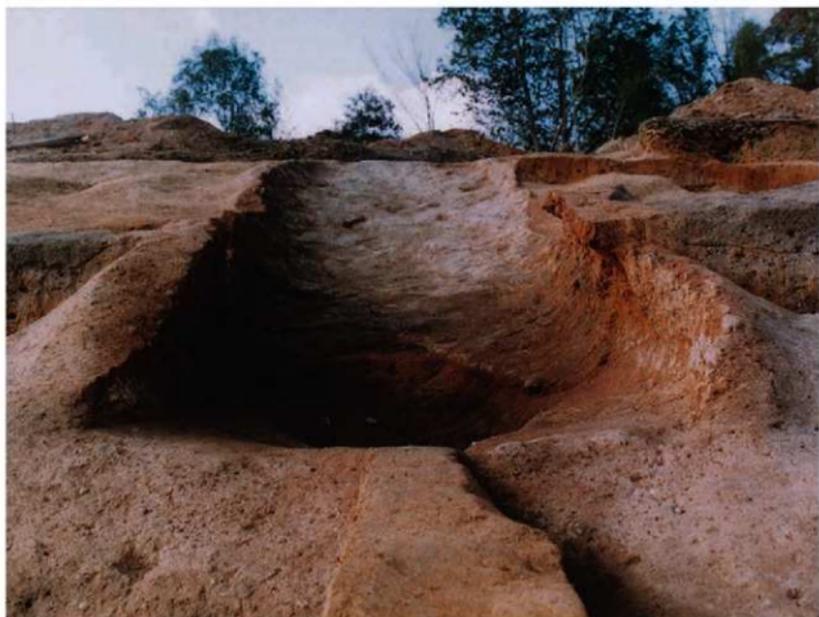
48 全景（南東から）



49 全景（南東から）



50 舟底伏土坑 (南東から)



51 舟底伏土坑 完掘状況 (焚口側から)



52 床面ビット 検出状況



53 盛土部分断面 (南から)



54 床面断割り (南東から)



55 完掘状況（南東から）



56 窯体床面断割り（南東から）



57 断割り横断面 実測風景



58 窯体（最終面）遠景
（北西から）



59 窯体（最終面）中景
（北西から）



60 窯体（最終面）近景
（北西から）

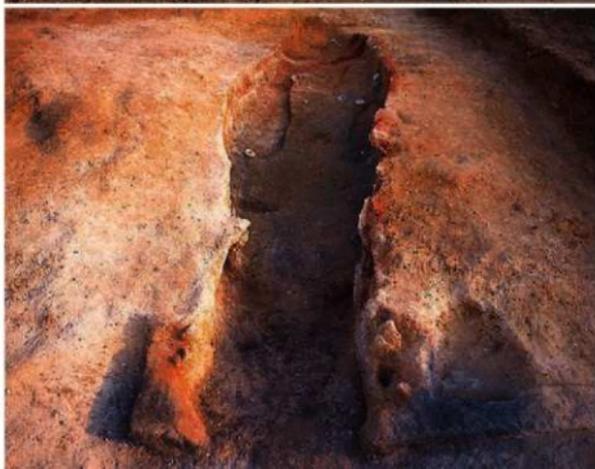
61 窯体（最終面）（焚口側から）



62 窯体（最終面）（排煙部側から）



63 窯体（最終面）（北西から）





64 全景（北西から）



65 前庭部堆積状況（西から）



66 窯体中央セクション
（焚口側から）

67 窯壁内須恵器検出状況
(北東から)



68 窯壁内須恵器検出状況
(北西から)



69 窯壁内須恵器検出状況
(北東から)





70 窯壁内須恵器検出状況
(北東から)



71 窯壁内須恵器検出状況
(北東から)



72 窯壁内須恵器検出状況
(北西から)



73 窯体（北西から）



74 舟底状土坑（南西から）



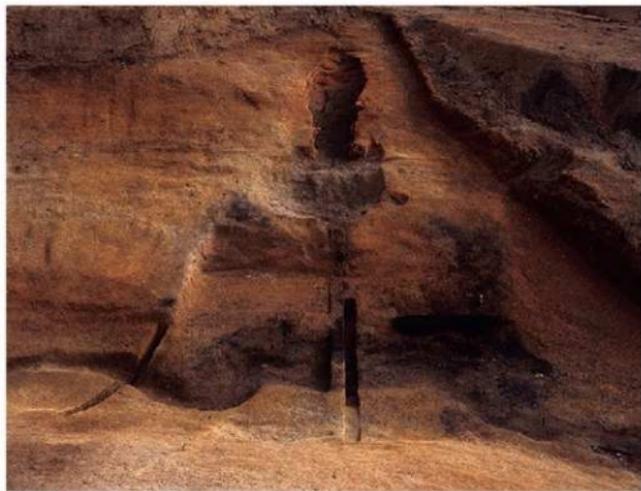
75 焚口（西から）



76 焚口（北西から）



77 焚口横断面



78 遠景 (第1次)
(北西から)



79 近景 (第1次) (北西から)



80 焚口横断面（北西から）



81 完掘状況（焚口側から）



82 完掘状況（排煙部側から）

83 焚口断割り (北西から)

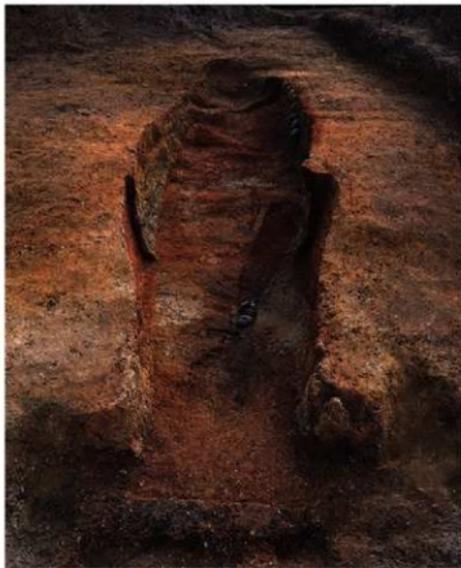


84 窯体断割り (北東から)



85 窯体断割り (北西から)





86 完掘状況 (北西から)



87 完掘後須恵器出土状況
(北西から)



88 断割り後全景 (完掘)
(北西から)

89 SD01断面（南から）



90 埋没状況（南西から）

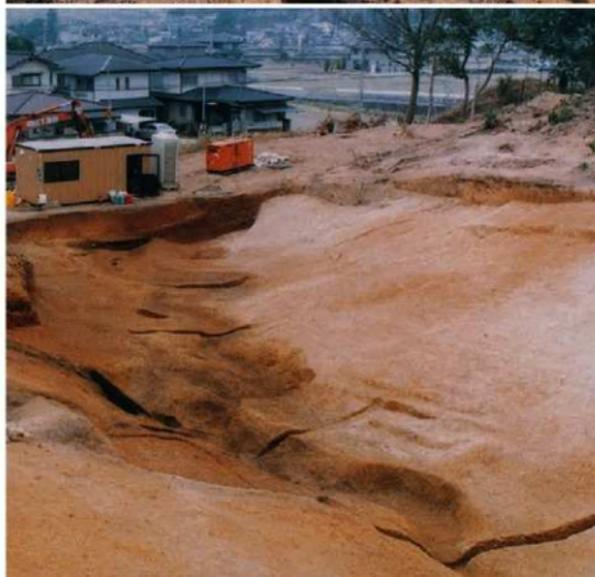


91 断割り（南西から）





92 西半 (東から)



93 精査 西半 (東から)

94 完掘状況（南西から）



95 完掘状況（南西から）



96 完掘状況（南西から）





97 断面（南西から）



98 断面（西から）



99 西壁の状況

100 1号窯灰原東西断面中央
(南東から)



101 流路1土層堆積 (確認トレンチ)
(南東から)



102 西壁の状況 (東から)





須恵器・巻き貝



須恵器壺



須恵器瓶類・鉢・椀・甌・壺・器台



神野大林1号窯・流路1 須恵器坏・高坏



神野大林2号窯 須恵器



須惠器



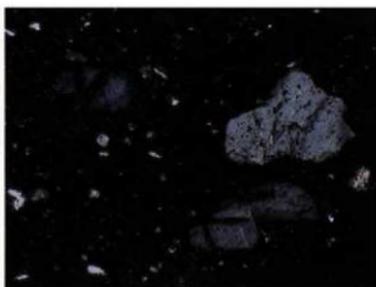
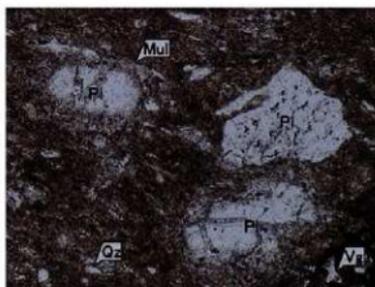
須惠器坏・高坏



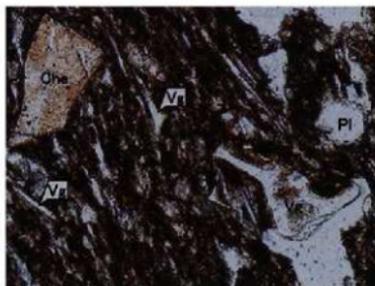
神野大林窯跡 流路2 須恵器



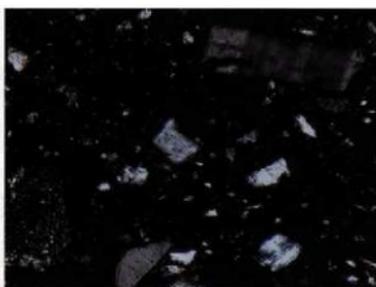
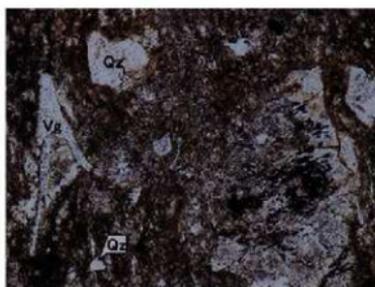
神野大林窯跡群・神野北山遺跡 須恵器・巻き貝



1. 資料No.01 (報告No.1127 甕 B区 1号窯 灰原第I層)



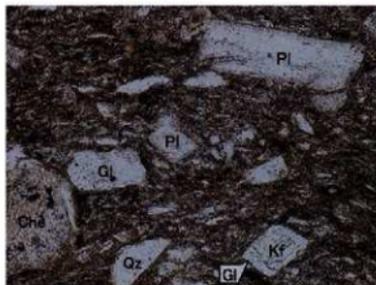
2. 資料No.02 (報告No.1620 甕 B区 流路1 第I層)



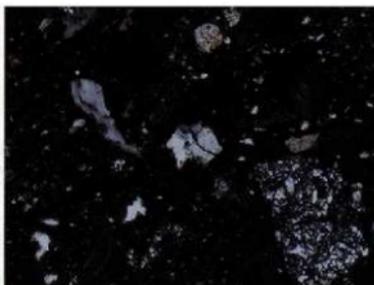
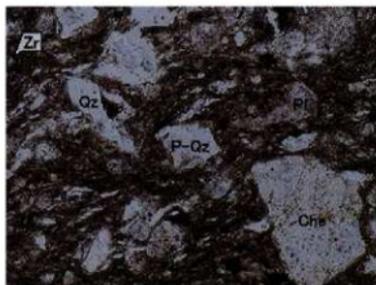
3. 資料No.03 (報告No.2181 提瓶 A区 2号窯 灰原第II層)

Qz: 石英, Pl: 斜長石, Che: チャート, SiR: 珪化岩, Vg: 火山ガラス, Mul: ムライト。
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

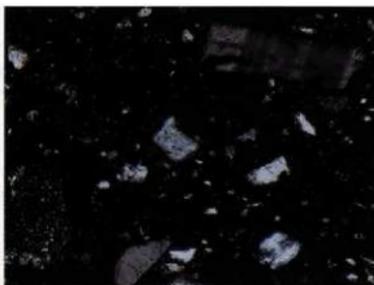
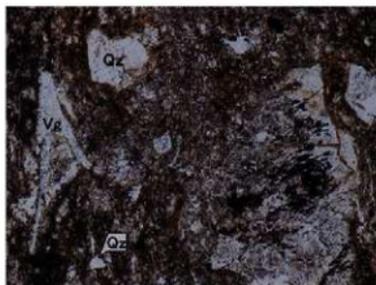
0.2mm



4. 資料No.04 (報告No.2221 奥 A区 2号窯 灰原第Ⅱ層)



5. 資料No.05 (報告No.3065 奥 A区 3号窯 窯体 最終面埋土下層)



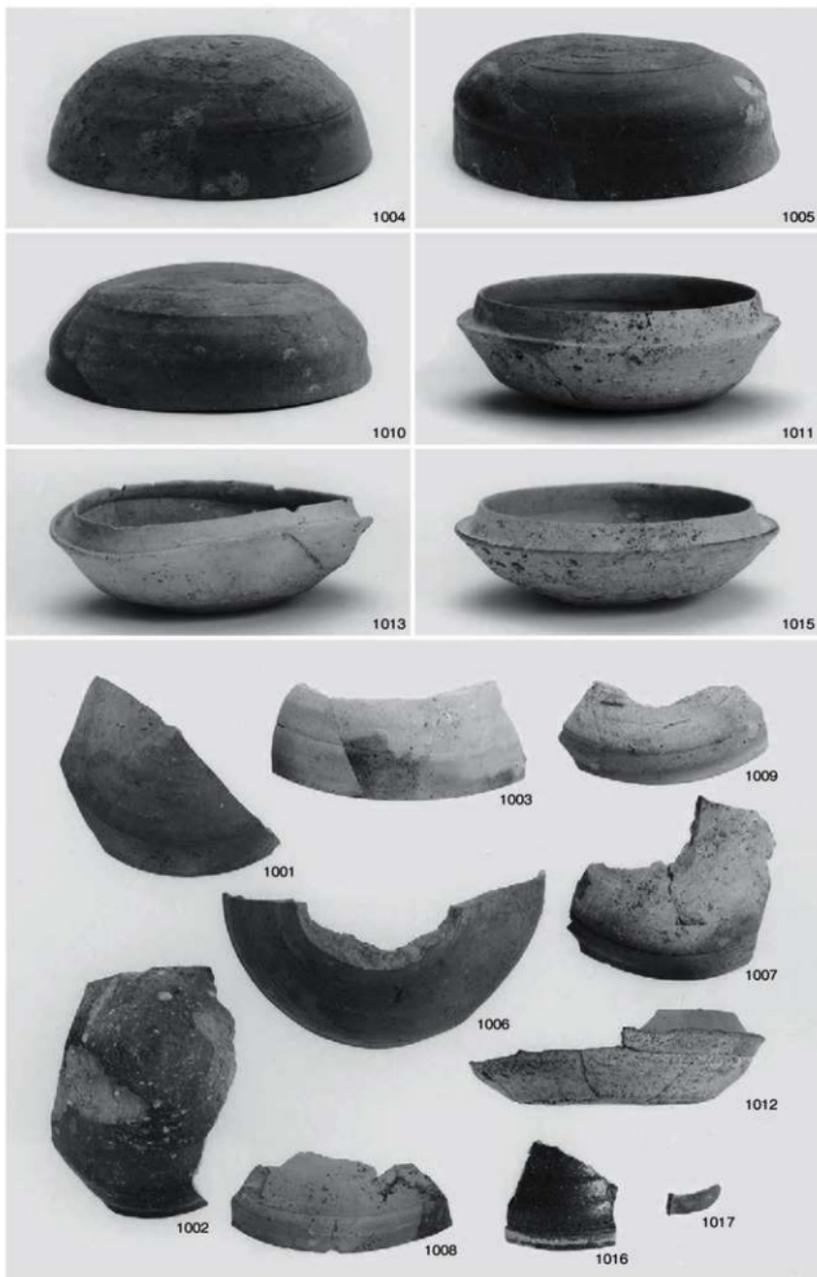
6. 資料No.06 (報告No.3154 奥 A区 3号窯 灰原第Ⅲ層)

Qz: 石英, Kf: カリ長石, Pl: 斜長石, Zr: ジルコン, Chs: チャート, P-Qz: 多結晶石英,

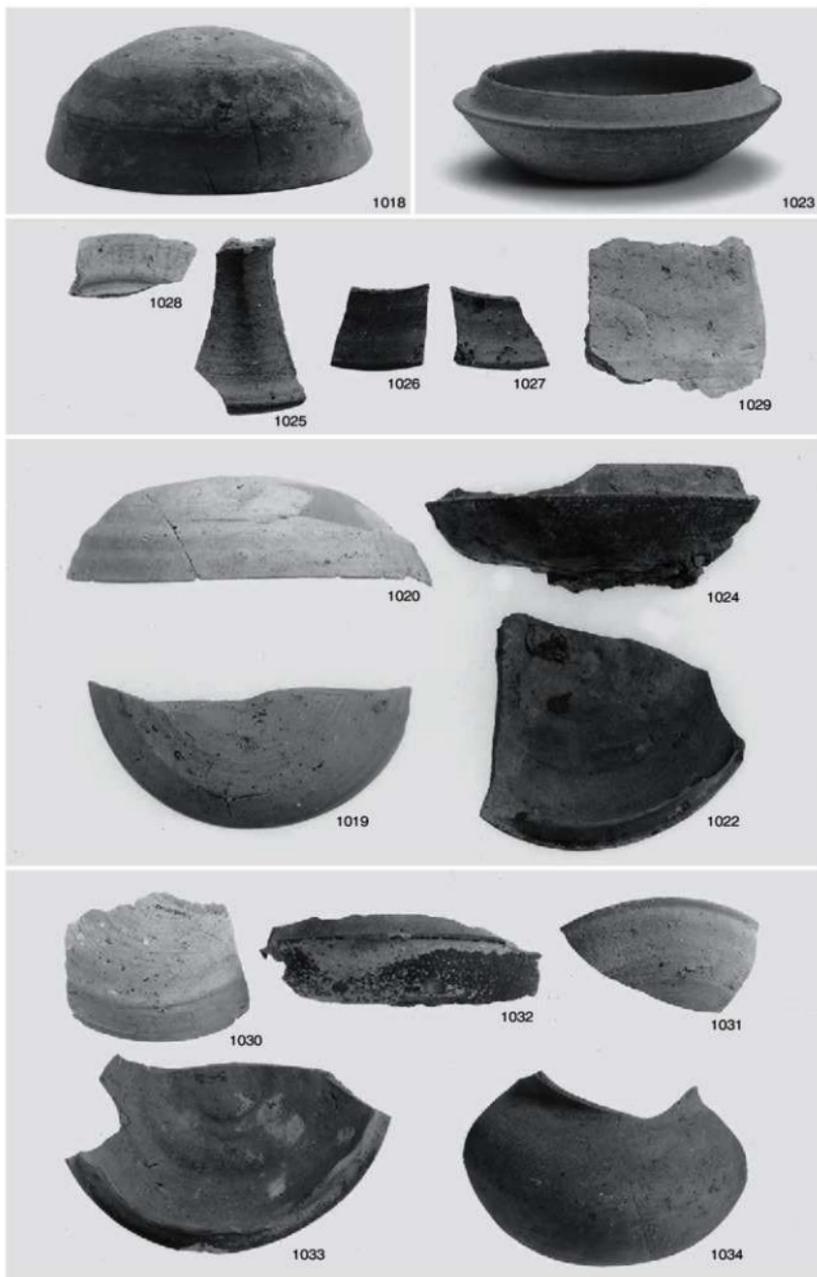
Mul: ムライト, Gl: ガラス

写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

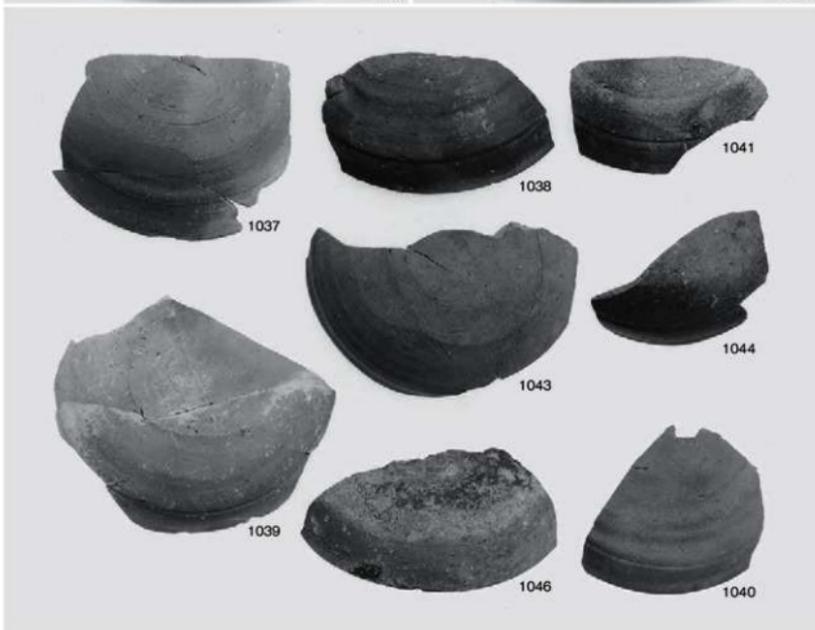
0.2mm

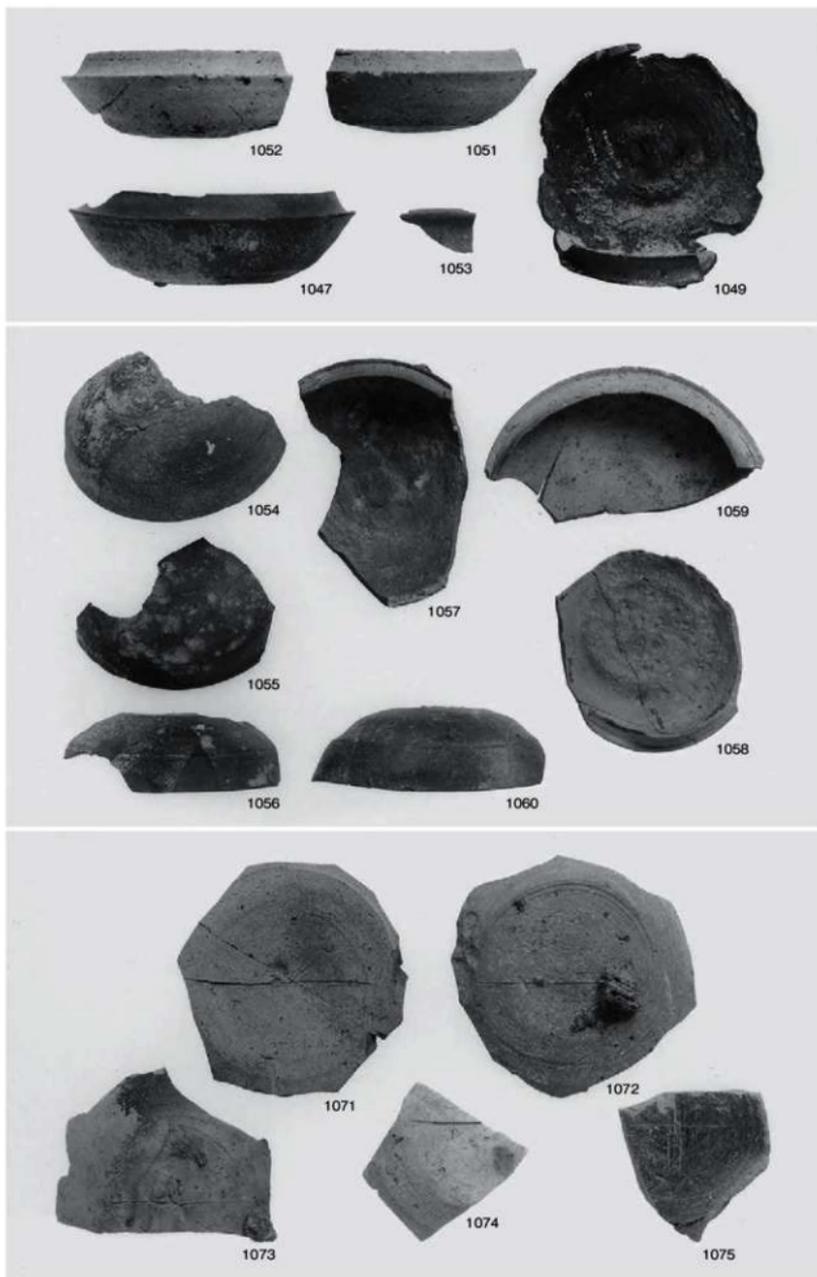


窯体床面

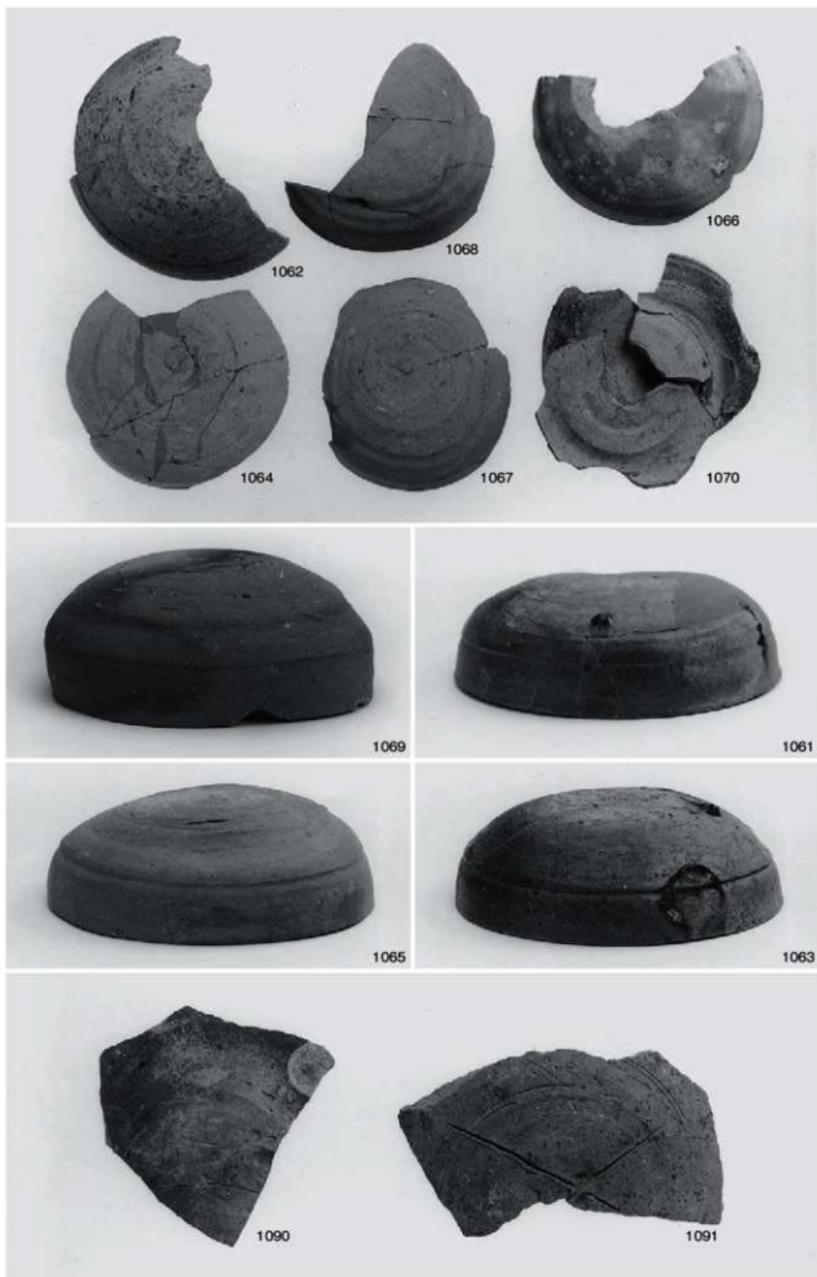


窯体壁面・窯体埋土





窯体・焚口・灰原第1層









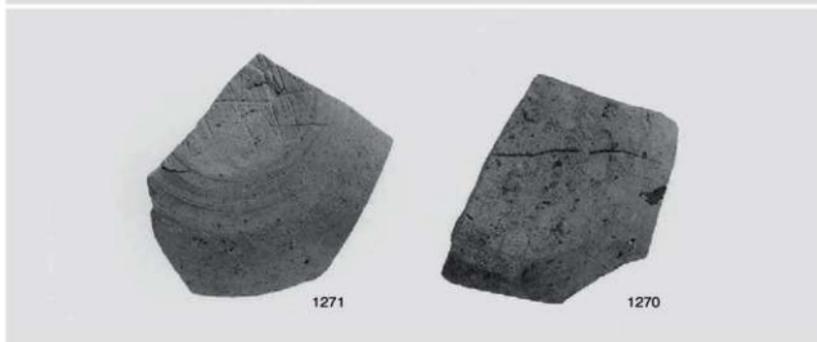
1119



1119









1136



1137



1140



1162



1148



1168



1150



1170



1159



1174



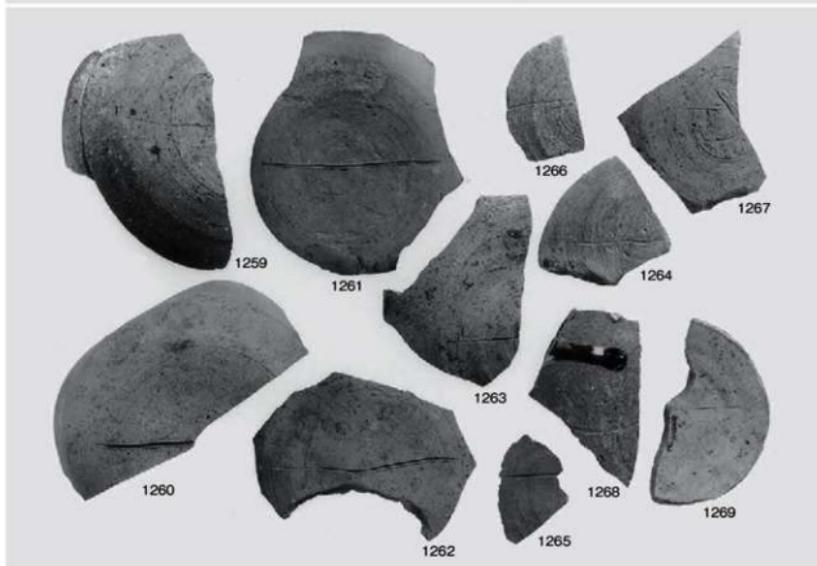
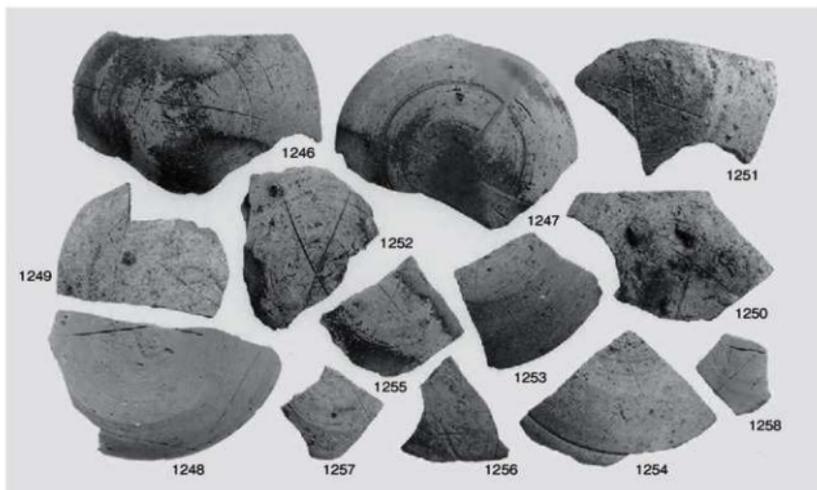
1160



1176



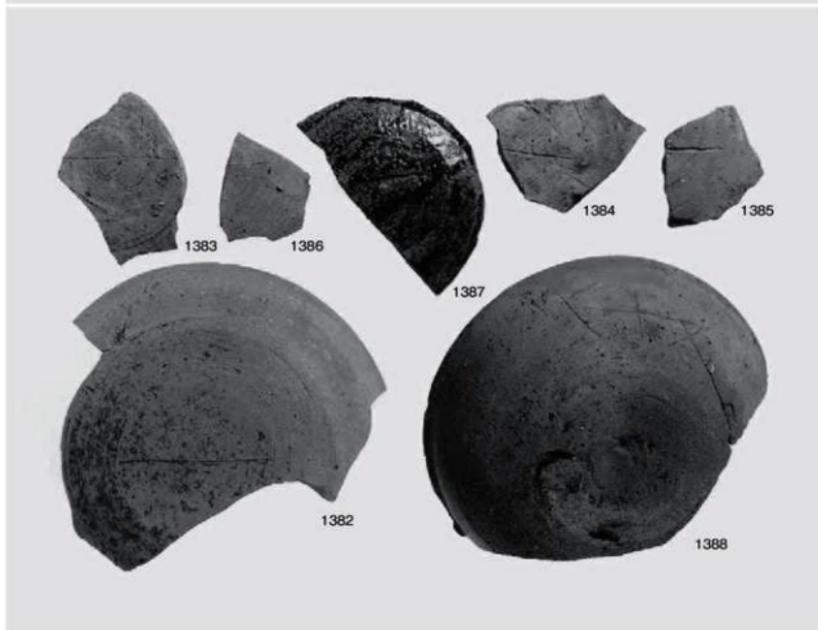
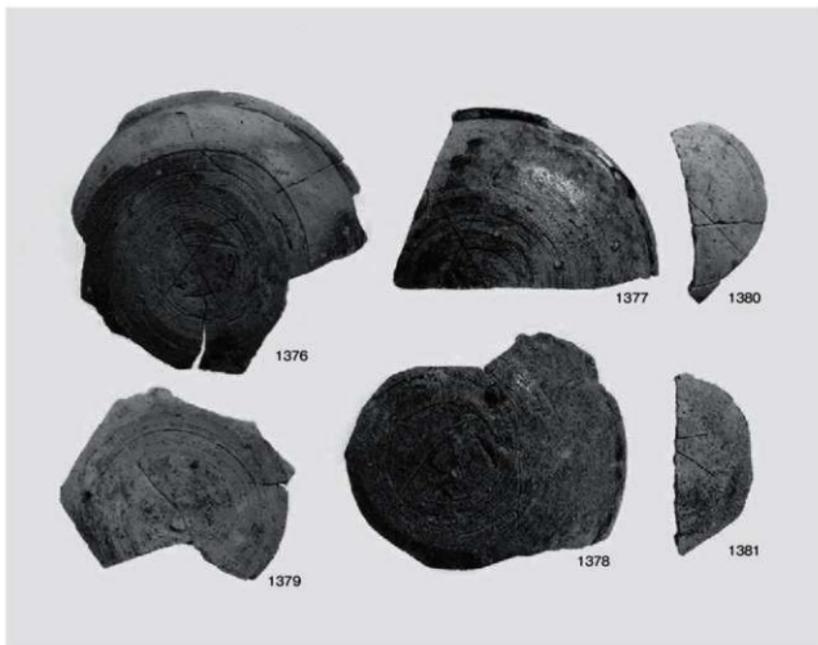


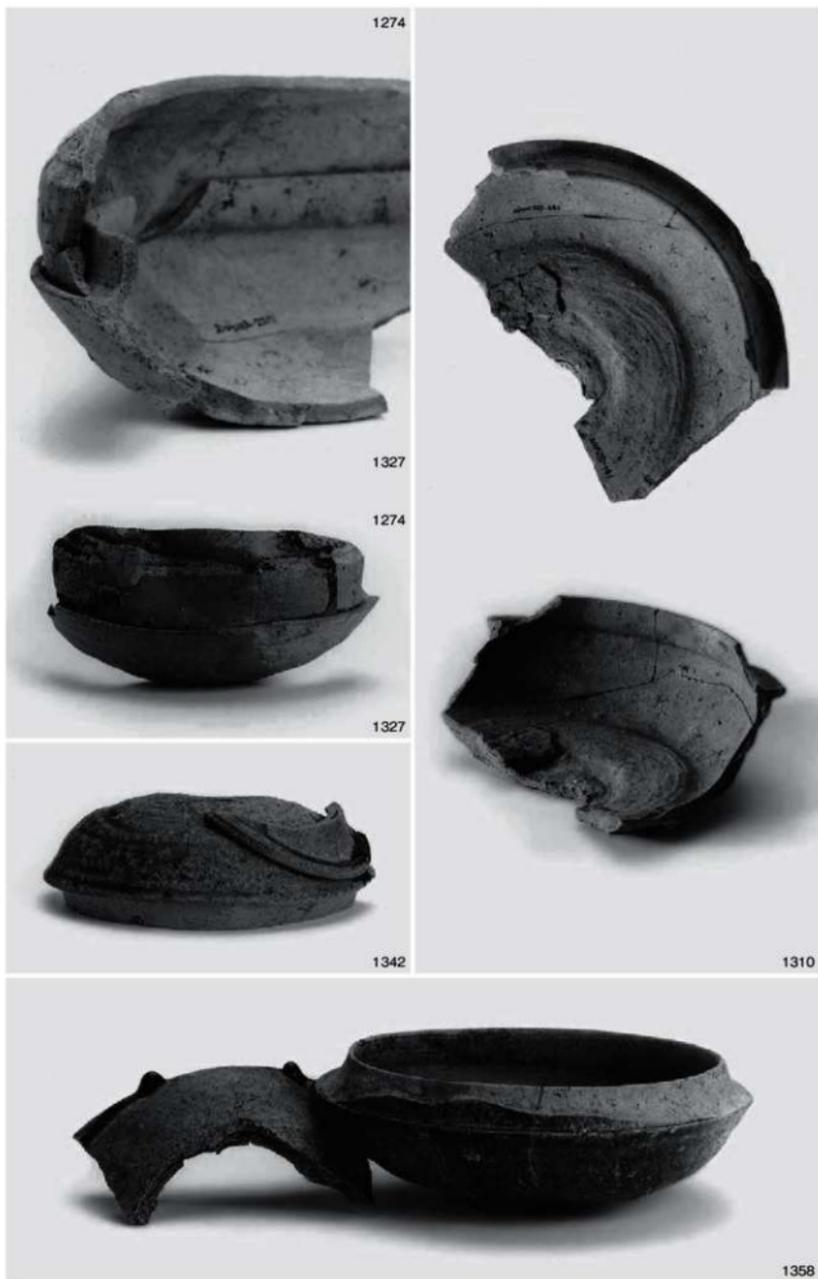


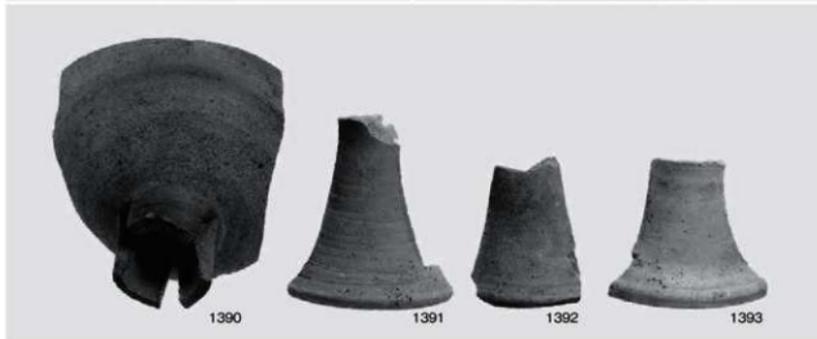








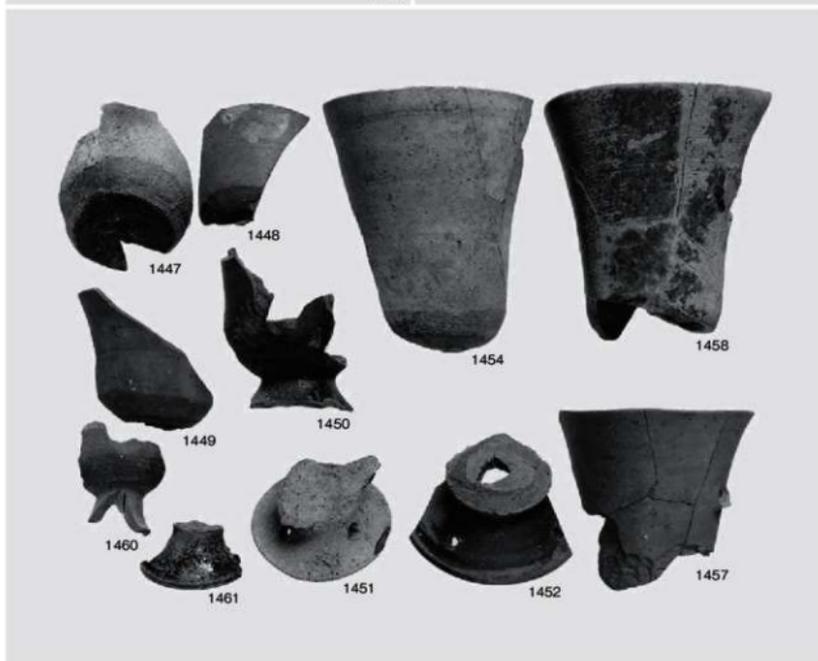
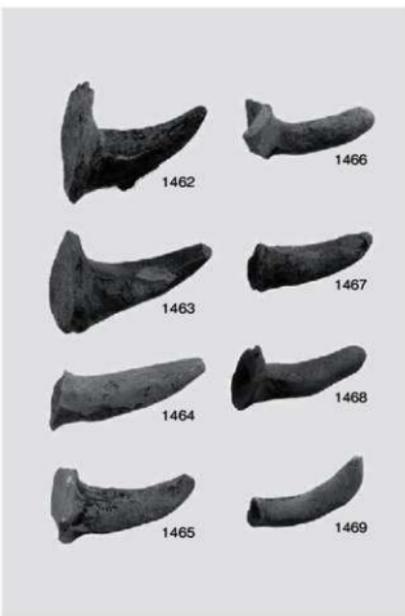


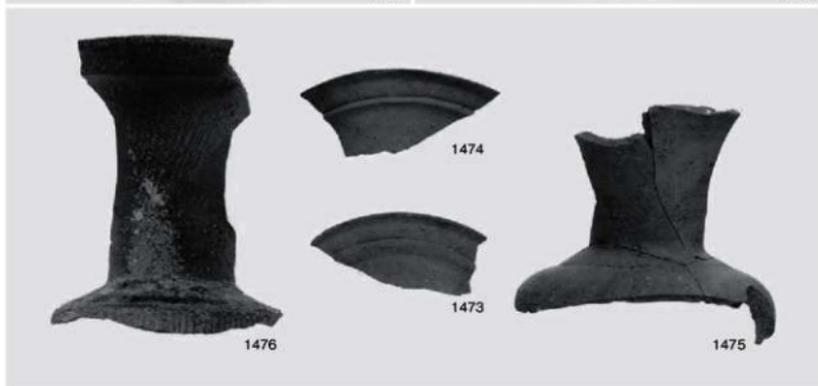














1484



1481

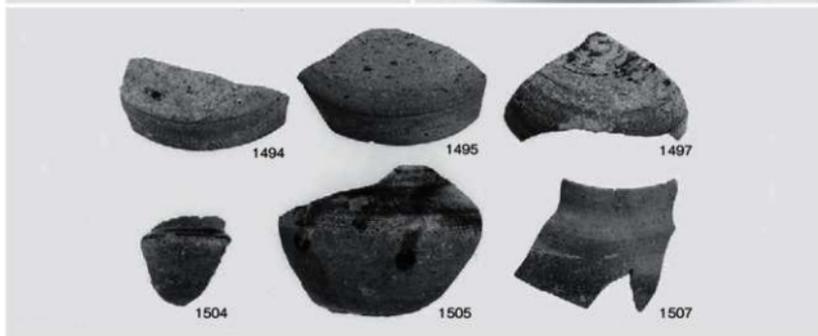


1487

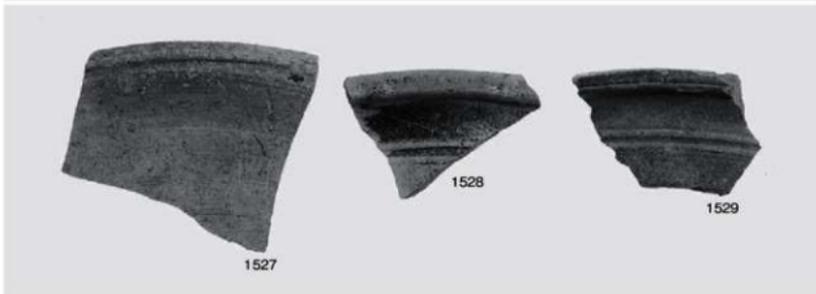
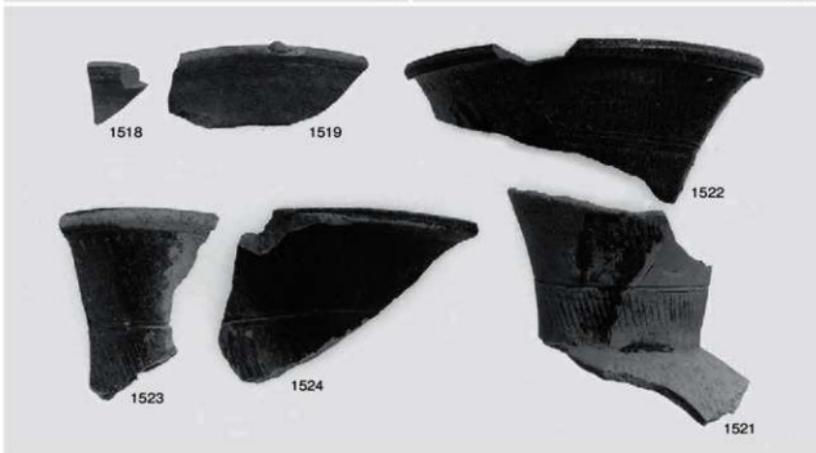


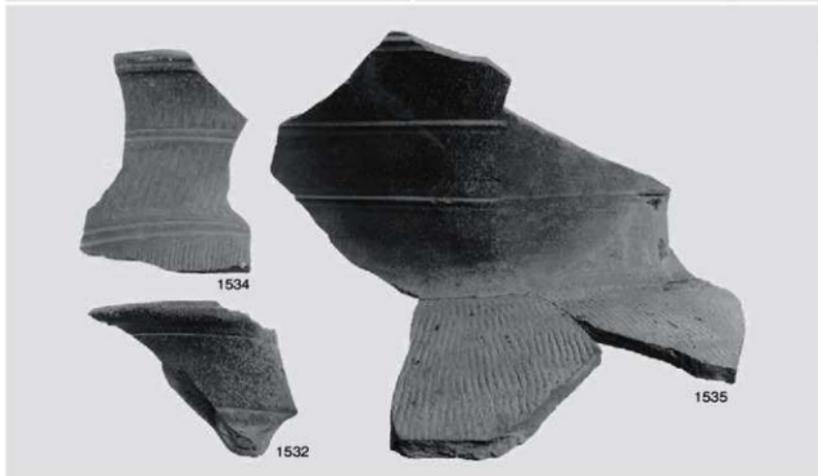
1484

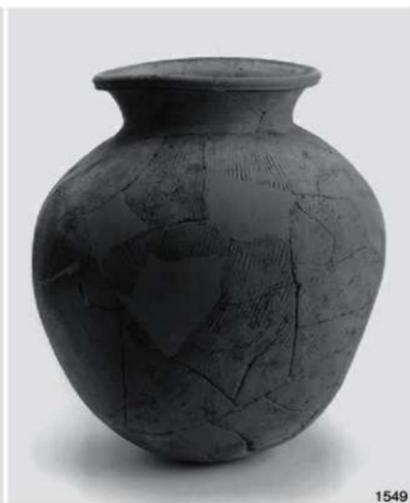


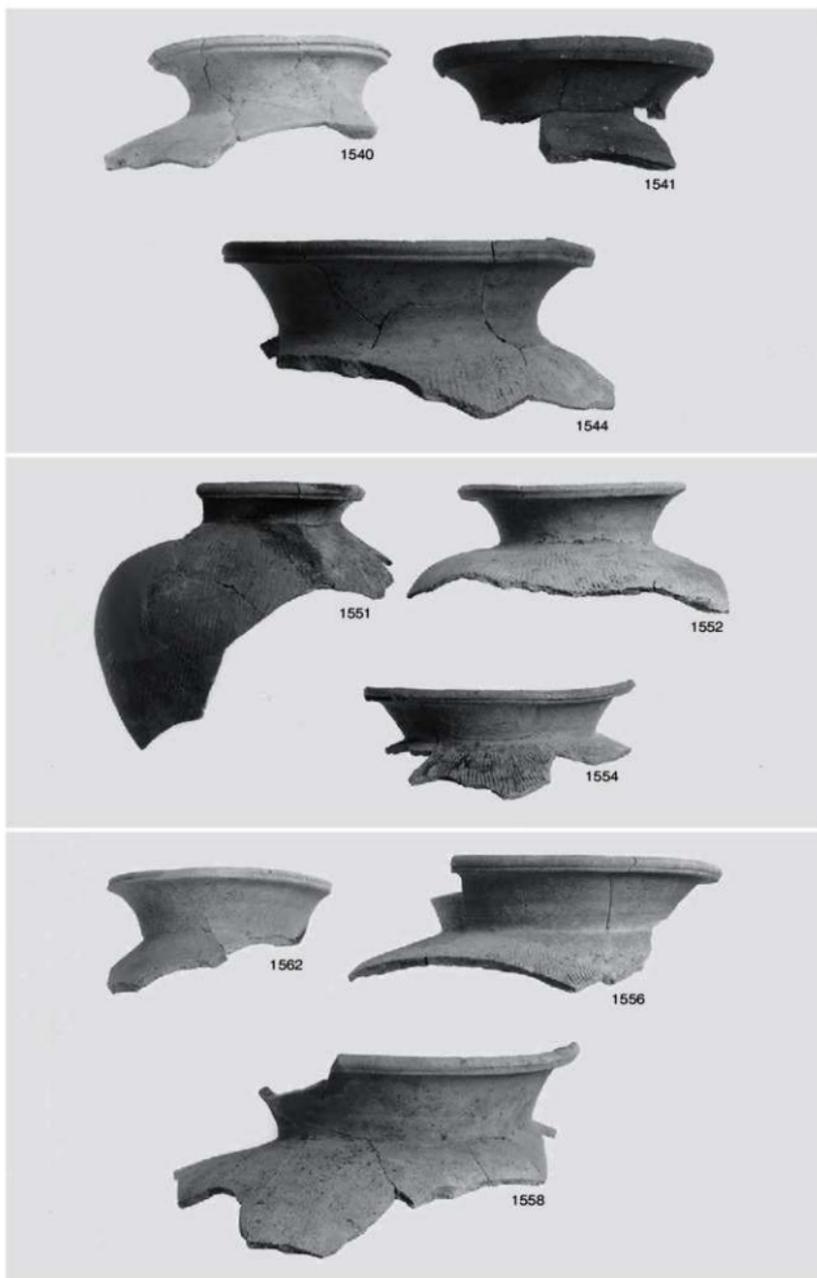




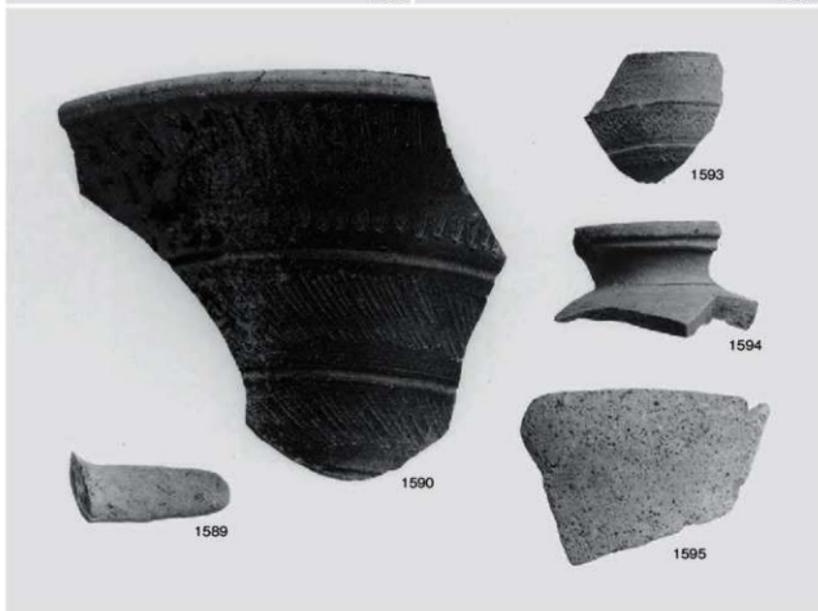
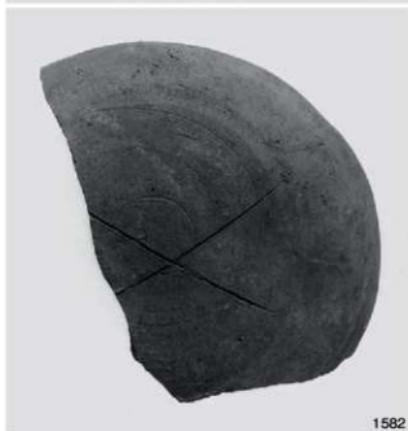


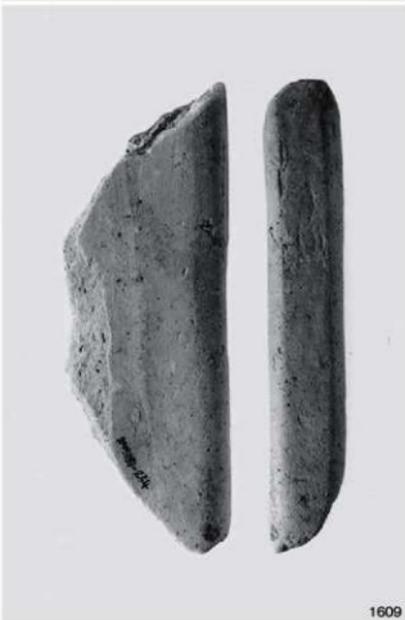














1603



1604



1605



1601

1602



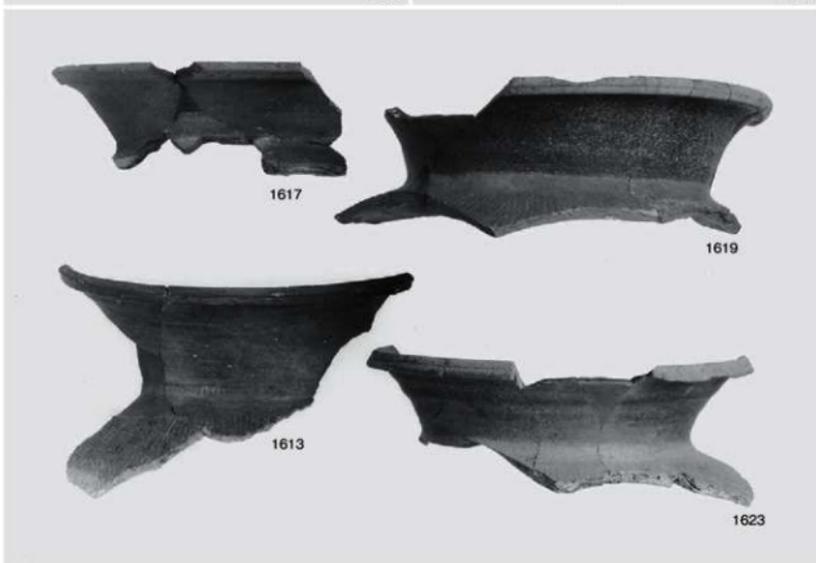
1610

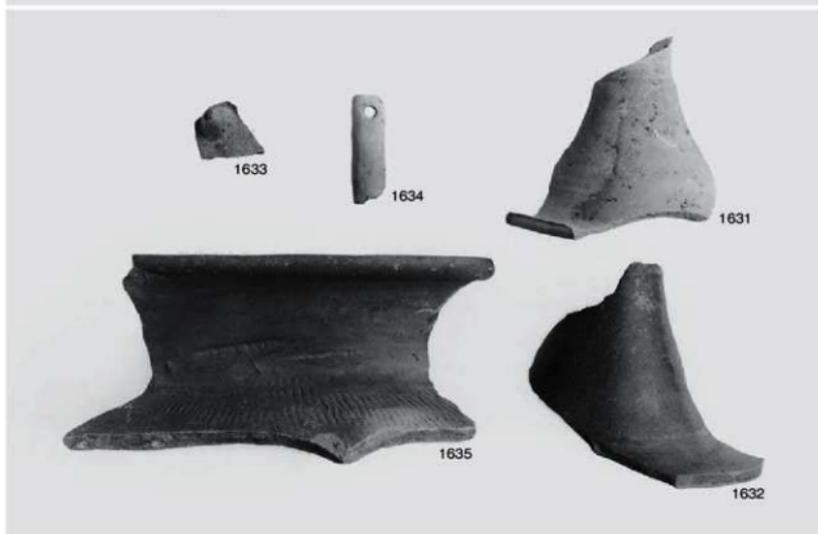
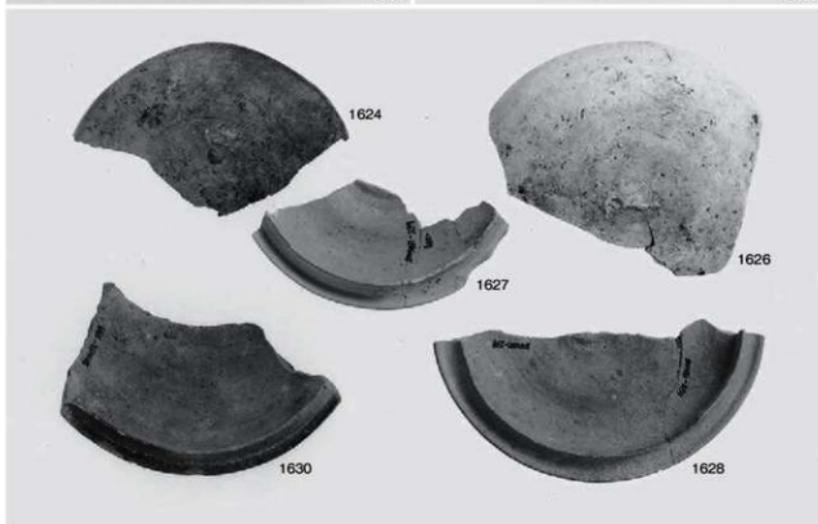
1611



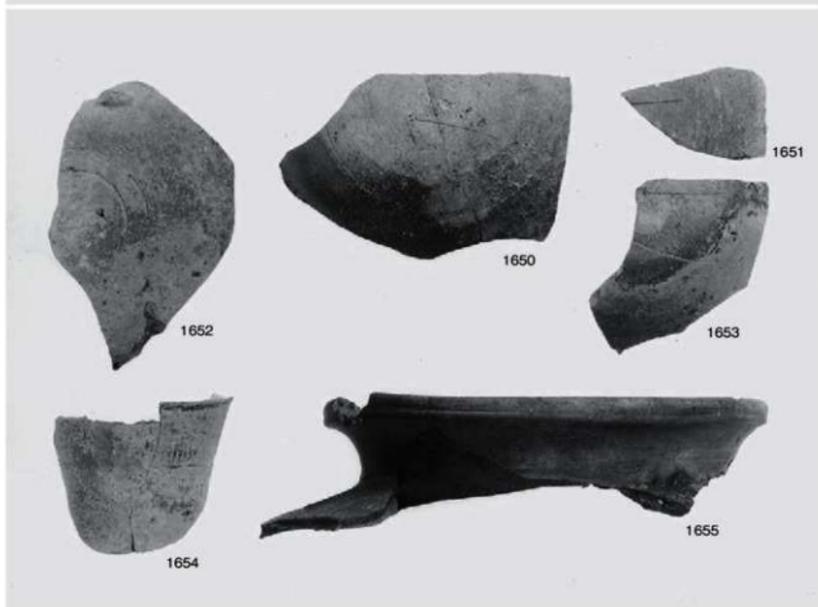
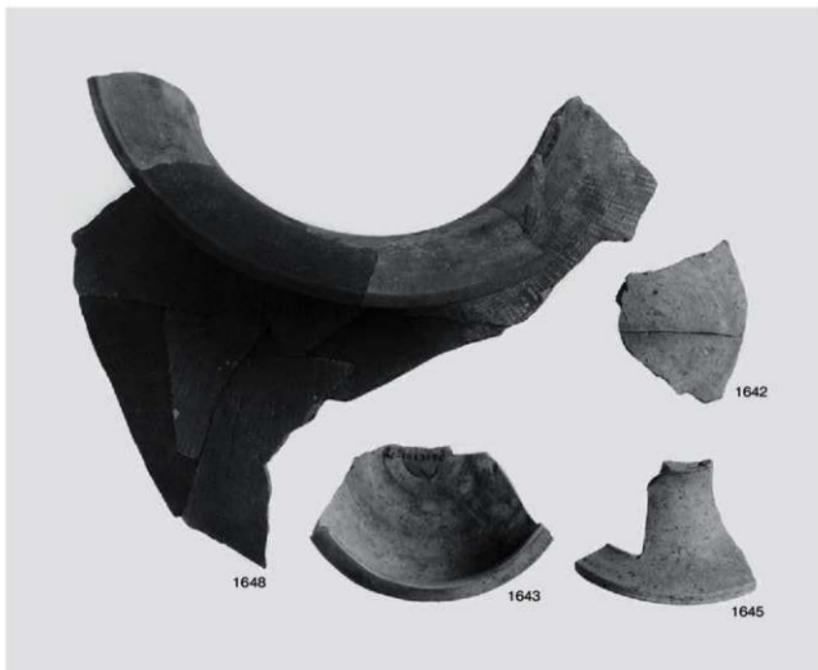
1606

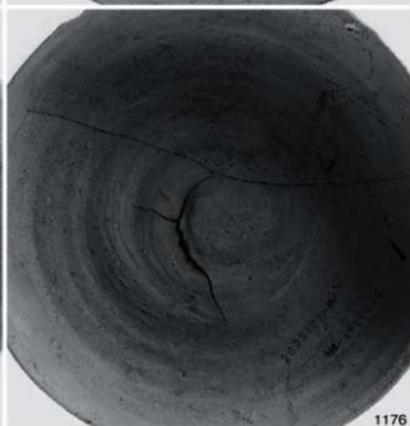
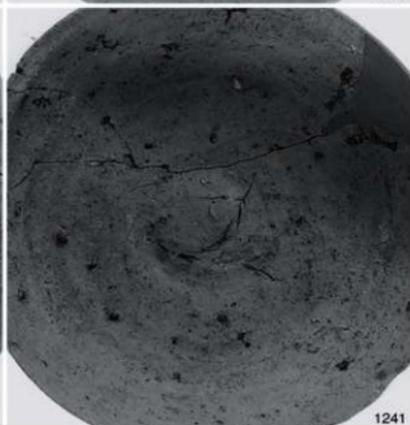
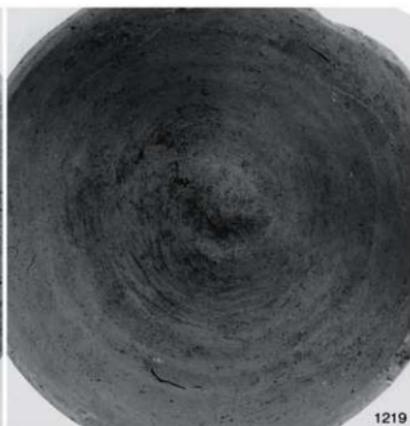
1607



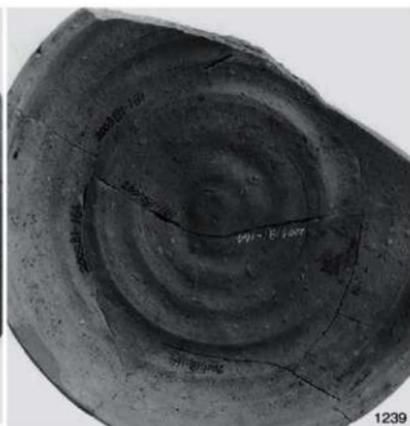






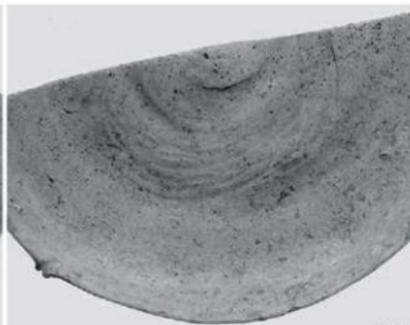








1161



1161



1150



1144



1178



1168



1140



1135



1137



1196



1178



1233





1195



1211



1137



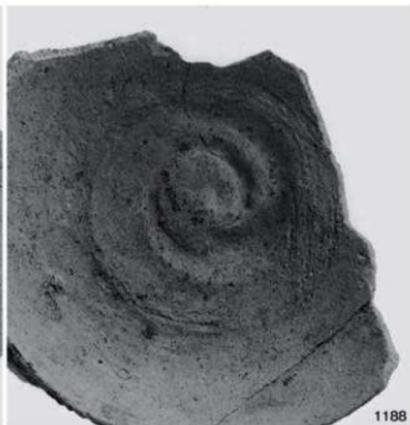
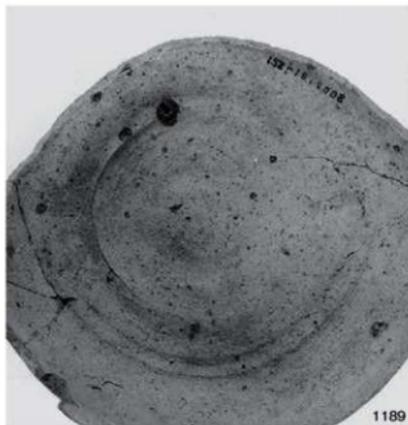
1158



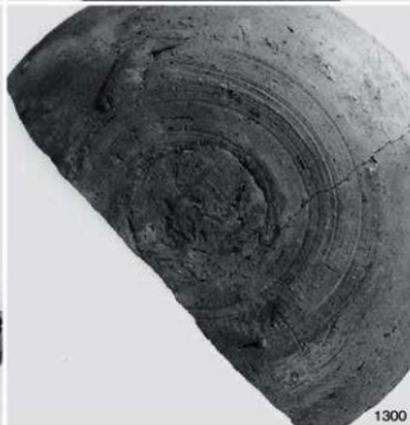
1193



1181

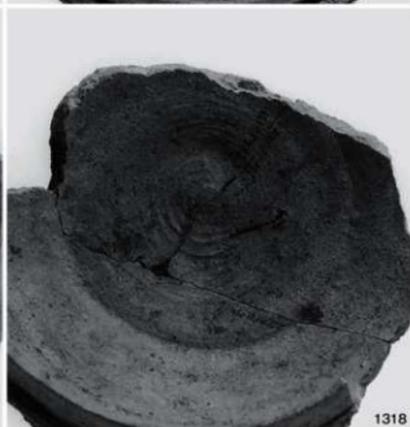


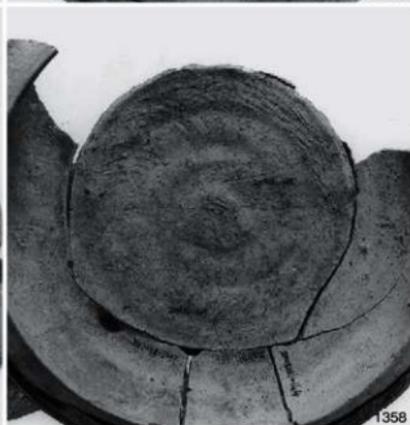




神野大林1号窯 灰原第Ⅱ層 流路1 第Ⅰ層









1337



1356



1644



1013



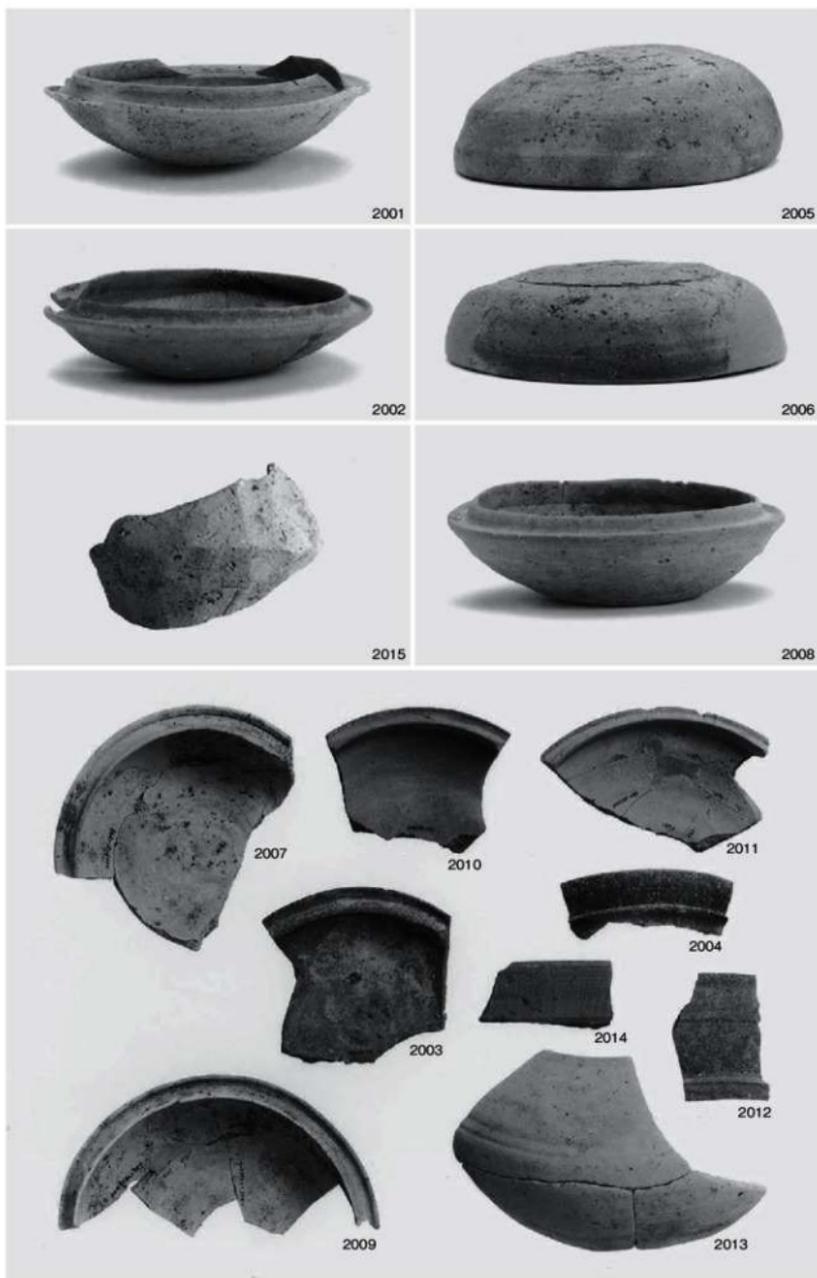
1023



1335

1号窯 窯体床面・窯体壁面・灰原第Ⅱ層 流路1 第Ⅳ層



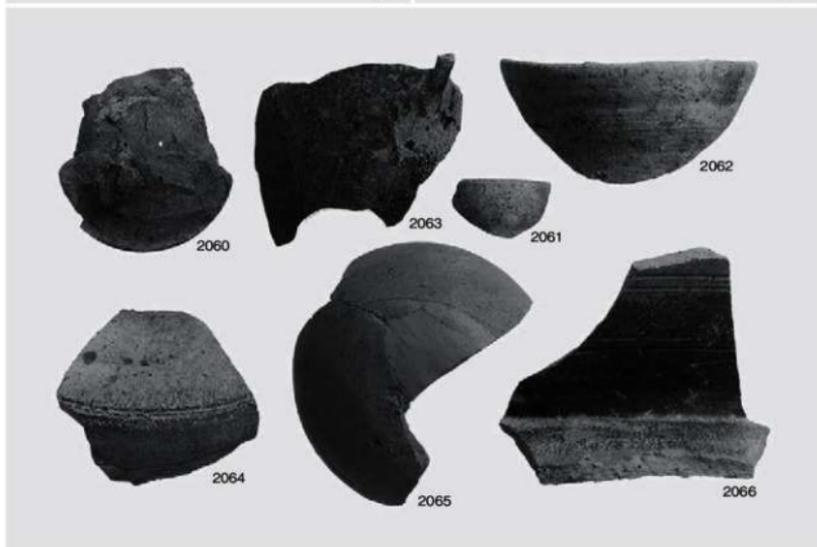


第1次窯体床面・第1次・第2次窯体床面間

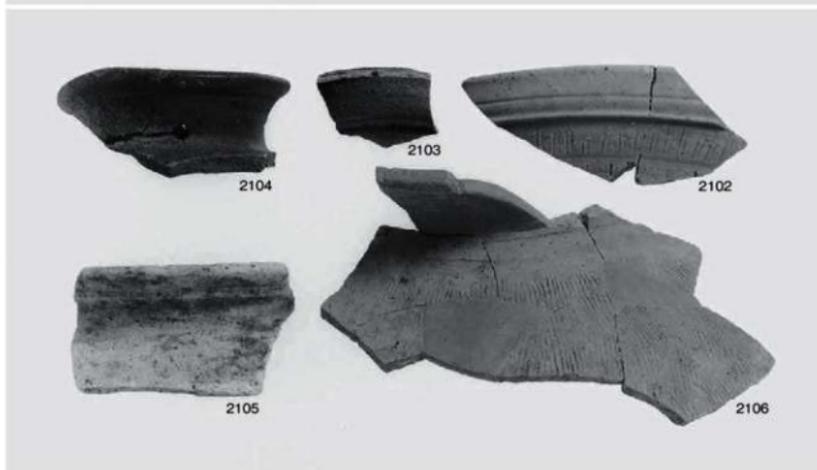
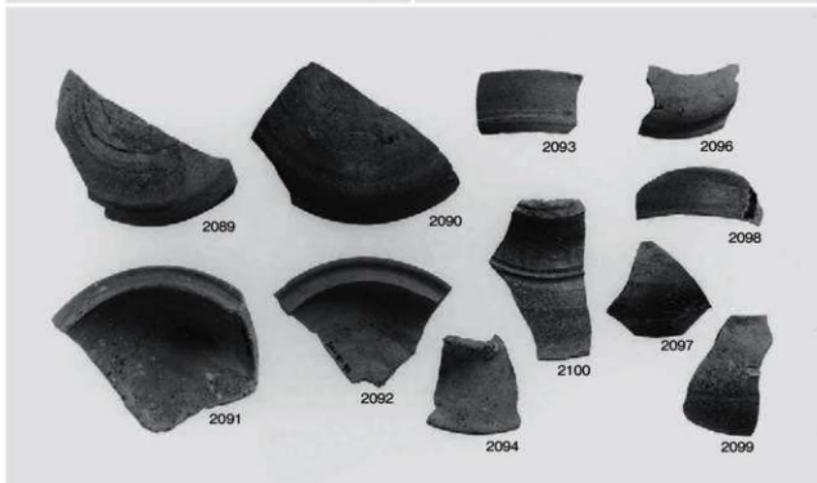


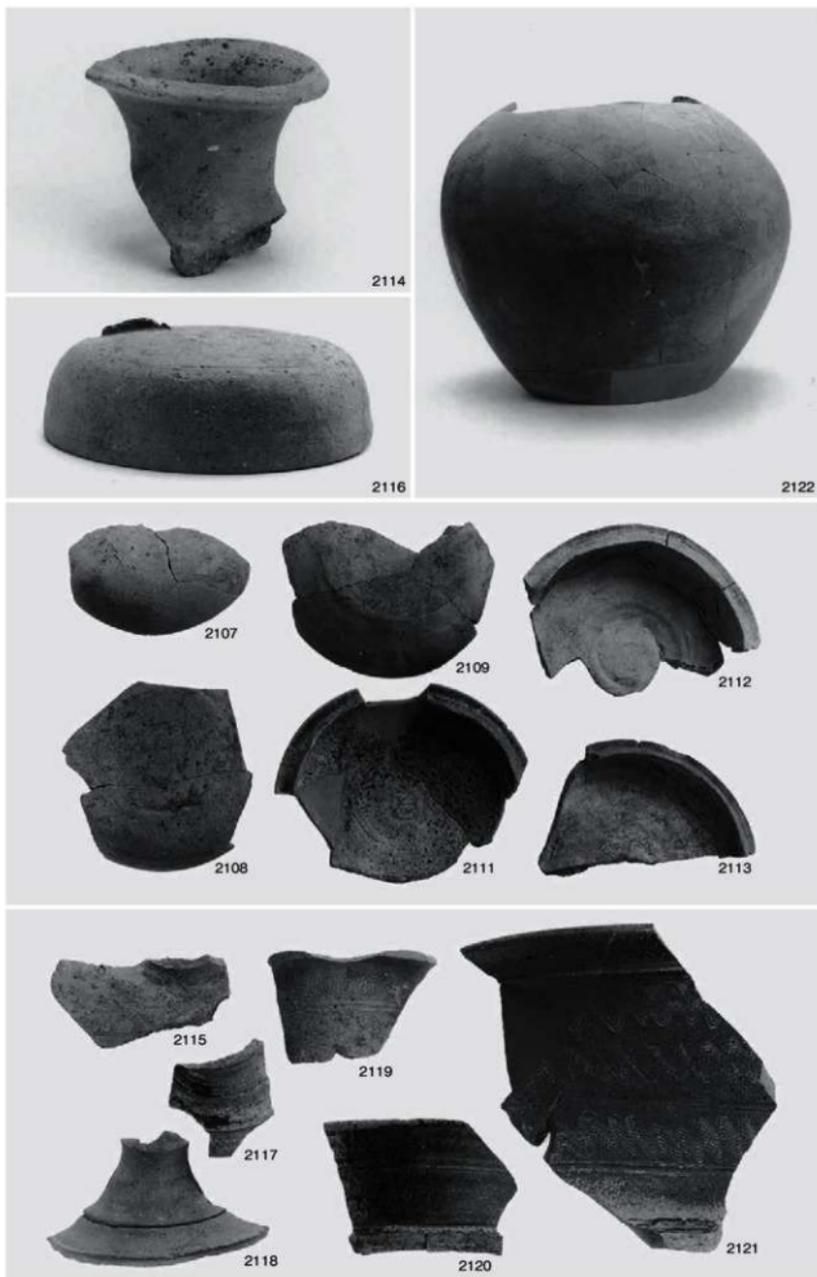
第2次窯体床面・第1次窯体焚口・窯体













2127



2133



2138



2158



2155



2156



2157



2161



2162



2163



2159



2160



2164

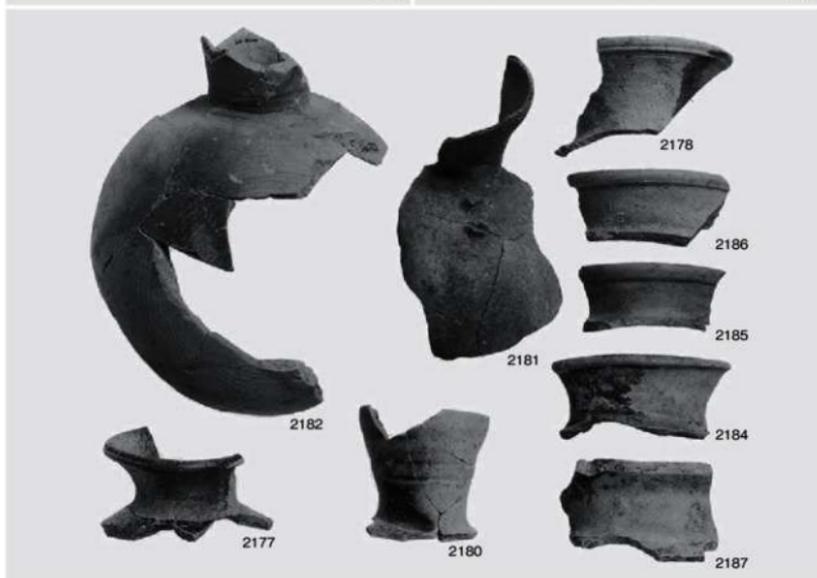
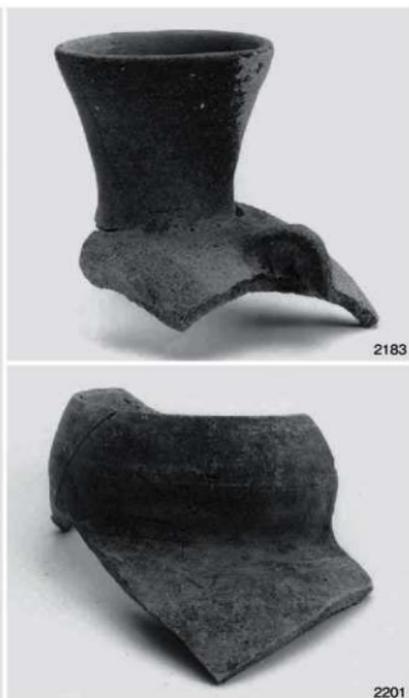


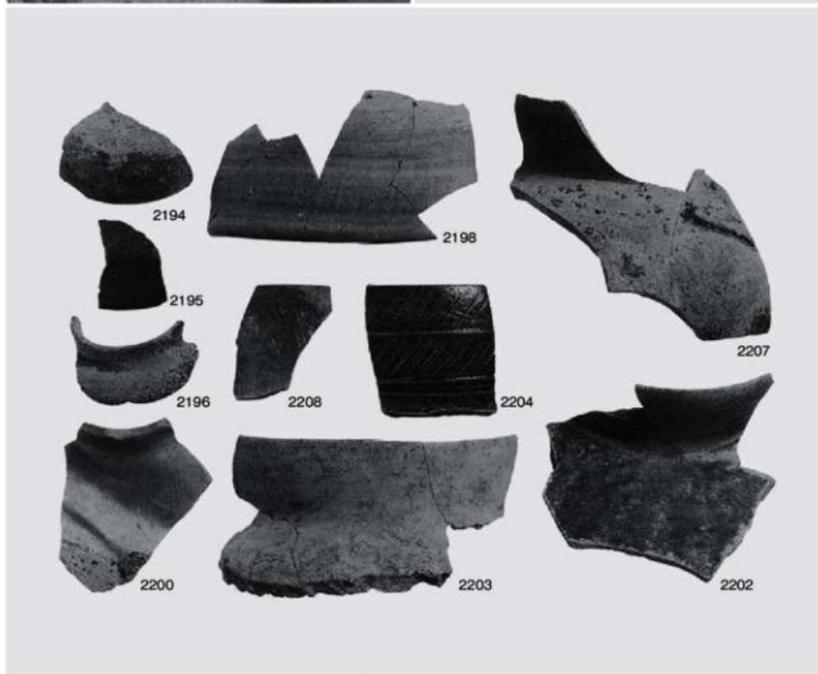
2165



2166











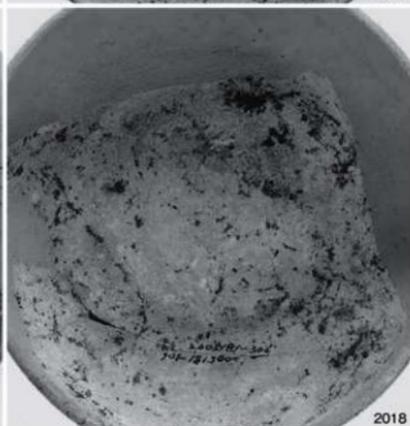
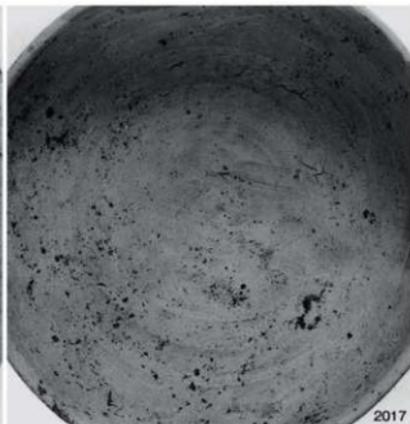


2216

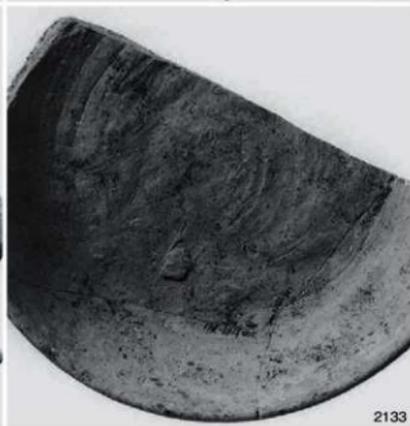




第1次・第2次窯体床面間・第2次窯体床面



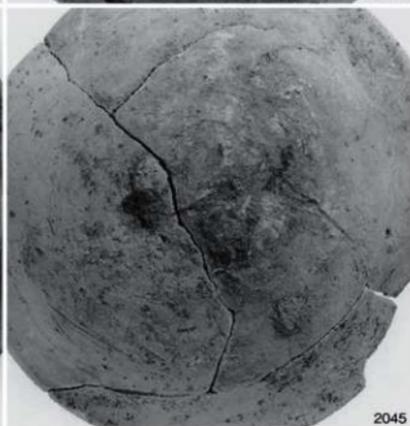
第2次窯体床面・第1次窯体焚口



第2次窯体床面・窯体埋土上層・灰原第Ⅱ層



第1次窯体床面・第2次窯体床面



窯体埋土上層・窯体埋土下層・灰原第Ⅰ・Ⅱ層



第1次窯体床面・窯体埋土上層・灰原第Ⅱ層



窯体第1次床面・窯体第1次・第2次床面間



3007



3026



3009



3027



3010



3029



3013



3031



3024



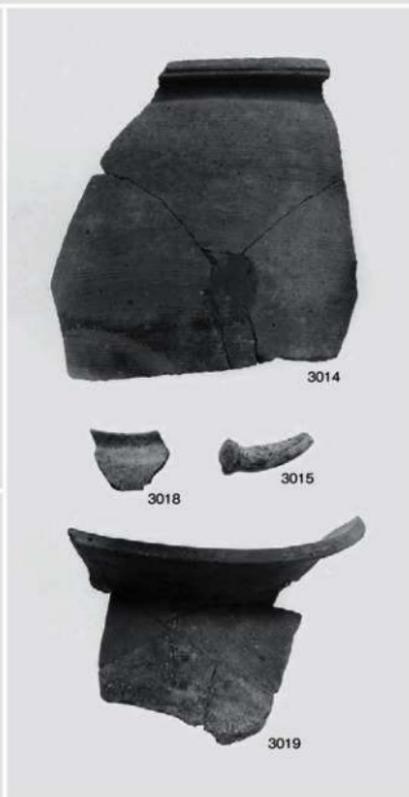
3033



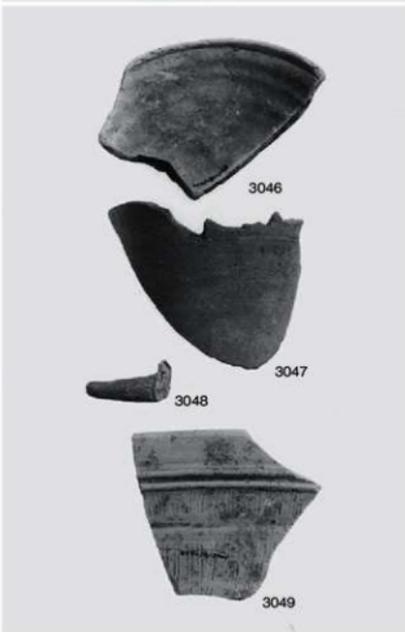
3025



3034



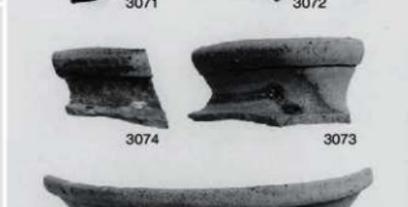
窯体第1次床面・窯体第1次・第2次床面間

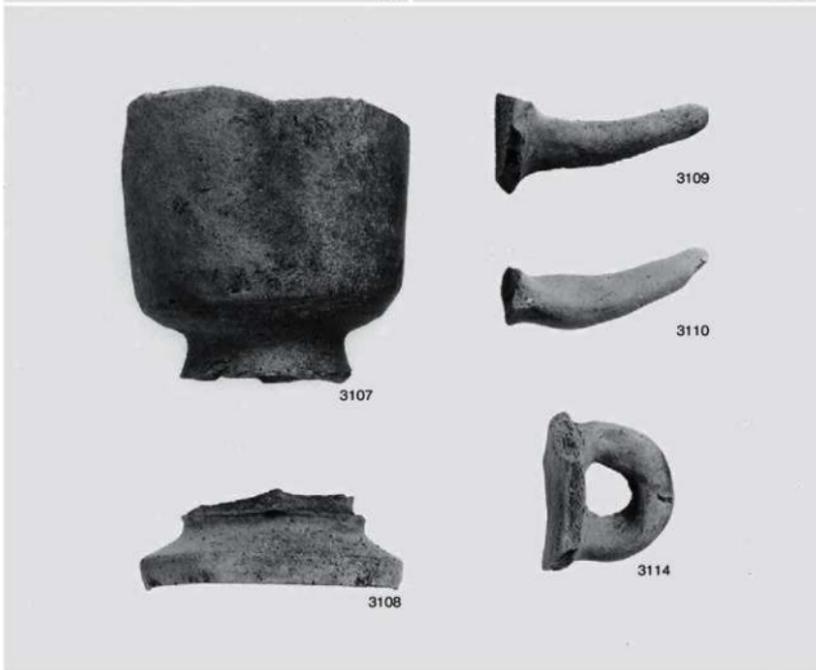


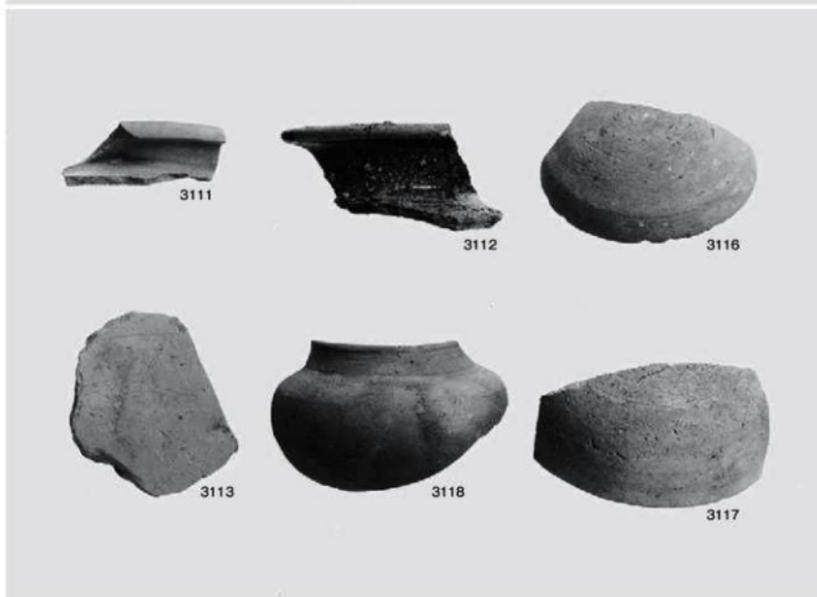
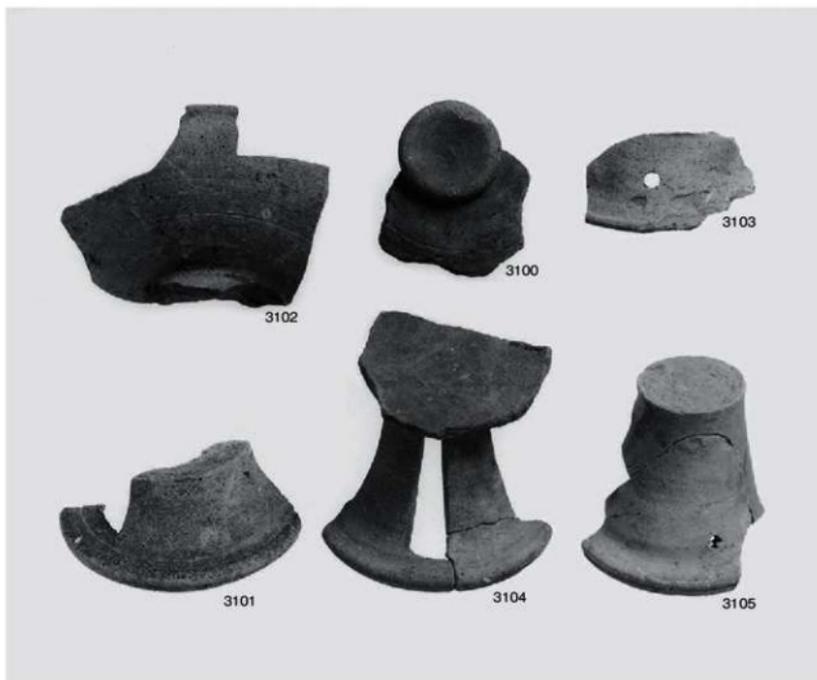


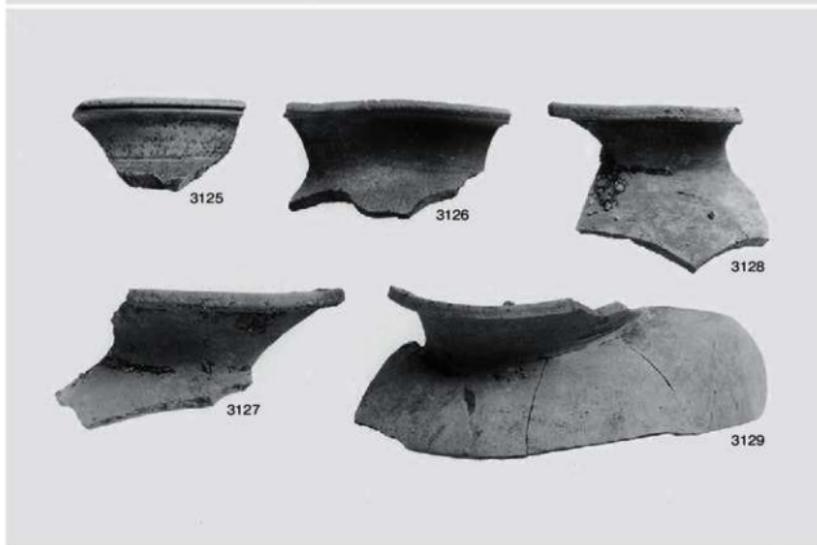
窯体埋土上層・窯体埋土下層・灰原





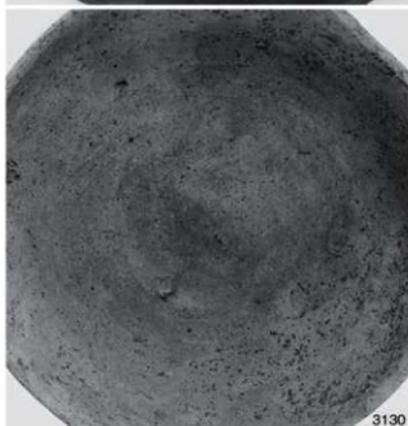
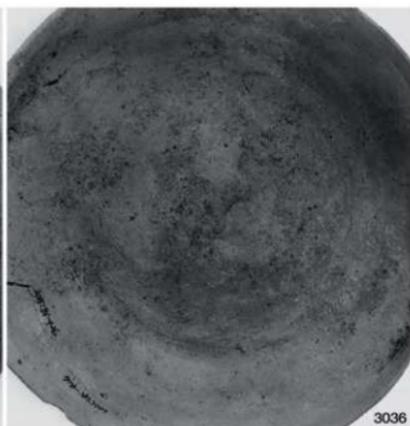








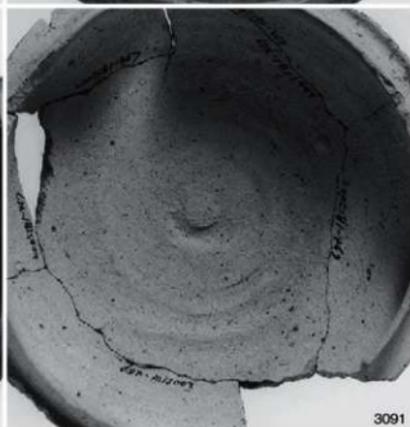




窯体最終床面・灰原第Ⅱ層・灰原第Ⅲ層



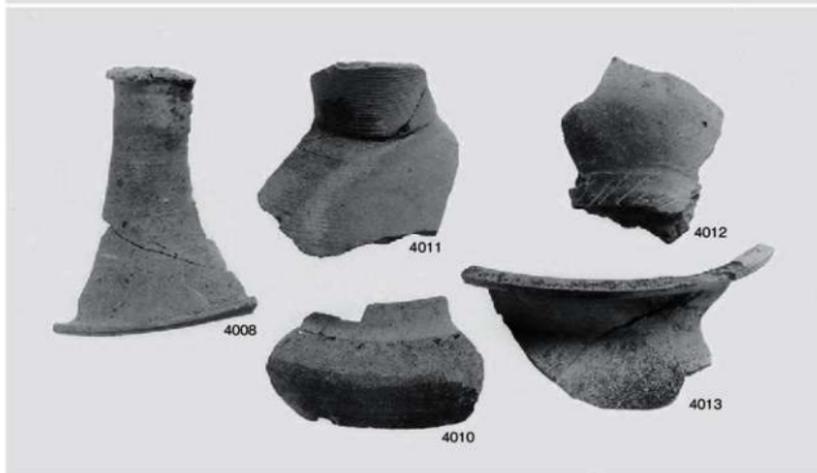
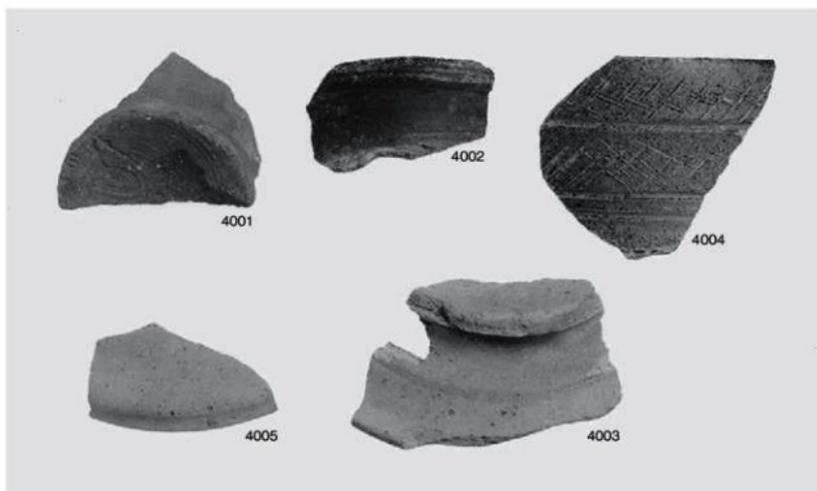
窯体第1次・第2次床面間・灰原第Ⅱ層



窯体第1次・第2次床面間・窯体・灰原第Ⅱ層



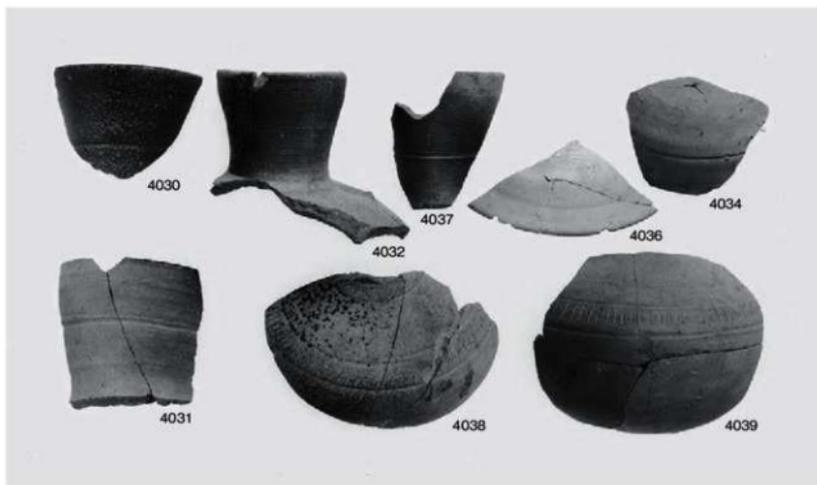
窯体・窯体埋土上層・窯体埋土下層・灰原・灰原第Ⅲ層



2号窯下(第Ⅱ層・第Ⅲ層)・2・3号窯下(第Ⅰ層・第Ⅲ層・第Ⅳ層)・3号窯下(第Ⅰ層)

4006

4014





4033



4040



4035



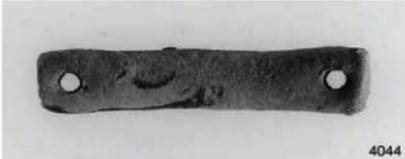
4041



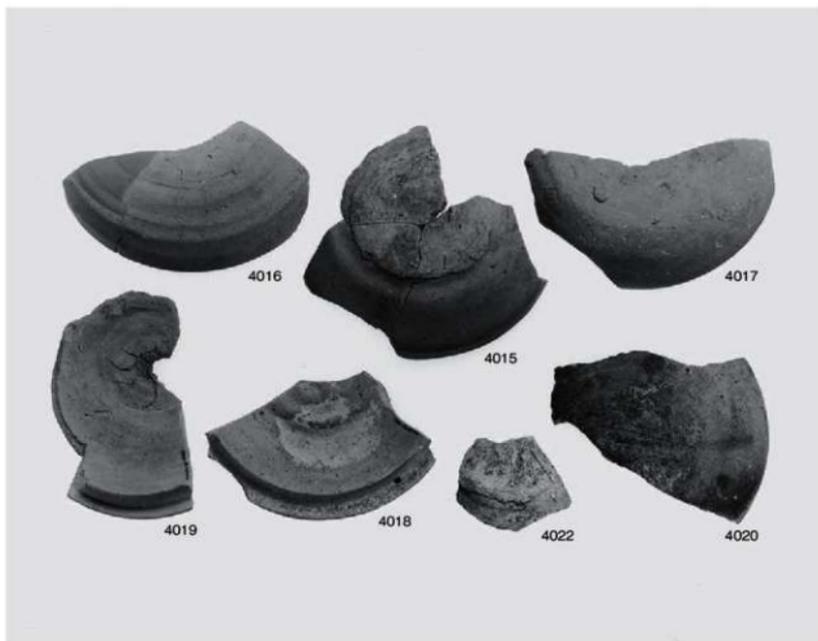
4043



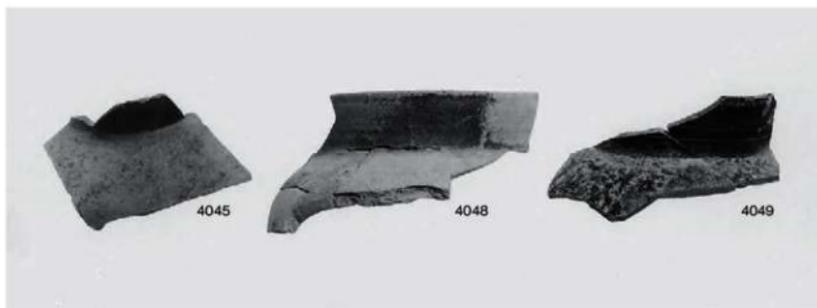
4042

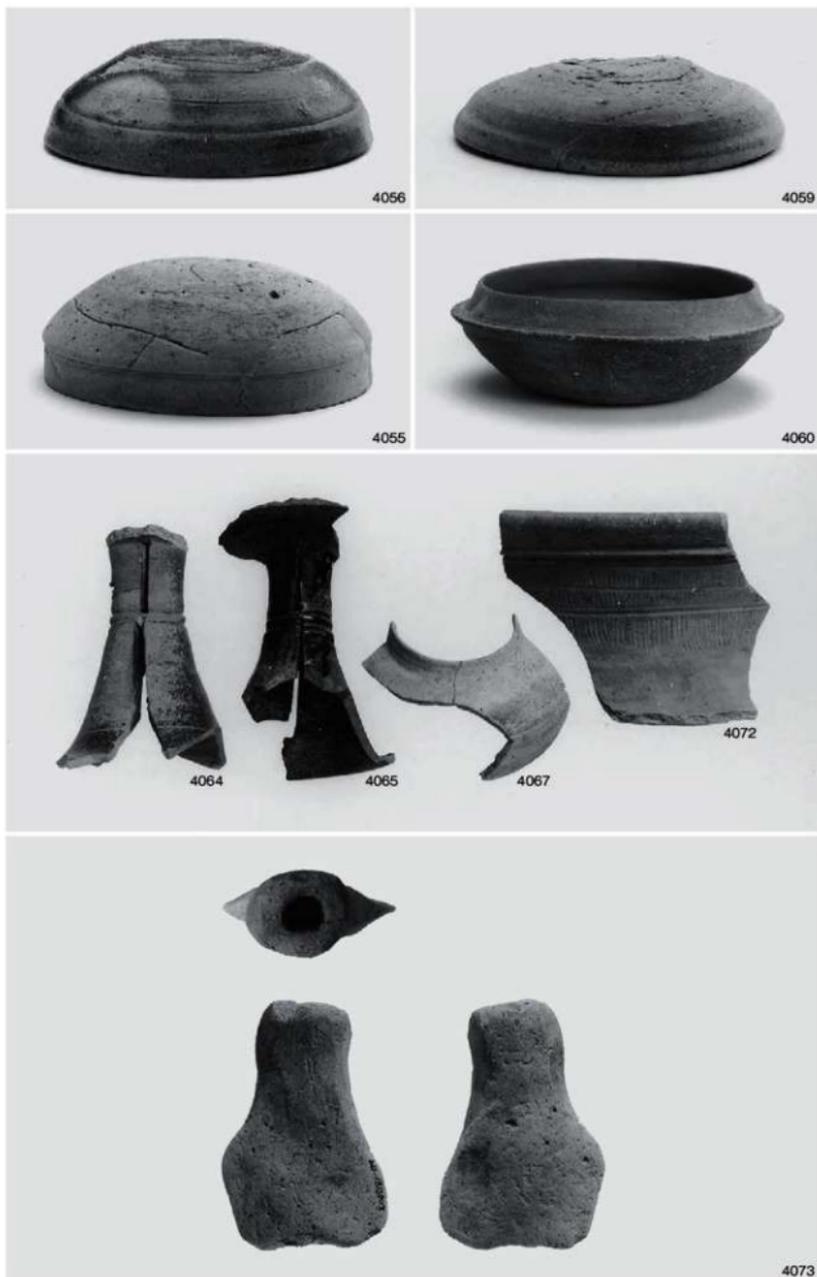


4044













4088



4077



4083



4089

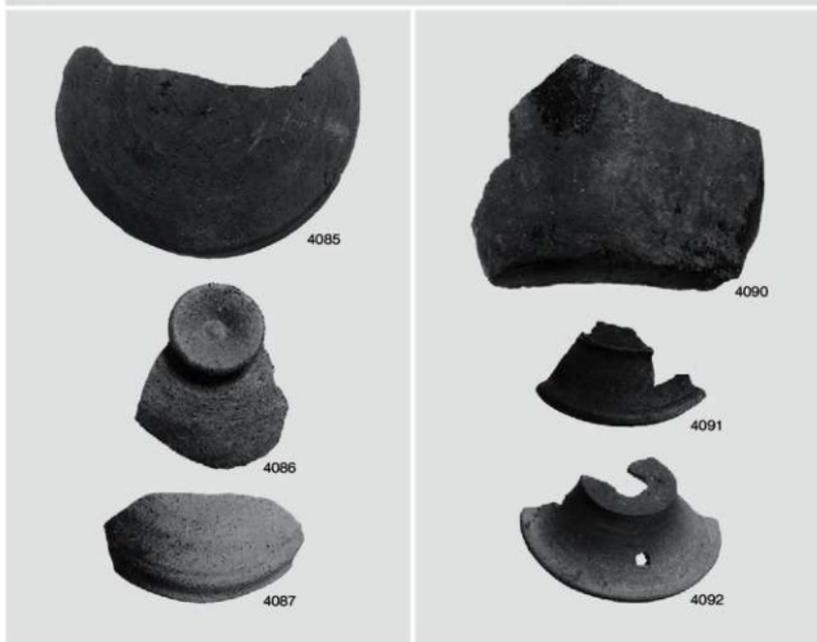


4075



4076





3号窯下第IV層・3号窯下・流路2西端第I層・流路2西端第III層他



103 全景（北西から）



104 全景（南東から）

105 SX01 (北東から)



106 SH01 (北東から)



107 SK01 (北から)







5014



5013



5016



5022



5026



5023

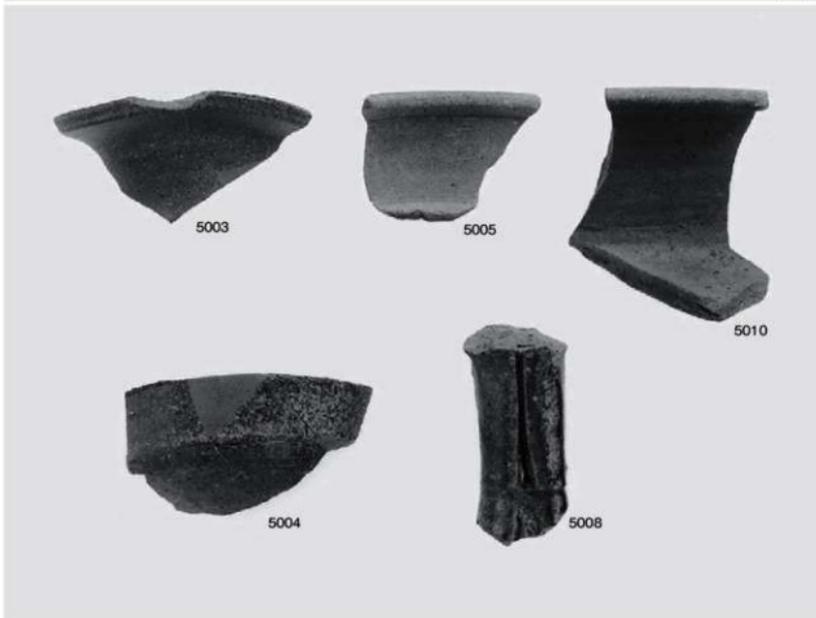


5030



5024







5011



5012



5015



5018



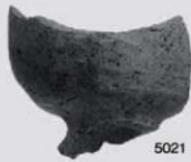
5019



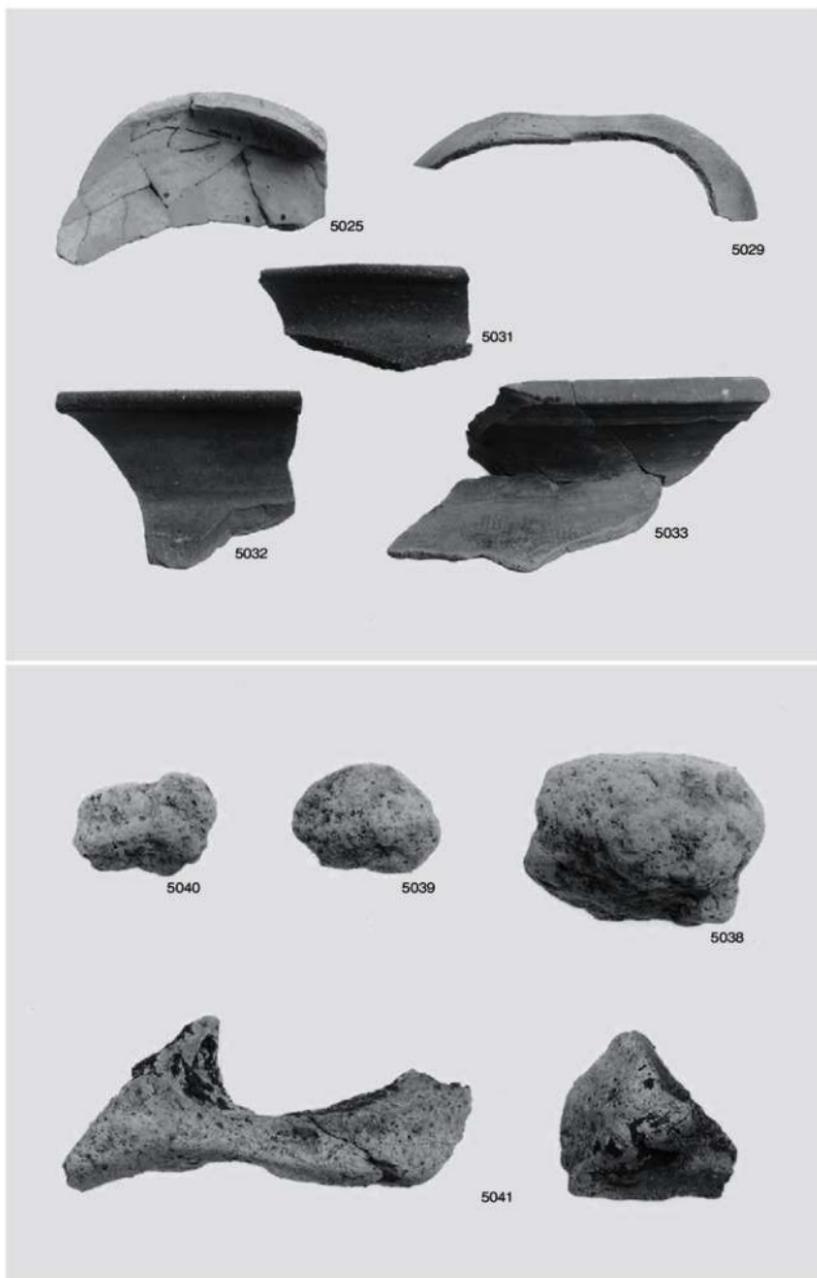
5017



5020



5021





報 告 書 抄 録

ふりがな	かんのおおばやしかまあとくん							
書名	神野大林窯跡群							
副書名	県立新加古川病院整備事業に伴う発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告							
シリーズ番号	第379冊							
編著者名	岡田章一・菱田淳子・西口圭介・篠宮 正・深江英恵・森内秀造・株式会社加速器分析研究所・三辻利一・パリオ・サーヴェイ株式会社・株式会社古環境研究所・丸山真史							
編集機関	兵庫県立考古博物館							
所在地	〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号 Tel 079-437-5589							
発行機関	兵庫県教育委員会							
所在地	〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号 Tel 078-341-7711							
発行年月日	2010(平成22)年3月24日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
神野大林窯跡群	兵庫県加古川市神野町神野	28210	110631	34度	134度	確認調査 2005年6月8～24日	確認調査 (2005127) 664㎡	県立新加古川病院整備事業
			110632	46分	52分	2005年7月12日～ 8月10日	1628㎡	
			110633	30秒	50秒	本発掘調査 2005年11月2日～ 2006年1月27日	本発掘調査 (2005181) 1809㎡	
神野北山遺跡	兵庫県加古川市神野町神野	28210	110635	34度 46分 31秒	134度 53分 7秒	確認調査 2007年11月27日～ 2008年2月1日 本発掘調査 2008年6月11日～ 7月11日	確認調査 (2007123) 96㎡ 本発掘調査 (2008076) 400㎡	県立新加古川病院整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
神野大林窯跡群	窯跡	古墳時代		須恵器窯跡 3基 流路		須恵器		
神野北山遺跡	工房・集落	古墳時代		堅穴住居跡 2基 土坑		須恵器		
要 約	加古川左岸に位置する須恵器窯跡群と窯跡に付属する集落の調査である。 神野大林窯跡群は6世紀前半から7世紀初頭にかけての3基の窯の調査である。1号→3号→2号の順に採掘している。 神野北山遺跡は堅穴住居を2基調査している。焼酎や生焼けの須恵器や窯壁などが出土しているため、神野大林窯跡群の工房と考えられる集落である。							

*緯度・経度は平成14年4月1日旅行の測量法改正による世界測地系にもとづく値である。

兵庫県文化財調査報告 第379冊

神野大林窯跡群

県立新加古川病院整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成22年3月24日 発行

編 集 兵庫県立考古博物館

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号
Tel. 079-437-5589

発 行 兵庫県教育委員会

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印 刷 野崎印刷紙業株式会社 神戸営業所

〒651-0088 神戸市中央区小野柄通5丁目1番27号
